

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2025年 5 月30日

【計算期間】 第 8 期（自 2023年12月 1 日 至 2024年11月30日）

【ファンド名】 プレミアム・ファンズ
- グローバル・コア株式ファンド
(Premium Funds
- Global Core Equity Fund)

【発行者名】 S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・
エス・エイ
(SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.)

【代表者の役職氏名】 取締役 濱 理 貴

【本店の所在の場所】 ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ L-1282
ヒルデガルト・フォン・ビンゲン通り 2 番
(2, rue Hildegard von Bingen, L-1282 Luxembourg, Grand Duchy
of Luxembourg)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 大 西 信 治

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所外国法共同事業

【事務連絡者氏名】 弁護士 大 西 信 治

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目 6 番 1 号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所外国法共同事業

【電話番号】 03 (6212) 8316

【縦覧に供する場所】 該当事項なし。

（注 1）アメリカ合衆国ドル（以下「米ドル」という。）の円貨換算は、便宜上、2025年 2 月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1 米ドル = 149.67円）による。以下別段の記載がない限り、米ドルの円貨表示はすべてこれによるものとする。

（注 2）ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設定されているが、受益証券は米ドル建てまたは円建てのため、本書の金額表示は、別段の記載がない限り米ドル貨または円貨をもって行う。

（注 3）本書の中で金額および比率を表示する場合、四捨五入してある。したがって、合計の数字が一致しない場合がある。また、円貨への換算は本書の中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算のうえ、必要な場合四捨五入してある。したがって、本書の中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もある。

（注 4）本書の中で、計算期間（以下「会計年度」ということもある。）とは、12月 1 日に始まり翌年11月30日に終了する一年を指す。ただし、第一計算期間は、2017年 6 月16日から2017年11月30日までの期間を指す。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（１）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的、信託金の限度額

プレミアム・ファンズ（以下「ファンド」という。）は、2025年5月30日現在、グローバル・コア株式ファンド（以下「サブ・ファンド」ということがある。）を含む合計8本のサブ・ファンドにより構成されている。

受託会社および管理会社は、2017年2月14日付で修正および再録された2008年9月11日付基本信託証書（随時改正および補完される。）（以下「基本信託証書」という。）に基づいて、受益者決議またはサブ・ファンド決議による承認を得ることなく、ファンドの独立した信託としてその他のサブ・ファンドを設定する権限を有する。

サブ・ファンドは、長期的な元本の成長を達成することを目指す。

サブ・ファンドは、その資産のほぼすべて（通常の状態においては、その資産の最低85%相当）を、UCITS（譲渡性のある証券を投資対象とする欧州における投資信託）としてアイルランドにおいてアイルランド中央銀行により承認されたアイルランド集団資産運用ピークル（ICAV）であるブラックロック・ファンズI ICAV（以下「投資先投資法人」という。）のサブ・ファンドであるブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド（以下「投資先ファンド」という。）（2025年4月16日までの旧名称：ブラックロック・サステナブル・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド）のクラスD累積投資型米ドル建て投資証券に投資することにより、その目的を達成することを目指す。投資先ファンドの投資方針は、主としてグローバルな先進国市場に所在もしくは上場しているか、またはそのような地域においてその主要な事業を行っている企業のエクイティ証券（例えば株式）に投資することである。

サブ・ファンドについて、信託金の限度額は定められていない。

ファンドの基本的性格

ファンドおよびサブ・ファンドは、基本信託証書および関係する信託証書補遺（以下「信託証書補遺」といい、基本信託証書と併せて「信託証書」という。）に基づいて受託会社および管理会社によって設定された。

サブ・ファンドの投資運用および投資指図については管理会社が責任を負い、もっぱら管理会社がサブ・ファンドの全体的な投資ガイドラインの枠内でサブ・ファンドの投資運用についてすべての責任を負う。管理会社は、その権限および責任の一部を投資運用会社に委任している。投資運用会社は、本書に記載する投資目的および投資制限に従って、サブ・ファンドに関してそれぞれの信託財産に含まれる資産を運用し、取得し、購入し、売却する投資対象を決定すると共に、受託会社または受託会社の代理人が行うその他の取引を決定する責任を負う。

サブ・ファンドは、「ファンド・オブ・ファンズ」である。

受託会社および管理会社は、サブ・ファンドの資産を保管する任務を保管会社に委託している。更に、受託会社および管理会社は、サブ・ファンドの管理事務を管理事務代行会社に委託しており、管理事務代行会社は、サブ・ファンドに関する管理事務業務を担当し、サブ・ファンドの登録名義書換事務代行を務める。管理事務代行会社は、サブ・ファンドの受益証券1口当たり純資産価格を計算し、受益証券の発行および買戻しを円滑化する責任を負う。

サブ・ファンドは、信託証書補遺に定める一定の状況下で早期に終了しない限り、2008年9月11日から149年後に終了する予定である。

受託会社および管理会社は、基本信託証書に基づき、受益者決議またはサブ・ファンド決議を経ずに、ファンドの独立したサブ・ファンドとして他のサブ・ファンドを設立することができる。

各受益証券は、関係するサブ・ファンドの不可分の受益権を表章する。受益証券は、受託会社または管理会社の債務ではなく、保証もされていない。サブ・ファンドの投資収益は、当該サブ・ファンドの純資産価格の上昇または下落（場合による。）および当該サブ・ファンドの資産の運用成績のみに依拠する。サブ・ファンドが清算される場合に、各受益証券に関して受益者に対して支払われる金額は、受益証券の1口当たり純資産価格と同額である。

受託会社および管理会社は、サブ・ファンドに関して、独立したクラスまたはシリーズとして受益証券を随時指定し、発行するとともに、各クラスまたはシリーズをその他のクラスまたはシリーズと差別化する方法（以下の方法を含むがこれらに限定されない。）を決定する権限を有するものとする。

- （ ）各クラスまたはシリーズの受益証券が関係する信託財産の資産および債務に参加する方法ならびに各クラスまたはシリーズの受益証券1口当たり純資産価格を計算する方法
- （ ）受託会社および／または管理会社が任命した業務提供者に支払うべき報酬（運用報酬、申込手数料、募集手数料、買戻し手数料等を含むが、これらに限定されない。）を、各クラスまたはシリーズの受益者から徴収し、請求する方法
- （ ）為替ヘッジに起因する費用および損益を各クラスまたはシリーズの受益証券の保有者から徴収し、請求する方法
- （ ）当該サブ・ファンドに関するその他資産または債務を各クラスまたはシリーズの受益証券に帰属させ、負担させる方法

管理会社および受託会社は、受益証券のクラスまたはシリーズに関して分別勘定を設けることができるが、必ずしも分別勘定を設ける必要はない。

日本における受益者は、日本における販売会社を通じて管理事務代行会社に通知することにより、いずれかの買戻日現在で保有する受益証券の買戻しを請求することができる。買戻価格は、当該買戻日の受益証券1口当たり純資産価格とする。

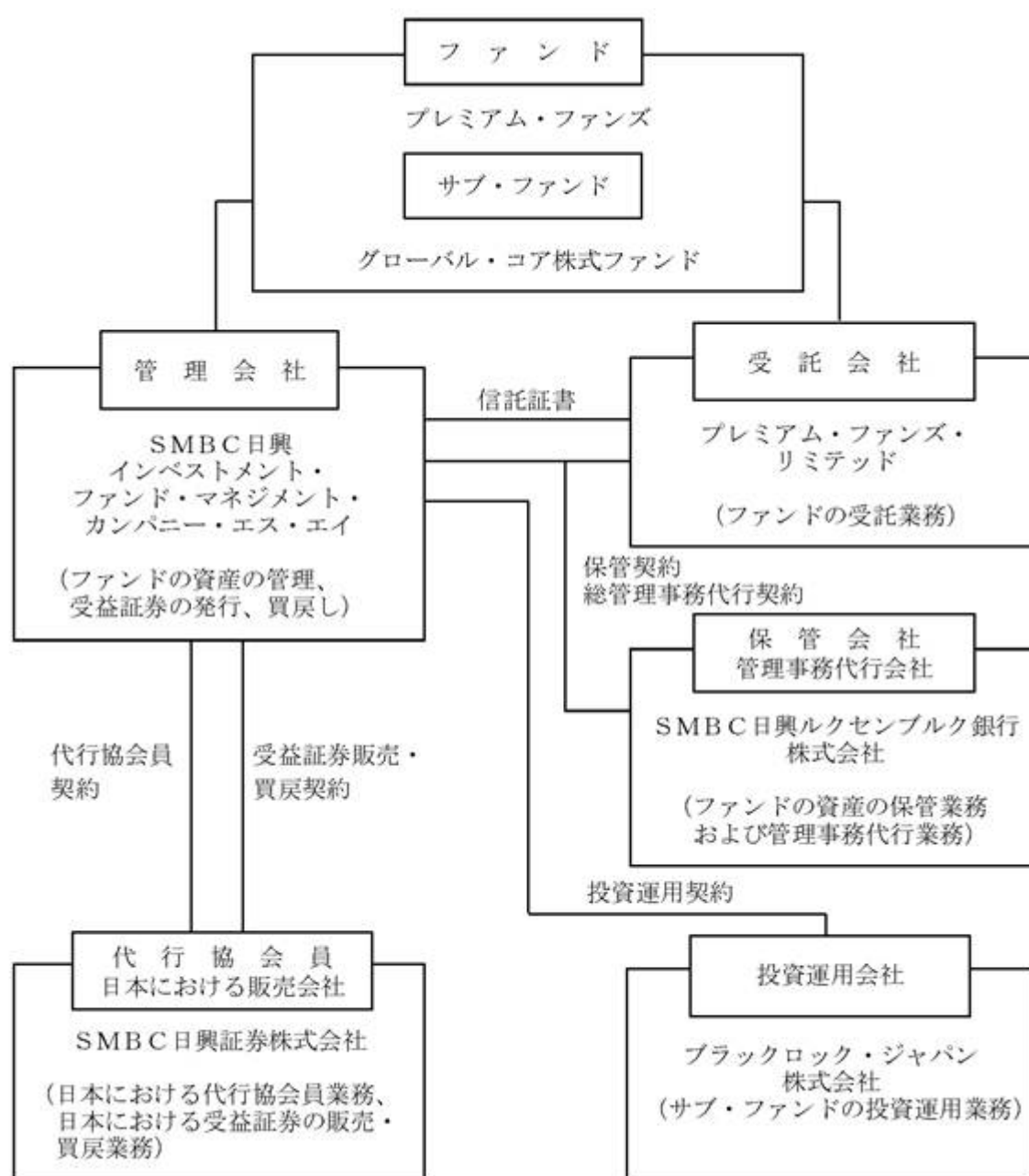
ファンドは、オルタナティブ投資ファンド運用者に関するルクセンブルグの2013年7月12日の法律（改正済）（以下「2013年法」という。）第1条第41項およびオルタナティブ投資ファンド運用者に関する2011年6月8日付欧州議会および理事会通達2011/61/EU（随時改正される。）（以下「AIFMD」という。）に規定されたEU以外のオルタナティブ投資ファンドとしての資格を有している。欧州連合加盟国でファンドの販売活動は行われない。

（ 2 ）【ファンドの沿革】

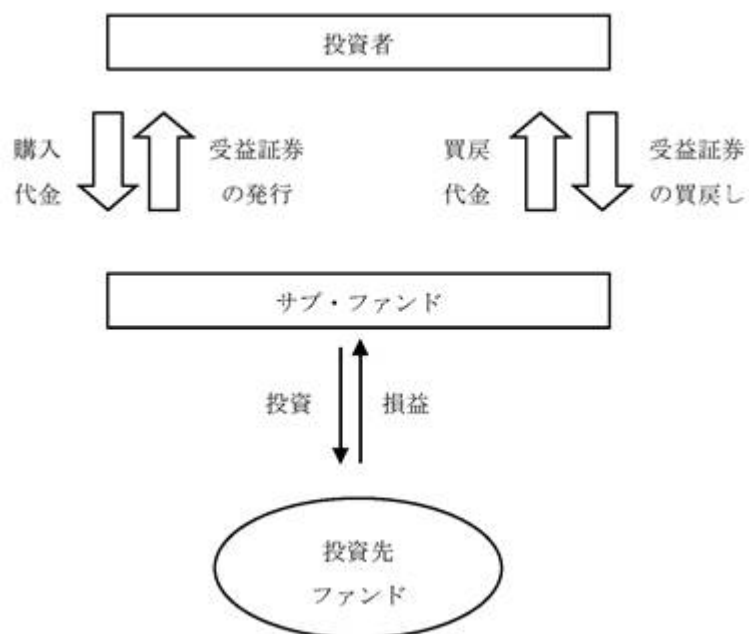
1992年 2 月27日	管理会社設立
2008年 9 月11日	基本信託証書締結
2009年 2 月26日	信託証書補遺締結
2013年 5 月24日	信託証書補遺締結
2014年 2 月21日	信託証書補遺締結
2015年 5 月22日	信託証書補遺締結
2015年10月23日	信託証書補遺締結
2017年 2 月14日	修正および再録基本信託証書締結
2017年 5 月10日	信託証書補遺締結
2017年 6 月 1 日	グローバル・コア株式ファンドの募集開始
2017年 6 月16日	グローバル・コア株式ファンドの運用開始（設定日）
2018年 2 月15日	信託証書補遺締結

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



（注）サブ・ファンドは、ファンド・オブ・ファンズとして以下の仕組みを有している。



管理会社とファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割および契約等の概要

名 称	ファンドの 運営上の役割	契約等の概要
S M B C日興インベストメント・ ファンド・マネジメント・カンパニー・ エス・エイ (SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.)	管理会社	受託会社との間で信託証書を締結。管理会社はサブ・ファンドの資産の管理、受益証券の発行、買戻しを行う。
プレミアム・ファンズ・リミテッド (Premium Funds Ltd.)	受託会社	管理会社との間で信託証書を締結。受託会社はサブ・ファンドの資産の受託会社としての業務を提供する。
S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社 (SMBC Nikko Bank (Luxembourg) S.A.)	保管会社 管理事務代行会社	2008年9月11日付で受託会社および管理会社との間で保管契約（注1）を締結。保管会社は、サブ・ファンドの資産の保管を行う。 2024年6月7日付で管理会社および受託会社との間で総管理事務代行契約（注2）を締結。サブ・ファンドの管理事務代行業務について、委任されている。
ブラックロック・ジャパン株式会社 (BlackRock Japan Co., Ltd.)	投資運用会社	2017年5月31日付で管理会社との間で投資運用契約（注3）を締結（随時改訂される。）。サブ・ファンドについて投資運用業務を行う。
S M B C日興証券株式会社	代行協会員 日本における販売会社	2017年5月10日付で管理会社との間で代行協会員契約（注4）を締結（随時改訂される。）。日本における代行協会員業務を行う。 2017年5月10日付で管理会社との間で受益証券販売・買戻契約（注5）を締結（随時改訂される。）。日本における受益証券の販売・買戻業務を提供する。

（注1）保管契約とは、受託会社および管理会社によって資産の保管者として任命された保管会社が、サブ・ファンドの名義による保管勘定の開設および維持ならびに証券および現金等の保管および管理等の保管業務を行うことを約する契約である。

（注2）総管理事務代行契約とは、受託会社および管理会社がその権限の一部を管理事務代行会社に授權する契約である。

（注3）投資運用契約とは、管理会社によって選任された投資運用会社が、サブ・ファンドの資産の投資および再投資を運用管理することを約する契約である。

（注4）代行協会員契約とは、代行協会員が受益証券に関する目論見書の配布、受益証券1口当たり純資産価格の公表ならびに日本の法令および日本証券業協会規則により作成を要する運用報告書等の文書の配布等を行うことを約する契約である。

（注5）受益証券販売・買戻契約とは、受益証券の日本における募集の目的で管理会社から交付を受けた受益証券を販売会社が、法令・規則および目論見書に準拠して販売することおよび受益者からの買戻注文を管理会社に取次ぐことを約する契約である。

管理会社の概況

（イ）設立準拠法

管理会社は、ルクセンブルグの1915年8月10日商事会社に関する法律（随時改正される。）（以下「1915年法」という。）に基づき、ルクセンブルグにおいて1992年2月27日に、無期限の存続期間を有する株式会社として設立された。その定款は、当初1992年4月4日にメモリアルに公告された。定款は、直近では2017年5月29日付公正証書によって修正され、2017年6月14日にルクイ・エレクトロニック・デ・ソシエテ・エ・アソシアシオンを通じて公告された。管理会社の登記上の事務所は、ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ L-1282 ヒルデガルト・フォン・ビンゲン通り2番である。管理会社は、ルクセンブルグの商業登記簿にB39 615番として登録されている。

管理会社は、A I F M Dおよび2013年法に基づき、ファンドに関し、A I F M Dにおいて定義されるオルタナティブ投資運用会社（以下「A I F M」という。）として業務を提供する。

（ロ）会社の目的

管理会社の目的は、ルクセンブルグ国内または同国外を住所地とするか否かにかかわらず投資信託に関するルクセンブルグの2010年12月17日の法律（随時改正される。）（以下「2010年法」という。）第125 - 2条に規定された投資信託（以下「U C I」という。）を管理することである。ただし、管理会社は、最低でも一つのルクセンブルグのU C Iを管理しなければならない。

（ハ）資本金の額

2025年2月末日現在、管理会社の資本金は5,446,220ユーロ（約8億4,743万円）で、同日現在全額払込済である。なお、1株額面20ユーロ（約3,112円）の記名式株式272,311株を発行済である。

（注）ユーロの円貨換算は、便宜上、2025年2月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1ユーロ＝155.60円）による。

（ニ）会社の沿革

1992年2月27日設立。

（ホ）大株主の状況

（2025年2月末日現在）

名 称	住 所	所有株式数	比 率
S M B C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	272,311株	100%

（４）【ファンドに係る法制度の概要】

準拠法の名称

ファンドは、ケイマン諸島の信託法（改正済）（以下「ケイマン諸島信託法」という。）に基づき設立されている。ファンドは、また、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法（改正済）（以下「ミューチュアル・ファンド法」という。）および一般投資家向け投資信託（日本）規則（改正済）（以下「ミューチュアル・ファンド規則」という。）により規制される。

準拠法の内容

（イ）ケイマン諸島信託法

ケイマン諸島の信託の法律は、基本的には英国の信託法に従っており、英国の信託法のほとんどの部分を採用しており、信託に関する英国判例法のほとんどを採用している。さらに、ケイマン諸島信託法は、英国の1925年受託者法を実質的に基礎としている。投資者は、受託会社に対して資金を払い込み、投資者の利益のために投資運用会社が運用する間、受託会社は、一般的に保管者としてこれを保持する。各受益者は、信託資産の持分比率に応じて権利を有する。

受託会社は、通常の忠実義務に服し、かつ受益者に対して説明の義務を負う。その機能、義務および責任の詳細は、ユニット・トラストの信託証書に記載される。

大部分のユニット・トラストは、免除信託として登録申請される。その場合、信託証書、ケイマン諸島の居住者またはケイマン諸島を本拠地とする者を（限られた一定の場合を除き）受益者として旨宣言した受託会社の法定の宣誓書が、登録料と共に信託登記官に届出される。

免除信託の受託会社は、受託会社、受益者、および信託財産が50年間ケイマン諸島の課税に服さないとの約定を取得することができる。

ケイマン諸島の信託は、150年まで存続することができ、一定の場合は無期限に存続できる。

ケイマン諸島信託法に特定の要件はないが、免除信託の受託会社は、信託証書の変更を信託登記官に提出することが推奨されている。

免除信託は、信託登記官に対して、当初手数料および年次手数料を支払わなければならない。

（ロ）ミューチュアル・ファンド法

後記「監督官庁の概要」の記載を参照。

（ハ）ミューチュアル・ファンド規則

ミューチュアル・ファンド規則は、日本で公衆に向けて販売されるケイマン諸島の一般投資家向け投資信託に関する法的枠組みを定めたものである。

ミューチュアル・ファンド規則は、新規の一般投資家向け投資信託に対し、ケイマン諸島金融庁（以下「CIMA」という。）への投資信託免許の申請を義務づけている。かかる投資信託免許の交付にはCIMAが適当とみなす条件の適用がある。かかる条件のひとつとして一般投資家向け投資信託はミューチュアル・ファンド規則に従って事業を行わねばならない。

ミューチュアル・ファンド規則は、一般投資家向け投資信託の設立文書に、証券に付随する権利および制限、資産と負債の評価に関する条件、純資産総額ならびに証券の発行価格および買戻価格の計算方法、証券の発行条件（証券に付随する権利および制限の変更にかかる条件および状況（もしあれば）を含む。）、証券の譲渡または転換の条件、証券の買戻しまたは買戻しの中止の条件ならびに監査人の任命の条項を入れることを義務づけている。

ミューチュアル・ファンド規則は、一般投資家向け投資信託に対し、ミューチュアル・ファンド法に基づきCIMAにより認可された管理事務代行会社を任命し、維持することを義務づけている。管理事務代行会社を変更する場合、CIMA、一般投資家向け投資信託の投資者および他のサービス提供会社に対し、変更の1か月前までに書面で通知しなければならない。一般投資家向け投資信託は、CIMAの事前承認を得ない限り、管理事務代行会社を変更することができない。

また、管理事務代行会社は、投資者名簿の写しを通常の営業時間中に投資者が閲覧できるようにし、かつ、請求に応じて証券の最新の発行価格、償還価格および買戻価格を無料で提供しなければならない。

一般投資家向け投資信託は、ケイマン諸島、同等の法域またはCIMAにより認可されたその他の法域において規制されている資産保管会社（またはプライムブローカー）を任命し、これを維持しなければならない。一般投資家向け投資信託は、資産保管会社を変更する場合、CIMA、一般

投資家向け投資信託の投資者および他のサービス提供会社に対し、1か月前までに書面で通知しなければならない。

一般投資家向け投資信託は、ケイマン諸島、同等の法域もしくはC I M Aにより認可されたその他の法域において設立されたか、または適法に事業を行っている投資顧問会社を任命し、これを維持しなければならない。投資顧問会社を変更する場合、C I M A、投資者および他のサービス提供会社に対し、変更の1か月前までに書面で通知しなければならない。また、投資顧問会社の取締役を変更する場合は、投資顧問会社が運用する各一般投資家向け投資信託の運営者の事前承認を得なければならない。運営者は、かかる変更が行われる場合、C I M Aに対し、1か月前までに書面で通知しなければならない。

一般投資家向け投資信託は、ミューチュアル・ファンド法に従い、各会計年度が終了してから6か月以内に監査済財務諸表を含む財務報告書を作成し、C I M Aに提出し、投資者に交付しなければならない。中間財務諸表は、一般投資家向け投資信託の英文目論見書において投資者に対し明示された方法に従い作成し、交付しなければならない。

（５）【開示制度の概要】

ケイマン諸島における開示

（イ）ケイマン諸島金融庁への開示

ファンドは、英文目論見書を発行しなければならない。英文目論見書は、受益証券についてすべての重要な内容を記載し、投資者となろうとする者がファンドに投資するか否かについて十分な情報に基づく決定をなしうるために必要なその他の情報を記載しなければならない。英文目論見書は、ファンドについての詳細を記載した申請書とともにC I M Aに提出しなければならない。募集が継続している場合で、C I M Aに提出された募集書類の情報の重大な変更があった場合には、変更後の募集書類を、当該変更から21日以内にC I M Aに提出する義務がある。C I M Aは、英文目論見書の内容や形式を指示しないものの、時宜を得て募集書類の内容について規則または方針を発表する。

ファンドは、C I M Aが承認した監査人を選任し、会計年度終了後6か月以内に監査済会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程において、ファンドに以下に掲げるいずれかの事由があると信ずべき理由があることを知ったときは、C I M Aに報告する法的義務を負っている。

- （ ）弁済期に債務を履行できないか、または履行できないであろうこと。
- （ ）投資者または債権者に有害な方法で自発的にその事業を遂行しもしくは事業を解散し、またはその旨意図していること。
- （ ）会計を適切に監査しうる程度に十分な会計記録を備置せずに事業を遂行し、または遂行しようと思図していること。
- （ ）詐欺的または犯罪的手法で事業を遂行し、または遂行しようと思図していること。
- （ ）下記に違反する方法で事業を遂行し、または遂行しようと思図していること。
 - ミューチュアル・ファンド法および同法に基づく規則
 - 金融庁法（改正済）（以下「金融庁法」という。）
 - マネー・ロンダリング防止規則（改正済）（以下「マネー・ロンダリング防止規則」という。）
 - 免許条件

ファンドおよびサブ・ファンドの監査人は、デロイト・アンド・トゥシュ・エルエルピーである。ファンドの会計書類は、ルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成される。

ファンドは、翌年5月31日までには前年11月30日に終了する計算期間の監査済会計書類をCIMAに提出する。

管理事務代行会社は、（a）ファンド資産の一部または全部が英文目論見書に記載された投資目的および投資制限に従って投資されていないこと、または（b）受託会社もしくは管理会社がその設立文書または英文目論見書に定める規定に従って、ファンドの業務または投資活動を実質的に遂行していないことを認識した場合速やかに、（a）当該事実を受託会社に書面で報告し、（b）当該報告書の写しおよび報告に適用ある状況の説明をCIMAに提出し、その報告書またはその適切な要約を、ファンドの次の年次報告書、および次の半期報告書または定期報告書が次の年次報告書に先立ち交付される場合には半期報告書または定期報告書に記載しなければならない。

管理事務代行会社は、（a）ファンドの募集または償還もしくは買戻しの停止および当該停止理由、ならびに（b）ファンドを清算する意向および当該清算理由について、実務上可能な限り速やかに書面でCIMAに通知しなければならない。

受託会社は、各会計年度末の6か月後から20日以内にCIMAにファンドの事業について書面で報告書を提出するか、または提出するよう手配しなければならない。当該報告書には、ファンドに関する以下の事項を記載しなくてはならない。

- （a）すべての旧名称を含むファンドの名称
- （b）投資者により保有されている各組入証券の純資産総額
- （c）前報告期間からの純資産総額および各組入証券の変動率
- （d）純資産総額
- （e）当該報告期間の新規募集口数および価額
- （f）当該報告期間の償還または買戻しの口数および価額
- （g）報告期間末における発行済有価証券総数

受託会社は、（a）受託会社が知る限り、ファンドの投資方針、投資制限および設立文書を遵守していること、ならびに（b）ファンドが投資者または債権者の利益を損なうような運営をしていないことを確認する旨の受託会社により署名された宣誓書を、毎年、CIMAに提出するか、または提出するよう手配しなければならない。

ファンドは、管理事務代行会社の任命を変更しようとするときは、CIMA、投資者および管理事務代行会社以外の関係会社に、当該変更の1か月前までに、書面で通知しなければならない。

ファンドは、保管会社の任命を変更しようとするときは、CIMA、投資者および保管会社以外の関係会社に、当該変更の1か月前までに、書面で通知しなければならない。

ファンドは、管理会社を変更しようとするときは、CIMA、投資者およびその他の関係会社に、当該変更の1か月前までに、書面で通知しなければならない。

（ロ）受益者に対する開示

サブ・ファンドの計算期間は、毎年11月30日に終了する。11月30日が営業日でない場合、11月の最終純資産価格が監査済年次報告書の作成に使用される。サブ・ファンドの監査済財務書類を含む、ミューチュアル・ファンド規則により受益者への送付が要求される、ルクセンブルグで一般に認められた会計原則に従い作成された年次報告書の写しは、かかる決算日後6か月以内に送付される。未監査の半期報告書も、関連する期間の終了後3か月以内に作成され受益者に送付される。5月31日が営業日でない場合、5月の最終純資産価格が未監査半期報告書の作成に使用される。

さらに、年次報告書および財務書類ならびに基本信託証書の写しは、受託会社、管理会社および管理事務代行会社の事務所にて入手可能である。

いかなる受益者に対しても、優遇措置は付与されないものとする。受益者の権利については、英文目論見書および基本信託証書に記載されている。

（イ）監督官庁に対する開示**（ア）金融商品取引法上の開示**

管理会社は、日本において1億円以上の受益証券の募集をする場合、有価証券届出書を関東財務局長に提出しなければならない。投資者およびその他希望する者は、金融商品取引法（昭和23年法律第25号。その後の改正を含む。）（以下「金融商品取引法」という。）に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（E D I N E T）等において、これを閲覧することができる。

受益証券の日本における販売会社または販売取扱会社は、交付目論見書（金融商品取引法の規定により、あらかじめまたは同時に交付しなければならない目論見書をいう。）を投資者に交付する。また、投資者から請求があった場合には、請求目論見書（金融商品取引法の規定により、投資者から請求された場合に交付しなければならない目論見書をいう。）を交付する。管理会社は、財務状況等を開示するために、各事業年度終了後6か月以内に有価証券報告書を、また、各半期終了後3か月以内に半期報告書を、更に、サブ・ファンドに関する重要な事項について変更があった場合にはそのつど臨時報告書を、それぞれ関東財務局長に提出する。投資者およびその他希望する者は、これらの書類をEDINET等において閲覧することができる。

（バ）投資信託及び投資法人に関する法律上の開示

管理会社は、受益証券の募集の取扱い等を行う場合、あらかじめ、投資信託及び投資法人に関する法律（昭和26年法律第198号。その後の改正を含む。）（以下「投信法」という。）に従い、サブ・ファンドに係る一定の事項を金融庁長官に届け出なければならない。また、管理会社は、ファンドの信託証書を変更しようとするとき等においては、あらかじめ、変更の内容および理由等を金融庁長官に届け出なければならない。更に、管理会社は、サブ・ファンドの資産について、サブ・ファンドの各計算期間終了後遅滞なく、投信法に従って、一定の事項につき運用報告書（全体版）および交付運用報告書を作成し、金融庁長官に提出しなければならない。

（ロ）日本の受益者に対する開示

管理会社は、信託証書を変更しようとする場合であってその変更の内容が重大なものである場合等においては、あらかじめ、日本の知れている受益者に対し、変更の内容および理由等を書面をもって通知しなければならない。

管理会社からの通知等で受益者の地位に重大な影響を及ぼす事実は、日本における販売会社または販売取扱会社を通じて日本の受益者に通知される。

上記のサブ・ファンドの交付運用報告書は、日本の知れている受益者に交付され、運用報告書（全体版）は電磁的方法によりサブ・ファンドの代行協会会員であるS M B C日興証券のホームページにおいて提供される。

（６）【監督官庁の概要】

ファンドは、ミューチュアル・ファンド法に基づくミューチュアル・ファンドとして規制されている。C I M Aは、ミューチュアル・ファンド法を遵守させるための監督および執行の権限を有する。ミューチュアル・ファンド法に基づく規制により、一定の事項および監査済みの財務書類を毎年C I M Aに提出しなければならない。規制されたミューチュアル・ファンドとして、C I M Aは、いつでも受託会社に、サブ・ファンドの財務書類を監査し、同書類をC I M Aが特定する一定の期日までにC I M Aに提出するよう指示することができる。C I M Aの要求に従わない場合、受託会社は高額の罰金を課されることがあり、C I M Aは、裁判所にサブ・ファンドの清算を申し立てることもできる。

ただし、C I M Aは一定の状況下においてファンドまたはサブ・ファンドの活動を調査する権限を有しているものの、ファンドは、その投資活動またはサブ・ファンドのポートフォリオの組成に関して、C I M Aまたはケイマン諸島のその他の政府当局による監督に服することはない。C I M Aまたはケイ

マン諸島のその他の政府当局は、英文目論見書の条項または利点についての意見表明または承認をしていない。ケイマン諸島には投資者に利用可能な投資補償スキームは存在しない。

規制されたミューチュアル・ファンドが、履行期の到来した義務を履行できないかもしくは履行できなくなる可能性がある場合、投資者や債権者の利益を害する方法で業務を遂行もしくは遂行を企図し、または任意解散を行おうとしている場合、ファンドのような免許投資信託の場合、規制された投資信託がミューチュアル・ファンド法に反して、免許の条件を遵守せずに業務を行っているか、行おうとしている場合、規制された投資信託の指示および運営が適正かつ正当な方法で行われていない場合、または、規制された投資信託のマネジャーの地位にある者が、その任務にあたる適正かつ正当な者ではない場合、C I M Aは、一定の措置を取ることができる。C I M Aの権限には、受託会社の交替を要求すること、サブ・ファンドの適切な業務遂行について受託会社に助言を与える者を任命すること、またはサブ・ファンドの業務監督者を任命すること等が含まれる。C I M Aは、その他の権限（その他の措置の承認を裁判所に申請する権限を含む。）を行使することができる。

受託会社またはケイマン諸島に居住する代理人は、適用ある法律に基づき、規制当局、政府機関または行政庁からの情報開示請求に対し、情報の提供を強要されることがある。かかる請求は、例えば、金融庁法に基づき、C I M Aによって、C I M A自らもしくは海外の認可された規制当局のために行われ、または税務情報庁法（改正済）ならびに関連規則、契約、協定および覚書に基づき、税務情報庁によって行われる。かかる法令に基づく守秘情報の開示は、守秘義務違反とはみなされず、一定の状況下においては、受託会社または代理人は、当該請求が行われたことの開示を禁じられることがある。

2【投資方針】

（１）【投資方針】

サブ・ファンドは、長期的な元本の成長を達成することを目指す。

サブ・ファンドは、その資産のほぼすべて（通常の状態においては、その資産の最低85%相当）を、U C I T S（譲渡性のある証券を投資対象とする欧州における投資信託）としてアイルランドにおいてアイルランド中央銀行により承認されたアイルランド集団資産運用ビークル（ICAV）であるブラックロック・ファンズ I ICAV（以下「投資先投資法人」という。）のサブ・ファンドであるブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド（以下「投資先ファンド」という。）（2025年4月16日までの旧名称：ブラックロック・サステナブル・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド）のクラスD累積投資型米ドル建て投資証券に投資することにより、その目的を達成することを目指す。投資先ファンドの投資方針は、主としてグローバルな先進国市場に所在もしくは上場しているか、またはそのような地域においてその主要な事業を行っている企業のエクイティ証券（例えば株式）に投資することである。

サブ・ファンドの受益証券のすべてまたは実質的にすべての発行手取金は投資先ファンドに投資されることになる一方、サブ・ファンドの資産の一部は、流動性確保の目的またはサブ・ファンドが費用を支払う目的で現金として保有される。

サブ・ファンドの投資目的が達成される保証はなく、また、投資リターンまたは投資成果は時として大幅に変動することがある。サブ・ファンドの米ドル建てクラス受益証券および円建て（ヘッジあり）クラス受益証券間、ならびにプレミアム・ファンズのサブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、ウェルス・コアポートフォリオ グロース型およびグローバル・コア債券ファンドのあらゆるクラス受益証券とのスイッチングを行うことができる（注：インターネットでは、スイッチング手続は取り扱われない。）。

投資先ファンドの概要

ブラックロック・ファンズ I ICAV — ブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド	
ファンド形態	アイルランド集団資産運用ビーフル(ICAIV)
投資目的	投資先ファンドは、長期的な元本の成長を達成することを目指します。
運用方針	投資先ファンドは、投資資産の少なくとも70%を、グローバルな先進国市場に所在もしくは上場しているか、またはそのような地域においてその主要な事業を行っている企業のエクイティ証券(例えば株式)に割り当てることにより、その投資目的の達成を目指します。投資先ファンドは、エクイティ証券、その他エクイティ関連証券、および適切とみなされた場合、確定利付証券(債券等)、短期金融商品(MMI)(すなわち、短期債務証券)、預金ならびに現金に投資します。確定利付証券およびMMIは、政府、政府機関、企業および国際機関(例えば、国際復興開発銀行)により発行され、購入時点で投資適格であるものとします(すなわち、特定の信用力を満たしています。)。投資先ファンドは、投資目的および投資方針を達成するために、様々な投資戦略および投資商品に投資します。とりわけ、投資先ファンドは、株式の銘柄選定に関してシステムティックな(すなわち、ルールに基づいた)アプローチを採用するため、定量的(数学的または統計的)モデルを用います。
基準通貨	米ドル
営業日	アイルランド、英国および米国の関連する市場により、通常、営業日とみなされる日、ならびに投資先ファンドの管理会社が決定するその他の日
取引日	各営業日(別途投資先ファンドの管理会社が決定し、投資主に事前に通知する場合を除きます。)
管理会社	ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド
投資顧問会社	ブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッド
設立日	2018年6月4日
決算日	4月30日

投資先ファンドのさらなる概要については、別紙Bを参照されたい。投資先ファンドに関する追加的な情報は投資先ファンドの英文目論見書（以下「投資先ファンド英文目論見書」という。）において開示されている。投資先ファンド英文目論見書は、管理会社の所在地において請求することにより入手可能である。

投資目的および方針の変更

サブ・ファンドの投資目的および/または投資方針に関する重大な変更は、英文目論見書および/または付属書に盛り込まれ、当該重大な変更の効力が発生する前に、サブ・ファンドの受益者に対し通知されるものとする。これにより受益者は、その重大な変更を受諾しない場合には、その変更の効力発生日までに、当該受益証券の買戻しを行うことができる。

(2) 【投資対象】

上記「(1)投資方針」の項を参照のこと。

(3) 【運用体制】

サブ・ファンドの運用体制

ブラックロック・ジャパン株式会社の運用体制は以下の通りである。

サブ・ファンドの運用・管理の各業務の役割分担を社内規程により定めている。

サブ・ファンドの運用については投資運用会社の運用部門が統括している。社内には内部監査を担当する部門、サブ・ファンドの運用状況やリスク状況等をモニターし関連部署にフィードバックする部門、または投資委員会等の開催により、サブ・ファンドの投資方針等に従って運用が行われているかを確認する組織、機能が確立している。

サブ・ファンドの運用は、株式インデックス運用部が担当する。

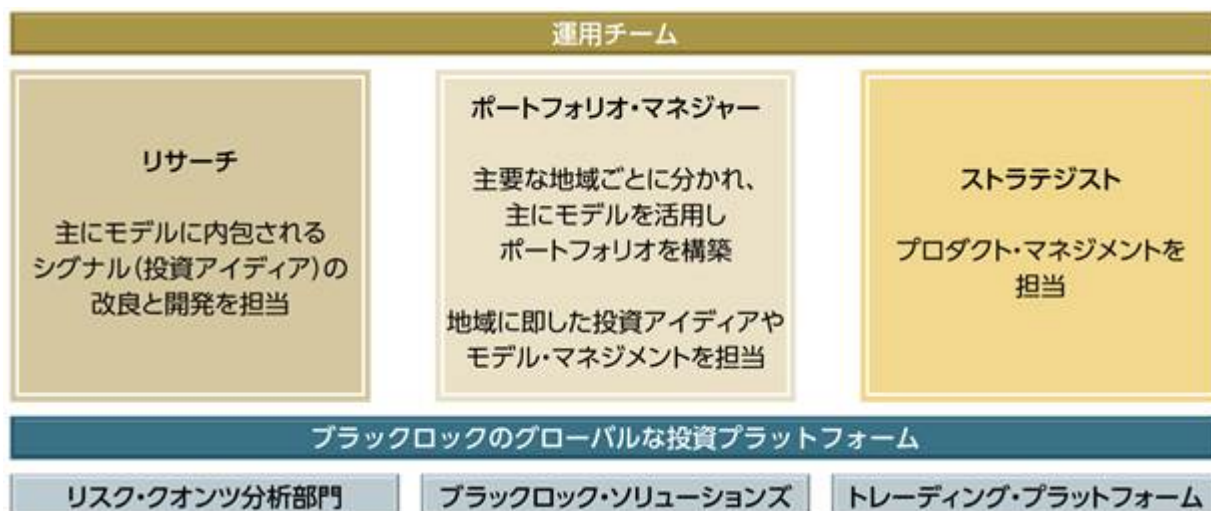
投資先ファンドの運用体制

投資先投資法人の管理会社は、ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッドである。また、投資先ファンドの運用については、ブラックロック・インベストメント・マネジメント（UK）リミテッド（以下「投資先ファンドの投資顧問会社」という。）の科学的アクティブ株式運用部門が担当している。

当部門は、主にモデルに内包されるシグナル（投資アイディア）の改良と開発をメインとするリサーチ担当、地域毎に分かれ、主にモデルを活用しポートフォリオ構築をしつつ、地域に則した投資アイディアやモデル・マネジメントを担当するポートフォリオ・マネジャー、そして、主にプロダクト・マネジメントを担当するストラテジストで構成されている。

運用にあたっては、独自開発計量モデルを使用して、投資対象に含まれる個別銘柄の相対的魅力度（アルファ値）を定量化する。その後、リスクコントロール型アクティブの考え方のもと、一定のリスク許容範囲内でポートフォリオ全体のリターンが最大になるよう銘柄を選定する。運用プロセスにおいては、つねにリスク・コントロールを勘案し、リターンというプラス要因、リスクやコストというマイナス要因を比較秤量してポートフォリオを構築している。

科学的アクティブ株式運用部門の運用体制



（注）上記運用体制は、将来変更されることがある。

（４）【配分方針】

管理会社は、サブ・ファンドの各受益者に対して、管理会社が決定する時期、金額および基準日における分配を行うことができる。

管理会社は、投資運用会社と協議の上、適宜、分配を行うことができる。疑義を避けるために申し添えると、管理会社は、ファンドに関してもその絶対的な裁量により分配を支払わないことを決定することもできる。管理会社は、投資運用会社と協議の上、分配を宣言するか否かを決定するに際して、サブ・ファンドの純資産価格を含め、関連すると考える要素を考慮する。

本書の日付現在、サブ・ファンドに関して分配する予定はない。

上記は、将来の分配金の支払およびその金額について保証するものではない。

（５）【投資制限】

投資制限

サブ・ファンドに適用される投資制限は、以下の通りである。

サブ・ファンドについて空売りされる有価証券の時価総額は、サブ・ファンドの純資産価額を超えないものとする。

サブ・ファンドの純資産価額の10%を超えて、借入れを行わない。ただし、合併等の特別緊急事態により一時的にかかる10%を超える場合は、この限りではない。

管理会社が運用する証券投資信託およびミューチュアル・ファンドは、一発行会社の議決権の50%を超える発行済株式に直接投資しない。かかる制限は、投資信託に対する投資には適用されない。

（注）上記の比率の計算は、買付時点基準または時価基準のいずれかによることができる。

サブ・ファンドは、容易に換金できない私募株式、非上場株式または不動産等流動性に欠ける資産に対し、その純資産の15%を超えて投資しない。ただし、日本証券業協会が定める外国投資信託受益証券の選別基準（随時改訂または修正されることがある。）（外国証券の取引に関する規則第16条）に要求される通り価格の透明性を確保する方法が取られている場合は、この限りではない。

（注）上記の比率の計算は、買付時点基準または時価基準のいずれかによることができる。

サブ・ファンドの資産額の50%を超えて、金融商品取引法第2条第1項に規定される「有価証券」の定義に該当しない資産を構成する結果となるような投資対象の購入、投資および追加を行わない。

サブ・ファンドの名において管理会社が行う取引のうち、自己または第三者の利益を図る目的で行う取引等、受益者の保護に欠け、またはサブ・ファンドの資産の適正な運用を害する取引は、すべて禁止される。

サブ・ファンドの投資対象の価値の変化、再構成、合併、サブ・ファンドの資産からの支払またはサブ・ファンドの受益証券の買戻しの結果としてサブ・ファンドに適用される制限を超えた場合、管理会社は、直ちにサブ・ファンドの投資対象を売却する必要はない。しかし、管理会社は、サブ・ファンドの受益者の利益を考慮した上で、違反が判明してから合理的な期間内にサブ・ファンドに適用ある制限を遵守するために合理的に可能な措置を講じる。

上記の投資制限に加え、サブ・ファンドは、以下の投資制限に従う。

デリバティブ取引の制限

サブ・ファンドは、ヘッジ目的のためにのみデリバティブ取引（差金決済されない通貨先渡取引を除く。）またはその他類似する取引を行うことができる。サブ・ファンドは、デリバティブ取引等の想定元本がサブ・ファンドの純資産総額を超えないように管理している（いわゆる簡便法）。

なお、サブ・ファンドは、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券についてのみデリバティブ取引またはその他類似する取引を行うことができる。サブ・ファンドは、米ドル建てクラス受益証券についてはいかなるデリバティブ取引も行わない。

信用リスクの管理

投資先ファンドは、UCITS規則上、UCITSとして、アイルランド中央銀行により承認されたアイルランド集団資産運用ビークルとして組成され、とりわけ、信用リスクの分散規制に服する。サブ・ファンドは実質的にすべての資産を投資先ファンドに投資するものであること、また、日本証券業協会は、株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよび/またはデリバティブ等エクスポージャーに関する単一の発行体および/またはカウンターパーティーに対するエクスポージャーについて、UCITSに関する指令および規則が、日本証券業協会の外国証券の取引に関する規則に適合していると考えていることから、管理会社としては、外国証券の取引に関する規則におけるサブ・ファンドの信用リスクのエクスポージャーは監視されており、よって、サブ・ファンドは日本証券業協会の外国証券の取引に関する規則に適合しているものと考えている。

投資目的と投資方針の厳守

管理会社は、サブ・ファンドが常に本書に記載する投資目的および投資方針または投資制限が遵守されるよう確保する責任を負う。ただし、（ ）受託会社および管理会社は、サブ・ファンド決議による承認なしにサブ・ファンドの投資目的および投資方針または投資制限およびガイドラインについて重大な不利益となる変更を行うことができず、（ ）受託会社および管理会社は、制限の変更がサブ・ファンドの受益者の最大の利益に資すると判断し、また当該変更が適用ある法令（日本証券業協会の規則を含む。）を遵守している範囲内において、サブ・ファンドに関する投資制限を変更することができ、また（ ）本書記載の方針に関する記述は、管理会社の指示により受託会社または管理会社が絶対的裁量により当該状況下で適切と思料する影響を受ける受益者への通知を発することにより、全般的にまたは個々のサブ・ファンドについて変更されることがある。

ケイマン諸島の規則

管理会社は、「投資顧問」（ミューチュアル・ファンド規則に定義される。）として遵守義務を負う適用あるケイマン諸島の関係規則を遵守するものとする。したがって、管理会社は、サブ・ファンドのために、

結果的にサブ・ファンドのために空売りされるすべての有価証券の総額がかかる空売りの直後にサブ・ファンドの純資産を超過することになる場合、かかる有価証券の空売りを行ってはならない。

結果的にサブ・ファンドのために行われる借入れの残高の総額がかかる借入れ直後にサブ・ファンドの純資産の10%を超えることになる場合、かかる借入れを行ってはならない。ただし、

（イ）特殊事情（サブ・ファンドと別の投資信託、投資ファンドまたはそれ以外の種類の集団投資スキームとの合併を含むがそれらに限られない。）がある場合においては、12か月を超えない期間に限り、本 項において言及される借入制限を超えてもよいものとし、

（ロ）（ ）サブ・ファンドが、有価証券の発行手取金のすべてまたは実質的にすべてを不動産の権利を含む不動産に投資するとの方針を有し、

（ ）管理会社が、サブ・ファンドの資産の健全な運営またはサブ・ファンドの受益者の利益保護のために、かかる制限を超える借入れが必要であると判断する場合、

本 項において言及される借入制限を超えてもよいものとする。

株式取得の結果、管理会社が運用するすべての投資信託が保有する一会社（投資会社を除く。）の株式総数が、当該会社の発行済議決権付株式総数の50%を超えることになる場合、当該会社の議決権付株式を取得してはならない。

取引所に上場されていないか、または容易に換金できない投資対象を取得する結果として、取得直後にサブ・ファンドが保有するかかる投資対象の総価値がサブ・ファンドの純資産価額の15%を超えることになる場合、当該投資対象を取得してはならないが、管理会社は、当該投資対象の評価方法が英文目論見書において明確に開示されている場合、当該投資対象の取得を制限されないものとする。

サブ・ファンドの受益者の利益を損なうか、またはサブ・ファンドの資産の適切な運用に違反する取引（サブ・ファンドの受益者ではなく管理会社もしくは第三者の利益を図る取引を含むが、これらに限られない。）を行ってはならない。

本人として自社またはその取締役と取引してはならない。

ただし、上記のミューチュアル・ファンド規則は、管理会社が、サブ・ファンドのために、以下に該当する会社、ユニット・トラスト、パートナーシップまたはその他の者のすべてのまたはいずれかの株式、証券、持分またはその他の投資対象を取得することを妨げるものではない。

投資信託、投資ファンド、ファンド・オブ・ファンズまたはその他の種類の集団投資スキームである場合

マスター・ファンド、フィーダー・ファンド、その他の類似の組織もしくは会社または事業体のグループの一部を構成している場合

サブ・ファンドの投資目的または投資戦略を、全般的にまたは部分的に、直接促進する特別目的事業体である場合

3【投資リスク】

（１）リスク要因

受益証券への投資には、国際金融市場におけるすべての投資に共通する大きなリスクが伴う。投資を行おうとする者は、受益証券に投資するメリットおよび妥当性を評価する際に、特に以下の要因を入念に検討すべきである。受益証券の価格は、上昇する場合もあれば下落する場合もあるため、投資者は当初の投資額を回収できないことがある。したがって、サブ・ファンドへの投資は、投下資本をすべて失うリスクを負担できる者のみが行うべきである。サブ・ファンドは、収益水準に関係なくそれぞれの報酬と費用を支払う責任を負う。

投資を行おうとする者は、以下の特有のリスクを入念に検討すべきだが、以下のリストはすべてのリスクを網羅することを意図したものではない。

投資リスク

サブ・ファンドが投資目的を達成できるという保証はない。管理会社は、サブ・ファンドへの投資にはリスクが伴うことに鑑みて、サブ・ファンドへの投資を中長期的投資と考えることを投資者に対して推奨する。

管理会社および投資運用会社への依存

サブ・ファンドの投資対象への投資運用と投資指図は、サブ・ファンドの投資ガイドラインの範囲内で各信託財産の投資運用に唯一の責任を負う管理会社の責任下にある。管理会社は、その権限と責任を投資運用会社に委託し、投資運用会社は、サブ・ファンドの投資対象の選定、指図、評価および監視に関する完全な裁量権を有する。

クロス・ライアビリティ

サブ・ファンドの受益証券の発行または販売を通じて受託会社が受領するすべての買付金額、当該買付金額が投資されるすべての資産、ならびにこれらに帰属するすべての収入および利益は、当該サブ・ファンドに係るものとして指定される。いずれかのサブ・ファンドに帰属することが容易に見極められない資産は、受託会社の裁量により一つまたは複数のサブ・ファンド間に受託会社またはその代理人により配分される。あるサブ・ファンドの資産は、当該サブ・ファンドの負債を負担し、原則として他のサブ・ファンドの負債を弁済するために用いることはできない。管理会社は、債権者となりうる者との取引において、当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産のみを引当てとすることができ、サブ・ファンドについて受託会社名義で締結されるすべての契約が債権者の請求権を関連するサブ・ファンドの信託財産の範囲内のみに限定する文言を含むよう確保する義務を負う。ただし、投資者は、あるサブ・ファンドの資産が別のサブ・ファンドの債務を弁済するために使われる範囲を数量化することがあらゆる場合に可能となる訳ではない点に留意すべきである。

信用リスク

固定利付証券については、発行体の信用格付により証券の価格が変動することがある。特に、固定利付証券の元本および／または利息は、かかる発行体の財務状況が悪化した場合、所定の期日に支払われない可能性（債務不履行リスク）がある。証券の債務不履行の場合または債務不履行の可能性がある場合、かかる証券の価格は急落することがある。ポートフォリオにおける信用エクスポージャーは、投資戦略の一環であり、期待収益率に対するターゲット・リスクの比率により分析されている。信用リスクは、サブ・ファンド全体のリスク選好度に沿っていなければならない。また、預託機関に対する投資後信用エクスポージャーも存在している。

時間外取引およびマーケットタイミング

管理会社は、時間外取引もしくはマーケットタイミングまたはその他類似の取引方法を認めていない。かかる取引実施を回避するため、受益証券の発行および買戻しは未知の価格で行われ、管理会社は、本書記載の締切時刻以降に受領した注文を受け付けない。管理会社は、マーケットタイミング行為が疑われる者からの買付注文およびサブ・ファンドへの転換注文を拒否する権利を有する。

その他のリスク

上記のリスク要因は、サブ・ファンドへの投資に伴うリスクをすべて説明することを意図したものでない。したがって、投資を行おうとする者は、サブ・ファンドへの投資を決定する前に、本書を精読し、専門アドバイザーと相談するべきである。

サブ・ファンドに固有のリスク

サブ・ファンドは、以下の事項が含まれるがこれらに限られない多数の潜在的投資リスクに直面する。

強制的買戻しのリスク 受託会社または管理会社は、その単独かつ最終的な裁量により、受益者の受益証券の全部または一部の買戻しを強制的に行う権利を有する。後記「第2 管理及び運営 2 買戻し手続等（1）海外における買戻し 強制的買戻し」を参照のこと。

運用実績 投資運用会社またはサブ・ファンドの過去のパフォーマンスは、投資運用会社またはサブ・ファンドの将来の運用実績を示唆するものと理解してはならない。

潜在的な税金リスク いずれかの法域でサブ・ファンドに課される税金は、サブ・ファンドの純資産価額を削減し、またサブ・ファンドのパフォーマンスに悪影響を及ぼす。

買戻しによる損失の可能性 受益証券の買戻しは投資対象の換金を必然的に伴うことがある。かかる換金に起因してサブ・ファンド（およびその残存受益者）において、換金がなければ生じなかったと思われるコストを負担する可能性がある。

投資先ファンドへの投資に係るリスク サブ・ファンドは投資先ファンドへ投資するが、投資先ファンドのポートフォリオは分散または流動性が欠けるおそれがある。それ故に、投資先ファンドのパフォーマンスの悪化は、サブ・ファンドのパフォーマンスの悪化を招く。投資先ファンドおよび投資先ファンドへの投資に伴うリスクに関する追加的な情報は投資先ファンドの目論見書において開示されている。

投資先ファンドが米ドル建て以外の資産にも投資する場合があるため、サブ・ファンドは、米ドルとその他の通貨との為替変動による影響を受ける。当該通貨エクスポージャーについてはヘッジが行われないため、ボラティリティーが高くなり、投資者のリターンに重大な影響を及ぼすおそれがある。

投資先ファンドへの投資に関連する報酬 受託会社、管理会社、管理事務代行会社、保管会社、投資運用会社、代行協会、日本における販売会社および販売取扱会社ならびにサブ・ファンドのためのその他の業務提供会社の費用および報酬に加え、サブ・ファンドはまた、投資先ファンドの資産から支払われることがある全報酬および費用（投資先ファンドの管理会社およびその他の業務提供会社に支払われる報酬および費用を含む。）を按分して間接的に負担する。

ヘッジ取引 投資者は、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券に関して、為替ヘッジをかけ、また、通貨エクスポージャーを取るために、様々な技法が使用されること、および、このような技法は追加的なリスクを伴うことに留意すべきである。為替ヘッジをかけ、また、通貨エクスポージャーを取るために生じた費用は円建て（ヘッジあり）クラス受益証券により負担される。いかなる時点においても、管理会社が、為替ヘッジをかけ、また、通貨エクスポージャーを得ることができる保証はなく、また、部分的にせよ全体的にせよ、効果的に為替ヘッジをかけ、また、効果的に通貨エクスポージャーを得ることができる保証もない。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の表示通貨（日本円）に対してサブ・ファンドの基準通貨（米ドル）の価値が下落または上昇することを軽減するためにヘッジ戦略が用いられることがある。ヘッジ取引が行われた場合、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の投資者は、ヘッジ取引により、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の表示通貨に対する基準通貨の価値の下落から保護される可能性がある一方、基準通貨の価値の上昇による利益を享受できないこともある。

投資者は、投資先ファンドのポートフォリオについて、円に対する通貨エクスポージャーにさらされるのではなく、米ドルに対する米ドル以外の通貨エクスポージャーにさらされることに留意すべきである。とりわけ、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の投資者は、一部の投資者において、為替取引が投資先ファンドのポートフォリオの通貨エクスポージャーと関連するわけではないため、円建て（ヘッ

ジあり）クラス受益証券について為替ヘッジが行われるクラスと考えるべきではないと考える可能性があることに留意されたい。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券に関して用いられる為替ヘッジは当該クラスの利益のためにのみ行われ、それに関する収益、損失および費用は当該クラスのみに帰属する。上記にかかわらず、為替ヘッジをかけるために用いられる技法および商品は、サブ・ファンド全体の資産および債務を構成する。管理会社は、サブ・ファンドにより用いられる為替ヘッジから生じる債務が円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の資産を超える場合には為替ヘッジを制限する予定であるが、米ドル建てクラス受益証券の純資産価額に悪影響を及ぼすおそれがある。さらに、為替ヘッジは、原則として、決済代金の支払またはその他の目的でサブ・ファンドの資産の一部を使用することになる。為替ヘッジの取引相手方は、短い通知期間で支払を要求する可能性がある。その結果、サブ・ファンドは、現時点もしくは将来の追加証拠金請求、決済もしくはその他の支払いに応じるため、またはその他の目的のために利用可能な現金を保有するため、資産を本来よりも早く清算し、ならびに／または本来よりも多くのファンドの資産（その割合は時として大きなものとなる可能性がある。）を現金およびその他の流動性の高い証券により保有する場合がある。サブ・ファンドは原則として、現金で保有されるかかる金額に対し利息が生じることを予想しているが、サブ・ファンドの投資方針に従った投資が行われず、サブ・ファンド（米ドル建てクラス受益証券を含む。）の運用実績に重大な悪影響を及ぼすおそれがある。サブ・ファンドが契約上の債務不履行に陥った場合、サブ・ファンドおよびその受益者（米ドル建てクラス受益証券を含む。）が重大な悪影響を被るおそれがある。

サブ・ファンドの受益証券のクラス間のクロス・ライアビリティ 受託会社は、クラス受益証券を発行することができる。サブ・ファンドの受益証券の特定のクラスの資産がサブ・ファンドのその他のクラスの債務の弁済のために用いられないという保証はない。受益証券のいかなるクラスについても責任財産限定特約（リミテッド・リコース）は存在しない。このため、サブ・ファンドのすべての資産は、当該資産または債務がいかなるクラスに帰属するものであれ、すべての債務の弁済のために用いられる。特に、クラス間にまたがる債務（クロス・クラス・ライアビリティ）は、あるクラスに関する債務が当該クラスの資産を超えた場合に生じる。この場合、他のクラスに帰属するサブ・ファンドの資産は、当該債務の超過部分に充当され、その結果、当該クラスの価値は減少する。

投資先ファンドの保有比率の低下 サブ・ファンドは、現時点もしくは将来の追加証拠金請求、決済もしくはその他の支払いに応じるため、またはその他の目的のために利用可能な現金を保有するため、資産を本来よりも早く現金化し、ならびに／または本来よりも多くのファンドの資産（その割合は時として大きなものとなる可能性がある。）を現金およびその他の流動性の高い証券により保有する場合がある。現金で保有される部分（もしあれば）は、サブ・ファンドの投資方針に従った投資が行われず、サブ・ファンド（ヘッジが行われない受益証券のクラスを含む。）の運用実績に重大な悪影響を及ぼすおそれがある。

外国為替取引の相手方リスク 外国為替市場における契約は、規制当局により規制されておらず、かかる契約は、取引所またはその決済機関による保証もない。よって、記録保持、財務上の責任または顧客資金もしくはポジションの分離保管に関する義務はない。取引所で取引される先物契約と比較して、銀行間の証書は、かかる契約の実施を約したディーラーまたは相手方に依存している。その結果、銀行間の外国為替契約の取引は、規制ある取引所で取引される先物またはオプションよりも多くのリスクにさらされており、これには、サブ・ファンドが為替予約を締結する相手方の不履行による債務不履行リスクが含まれるが、これに限定されない。

上記の特別の勘案事項の列挙は、サブ・ファンドに投資する際に伴うリスクの完全な説明ではない。よって、投資を行おうとする者は、本書を慎重に精読し、サブ・ファンドへの投資を決定する前に専門アドバイザーに相談すべきである。

なお、投資先ファンドに伴う主な投資リスクについては、後記「別紙 B 投資先ファンドの概要」を参照のこと。

（２）リスクに対する管理体制

サブ・ファンドのリスク管理体制（投資運用会社のリスク管理体制）

投資運用会社はリスク管理を重視しており、独自に開発したシステムを用いてリスク管理を行っている。具体的には、運用担当部門とは異なる部門においてポートフォリオの投資リスクの計測・分析、投資制限のモニタリングなどを行うことにより、ポートフォリオの投資リスクが運用方針に合致していることを確認し、その結果を運用担当部門にフィードバックするほか、社内関係者で共有している。また、投資運用会社の業務に関するリスクについて社内規程を定めて管理を行っている。

投資先ファンドのリスク管理体制

科学的アクティブ株式運用部門はリスク管理項目として、主にアクティブ・リスク（推定トラッキング・エラー）、リスク・ファクターに対するエクスポージャー、個別銘柄、国、セクターの対ベンチマーク構成比に対するアクティブ・ウェイトを設定し、意図せざるリスクをとらないよう管理している。

ポートフォリオ・マネジャーは日次でポートフォリオの詳細をモニタリングし、市場から大きく乖離した場合にはその原因を分析し、必要に応じてリスク水準を修正すべくリバランス等の投資行動を行う。

また、リスク管理専門部門であるリスク・クオンツ分析部門（RQA）によるポートフォリオ分析も活用している。RQAは、運用チームとは異なる観点でリアルタイムに分析を行ない、様々なリスクがリターンに及ぼす影響の計測や、想定される政治あるいは経済シナリオに対するストレステスト等を行いその結果を運用チームに提供する。

サブ・ファンドは、デリバティブ取引等の想定元本がサブ・ファンドの純資産総額を超えないように管理する（いわゆる簡便法）。なお、サブ・ファンドは、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券についてのみデリバティブ取引等を行い、米ドル建てクラス受益証券については行わない。投資先ファンドは、ヘッジ目的および／またはヘッジ目的以外の目的でデリバティブを利用している。投資先ファ

ンドは、デリバティブについて、U C I T Sに係るE U指令の準拠に基づくリスク管理方法を採用している。

（注）上記リスクに対する管理体制は、将来変更されることがある。

希薄化 サブ・ファンドの運用実績は、各評価日における取引量に応じて投資先ファンドの運用実績と異なる場合がある。取引を行う受益者は、関連する計算日における投資先ファンドの運用実績がマイナスであった場合にサブ・ファンドの他の受益者の費用負担において利益を受ける場合がある一方、関連する計算日における投資先ファンドの運用実績がプラスであった場合には逆の結果となる場合がある。

(3) リスクに関する参考情報

下記グラフは、サブ・ファンドの投資リスクを理解するための情報の一つとして利用されたい。

サブ・ファンドの分配金再投資 1口当たり純資産価格・年間騰落率の推移

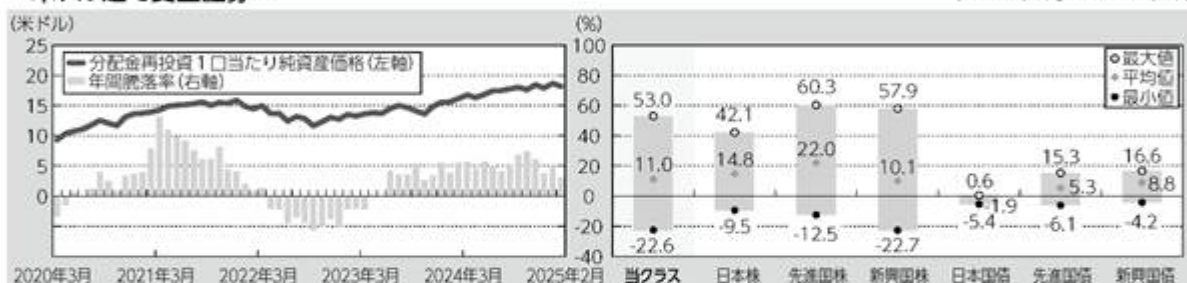
2020年3月～2025年2月の5年間に於けるサブ・ファンドの分配金再投資1口当たり純資産価格(各月末時点)と、年間騰落率(各月末時点)の推移を示したものです。

サブ・ファンドと他の代表的な資産クラスとの 年間騰落率の比較

左のグラフと同じ期間における年間騰落率(各月末時点)の平均と振れ幅を、各クラス受益証券の表示通貨ベースと他の代表的な資産クラス(円ベース)との間で比較したものです。このグラフは、サブ・ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

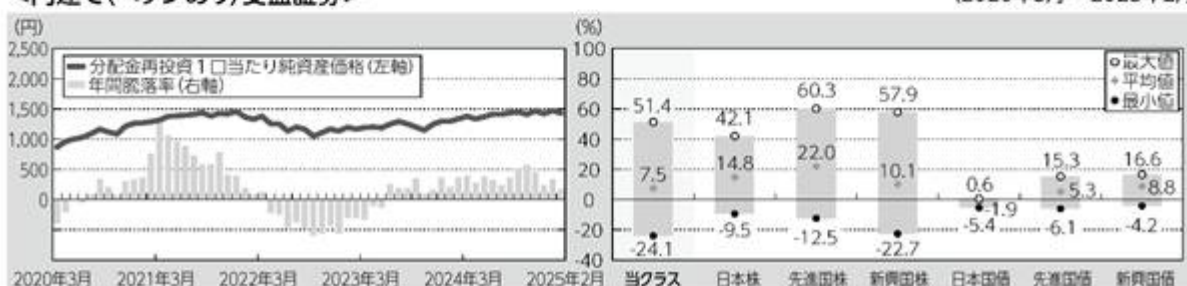
<米ドル建て受益証券>

(2020年3月～2025年2月)



<円建て(ヘッジあり)受益証券>

(2020年3月～2025年2月)



出所：Bloomberg L.P. および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所外国法共同事業が作成

(ご注意)

- ・分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時に各クラス受益証券へ再投資したとみなして算出したものです。ただし、各クラス受益証券については分配金の支払実績はないため、分配金再投資1口当たり純資産価格は各受益証券の1口当たり純資産価格と等しくなります。
- ・各クラス受益証券の年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における分配金再投資1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が営業日でない場合は直前の営業日を月末とみなします。)
- ・各クラス受益証券の年間騰落率は、各受益証券の表示通貨建てで計算されており、米ドル建て受益証券については、円貨に為替換算されておりません。したがって、円貨に為替換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ・代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。(月末が休日の場合は直前の営業日を月末とみなします。)
- ・各クラス受益証券と他の代表的な資産クラス間の年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ・サブ・ファンドは、代表的な資産クラスのすべてに投資するものではありません。
- ・各クラス受益証券と他の代表的な資産クラスを表す指数

日本株……………TOPIX(配当込み)
先進国株……………FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)
新興国株……………S&P新興国総合指数
日本国債……………ブルームバーグE1年超日本国債指数
先進国債……………FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)
新興国債……………FTSE新興国市場国債指数(円ベース)

(注) S&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P. で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)の指数値およびTOPIXに係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXに係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。FTSE先進国株価指数(除く日本、円ベース)、FTSE世界国債指数(除く日本、円ベース)およびFTSE新興国市場国債指数(円ベース)に関するすべての権利は、London Stock Exchange Group plcまたはそのいずれかのグループ企業に帰属します。各指数は、FTSE International Limited、FTSE Fixed Income LLCまたはそれらの関連会社等によって計算されています。London Stock Exchange Group plcおよびそのグループ企業は、指数の使用、依存または誤謬から生じるいかなる負債について、何人に対しても一切の責任を負いません。

上記の参考情報は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

海外における申込手数料

受益証券の取得申込みにあたっては、申込価格の最大３％（税抜）の申込手数料を課することができる。

日本国内における申込手数料

受益証券の取得申込みにあたっては、上限1.10％（税抜1.00％）の申込手数料が課される。申込手数料の詳細については、販売取扱会社に照会のこと。

申込手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等ならびに購入に関する事務手続の対価である。

- （注１） 管理会社、日本における販売会社および販売取扱会社が申込手数料について別途合意する場合には、それに従うものとし、上記と異なる取扱いをすることができる。
- （注２） 上記申込手数料に関わる「税」とは、消費税および地方消費税を示す。
- （注３） 申込手数料については、販売取扱会社の定める乗換優遇措置または償還乗換優遇措置が適用される場合がある。
- （注４） 米ドル建てクラス受益証券を円資金から該当通貨に交換した上での申込みの場合、別途、為替手数料が片道１円／往復２円（上限）かかる。

（２）【買戻し手数料】

海外における買戻し手数料

買戻し手数料は、課せられない。

日本国内における買戻し手数料

買戻し手数料は、課せられない。

（３）【スイッチング手数料】

海外におけるスイッチング手数料

異なる通貨間でスイッチングが行われる場合、スイッチング手数料が賦課される。

スイッチング手数料は、受益者よりスイッチング請求を受け付けた日時に入手できる直近のサブ・ファンドの純資産価額の上限１％に、適用ある税金を加算した金額として、日本における販売会社または販売取扱会社により計算され、賦課されることがある。

- （注） 受益証券のスイッチングの際、かかるスイッチング手数料以外に日本における販売会社または販売取扱会社により申込手数料が課されることはない。

日本におけるスイッチング手数料

スイッチング手数料は、課せられない。

（４）【管理報酬等】

受託会社報酬

受託会社は、最低で年間15,000米ドル、最高で年間30,000米ドルの、各評価日に発生しかつ計算され四半期毎に後払いされる、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.01%の受託報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記の報酬は、毎年見直しの対象となる。受託会社が追加的な活動、訴訟、またはその他の例外的な事項を検討しまたはそれらに携わることを要求される場合、追加の報酬については、管理会社との関連する時期における追加的な交渉に従い、反対の合意がない限り、随時実施されている時間単位料金により受託会社により請求される。

サブ・ファンドに関連して受託会社が負担した合理的なすべての立替費用は、サブ・ファンドの資産から受託会社に返済される。

受託会社報酬は、サブ・ファンドに対する受託業務の提供の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った受託会社報酬は、14,917.60米ドルであった。

管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.03%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

サブ・ファンドに関連して管理会社が負担する合理的なすべての立替費用は、サブ・ファンドの資産から管理会社に返済される。

管理会社報酬は、サブ・ファンドの設定・継続開示にかかる手続、資料作成・情報提供、運用状況の監督、リスク管理、その他運営管理全般にかかる業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った管理会社報酬は、29,741.71米ドルであった。

投資運用会社報酬

投資運用会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

管理会社は、投資運用会社に支払われるべき合理的な立替費用を、関連するサブ・ファンドの資産から返済する。

投資運用会社報酬は、サブ・ファンドに対する投資運用業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った投資運用会社報酬は、49,492.43米ドルであった。

管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、最低で年間12,500ユーロの、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

管理会社は、サブ・ファンドに関連して管理事務代行会社に支払われるべき合理的な立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済する。

管理事務代行会社報酬は、サブ・ファンドの購入・換金（買戻し）等の受付、信託財産の評価、純資産価額の計算、会計書類作成およびこれらに付随する業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った管理事務代行会社報酬は、59,565.93米ドルであった。

保管会社報酬

保管会社は、最低で年間3,000ユーロの、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産価額の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

管理会社は、サブ・ファンドに関連して保管会社に支払われるべき合理的な立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済する。

保管会社報酬は、サブ・ファンドの信託財産の保管、入出金の処理、信託財産の決済およびこれらに付随する業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った保管会社報酬は、39,671.31米ドルであった。

販売会社報酬および販売取扱会社報酬

日本における販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドに帰属する純資産価額の年率0.02%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記の報酬に加え、日本における販売会社および販売取扱会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、それぞれにより取り扱われた受益証券に相当する部分の純資産価額に対して年率1.15%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

管理会社は、サブ・ファンドに関連して日本における販売会社および販売取扱会社に支払われるべき合理的な立替費用を、関連するサブ・ファンドの資産から返済する。

販売会社報酬および販売取扱会社報酬は、日本における受益証券の販売業務、購入・買戻しの取扱業務、運用報告書の交付等購入後の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った販売会社報酬および販売取扱会社報酬は、1,159,797.06米ドルであった。

代行協会員報酬

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドに帰属する純資産価額の年率0.10%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

管理会社は、サブ・ファンドに関連して代行協会員に支払われるべき合理的な立替費用を、関連するサブ・ファンドの資産から返済する。

代行協会員報酬は、目論見書、運用報告書等の販売会社等への送付、受益証券1口当たり純資産価格の公表およびこれらに付随する業務の対価として支払われる。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払った代行協会員報酬は、99,102.30米ドルであった。

（５）【その他の手数料等】

設立費用

サブ・ファンドの設立および受益証券の当初募集に関する費用は、全額償却された。

仲介手数料

有価証券の売買に関連する仲介料および手数料は関係する信託財産から支弁する。

その他の運営費用

受託会社、管理会社、投資運用会社、投資顧問会社、保管会社、管理事務代行会社、代行協会および日本における販売会社は、自らの費用で、各自の業務を遂行するために必要な事務員、事務スペースおよび事務機器を提供する責任を負う。サブ・ファンドはそれぞれの事業活動に付随するその他すべての費用を負担する。かかる費用には、法令遵守の費用ならびに監査人および法律顧問の報酬、保管料、受益証券の実質的所有者を含めた受益者のために必要な言語で年次報告書、半期報告書およびファンド、管理会社および／または受託会社に適用ある法令に基づいて必要なその他の報告書または書類を作成し、配布する費用、会計、記帳および純資産価額の計算費用、受益者向け通知を作成し、配布する費用、弁護士および監査人の報酬、資産、収入、報酬および費用に対してファンドまたはサブ・ファンドが請求されるすべての税金、上記に類するすべての一般管理費（受益証券の募集または販売に直接関係する費用を含む。）、借入金および融資残高の利息およびコミットメント・ライン手数料、所得税、源泉徴収税等の租税、受益者および投資を行おうとする者との通信費用、償還費用等を含む。サブ・ファンドは、その他の投資会社への投資に関連する申込手数料および買戻し手数料ならびに組入証券の取引に関連する仲介手数料を支払う義務を負う場合がある。

2024年11月30日に終了した計算期間中にサブ・ファンドが支払ったその他の運営費用は、74,672.35米ドルであった。

投資先ファンドにかかる費用等

サブ・ファンドは、投資先ファンドの受託会社、管理会社、投資顧問会社およびその他関連会社に支払われる報酬および費用を含む、投資先ファンドの資産から支払われることになるすべての報酬および費用について、按分して間接的に負担する。

投資先ファンドの報酬および費用は、後記「別紙B 投資先ファンドの概要」を参照のこと。

その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率や上限額等を表示することができない。

手数料および費用等の合計額およびその上限額ならびにこれらの計算方法については、サブ・ファンドおよび投資先ファンドの運用状況や受益証券の保有期間等に応じて異なるため表示することができない。

サブ・ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用			
購入(申込み)手数料	受益証券の取得申込みにあたっては、 <u>上限1.10%(税抜1.00%)</u> の申込手数料が課されます。申込手数料の詳細については、販売取扱会社にご照会ください。 購入(申込み)手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等ならびに購入に関する事務手続の対価です。 (注1)管理会社、日本における販売会社および販売取扱会社が申込手数料について別途合意する場合には、それに従うものとし、上記と異なる取扱いをすることができます。 (注2)上記申込手数料に関わる「税」とは、消費税および地方消費税を示します。 (注3)申込手数料については、販売取扱会社の定める乗換優遇措置または償還乗換優遇措置が適用される場合があります。 (注4)円資金から米ドルに交換したうえでお申込みの場合、別途、為替手数料が片道1円/往復2円(上限)がかかります。詳しくは、日本における販売取扱会社にご照会ください。		
換金(買戻し)手数料	買戻し手数料は、課されません。		
スイッチング手数料	スイッチング手数料は、課されません。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
サブ・ファンドの管理報酬等 サブ・ファンドの純資産価額の年率1.45%（一部報酬において最低で年間15,500ユーロ）および年率0.01%(最低で年間15,000米ドル、最高で年間30,000米ドル)の合計額ならびにその他の費用・手数料がサブ・ファンドから支払われます。 (内訳)			
手数料等	支払先	対価とする役務の内容	報酬料率
受託会社報酬	受託会社	サブ・ファンドに対する受託業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.01%(最低で年間15,000米ドル、最高で年間30,000米ドル。四半期毎に後払い) 上記の報酬は、毎年見直しの対象となります。受託会社が追加的な活動、訴訟またはその他の例外的な事項を検討したまたはそれらに携わることを要求される場合、追加の報酬については、管理会社との関連する時期における追加的な交渉に従い、反対の合意がない限り、随時実施されている時間単位料金により受託会社により請求されます。 受託会社は、サブ・ファンドに関連して受託会社が負担した合理的なすべての立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済されるものとします。
管理会社報酬	管理会社	サブ・ファンドの設定・継続開示にかかる手続、資料作成・情報提供、運用状況の監督、リスク管理、その他運営管理全般にかかる業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.03%(毎月後払い) 管理会社は、サブ・ファンドに関連して管理会社が負担する合理的なすべての立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済されるものとします。
管理事務代行会社報酬	管理事務代行会社	サブ・ファンドの購入・換金(買戻し)等の受付、信託財産の評価、純資産価額の計算、会計書類作成およびこれらに付随する業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.06%(最低で年間12,500ユーロ。毎月後払い) 管理会社は、サブ・ファンドに関連して管理事務代行会社に支払われるべき合理的な立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済するものとします。
保管会社報酬	保管会社	サブ・ファンド信託財産の保管、入出金の処理、信託財産の決済およびこれらに付随する業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.04%(最低で年間3,000ユーロ。毎月後払い) 管理会社は、サブ・ファンドに関連して保管会社に支払われるべき合理的な立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済するものとします。
投資運用会社報酬	投資運用会社	サブ・ファンドに対する投資運用業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.05%(毎月後払い) 管理会社は、サブ・ファンドに関連して投資運用会社に支払われるべき合理的な立替費用を、サブ・ファンドの資産から返済するものとします。

販売会社報酬 および 販売取扱会社報酬	販売会社 および 販売取扱会社	受益証券の販売業務、 購入・買戻しの取扱業 務、運用報告書の交付 等購入後の情報提供 業務およびこれらに付 随する業務	販売取扱会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払い される、販売取扱会社が販売した受益証券に係るサブ・ファン ドの純資産価額に対して年率1.15%の販売取扱会社報酬を受 領します。 販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされ る、サブ・ファンドの純資産価額に対して年率0.02%、販売会 社が販売した受益証券に係るサブ・ファンドの純資産価額に 対して年率1.15%の販売会社報酬を受領します。 管理会社は、サブ・ファンドに関連して日本における販売会社 および販売取扱会社に支払われるべき合理的な立替費用を、 サブ・ファンドの資産から返済するものとします。
代行協会員報酬	代行協会員	目論見書、運用報告書 等の販売会社への送 付、受益証券1口当 たり純資産価格の公表 およびこれらに付随す る業務	サブ・ファンドの純資産価額の年率0.10%（毎月後払い） 管理会社は、代行協会員に支払われるべき合理的な立替費用 を、サブ・ファンドの資産から返済するものとします。
その他の 費用・手数料	①仲介手数料 有価証券の売買に関連する仲介料および手数料は関係する信託財産から支弁します。 ②その他の運営費用 サブ・ファンドはその事業活動に付随するすべての費用(受託会社、管理会社、投資運用会社、保管 会社、管理事務代行会社、代行協会員および日本における販売会社が自らの費用で提供する、各自 の業務を遂行するために必要な事務員、事務スペースおよび事務機器に関する費用を除きます。) を負担します。かかる費用には、法令遵守の費用ならびに監査人および法律顧問の報酬、年次報 告書、半期報告書等の作成・配布費用、受益者向け通知の作成・配布費用、上記に類するすべての 一般管理費、利息およびコミットメント・ライン手数料、租税、通信費用、償還費用等を含みます。 サブ・ファンドは、組入証券の取引に関連する仲介手数料を支払う義務を負うことがあります。 ③投資先ファンドにかかる費用等 後記「投資先ファンドの報酬および費用」をご参照ください。 その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率や上限額等を 表示することができません。		
投資先ファンドの報酬および費用			
継続手数料	投資先ファンドの純資産価額の0.40%(年率)		
その他の費用	①投資先投資法人は、有価証券貸付手数料を負担することがあります。 ②投資先投資法人は、投資または投資先投資法人の段階で課される税金を負担します。 ③投資先ファンドの管理会社が過度の取引の疑いがあると合理的に判断する場合、投資主は買戻手取金 の2%のチャージを課されることがあります。		

手数料および費用等の合計額およびその上限額ならびにこれらの計算方法については、サブ・ファンドおよび投資先ファンドの
運用状況や受益証券の保有期間等に応じて異なるため表示することができません。

サブ・ファンドが税法上公募外国株式投資信託である場合

- (イ) 受益証券は、特定口座を取り扱う金融商品取引業者の特定口座において取り扱うことができる。
- (ロ) 国内における支払の取扱者を通じて支払を受ける場合、サブ・ファンドの分配金は、公募国内株式投資信託の普通分配金と同じ取扱いとなる。
- (ハ) 国内における支払の取扱者を通じて支払を受ける場合、日本の個人受益者が支払を受けるサブ・ファンドの分配金については、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が行われる。
- 日本の個人受益者は、総合課税または申告分離課税のいずれかを選択して確定申告をすることもできるが、確定申告不要を選択することにより、源泉徴収された税額のみで課税関係を終了させることもできる。
- 申告分離課税を選択した場合、一定の上場株式等の譲渡損失（繰越損失を含む。）との損益通算が可能である。
- (ニ) 日本の法人受益者が支払を受けるサブ・ファンドの分配金（表示通貨ベースの償還金額と元本相当額との差益を含む。）については、国内における支払の取扱者を通じて支払を受ける場合、所得税のみ15.315%の税率による源泉徴収が日本国内で行われ（一定の公共法人等を除く。）、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される（2038年1月1日以後は15%の税率となる。）。
- (ホ) 日本の個人受益者が、受益証券を買戻請求等により譲渡した場合（他のクラスの受益証券に転換した場合を含む。）は、上場株式等に係る譲渡益課税の対象とされ、受益証券の譲渡益に対して、源泉徴収選択口座において、20.315%（所得税15.315%、住民税5%）（2038年1月1日以後は20%（所得税15%、住民税5%））の税率による源泉徴収が行われる。受益証券の譲渡損益は申告分離課税の対象となり、税率は源泉徴収税率と同一だが、確定申告不要を選択した場合は源泉徴収された税額のみで課税関係は終了する。
- 譲渡損益は、一定の他の上場株式等の譲渡損益および一定の上場株式等の配当所得等との損益通算が可能である。確定申告を行う場合、一定の譲渡損失の翌年以降3年間の繰越も可能である。
- (ヘ) 日本の個人受益者の場合、サブ・ファンドの償還についても譲渡があったものとみなされ、（ホ）と同様の取扱いとなる。
- (ト) 日本の個人受益者についての分配金ならびに譲渡および買戻しの対価については、一定の場合、支払調書が税務署長に提出される。

(注) 日本の受益者は、個人であるか法人であるかにかかわらず、ケイマン諸島に住所または登記上の営業所もしくは恒久的施設を有しない場合、受益証券への投資に対しケイマン諸島税務当局により課税されることは一切ない。

サブ・ファンドは、税法上、公募外国株式投資信託として取り扱われる。ただし、将来における税務当局の判断によりこれと異なる取扱いがなされる可能性もある。

税法上、外貨建て投資信託の分配金や譲渡損益に係る所得税の計算は、分配金や売却代金等を外貨で受け取るか否かにかかわらず、円換算をして行う必要がある。

譲渡損益は取得時の為替相場で円換算した取得価額等と、譲渡（償還）時の為替相場で円換算した譲渡（償還）価額との差額により計算し、分配金は分配時の為替相場で円換算する。

税制等の変更により上記「ないし」に記載されている取扱いは変更されることがある。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認することを推奨する。

ケイマン諸島

現行法に基づいて、ケイマン諸島政府は受託会社または受益者に対して所得税、法人税、キャピタル・ゲイン税、遺産税、相続税、贈与税または源泉徴収税を賦課しない。また、ファンドに関する受

託会社による、またはファンドに関する受託会社に対する支払に対して適用されるケイマン諸島が当事者となっている二重課税防止条約はない。本書の日付現在、ケイマン諸島において外国為替管理は行われていない。

受託会社は、ケイマン諸島信託法第81条に従って、ファンドに関しケイマン諸島の財務長官から保証書を受領した。かかる保証書には、ファンドの設立の日付から向こう50年間にケイマン諸島で制定された所得、資本資産、資本利得またはキャピタル・ゲインに租税を課す法律および相続税的な性格を有する租税を課す法律はファンドを構成する資産もしくはファンドに起因する所得、またはかかる資産もしくは所得に関連してファンドの受託会社もしくは受益者には適用されないことが明記される。受益証券の譲渡または買戻しに関してケイマン諸島で課される印紙税はない。

ケイマン諸島-金融口座情報の自動的交換

ケイマン諸島は、国際的な税務コンプライアンスの向上および情報交換の促進のため、米国との間で政府間協定に調印した（以下「U S I G A」という。）。また、ケイマン諸島は、100か国を超える他の諸国とともに、金融口座情報の自動的交換に関するO E C D基準 - 共通報告基準（以下「C R S」といい、U S I G Aとあわせて「A E O I」という。）を実施するための多国間協定に調印した。

U S I G AおよびC R Sの効力を生じさせるため、ケイマン諸島規則が発行された（以下「A E O I規則」と総称する。）。A E O I規則に基づき、ケイマン諸島税務情報局は、U S I G AおよびC R Sの適用に関する手引書を公表している。

ケイマン諸島のすべての「金融機関」は、A E O I規則の登録、デュー・ディリジェンスおよび報告要件を遵守する義務を負う。ただし、一または複数のA E O I制度に関して「非報告金融機関（関連するA E O I規則に定義される。）」となることを認める免除に依拠することができる場合はこの限りではなく、この場合、かかる金融機関にはC R Sに基づく登録要件のみが適用される。ファンドおよび/またはサブ・ファンドは、いかなる非報告金融機関の免除にも依拠することを企図していないため、A E O I規則のすべての要件を遵守することを意図している。

A E O I規則により、ファンドおよび/またはサブ・ファンドは、特に、（ ）（U S I G Aに該当する場合のみ）グローバル仲介人識別番号（以下「G I I N」という。）を取得するために内国歳入庁（以下「I R S」という。）に登録すること、（ ）ケイマン諸島税務情報局に登録し、これにより「報告金融機関」としての自らの地位をケイマン諸島税務情報局に通知すること、（ ）C R Sに基づく義務を履行する方法を定めた方針および手続に関する文書を作成し、実行すること、（ ）「報告対象口座」とみなされるか否かを確認するため、自らの口座のデュー・ディリジェンスを実施すること、（ ）かかる報告対象口座に関する情報をケイマン諸島税務情報局に報告すること、および（ ）ケイマン諸島税務情報局にC R Sコンプライアンス用紙を提出することを義務付けられている。ケイマン諸島税務情報局は、毎年、ある報告対象口座に関連する海外の財政当局（例えば、米国報告対象口座の場合はI R S）に対し、ケイマン諸島税務情報局に報告された情報を自動的に送信する。

投資を予定する者は、自身が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に、それぞれの法域における法律（とりわけ特に米国の税制）に基づき、受益証券の購入、保有および買戻しに関して決定される税務上またはその他の影響について、相談すべきである。

ファンドおよび/もしくはサブ・ファンドへの投資ならびに/またはこれらへの投資の継続により、投資者は、ファンドおよび/またはサブ・ファンドに対する追加情報の提供が必要となる可能性があること、ファンドおよび/またはサブ・ファンドのA E O I規則への遵守が投資者情報の開示につながる可能性があること、および投資者情報が海外の財政当局との間で交換される可能性があることを了解したとみなされるものとする。投資者が（結果にかかわらず）要求された情報を提供しない場合、受託会社は、その裁量において、対象となる投資者の強制買戻しおよび/または投資者の口座

の閉鎖を含むがこれに限られない対応措置を講じおよび／またはあらゆる救済措置を求める権利を留保し、および／または、そうする義務を負う。ケイマン諸島税務情報局が公表する手引書に従い、口座開設より90日以内に自己保証が得られない場合、サブ・ファンドは投資者の口座を閉鎖しなければならない。

その他の国

受託会社はケイマン諸島では課税されないが、サブ・ファンドはサブ・ファンドの投資に起因する所得または利得に関してその他の国で源泉徴収される租税を支払う責任を負う可能性がある。

5【運用状況】

サブ・ファンドは2017年6月16日から運用を開始しており、その運用状況は、以下のとおりである。

(1)【投資状況】

資産別および地域別の投資状況

(2025年2月末日現在)

資産の種類	国・地域名	時価合計 (米ドル)	投資比率(注) (%)
投資証券	アイルランド	100,359,351.19	98.79
現金その他の資産(負債控除後)		1,231,876.23	1.21
合計 (純資産価額)		101,591,227.42 (約15,205百万円)	100.00

(注) 投資比率とは、関連するサブ・ファンドの純資産価額に対する当該資産の時価比率をいう。以下同じ。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2025年2月末日現在)

銘柄	国・地域名	業種	口数	取得金額(米ドル)		時価(米ドル)		投資比率 (%)
				単価	金額	単価	金額	
BlackRock Funds I ICAV - BlackRock Sustainable Advantage World Equity Fund Class D Acc USD	アイル ランド	信託、ファンドおよ び類似の金融事業体	507,047.230	189.59	96,129,521.46	197.93	100,359,351.19	98.79

(注) 2025年4月17日より、ブラックロック・サステナブル・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンドからブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンドに名称変更されました。

【投資不動産物件】(2025年2月末日現在)

該当事項なし。

【その他投資資産の主要なもの】(2025年2月末日現在)

該当事項なし。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末および2025年２月末日前１年間における各月末の純資産の推移は、以下のとおりである。

	純資産価額		１口当たり純資産価格		
	米ドル	円	クラス	基準通貨	円
第１計算期間末 (2017年11月末日)	128,190,484.54	19,186,269,821	米ドル建て	10.95米ドル	1,639円
			円建て（ヘッジあり）	1,087円	-
第２計算期間末 (2018年11月末日)	162,274,889.65	24,287,682,734	米ドル建て	10.41米ドル	1,558円
			円建て（ヘッジあり）	1,007円	-
第３計算期間末 (2019年11月末日)	112,397,971.51	16,822,604,396	米ドル建て	11.54米ドル	1,727円
			円建て（ヘッジあり）	1,084円	-
第４計算期間末 (2020年11月末日)	79,127,097.94	11,842,952,749	米ドル建て	13.10米ドル	1,961円
			円建て（ヘッジあり）	1,215円	-
第５計算期間末 (2021年11月末日)	113,255,555.03	16,950,958,921	米ドル建て	15.38米ドル	2,302円
			円建て（ヘッジあり）	1,418円	-
第６計算期間末 (2022年11月末日)	86,229,801.50	12,906,014,391	米ドル建て	13.04米ドル	1,952円
			円建て（ヘッジあり）	1,168円	-
第７計算期間末 (2023年11月末日)	93,040,969.89	13,925,441,963	米ドル建て	14.83米ドル	2,220円
			円建て（ヘッジあり）	1,247円	-
第８計算期間末 (2024年11月末日)	102,452,207.95	15,334,021,964	米ドル建て	18.43米ドル	2,758円
			円建て（ヘッジあり）	1,472円	-
2024年３月末日	99,878,061.76	14,948,749,504	米ドル建て	16.74米ドル	2,505円
			円建て（ヘッジあり）	1,379円	-
４月末日	96,221,096.73	14,401,411,548	米ドル建て	16.31米ドル	2,441円
			円建て（ヘッジあり）	1,336円	-
５月末日	97,440,736.67	14,583,955,057	米ドル建て	16.82米ドル	2,517円
			円建て（ヘッジあり）	1,371円	-
６月末日	101,517,004.13	15,194,050,008	米ドル建て	17.44米ドル	2,610円
			円建て（ヘッジあり）	1,416円	-
７月末日	101,455,878.67	15,184,901,361	米ドル建て	17.48米ドル	2,616円
			円建て（ヘッジあり）	1,413円	-
８月末日	103,318,462.83	15,463,674,332	米ドル建て	17.76米ドル	2,658円
			円建て（ヘッジあり）	1,436円	-
９月末日	104,652,978.47	15,663,411,288	米ドル建て	18.00米ドル	2,694円
			円建て（ヘッジあり）	1,449円	-
10月末日	100,074,776.16	14,978,191,748	米ドル建て	17.61米ドル	2,636円
			円建て（ヘッジあり）	1,410円	-
11月末日	102,452,207.95	15,334,021,964	米ドル建て	18.43米ドル	2,758円
			円建て（ヘッジあり）	1,472円	-
12月末日	99,038,333.15	14,823,067,323	米ドル建て	17.89米ドル	2,678円
			円建て（ヘッジあり）	1,420円	-
2025年１月末日	103,674,136.78	15,516,908,052	米ドル建て	18.65米ドル	2,791円
			円建て（ヘッジあり）	1,475円	-
２月末日	101,591,227.42	15,205,159,008	米ドル建て	18.16米ドル	2,718円
			円建て（ヘッジあり）	1,431円	-

< 参考情報 >

純資産の推移

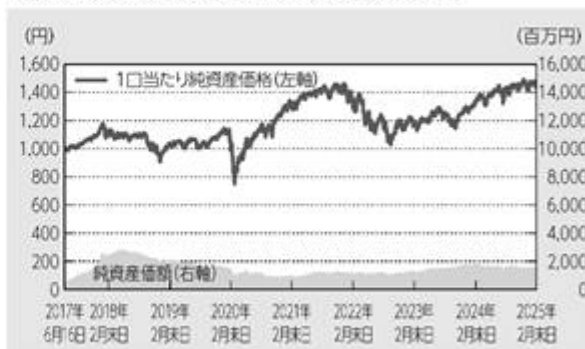
米ドル建て受益証券

(2017年6月16日(運用開始日)～2025年2月末日)



円建て（ヘッジあり）受益証券

(2017年6月16日(運用開始日)～2025年2月末日)



（注）上記の運用実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆または保証するものではない。以下同じ。

【分配の推移】

該当事項なし。

【収益率の推移】

計算期間	受益証券の種類	収益率 ^(注1)
第1計算期間 (2017年6月16日 ～2017年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	9.50%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	8.70%
第2計算期間 (2017年12月1日 ～2018年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	- 4.93%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	- 7.36%
第3計算期間 (2018年12月1日 ～2019年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	10.85%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	7.65%
第4計算期間 (2019年12月1日 ～2020年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	13.52%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	12.08%
第5計算期間 (2020年12月1日 ～2021年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	17.40%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	16.71%
第6計算期間 (2021年12月1日 ～2022年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	- 15.21%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	- 17.63%
第7計算期間 (2022年12月1日 ～2023年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	13.73%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	6.76%
第8計算期間 (2023年12月1日 ～2024年11月30日)	米ドル建てクラス受益証券	24.28%
	円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	18.04%

（注1）収益率（％）＝100×（a－b）／b

a＝当該各計算期間末現在の1口当たり純資産価格（当該期間の分配金の合計額を加えた額）

b = 当該各計算期間の直前の計算期間の最終評価日現在の1口当たり純資産価格（分配落の額）（ただし、第1計算期間については、当初発行価格である10米ドルまたは1,000円）

（注2）サブ・ファンドは2017年6月16日から運用を開始している。以下、別段の記載のない限り同じ。

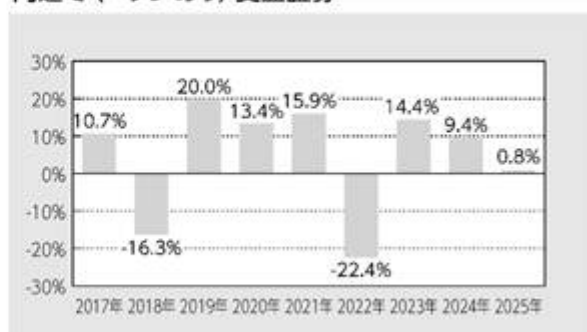
< 参考情報 >

収益率の推移

米ドル建て受益証券



円建て（ヘッジあり）受益証券



（注1）収益率（%）= $100 \times (a - b) / b$

a = 当該各暦年末日の1口当たり純資産価格（当該各暦年の分配金の合計額を加えた額）

ただし、2025年については2025年2月末日における1口当たり純資産価格

b = 当該各暦年の直前の暦年の最終評価日における1口当たり純資産価格（分配落の額）（ただし、2017年については当初発行価格である10米ドルまたは1,000円）

（注2）2017年は2017年6月16日（運用開始日）から同年12月末日までの、2025年については2025年1月1日から同年2月末日までの収益率を表示している。

（４）【販売及び買戻しの実績】

サブ・ファンドの下記計算期間における販売および買戻しの実績ならびに下記計算期間末日現在の発行済口数は、以下のとおりである。

米ドル建てクラス受益証券

計算期間	販売口数	買戻口数	発行済口数
第１計算期間 (2017年６月16日～ 2017年11月30日)	13,117,284.224 (13,117,284.224)	2,610,339.899 (2,610,339.899)	10,506,944.325 (10,506,944.325)
第２計算期間 (2017年12月１日～ 2018年11月30日)	10,014,733.876 (10,014,733.876)	6,810,378.395 (6,810,378.395)	13,711,299.806 (13,711,299.806)
第３計算期間 (2018年12月１日～ 2019年11月30日)	1,103,642.300 (1,103,642.300)	6,466,453.071 (6,466,453.071)	8,348,489.035 (8,348,489.035)
第４計算期間 (2019年12月１日～ 2020年11月30日)	978,140.126 (978,140.126)	3,942,354.198 (3,942,354.198)	5,384,274.963 (5,384,274.963)
第５計算期間 (2020年12月１日～ 2021年11月30日)	3,231,584.580 (3,231,584.580)	1,962,762.077 (1,962,762.077)	6,653,097.466 (6,653,097.466)
第６計算期間 (2021年12月１日～ 2022年11月30日)	754,637.524 (754,637.524)	1,453,834.754 (1,453,834.754)	5,953,900.236 (5,953,900.236)
第７計算期間 (2022年12月１日～ 2023年11月30日)	364,855.719 (364,855.719)	829,975.410 (829,975.410)	5,488,780.545 (5,488,780.545)
第８計算期間 (2023年12月１日～ 2024年11月30日)	523,282.222 (523,282.222)	1,021,381.402 (1,021,381.402)	4,990,681.365 (4,990,681.365)

（注１）（ ）内の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数である。以下同じ。

（注２）第１計算期間における販売口数は、当初募集期間に販売された口数を含む。以下同じ。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券

計算期間	販売口数	買戻口数	発行済口数
第 1 計算期間 (2017年 6 月16日 ~ 2017年11月30日)	1,469,922.101 (1,469,922.101)	106,393.596 (106,393.596)	1,363,528.505 (1,363,528.505)
第 2 計算期間 (2017年12月 1 日 ~ 2018年11月30日)	1,846,211.685 (1,846,211.685)	1,008,262.061 (1,008,262.061)	2,201,478.129 (2,201,478.129)
第 3 計算期間 (2018年12月 1 日 ~ 2019年11月30日)	63,491.429 (63,491.429)	645,061.995 (645,061.995)	1,619,907.563 (1,619,907.563)
第 4 計算期間 (2019年12月 1 日 ~ 2020年11月30日)	95,626.448 (95,626.448)	977,240.302 (977,240.302)	738,293.709 (738,293.709)
第 5 計算期間 (2020年12月 1 日 ~ 2021年11月30日)	356,759.322 (356,759.322)	225,905.976 (225,905.976)	869,147.055 (869,147.055)
第 6 計算期間 (2021年12月 1 日 ~ 2022年11月30日)	327,286.832 (327,286.832)	174,418.437 (174,418.437)	1,022,015.450 (1,022,015.450)
第 7 計算期間 (2022年12月 1 日 ~ 2023年11月30日)	516,073.308 (516,073.308)	161,670.018 (161,670.018)	1,376,418.740 (1,376,418.740)
第 8 計算期間 (2023年12月 1 日 ~ 2024年11月30日)	332,673.309 (332,673.309)	639,512.678 (639,512.678)	1,069,579.371 (1,069,579.371)

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

（1）海外における販売

手続

受益証券は、申込人が購入を希望する受益証券の口数または価額を明記して買付申込通知を完成させ、管理事務代行会社へ送付することにより、購入することができる。買付申込通知の写しは管理事務代行会社から入手することができる。申込人は、適格投資家であることを証明することが義務付けられている。ただし、かかる買付申込通知が管理会社および管理事務代行会社が満足するよう完成された場合、管理会社は、関連する受益証券を発行し、管理事務代行会社は申込人の名義で受益証券を登録する。

受益証券のクラス

サブ・ファンドにおいて、米ドル建ての「米ドル建てクラス受益証券」および円建ての「円建て（ヘッジあり）クラス受益証券」の2種類のクラスの受益証券が発行される。

各純資産価額は、共通のポートフォリオに対する当該クラスへの参加ならびに当該クラスに特に帰属する資産および負債を反映して、各クラスの受益証券について計算される。

クラス受益証券は、同等の権利、制限および利益を有するが、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券については特定のヘッジがなされる点に相違がある。

米ドルのポートフォリオのリターンの（可能な限りの）対円での為替ヘッジの目的で、（為替先渡取引、為替先物取引および通貨オプション取引等の）為替ヘッジ取引が、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券のために締結される。本文脈において、投資先ファンド自体が直面するいかなる通貨エクスポージャーにもかかわらず、投資先ファンドへの投資はすべて米ドルの通貨エクスポージャーを生じさせると考えるものとする。

投資者は、ヘッジ戦略の実施にもかかわらず、為替取引および外為市場の値動きの結果、エクスポージャーが円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の価額の100%を上回る場合もあれば下回る場合もあることに留意すべきである。

投資者は、為替ヘッジ取引を遂行しかつ維持することに伴いコストが生じ、これらのコストが円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の純資産価額に配分されかつ反映されることにも留意すべきである。

受益証券の発行

受益証券は、以下の取得申込みの通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する計算日に算出される受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という。）で発行され、購入される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、口数指定または金額指定により申込みを行うことができる。受益証券は、各発行日に、関連する発行日の午前12時（正午）（ルクセンブルグ時間）、または管理事務代行会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の時間までに管理事務代行会社が受領した買付申込通知に関して発行される。管理事務代行会社が一旦受け取った買付申込通知は取消不能である。

発行日の申込人1人当たりの最低申込価額または最低申込口数は、販売会社または販売取扱会社が随時決定しかつ申込人に申込前に通知する最低申込価額または最低申込口数である。小数第3位までの端数の受益証券を発行することができる。

投資者が管理事務代行会社とともにその他の通貨で支払を行うよう調整しない限り、支払は投資者の申込クラスの通貨で行われなければならない。その他の自由に交換可能な通貨での支払は、基準通貨に交換され、（かかる為替換算コストの控除後の）交換手取金は、申込金の支払に充当される。為替換算は、投資者にとって多少の遅延およびコストの負担を伴うことがある。

申込総額の3%（税抜）を上限とする販売手数料およびそれに課される適用ある税金が販売会社または販売取扱会社により加算されることがある。

日本における販売会社または販売取扱会社が保有する販売手数料を除いた申込金額は、即時入手可能な資金により、保管会社により、当該発行日後5営業日以内または管理会社が随時決定するその他の日までに、受領されることを要する。

管理会社は、その単独裁量において、請求された支払が保管会社に受領されなかった結果生じる損失について、かかる損失が管理会社の重大な過失または故意による不法行為に起因しない限り、サブ・ファンドに補償することを申込人に要求する権利を留保する。

受益証券は、米国内で登録されておらず、かつ、米国内で募集されておらず、また、直接的または間接的に、米国、その領土もしくは属領もしくはその法域において、または、その居住者または当該地に通常居住している者（かかる自然人および当該地で設立または組織された法人またはパートナーシップの財団を含む。）に対し、もしくはその利益のために、募集または販売することはできない。

受益証券は、FATCAを遵守する参加外国金融機関である（受益証券の登録名義人となる）日本における販売会社および販売取扱会社によってのみ販売される。管理会社は、米国の法律および規則を遵守するために適切とみなされる場合には、米国人により保有される受益証券を買い戻すことができ、また米国人への譲渡の登録を拒絶することができる。

識別されたまたは識別され得る自然人（データ主体）に関するすべての情報は（疑義を避けるために付言するならば、日本における販売会社の代表者または正式な署名者に関する情報、買付申込通知または受益者登録簿に記載された情報、管理会社との取引および／または受託会社とのファンドへの投資経路による取引を通じて追加的に収集された情報を含む。）、個人データの処理に関する自然人の保護および当該データの自由な移転に関する、および95/46/EC指令を廃止する2016年4月27日付EU規則2016/679（EU一般データ保護規則）に従ってデータ管理者として行為する管理会社によって、および／またはケイマン諸島のデータ保護法（改正済）（以下「データ保護法」という。）に従ってデータ管理者として行為する受託会社によって、ならびに個人データの保護に関して適用される法令または規制に従って、個人データとして処理される。管理会社および／または受託会社によるファンドに関する個人データの処理についての情報は、管理会社および／または受託会社宛に請求することにより入手可能である。

適格投資家

受益証券は、適格投資家に対して、または適格投資家の利益のためだけに販売され、発行される。更に、サブ・ファンドの方針により、販売することが違法となる投資者に受益証券を販売してはならない。受託会社は、管理会社と協議した上で、上記の禁止事項に反して販売され、または購入された受益証券の買戻しを強制する権利を有し、かかる権利を行使する予定である。

ケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止、テロ防止および大量破壊兵器の拡散に関する資金供与の防止規則

マネー・ロンダリングの防止、テロ防止および大量破壊兵器の拡散に関する資金供与の防止を目的とした適用法令または規則を遵守するために、ファンドの受託会社としての地位を有する受託会社、管理会社および管理事務代行会社（以下、総称して「関係各社」という。）は手続を設定・維持する義務を負い、また、受益証券の購入申込者に対して自身の身元、実質的所有者／支配者の身元（適用ある場合）と資金源を確認するための証拠資料の提供を要求することができる。関係各社は、許容さ

れる場合であって、一定の要件を充足する場合には、かかる手続（デュー・ディリジェンス情報の取得を含む。）の維持に関して適切な者に依頼するか、またはその他の方法でかかる手続の維持を適切な者に委託することもできる。

関係各社および／またはファンドが当該手続のために依頼し、あるいは当該手続の管理を委任するその他の者（以下「AML担当者」という。）は、受益者（すなわち購入申込者または譲受人）自身の身元、実質的所有者／支配者の身元（適用ある場合）および購入代金の源泉を確認するために必要な情報を要求する権利を有する。事情が許す場合には、ファンドに代わるAML担当者を含む関係各社は、適用ある法律に基づく免除規定が適用される場合、申込時に完全なデュー・ディリジェンスを要求しないこととすることもできる。ただし、受益証券の持分に基づく支払いまたは持分の譲渡の前に、詳細な身元確認が必要となる場合がある。

購入申込者または譲受人（適用ある場合）が身元確認のために要求された情報の提供を怠るか、もしくは遅延した場合、ファンドに代わるAML担当者を含む関係各社は、申込みを拒絶すること、または申込みが既に約定している場合は、その持分の停止もしくは買戻しを行うことができ、かかる場合、受領された申込金は、適用ある法律で認められる最大限の範囲において、利息を付さずに費用およびリスクにつき購入申込者負担で送金元の口座に返金される。

ファンドに代わるAML担当者を含む関係各社は、受益者に対して買戻代金もしくは分配金を支払うことが適用法令を遵守していないこととなる可能性があるかと疑うか、もしくは遵守していない可能性があるかと助言されている場合、または関係各社もしくはAML担当者による適用ある法律もしくは規制の遵守を確保するために買戻代金もしくは分配金の支払の拒絶が必要もしくは適切と考えられる場合、当該受益者に対する買戻代金または分配金の支払を拒絶することができる。

CIMAは、ファンドによる随時改正されるケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止規則の規定の違反に関してファンドに対して、また、受託会社および／または違反に同意したか、もしくは、違反を黙認した受託会社の取締役もしくは役員または違反を放置したことに帰責性があると証明された者に対して、多額の行政上の罰金を課す裁量的権限を有する。ファンドがかかる行政上の罰金を支払う限りにおいて、ファンドがかかる罰金および関連する手続の経費を負担する。

ケイマン諸島内の者は、他の者が大量破壊兵器の拡散、犯罪行為もしくはマネー・ロンダリングに従事していること、またはテロ行為もしくはテロリストの資金提供および資産に関与していることを知りもしくはそのような疑惑を抱き、または、知りもしくは疑惑を抱く合理的な理由がある場合であって、かかる認識または疑惑に関する情報を規制されたセクターにおける業務の遂行、その他の取引、職業、業務または雇用の過程において得た場合、当該者は、かかる認識または疑惑を、（ ）犯罪行為もしくはマネー・ロンダリングに関するものである場合には、ケイマン諸島の犯罪収益に関する法律（改正済）に基づいてケイマン諸島の財務報告当局（以下「FRA」という。）に対して、または、（ ）大量破壊兵器の拡散、テロ行為またはテロリストへの資金提供もしくはテロリストの資産に関するものである場合には、ケイマン諸島テロリズム法（改正済）に基づいて巡査以上の階級の警察官またはFRAに対して、通報する義務を負う。かかる通報は、法律等で課せられた情報の秘匿または開示制限の違反とはみなされない。

購入申込者は、適用される法律および規則に基づき、実質所有者および管理者のために、またそれらのために、またはそれらの代理人のために、マネー・ロンダリング、税務情報交換、規制およびケイマン諸島およびその他の法域における類似の事柄に関連して、関係各社が要請に応じて規制当局およびその他の者に開示することに同意する。

ルクセンブルグのマネー・ロンダリング防止規則

ルクセンブルグに所在する管理会社および管理事務代行会社は、常にルクセンブルグのマネー・ロンダリング／テロ資金供与防止（AML／CFT）法令を遵守しなければならない。上記のプロセス

およびルクセンブルグの法律に基づき適用されるその他のプロセスに加え、ルクセンブルグの A M L / C F T 適用法令に基づき、当局への報告義務が適用される。

マネー・ロンダリング防止責任者

SNIF@smbcnikko-ifmc.comのメールアドレスに宛てて管理会社に対して連絡することにより、投資者は、現在のサブ・ファンドに関するマネー・ロンダリング防止遵守責任者、マネー・ロンダリング報告責任者およびマネー・ロンダリング報告副責任者の詳細（連絡先の詳細を含む。）を入手することができる。

制裁

サブ・ファンドの受益証券は日本における販売会社および／または販売取扱会社を通じてのみ販売されるという事実により、日本における販売会社および／または販売取扱会社は、管理会社に対し、申込人および受益者（および、自身が、また、自身が知り得る限りまたは自身が信じる限り、実質所有者、管理者または授権された者（以下、本項において「関係者」という。）（もしあれば））が（ ）米国財務省海外資産管理局（以下「O F A C」という。）または国際連合によって維持されている、またはE Uおよび／または英国の規則（後者は、制定法によりケイマン諸島に適用されるため）に基づく制裁対象企業または個人のリストに氏名（名称）が掲載されていないこと、（ ）国際連合、O F A C、E Uおよび／または英国によって課せられた制裁の対象である国もしくは領土に事業拠点を置いていないこと、またはかかる国もしくは領土を本拠地としていないこと、または（ ）国際連合、O F A C、E U、英国またはケイマン諸島によって課せられた制裁（英国によって課せられた制裁は、制定法によりケイマン諸島に適用される。）の対象（以下「制裁対象」と総称する。）でないことを継続的に表明することが要求されている。

申込人または関係者が制裁対象である、または制裁対象になった場合、受託会社または管理会社は、申込人または当該関係者（適用ある場合）に通知することなく、申込人または当該関係者（適用ある場合）が制裁対象でなくなるまで、またはかかる取引を継続するために適用法に基づく許可が取得されるまで、申込人との追加の取引および／または申込人のサブ・ファンドの持ち分に関する取引を直ちに停止することが要求される可能性がある（以下「制裁対象者事象」という。）。受託会社ならびに管理会社、名義書換機関、販売者および副販売者または受託会社のその他の業務提供者は、制裁対象者事象により申込人が被ったあらゆる負債、費用、経費、損害および／または損失（直接または間接の損失、利益の喪失、収益の損失、評判の低下およびあらゆる金利、課徴金、法的費用、ならびにその他のあらゆる専門家費用および経費を含むがこれらに限定されない。）に対する責任を一切負わないものとする。

ケイマン諸島データ保護

データ保護法は、国際的に認められているデータ保護の原則に基づいて、ファンドに対する法的要件を規定している。投資者となろうとする者は、ファンドへの投資ならびにファンドおよびその関連会社および／または代理人との関連する相互作用（買付申込通知の記入を含み、適用可能な場合には電子通信または電話の記録を含む。）を行うことにより、または、受託会社に投資者（例えば、取締役、受託者、従業員、代表者、株主、投資家、顧客、実質的所有者または代理人）に関する個人情報を提供することにより、そのような個人は、データ保護法の範囲内で個人情報を構成する一定の個人情報を受託会社およびその関連会社および／または代理人（管理事務代行会社を含む。）に提供することになることに留意しなければならない。受託会社は、本個人情報に関するデータ管理者としての役割を果たし、その関連会社および／または管理事務代行会社などの受任者、投資運用会社およびその他の者はデータ処理者（または状況によりそれら自身の権利においてデータ管理者）としての役割を果たすものとする。

サブ・ファンドへの投資および/またはサブ・ファンドへの投資を継続することにより、投資者は、上述のことを詳細に読み、理解したことを認めるものとみなされるものとする。データ保護法の監督は、ケイマン諸島のオンブズマン事務所の責任とする。サブ・ファンドによるデータ保護法の違反は、改善命令、罰金または刑事訴追の付託を含むオンブズマンによる強制措置につながる可能性がある。

所有確認書

受益者名簿に記載する口数の受益証券に対する登録保有者の所有権を証する券面は発行されない。ただし、券面の発行を求める受益者の請求に応じて、受益者が費用を負担する場合には、この限りではない。表明、包含、解釈された信託にかかる通知は、受益者名簿には記載されない。上記の規定にかかわらず、管理事務代行会社は、合理的に可能な限り、サブ・ファンドの受益証券の購入申込みまたは買戻しに関する確認書を、ファックスまたは合意したその他の手段で日本における販売会社へ送付する。

管理事務代行会社は、サブ・ファンドの受益者名簿を記帳する責任を負い、受益証券のすべての発行、買戻しおよび譲渡を記録するものとする。発行されたすべての受益証券は、サブ・ファンドの受益者名簿に登録され、受益者名簿は受益証券の所有に関する決定的証拠となるものとする。受益証券は一名の名前または四名を限度とする共同名で登録することができる。各受益者名簿は、管理事務代行会社の事務所で、通常の営業時間内に受益者が自由に閲覧できるものとする。

受益者は、自らの個人情報に変更があった場合には、速やかに書面で管理事務代行会社に通知しなければならない。

その他

管理事務代行会社は、管理会社と協議した上で、絶対的裁量により、理由を述べることなく受益証券の買付申込通知の一部または全部を拒絶する権利を留保する。買付申込通知が拒絶された場合、申込代金は、申込者のリスク負担において利息を付さずに申込者に返還される。

受益証券の発行は、信託証書に記載する理由で、管理事務代行会社または管理会社の裁量により中止されることがある。

各受益者は、日本における販売会社または管理事務代行会社（場合による。）に登録された自身の情報に変更（投資者が適格投資家でなくなることを意味する変更を含む。）があった場合、書面で日本における販売会社または管理事務代行会社（場合による。）に通知するとともに、かかる変更に関係して日本における販売会社または管理事務代行会社（場合による。）が合理的に請求した追加書類を、日本における販売会社または管理事務代行会社（場合による。）に提出しなければならない。

譲渡制限

すべての受益者は、管理会社または日本における販売会社がその絶対的裁量で随時承認した書式の証書によって、保有する受益証券を譲渡することができる。ただし、譲受人は、その時点で適用ある法域の法律規定、政府等の要求事項もしくは規則または管理会社もしくは日本における販売会社の方針を遵守するために管理会社または日本における販売会社の要求する情報を提出すること、および管理会社または日本における販売会社が事前に書面で譲渡を承認し、管理事務代行会社に通知することを条件とする。更に、譲受人は、（ ）受益証券を適格投資家に譲渡すること、（ ）譲受人は自己の勘定で受益証券を取得すること、および（ ）管理会社または日本における販売会社がその絶対的裁量で要求したその他の事項に関して、書面で管理会社または日本における販売会社に表明する義務を負う。

管理会社または日本における販売会社は、すべての譲渡証書に譲渡人および譲受人または譲渡人および譲受人の代理人が署名することを要求することができる。譲渡が登録され、譲受人の氏名が受益

者名簿に記入されるまでは、譲渡人が依然として受益者であり、譲渡の対象となった受益証券に対する権利を有するとみなされる。

（２）日本における販売

日本においては、申込期間中の営業日に受益証券の募集が行われる。その場合、日本における販売会社または販売取扱会社は、「外国証券取引口座約款」を投資者に交付し、投資者は、当該約款に基づく取引口座の設定を申し込む旨を記載した申込書を提出する。投資者は、原則として日本における約定日から起算して日本における４営業日目までに、申込金額および申込手数料を日本における販売会社または販売取扱会社に支払うものとする。なお、日本における販売会社または販売取扱会社の定めるところにより、上記の払込日以前に申込金額等の支払を投資者に依頼する場合がある。販売取扱会社であるS M B C信託銀行では、通常、申込日に申込金額等の引落としを行う。

受益証券は、米国内で登録されておらず、かつ、米国内で募集されておらず、また、直接的または間接的に、米国、その領土もしくは属領もしくはその法域において、または、その居住者または当該地に通常居住している者（かかる自然人および当該地で設立または組織された法人またはパートナーシップの財団を含む。）に対し、もしくはその利益のために、募集または販売することはできない。

受益証券は、F A T C Aを遵守する参加外国金融機関である（受益証券の登録名義人となる）日本における販売会社および販売取扱会社によってのみ販売される。管理会社は、米国の法律および規則を遵守するために適切とみなされる場合には、米国人により保有される受益証券を買い戻すことができ、また米国人への譲渡の登録を拒絶することができる。

日本の投資者は、原則として日本における営業日の午後３時（日本時間）までに、日本における販売会社または販売取扱会社所定の事務手続きが完了することにより、取得の申込みをすることができる。なお、日本における販売会社または販売取扱会社によっては異なる場合があるので、詳細は日本における販売会社または販売取扱会社に確認のこと。

受益証券は、各発行日に、管理事務代行会社が受領した買付申込通知に関して発行される。受益証券の申込みを希望する投資者は、申込総額または申込総口数を明記した買付申込通知を当該発行日までに販売取扱会社または日本における販売会社に提出しなければならない。販売取扱会社は、かかる買付申込通知を日本における販売会社に取り次ぎ、日本における販売会社は、原則として、当該発行日の午前12時（正午）（ルクセンブルグ時間）、または管理事務代行会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の時間までに日本の投資者によりなされた取得申込注文を管理会社に取り次ぐものとする。発行日とは、原則として、毎評価日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。発行価格は通常、関連する評価日の翌営業日（計算日）に算出される。通常、日本における販売会社は計算日の日本における翌営業日に注文の成立を確認することができ、かかる確認した日を日本における約定日という。

サブ・ファンドの最低取得申込金額は、販売会社または販売取扱会社が随時決定しかつ申込人に申込前に通知する最低取得申込金額である。

受益証券の取得申込みにあたって、上限1.10%（税抜1.00%）の申込手数料が課される。申込手数料の詳細については、販売取扱会社に照会のこと。

ただし、管理会社、日本における販売会社および販売取扱会社が別途合意する場合にはそれに従うものとし、上記と異なる取扱いとすることがある。

投資者は、受益証券の保管を販売取扱会社に委託した場合、申込金額および申込手数料の支払いと引換えに、取引残高報告書または他の通知書を販売取扱会社から受領する。

なお、日本証券業協会の協会員である日本における販売会社および販売取扱会社は、サブ・ファンドの純資産が１億円未満となる等、同協会の定める「外国証券の取引に関する規則」の中の「外国

投資信託受益証券の選別基準」に受益証券が適合しなくなったときは、受益証券を日本において販売することができない。

受益証券は、適格投資家に対して、または適格投資家の利益のためだけに販売され、発行される。更に、サブ・ファンドの方針により、販売することが違法となる投資者に受益証券を販売してはならない。受託会社は、管理会社と協議した上で、上記の禁止事項に反して販売され、または購入された受益証券の買戻しを強制する権利を有し、かかる権利を行使する予定である。

日本における販売会社および販売取扱会社は、購入者が過度な取引を行った履歴がある場合、受益証券の取得申込注文を、その単独の判断において拒否する合理的な努力を行うことについて合意している。受益証券の短期取引をすべて防止できる保証はない。

譲渡制限

すべての受益者は、管理会社または日本における販売会社が絶対的裁量で適宜承認した書式の証書によって、保有する受益証券を譲渡することができる。ただし、譲受人は、その時点で適用ある法域の法律規定、政府等の要求事項もしくは規則または管理会社もしくは日本における販売会社の方針を遵守するために管理会社または日本における販売会社の要求する情報を提出すること、および管理会社または日本における販売会社が事前に書面で譲渡を承認し、管理事務代行会社に通知することを条件とする。更に、譲受人は、（ ）受益証券を適格投資家に譲渡すること、（ ）譲受人が自己の計算で受益証券を取得すること、および（ ）管理会社および日本における販売会社が絶対的裁量で要求したその他の事項に関して、書面で管理会社または日本における販売会社に表明する義務を負うこととする。

管理会社または日本における販売会社は、すべての譲渡証書に譲渡人および譲受人または譲渡人および譲受人の代理人が署名することを義務づけることができる。譲渡が登録され、譲受人の氏名が受益者名簿に記入されるまでは、譲渡人が依然として受益者であり、譲渡の対象となった受益証券に対する権利を有するとみなされる。

前記「（１）海外における販売」の記載は、適宜、日本における販売にも適用されることがある。

2【買戻し手続等】

（１）海外における買戻し

買戻しの手続

受益証券は、以下の買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、当該買戻日現在の受益証券１口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という。）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券の買戻しは、管理事務代行会社が受領した買戻請求通知に関して各買戻日現在で受益証券の口数をもって行うことができる。買戻請求通知の写しは、管理事務代行会社から入手することができる。買戻請求通知は、買い戻す受益証券の総口数を明記した上で、当該買戻日の午前12時（正午）（ルクセンブルグ時間）、または管理事務代行会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の時間までに管理事務代行会社に提出しなければならない。管理事務代行会社が一旦受け取った買戻請求通知は取消不能である。

買戻日における受益者１人当たりの受益証券の最低買戻口数は、１口以上0.001口単位とし、受益者が保有するすべての受益証券の買戻請求を行う場合には、0.001口以上0.001口単位とする。小数第３位までの端数の受益証券を買い戻すことができる。

買戻しの制限

いずれかの買戻日におけるサブ・ファンドに関する買戻請求通知の合計が、投資先ファンドに適用ある買戻制限を受けて、管理会社はその絶対的裁量により決定する割合または金額を超える場合、管理会社は、管理会社が当該買戻通知に関する買戻代金の支払要件を充足するために十分な資産を換金するまで、当該買戻日を延期することができる。

買戻代金の支払

買戻代金の支払は、通常、関連する買戻日後５営業日以内または管理会社が随時決定するその他の日までに行われるものとする。

支払は、関連する受益者から管理事務代行会社に出された指示に従って、受益者のリスクおよび費用負担で関連するクラスの通貨で直接振込によって行われる。買戻代金に分配前の利息は付されないものとする。

受益証券の買戻代金の支払は、投資先ファンドの受益証券にかかる買戻代金の受領に依拠することがある。投資先ファンドの受益証券に関する買戻代金の受領に関する追加的な情報は投資先ファンド英文目論見書において開示されている。

強制的買戻し

管理会社は、受託会社のために、以下をはじめとする理由により、１営業日前から５営業日前までの間にサブ・ファンドの受益者の一部または全員に書面により通知することにより、それまでに買戻しが行われていないサブ・ファンドの受益証券の一部または全部を、特定の日における受益証券１口当たり純資産価格で買い戻すことができる。

（イ）サブ・ファンドの受益証券が、直接または実質的に以下の者によって所有されていると受託会社もしくは管理会社が認識し、またはそのように認識する理由がある場合。

（ ）いずれかの国または政府機関が定めた法律または条件に違反するため、受益証券を保有する資格がない者（その結果として、サブ・ファンドの信託財産、受託会社または管理会社が負わずに済む納税責任を負い、または被らずに済む金銭的不利益を被る場合を含む。）、

（ ）適格投資家でない者、または適格投資家でない者に代わりもしくはその利益のために受益証券を取得した者、または

- () サブ・ファンドの信託財産、受託会社または管理会社が負わずに済む納税責任を負い、または法律面、金銭面、規制面もしくは重大な運営面で結果的に不利益を被ることになると管理会社が判断する状況下にある者。
- (ロ) 受益者が保有する受益証券の口数が、本書に定めるサブ・ファンドに関して要求される最低の口数（もしあれば）に満たない場合。
- (ハ) 受益証券の移転により、受益者が保有または保持するサブ・ファンドの受益証券の口数が、本書に定めるサブ・ファンドに関して要求される最低の口数（もしあれば）に満たなくなった場合。
- (ニ) ある受益者による買戻請求を承諾した場合に、結果的にサブ・ファンドの発行済受益証券の口数またはかかる受益証券の純資産価額の合計額が、本書に定める最低口数または最低金額（もしあれば）を下回ることになる場合。
- (ホ) 受益者が保有する受益証券に関して支払うべき公租公課が、受託会社が支払を求める通知を送付してから30日間未払いのままである場合。
- (ヘ) 受益者が行いたいいずれかの表明が真正でないか、もしくは真正でなくなった場合または受益者が引き続き受益証券を所有することにより、サブ・ファンドもしくはサブ・ファンドの受益者に不利な税効果が及ぶ過大なリスクを負う場合。
- (ト) 受益者が受益証券に関する購入申込代金を支払わない場合。
- (チ) 受託会社または管理会社が、買戻しを行うことがサブ・ファンドの受益者の利益に適うと合理的に判断する場合。
- (リ) サブ・ファンドの純資産価額が投資方針を遂行するのに不十分であると管理会社が判断する場合。
- (ヌ) 受益者が引き続き受益証券を所有することにより、サブ・ファンドまたはサブ・ファンドの受益者の利益を損なう可能性がある場合。
- (ル) ケイマン諸島当局の命令に基づく場合。

上記に代わり、上記（イ）の場合に、受託会社または管理会社は、受益者に対して、保有する受益証券を売却するよう命じることができ、受益者はかかる通知を受け取り次第、速やかに受益証券を適格投資家に売却して、受託会社または管理会社に売却の証拠を提出するものとする。

（２）日本における買戻し

受益証券は、以下に定める手続に従って、各買戻日に、当該買戻日現在の受益証券１口当たり純資産価格（買戻価格）で買い戻すことができる。買戻価格は、計算日に、管理事務代行会社が計算する。

日本の実質的な受益者は、以下の制限に従い、原則として日本における営業日の午後３時（日本時間）までに、日本における販売会社または販売取扱会社所定の事務手続きが完了することにより（日本における販売会社または販売取扱会社によっては異なる場合があるので、詳細は日本における販売会社または販売取扱会社に確認のこと）、１口以上0.001口単位による受益証券の買戻しを請求することができる。ただし、保有するすべての受益証券の買戻請求を行う場合には、0.001口以上0.001口単位とする。

受益証券の買戻しを希望する投資者は、買戻口数を明記した買戻請求通知を当該買戻日までに販売取扱会社または日本における販売会社に提出しなければならない。販売取扱会社は、かかる買戻請求通知を日本における販売会社に取り次ぎ、日本における販売会社は、原則として、買戻日（原則として、毎営業日）の午前12時（正午）（ルクセンブルグ時間）、または管理事務代行会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の時間までに買戻通知を管理事務代行会社に取り次ぎなければならない。

（注１）S M B C 信託銀行は、日本における販売会社が定める販売取扱会社である。S M B C 信託銀行の一部の支店等で買戻しを取り扱わないこととしている場合がある。また、一部の支店等では、電話による買戻しのみを受け付ける場合がある。

（注２）販売取扱会社としてのS M B C信託銀行におけるインターネット取引での買戻しについては、S M B C信託銀行に照会のこと。

大量の買戻請求があった場合、上記「（１）海外における買戻し」の「買戻しの制限」が適用されることがある。

日本の投資者に対する買戻代金の支払は、通常、日本における約定日（計算日の日本における翌営業日）から起算して日本における４営業日目に行われる。

買戻手数料は課されない。買戻代金の支払は、外国証券取引口座約款の定めるところに従って日本における販売会社または販売取扱会社を通じて、販売取扱会社からは、米ドル建てクラス受益証券については米ドル貨で、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券については円貨で、日本における販売会社からは円貨または米ドル貨により行われるものとする。

前記「（１）海外における買戻し」の記載は、適宜、日本における買戻しにも適用されることがある。

3【スイッチング手続等】

(1) 海外におけるスイッチング

一時停止期間を除き、またプレミアム・ファンズ・ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、プレミアム・ファンズ・ウェルス・コアポートフォリオ グロース型およびプレミアム・ファンズ・グローバル・コア債券ファンド（以下「スイッチング先サブ・ファンド」という。）にかかる信託証券補遺または英文目論見書に定められているサブ・ファンドおよびスイッチング先サブ・ファンドに適用される制限もしくは条件または管理会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上行う決定に従い、受益者は、サブ・ファンドの米ドル建てクラス受益証券および／または円建て（ヘッジあり）クラス受益証券（以下それぞれ「スイッチング元クラス受益証券」という。）の全部または一部を、（i）サブ・ファンドの他のクラス受益証券、または、（ ）スイッチング先サブ・ファンドのあらゆるクラス受益証券（以下「スイッチング先クラス受益証券」という。）にスイッチングするよう請求する権利を有する。スイッチング通知は、関連する買戻日の午前12時（正午）（ルクセンブルグ時間）、または管理事務代行会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の時間までに、管理事務代行会社に受領されなければならない。スイッチング請求は、（ ）受益証券1口以上0.001口単位、または、（ ）受益者がその保有する受益証券を全部スイッチングする場合には、0.001口以上0.001口単位で行うことができる。かかるスイッチングの結果、0.001口単位の端数受益証券が受領されることがある。管理会社は、その単独裁量により、買戻しまたは申込みに適用される制限がある場合、サブ・ファンドの受益証券のスイッチングを拒絶することができる。受益者は、管理会社の同意がない限り、一度提出したスイッチング通知を撤回することができない。

スイッチング請求は、スイッチング元クラス受益証券の買戻請求と、スイッチング元クラス受益証券の買戻しの受渡日以降（受渡日を含む。）におけるスイッチング先クラス受益証券の買付申込みを一括して行う取引として処理される。

異なる通貨間でスイッチングが行われる場合、スイッチング手数料が課されることがある。

スイッチング手数料は、受益者よりスイッチング通知を受領した日時に入手できる直近のスイッチング元サブ・ファンドの純資産価額の上限1％に、適用ある税金を加算した金額として、日本における販売会社および／または販売取扱会社により計算され、賦課されることがある。疑義を避けるため付言するならば、受益証券のスイッチングの際、かかるスイッチング手数料以外に日本における販売会社または販売取扱会社により申込手数料が課されることはない。

スイッチング元クラス受益証券の全部または一部がスイッチング先クラス受益証券にスイッチングされる比率は、以下の公式に従って計算される。

$$A = \frac{B \times NAV 1 \times C}{NAV 2}$$

- A： スwitching後のスイッチング先クラス受益証券の発行口数。0.001口単位の端数受益証券が発行されることがある。
- B： スwitching前のスイッチング元クラス受益証券の口数（0.001口単位）
- C： スwitching元クラス受益証券にかかる受渡日以降（受渡日を含む。）に、日本における販売会社または販売取扱会社が決定する通貨スイッチング係数（為替レート）
- NAV 1： スwitching元クラス受益証券の適用ある買戻日における受益証券1口当たり純資産価格

NAV 2： スイッチング先クラス受益証券の適用ある発行日（スイッチング元クラス受益証券の買戻日に受領される買戻しの受渡日以降（受渡日を含む。）の最初の適用ある発行日）におけるスイッチング先クラス受益証券の受益証券1口当たり純資産価格（申込手数料を含まない。）。ただし、スイッチング元クラス受益証券の適用ある買戻日からスイッチング先クラス受益証券の適用ある発行日までの期間にかかる利息は当該受益者には支払われない。

受益証券のスイッチングには、税金が課されることがある。受益者は、スイッチングに課される税金について、自己の税務アドバイザーに相談すべきである。管理会社は、後記「4 資産管理等の概要（1）資産の評価 純資産価額の計算の一時停止」の項に記載される状況下において、一または複数のサブ・ファンドの受益証券についてスイッチングを一時停止する権利を留保する。

スイッチング先サブ・ファンド以外のプレミアム・ファンズのその他のシリーズ・トラストの受益証券との間でのスイッチングを行うことはできない。

（2）日本におけるスイッチング

日本において、スイッチング請求に関しては、日本における販売会社または販売取扱会社において、スイッチング元クラス受益証券の買戻請求と、スイッチング元クラス受益証券の買戻しの日本における受渡日以降（受渡日を含む。）におけるスイッチング先クラス受益証券の買付申込みを受益者より一括して受注され、個々に行う取引として処理される。特段の断りがない限り、ファンドのすべてのサブ・ファンドおよびそのクラスにおいてスイッチングを行うことができる。なお、インターネットでは、スイッチング手続は取り扱われない。また、管理会社は、日本における販売会社または販売取扱会社と協議の上、スイッチングの取扱いを停止する場合がある。

スイッチング請求は、（ ）受益証券1口以上0.001口単位、（ ）受益者がその保有する受益証券を全部スイッチングする場合には、0.001口以上0.001口単位、または（ ）販売取扱会社で別途定める単位で行うことができる。

スイッチング元クラス受益証券の全部または一部がスイッチング先クラス受益証券にスイッチングされる比率は、以下の公式に従って計算される。

$$A = \frac{B \times NAV 1 \times C}{NAV 2} \quad \text{〔注1〕〔注2〕}$$

A： スイッチング後のスイッチング先クラス受益証券の発行口数。0.001口単位の端数受益証券が発行されることがある。

B： スイッチング前のスイッチング元クラス受益証券の口数（0.001口単位）

C： スイッチング元クラス受益証券にかかる日本における受渡日以降（受渡日を含む。）に、日本における販売会社または販売取扱会社が決定する通貨スイッチング係数（為替レート）

NAV 1： スイッチング元クラス受益証券の適用ある買戻日における受益証券1口当たり純資産価格

NAV 2： スイッチング先クラス受益証券の適用ある発行日（スイッチング元クラス受益証券の買戻しの日本における受渡日以降（受渡日を含む。）の最初の適用ある発行日）におけるスイッチング先クラス受益証券の受益証券1口当たり純資産価格（申込手数料を含まない。）。ただし、スイッチング元クラス受益証券の適用ある買戻日からスイッチング先クラス受益証券の適用ある発行日までの期間にかかる利息は当該受益者には支払われない。

（注１）スイッチング手数料は課せられない。

（注２）当該受益証券について特定口座において譲渡所得の源泉徴収が行われる場合には、当該源泉徴収税相当額を控除した価格とする。

サブ・ファンドの米ドル建てクラス受益証券および円建て（ヘッジあり）クラス受益証券間、およびスイッチング先サブ・ファンドのあらゆるクラス受益証券とのスイッチングを行うことができる。スイッチングは、手数料なしで行うことができる。スイッチング先サブ・ファンド以外のプレミアム・ファンズのその他のシリーズ・トラストの受益証券との間でのスイッチングを行うことはできない。

前記「（１）海外におけるスイッチング」の記載は、適宜、日本におけるスイッチングにも適用されることがある。

4【資産管理等の概要】

（１）【資産の評価】

純資産価額の決定

管理会社は、サブ・ファンドの各評価日の最直近の入手可能な市場価格を用い、サブ・ファンドの受益証券の純資産価額を自ら計算するか、または管理事務代行会社に計算させるものとする。管理会社が異なる決定を下さない限り、受益証券１口当たり純資産価格は、サブ・ファンドの受益証券の基準通貨で計算するものとする。サブ・ファンドの基準通貨は米ドルである。

サブ・ファンドの各受益証券１口当たりの純資産価格は、円建て（ヘッジあり）受益証券については整数値とし、米ドル建て受益証券については小数第２位に四捨五入される。このような四捨五入による調整の結果生じる利益は、サブ・ファンドにより保有される。

各評価日現在におけるサブ・ファンドの純資産価額は、信託証書に記載されている原則に従い、各計算日に算出される。

管理会社は、管理事務代行会社に、各評価日におけるサブ・ファンドの受益証券１口当たり純資産価格を計算させる。関係する受益者は、サブ・ファンドの受益証券１口当たり純資産価格を、管理会社および管理事務代行会社の事務所において、評価日直後の営業日（計算日）に閲覧することができる。

各評価日現在のサブ・ファンドの純資産価額は、以下の要領で算定するものとする。

（イ）最初に、サブ・ファンドの前の評価日が終了した時点の購入申込みおよび買戻しに関する受取勘定および支払勘定を調整してから、当該評価日現在の信託財産の価額の実現または未実現の増減分（管理会社（または管理会社のために管理事務代行会社）の裁量により、為替ヘッジに関連する資産または負債を除く。）を配分する。

（ロ）次に、資産または負債の増減分（為替ヘッジを含むが、これに限定されない。）を配分する。

（ハ）最後に、サブ・ファンドの評価日現在で受益者に分配する金額（もしあれば）を除外する。

サブ・ファンドのすべての受益証券について、受益証券１口当たり純資産価格は同一である。したがって、サブ・ファンドの受益証券１口当たり純資産価格は、サブ・ファンドの各評価日現在で以下の要領で算定される。

（イ）最初に、サブ・ファンドの純資産価額を、当該評価日終了現在の購入申込分および買戻分を織り込む前のサブ・ファンドの発行済受益証券の総数で除す。

（ロ）次に、四捨五入して小数第２位（すなわち、セントの単位）まで算出する。ただし、円建ての受益証券はこの限りではなく、四捨五入して一円の単位まで算出するものとする。

管理会社または管理事務代行会社によるサブ・ファンドの純資産価額のすべての算定は、サブ・ファンドの受益者にとって最終かつ確定的なものであり、故意の不履行、重過失または詐欺がない限り、管理事務代行会社または管理会社に対する請求権は発生しないものとする。また、管理会社および管理事務代行会社は、明らかな誤りがない限り、副管理会社またはその他の第三者が提供した評価に依拠することについて、絶対的保護を受けるものとする。受託会社は、いかなる場合も信託財産の資産の評価または管理会社もしくは管理事務代行会社によるいずれかのサブ・ファンドの純資産価額の計算（または計算の誤り）に関して責任を負わないものとする。

純資産価額の計算に際して、管理事務代行会社は、管理会社から別段の指示を受けない限り、またはサブ・ファンドに関連する信託証書補遺または英文目論見書で規定されない限り、以下に定める評価手続を適用するものとする。

（イ）集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、評価日現在の純資産価格（または当該日現在で計算されない場合は計算が行われたその直前の日の純資産価格）で評価する。

（ロ）金融商品取引所で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選んだ金融商品取引所の最新の市場価格で評価する。

（ハ）金融商品取引所では取引されていないものの、店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選任した信頼できる情報源に基づいて評価する。

（ニ）サブ・ファンドが保有しているスワップ等の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適当と判断するディーラーから入手した価格に基づいて、管理会社の裁量により誠実に評価する。

（ホ）短期金融商品および銀行預金は、原価に経過利息を加えて評価する。

（ヘ）評価を行う日に本項に定める特定の資産の取引所または市場が営業していない場合、かかる取引所または市場が最後に営業していた日現在で算定される。

（ト）上記以外のすべての資産および負債は、特定の市場価格がない資産および負債を含めて、管理事務代行会社と協議した上で管理会社がその裁量により誠実に評価する。

上記の規定は、関係する信託財産またはその一部の価値を計算し、発行済みまたは発行済みとみなされる受益証券の口数で除す場合には、以下の規定に服する。

（イ）発行することに合意したすべてのサブ・ファンドの受益証券は発行済みとみなされ、サブ・ファンドの信託財産は発行することに合意したサブ・ファンドの受益証券に関して受け取る予定の現金またはその他の財産の価額を含むとみなされる。

（ロ）買戻請求の結果、受益証券の買戻しおよび消却によってサブ・ファンドの信託財産を減額する予定であるが、減額が完了していない場合、対象となる受益証券は買い戻され、発行されていないものとみなされ、また、サブ・ファンドの信託財産を評価する際には当該買戻しに基づきサブ・ファンドの信託財産から支払うべき金額だけ信託財産を減額するものとする。

（ハ）投資対象を購入（もしくは取得）または売却（もしくは処分）することに合意したものの、取得または処分が完了していない場合、かかる投資対象は、取得または処分が適式に完了したもののとして、取得の場合には織り込み、処分の場合には除き、取得の場合には総取得価格を織り込み、処分の場合には正味処分価格を除くものとする。

（ニ）関係する信託財産またはその一部の価値を計算する日までに発生した収益または利益に関する租税に関して、管理会社または管理事務代行会社が支払または還付申請を予定する金額を織り込むものとする。

（ホ）発生済みで未払いの収益的費用（上記に該当するものを除く。）およびその時点で未払いの借入金合計額を差し引くものとする。

（ヘ）サブ・ファンドの設定に関連して発生し、関係する信託財産から支払われる設立費用は、ルクセンブルグで一般に公正妥当と認められた会計原則に従って5年を超えない期間で償却するものとする。

外国通貨で差し引かれるべきだが、差し引かれていない投資対象もしくは現金の価値もしくは金額または当座勘定もしくは預金勘定の金額は、支払責任を負うプレミアムまたはディスカウントおよび為替費用を考慮し、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が状況に応じて適切とみなすレートで関係する基準通貨に換算するものとする。受託会社、管理事務代行会社および管理会社は、その時点で最も低い市場の売呼値または最も高い市場の買呼値であると判断した価格がそうでないことが判明した場合でも、一切責任を負わないものとする。

サブ・ファンドの純資産価額は、関係する評価日直後の営業日に計算される。

純資産価額の計算の一時停止

受託会社または管理会社は、サブ・ファンドに関する受益証券1口当たり純資産価格の計算、受益証券の発行、買戻しおよび／またはスイッチング（スイッチングの停止については、受益証券の純資

産価額の計算、買戻しまたは申込みに適用される制限がある場合）を、その単独の裁量により、以下の状況を含むあらゆる理由に基づいて停止することができる。

- （イ）サブ・ファンドの大部分の直接または間接の投資対象が上場されている証券取引所が通常の週末および休日以外の理由で閉鎖している期間、または取引が制限され、もしくは停止している期間。
- （ロ）緊急事態に相当すると受託会社または管理会社が判断する事態またはその他の事情が存在する結果として、サブ・ファンドによる投資対象の評価もしくは処分を合理的に実施することができないか、または評価もしくは処分をすれば受益者の利益が大幅に損なわれる期間。
- （ハ）サブ・ファンドの直接もしくは間接の投資対象の価額もしくは証券市場の最新価格を算定するために通常使用している通信手段が故障している期間、またはその他の理由でサブ・ファンドが直接もしくは間接に所有する投資対象の価額が合理的に迅速かつ正確に確認できない期間。
- （ニ）投資対象の取得または処分に伴う資金の送金を通常の為替レートで実行できないと受託会社が管理会社と協議した上で判断する期間。
- （ホ）サブ・ファンド、管理会社またはそれらの関連会社、子会社もしくは関係者またはサブ・ファンドのその他の業務提供者に関連して、受託会社、管理会社または管理事務代行会社に適用あるマネー・ロンダリング防止規則を遵守するために停止することが必要であると受託会社または管理会社が判断する期間。

上記の停止が一週間を超えそうな場合、停止から7日以内に関係するサブ・ファンドの受益者全員にかかる停止について書面で通知するとともに、停止が解除され次第、速やかにその旨を通知するものとする。

（２）【保管】

海外において販売される受益証券については、受益証券の確認書が受益者の責任において保管される。

日本の投資者に販売される受益証券の確認書は、日本における販売会社の名義で保管され、日本の受益者に対しては、日本における販売会社または販売取扱会社から受益証券の取引残高報告書が交付される。

（３）【信託期間】

後記「（５）その他 ファンドまたはサブ・ファンドの解散」に記載する信託証書に定める一定の状況下で早期に終了しない限り、2008年９月11日から149年後に終了する予定である。サブ・ファンドは、2017年６月16日に運用を開始した。

（４）【計算期間】

サブ・ファンドの計算期間は、毎年11月30日に終了する。

（５）【その他】

発行限度額

サブ・ファンドの受益証券の発行限度口数は設けられていない。

ファンドまたはサブ・ファンドの解散

サブ・ファンド（または場合によりファンド）は、以下のいずれかの事項が最初に発生した時に終了する。

（イ）サブ・ファンド（もしくは場合によりファンド）の存続もしくは他の法域への移転が違法になる場合、または受託会社もしくは管理会社の合理的な見解により非現実的もしくは不適切になる場合

（ロ）サブ・ファンドの純資産価額が2,000万米ドル、または管理会社および受託会社が日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上決定するその他の金額を下回り、管理会社および受託会社が、日本における販売会社および販売取扱会社と協議の上で、サブ・ファンドの終了を決定した場合

（ハ）受益者が、サブ・ファンド決議（または場合により受益者決議）により終了を決定した場合

（ニ）基本信託証書の締結日に開始し、同日の149年後に終了する期間が終了した時

（ホ）受託会社が退任の意思を書面により通知した場合、または受託会社が強制的もしくは任意的清算を開始した場合であって、管理会社が、当該通知の受領または清算の開始後90日以内に、受託会社の後任として受託会社の業務を承継する用意のある他の会社を任命しまたは任命を手配することができない場合

（ヘ）管理会社が退任の意思を書面により通知した場合、または管理会社が強制的もしくは任意的清算を開始した場合であって、受託会社が、当該通知の受領または清算の開始後90日以内に、管理会社の後任として管理会社の業務を承継する用意のある他の会社を任命しまたは任命を手配することができない場合

（ト）受託会社または管理会社が、その絶対的な裁量により終了の決定をする場合

管理会社は、サブ・ファンドの投資先ファンドが終了した場合、当該サブ・ファンドを終了させる。

サブ・ファンドが終了した場合には、受託会社は、直ちに当該サブ・ファンドのすべての受益者に対してかかる終了を通知するものとする。

信託証書の変更

信託証書に定める条件に従って、受託会社および管理会社は、関係するサブ・ファンドの受益者に書面の通知をした上で、管理会社が関連するサブ・ファンドの受益者の最善の利益に適うと判断する範囲および要領で、信託証書に定める規定を変更し、修正し、一部改定しまたは追加することができる。

管理会社または受託会社が、

（ ）かかる修正、変更、一部改定、追加によっても既存の受益者の利益は大幅に損なわれず、また受益者に対する管理会社または受託会社の責任は免除されないと判断すること、または

（ ）かかる修正、変更、一部改定、追加が、会計上、法律上もしくは当局の要求により（法的拘束力の有無にかかわらず）必要であると判断すること

を書面で証明しない限り、かかる修正、変更、一部改定、追加には、受益者決議またはサブ・ファンド決議（場合による。）の承認を得ることを要するものとする。

修正、変更、一部改定、追加は、受益者に対して保有する受益証券に関して追加の支払義務または責任の受諾を課すものであってはならない。

関係法人との契約の更改等に関する手続

総管理事務代行契約

総管理事務代行契約は、一方当事者から他方当事者に対し、90暦日前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

総管理事務代行契約は、ルクセンブルグの法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

保管契約

保管契約は、一方当事者から他方当事者に対し、90日前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

保管契約は、ケイマン諸島の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

代行協会員契約

代行協会員契約は、一方当事者から他方当事者に対し、3か月以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

同契約は、日本国の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

受益証券販売・買戻契約

受益証券販売・買戻契約は、一方当事者から他方当事者に対し、3か月以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

同契約は、日本国の法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

投資運用契約

投資運用契約は、一方当事者から他方当事者に対し、60日以上前までに書面による通知をすることにより終了することができる。

投資運用契約は、ルクセンブルグの法律に準拠し、同法により解釈されるものとし、同法に基づき変更することができる。

5【受益者の権利等】

（１）【受益者の権利等】

受益者が管理会社または受託会社に対し受益権を直接行使するためには、受益証券の名義人として登録されていなければならない。

したがって、日本における販売会社または販売取扱会社に受益証券の保管を委託している日本の受益者は、受益証券の登録名義人でないため、直接受益権を行使することができない。これらの日本の受益者は、日本における販売会社または販売取扱会社との間の外国証券取引口座約款に基づき日本における販売会社または販売取扱会社を通じて受益権を自己に代わって行使させることができる。受益証券の保管を日本における販売会社または販売取扱会社に委託しない日本の受益者は、本人の責任において権利を行使する。

受益者の有する権利は次の通りである。受益証券の買戻しおよびサブ・ファンドの終了に関する金額の分配および支払はそれまでにサブ・ファンドのすべての債務を払い終えることに劣後する。

分配請求権

受益者は、管理会社の決定したサブ・ファンドの分配金を、受益証券口数に応じて請求する権利を有する。

買戻請求権

受益者は、受益証券の買戻しを信託証書の規定および本書の記載に従って請求することができる。

残余財産分配請求権

ファンドまたはサブ・ファンドが清算される場合、受益者は、保有する受益証券の持分に応じて残余財産の分配を請求する権利を有する。

受益者集会に関する権利

受益者は、制限された議決権を有する。サブ・ファンドの信託証書は、投資方針および投資制限やサブ・ファンドのガイドラインに重大な変更を承認する場合、サブ・ファンドを償還する場合、信託証書に一定の変更（以下参照）を加える場合等一定の状況において、サブ・ファンド決議を必要とする旨規定している。サブ・ファンド決議は、（a）サブ・ファンドの発行済受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者が書面で承認した決議、または（b）サブ・ファンドの受益証券の純資産価額の単純過半数を保有し、議決権を有する本人もしくは代理人が出席しサブ・ファンドの受益者集会で承認可決されることにより行われる。

信託証書はまた、例えば全サブ・ファンドに関する受託会社の解任、全サブ・ファンドに関する受託会社による管理会社の解任に関する承認、サブ・ファンドの他の法域への移動、全サブ・ファンドの償還、または全サブ・ファンドの信託証書の変更承認について、受益者決議が必要である旨規定している。受益者決議は、（a）全サブ・ファンドの発行済受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者が書面で承認した決議、または（b）全サブ・ファンドの受益証券の純資産価額の単純過半数を保有し、議決権を有する本人もしくは代理人が出席し全サブ・ファンドの受益者集会で承認可決されることにより行われる。

受益者集会における出席者数、定足数および議決権数の要件ならびに受益者の議決権は、信託証書に記載されている。

業務提供者に対する受益者の権利

受益者は、投資運用会社、投資顧問会社、副投資運用会社、保管会社、管理事務代行会社、登録・名義書換代行会社、所在地代行会社、支払代行会社、受託会社、ファンドの監査人、または管理会社もしくは適用ある場合は受託会社により随時任命されたファンドもしくは管理会社の他の業務提供者に対する直接の契約上の権利を一切有しない。2013年法に基づき、受益者の保管会社に対する責任追及は、管理会社を通じて行われる。受益者がかかる旨の書面による通知を行ったにもかかわらず、管理会社が、当該通知受領後3か月以内に行動を起こさない場合、当該受益者は、保管会社の責任を直接追及することができる。

（２）【為替管理上の取扱い】

受益証券の分配金、買戻代金等の送金に関して、ケイマン諸島における外国為替管理上の制限はない。

（３）【本邦における代理人】

森・濱田松本法律事務所外国法共同事業

東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング

上記代理人は、管理会社から日本国内において、以下の権限を委任されている。

管理会社またはファンドに対するケイマン諸島および日本の法律上の問題ならびに日本証券業協会の規則の問題についての一切の通信、請求、訴状、その他の訴訟関係書類を受領する権限

日本における受益証券の募集、販売および買戻しの取引に関する一切の紛争、争点および見解の相違に関連して一切の裁判上および裁判外の行為を行う権限

また財務省関東財務局長に対する受益証券の募集に関する届出および継続開示に関する代理人および金融庁長官に関する届出代理人は、

弁護士 大 西 信 治

東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング

森・濱田松本法律事務所外国法共同事業

である。

（４）【裁判管轄等】

日本の受益者が取得した受益証券の取引に関する訴訟の裁判管轄権を下記の裁判所が有することを管理会社は承認している。

東京地方裁判所 東京都千代田区霞が関一丁目1番4号

東京簡易裁判所 東京都千代田区霞が関一丁目1番2号

確定した判決の執行手続は、関連する法域の適用法律に従って行われる。

第3【ファンドの経理状況】

- a . ファンドおよびサブ・ファンドの直近2会計年度の日本文の財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである。これは、「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第328条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b . ファンドおよびサブ・ファンドの原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるデロイト・アンド・トゥシュ・エルエルピーから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c . ファンドおよびサブ・ファンドの原文の財務書類は、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、グローバル・コア株式ファンド、ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型およびグローバル・コア債券ファンドの5つのサブ・ファンドにつき一括して作成されている。本書において、原文の財務書類については関係するサブ・ファンドに関連する部分のみを記載し、日本文の作成にあたっては関係するサブ・ファンドに関連する部分のみを翻訳している。ただし、「財務書類に対する注記」については、全文を記載している。
- d . ファンドおよびサブ・ファンドの原文の財務書類は、米ドルおよび日本円で表示されている。なお、各受益証券の情報に関しては、下記の通貨で表示されている。

1) 米ドル建て受益証券 = 米ドル

2) 円建て（ヘッジあり）受益証券 = 日本円

日本文の財務書類には、特段の記載のない限り、下記に挙げた通貨の2025年2月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値を使用して換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。日本円による金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

1 米ドル = 149.67円

1【財務諸表】

(1)【2024年11月30日終了年度】

【貸借対照表】

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

純資産計算書

2024年11月30日現在

(表示通貨：米ドル)

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額 (取得原価95,651,051.50米ドル (14,316,093千円))	1.2	101,138,294.73	15,137,369
銀行預金		1,850,988.07	277,037
受益証券販売未収金		121,684.99	18,213
為替先渡取引に係る未実現評価益	1.6,9	134,028.96	20,060
資産合計		103,244,996.75	15,452,679
負債			
投資有価証券購入未払金		628,327.97	94,042
受益証券買戻未払金		1,390.32	208
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	98,756.24	14,781
未払弁護士費用		14,993.37	2,244
未払印刷および公告費用		12,922.82	1,934
未払専門家費用		9,407.43	1,408
未払代行協会員報酬	7	8,438.54	1,263
未払管理事務代行会社報酬	5	5,064.76	758
未払保管会社報酬	6	3,373.15	505
未払管理会社報酬	3	2,532.52	379
未払受託会社報酬	2	2,472.22	370
未払投資運用会社報酬		4,214.28	631
その他の未払費用		895.18	134
負債合計		792,788.80	118,657
純資産		102,452,207.95	15,334,022
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		91,969,797.84	13,765,120
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,574,405,586円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		4,990,681.365口	
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,069,579.371口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		18.43	2,758円
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,472円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

【損益計算書】

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド
 損益および純資産変動計算書
 2024年11月30日終了会計年度
 （表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	77,421.39	11,588
収益合計		77,421.39	11,588
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	1,159,797.06	173,587
代行協会員報酬	7	99,102.30	14,833
管理事務代行会社報酬	5	59,565.93	8,915
保管会社報酬	6	39,671.31	5,938
弁護士費用		44,823.08	6,709
管理会社報酬	3	29,741.71	4,451
投資運用会社報酬	4	49,492.43	7,408
受託会社報酬	2	14,917.60	2,233
印刷および公告費用		15,100.85	2,260
専門家費用		9,512.67	1,424
登録手数料		3,085.96	462
取引手数料		97.35	15
その他費用		2,052.44	307
費用合計		1,526,960.69	228,540
投資純損失		(1,449,539.30)	(216,953)
以下に係る実現純利益 / （損失）			
投資有価証券	1.2	38,260,946.89	5,726,516
外国為替	1.5	146,831.17	21,976
為替先渡取引	1.6	(929,387.50)	(139,101)
当期の投資純損失および実現純利益		36,028,851.26	5,392,438
以下に係る未実現評価（損）の純変動額			
投資有価証券	1.2	(15,373,060.37)	(2,300,886)
為替先渡取引	1.6	(125,395.76)	(18,768)
運用による純資産の純増加額		20,530,395.13	3,072,784
資本の変動			
受益証券の販売		11,738,369.41	1,756,882
受益証券の買戻し		(22,857,526.48)	(3,421,086)
資本の純変動額		(11,119,157.07)	(1,664,204)
純資産、期首		93,040,969.89	13,925,442
純資産、期末		102,452,207.95	15,334,022

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

統計情報

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
発行済受益証券口数、期末		
2022年11月30日	5,953,900.236 □	1,022,015.450 □
2023年11月30日	5,488,780.545 □	1,376,418.740 □
発行受益証券	523,282.222 □	332,673.309 □
買戻受益証券	(1,021,381.402)□	(639,512.678)□
2024年11月30日	4,990,681.365 □	1,069,579.371 □

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
純資産、期末		
2022年11月30日	77,616,911.62米ドル (11,616,923千円)	1,193,960,137円
2023年11月30日	81,378,758.79米ドル (12,179,959千円)	1,716,385,919円
2024年11月30日	91,969,797.84米ドル (13,765,120千円)	1,574,405,586円

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
受益証券 1 口当たり純資産価格、期末		
2022年11月30日	13.04米ドル (1,952円)	1,168円
2023年11月30日	14.83米ドル (2,220円)	1,247円
2024年11月30日	18.43米ドル (2,758円)	1,472円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ

財務書類に対する注記

2024年11月30日現在

注１．重要な会計方針

1.1 財務書類の表示

本財務書類は、投資信託に適用されるルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従い作成されている。ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、グローバル・コア株式ファンド、ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型およびグローバル・コア債券ファンドの５サブ・ファンドの会計年度末が同じであることを考慮し、今回から本財務書類および年次報告書を結合した。

1.2 投資有価証券およびその他の資産の評価

- (a) 集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、関連する評価日現在の最新の入手可能な純資産額で評価される（ただし、当該評価日現在の純資産額を入手できない場合には、その直前日の純資産額を使用するものとする）。
- (b) 証券取引所で取引されている有価証券は、かかる証券取引所、または管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した証券取引所の最新の入手可能な市場価格（詳細は基本信託証書および／または関連する信託証書補遺に記載されている）で評価する。
- (c) 証券取引所では取引されていないが店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した信頼性の高い情報源に基づいて評価する。
- (d) サブ・ファンドが保有している「スワップ」およびその他の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適格とみなしたディーラーから入手した相場価格に基づいて、管理会社により誠実に評価する。
- (e) 短期金融商品および銀行預金は、取得原価に経過利息を加えた額で評価する。
- (f) 評価を行う日に特定の資産の評価に関して指定された証券取引所または市場が営業していない場合、かかる資産の評価は、かかる証券取引所または市場の直前の営業日に行われる。
- (g) その他のすべての資産および負債は、識別可能な市場価格のない資産および負債を含め、管理事務代行会社と協議した上で管理会社により誠実に評価する。
- (h) 未実現評価損益の純変動額は当会計年度に係る投資有価証券の純資産評価額の変動および投資有価証券に係る過年度の未実現評価損益が当会計年度に実現したことによる戻入れから構成される。
- (i) 投資有価証券の売却に係る実現純損益は平均原価法を用いて算定される。

1.3 設立費用

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型およびグローバル・コア株式ファンドの設立費用は、全額償却された。

グローバル・コア債券ファンドの設立費用は、受託会社または管理会社が別の方法によることを決定しない限り、サブ・ファンドの最初の５会計年度以内に償却される。

1.4 受取利息

受取利息は、日次ベースの発生主義で、かつ源泉徴収税を控除して計上される。

1.5 外貨換算

米ドル以外の通貨建ての資産および負債は期末時点の実勢為替レートで米ドルに換算される。米ドル以外の通貨建取引は当該取引日の実勢為替レートで米ドルに換算される。

為替に係る未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、当会計年度の損益および純資産変動計算書に計上される。

1.6 為替先渡取引

為替先渡取引は、満期までの残存期間について純資産計算書の日付時点で適用される先渡レートで評価される。

為替先渡取引によって生じた未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、損益および純資産変動計算書に計上される。

注2．受託会社報酬

受託会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎四半期後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.01%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間15,000米ドル、最高額は年間30,000米ドル）。

上記の報酬は、毎年見直される。受託会社が追加的な活動、訴訟、もしくはその他の非経常的な事項の対応または従事することを求められる場合には、その時点で管理会社との追加的な交渉がなされ、反対の合意がない限り、受託会社により、その時点で適用される時間料金の追加報酬が請求されることになる。

注3．管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.03%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注4．投資運用会社報酬

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型およびウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型

投資運用会社は、投資先ファンドの資産から報酬を受け取るため、サブ・ファンドの資産から報酬を受け取っていない。

グローバル・コア株式ファンドおよびグローバル・コア債券ファンド

投資運用会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注5．管理事務代行会社報酬

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、グローバル・コア株式ファンドおよびウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間12,500ユーロ）。

グローバル・コア債券ファンド

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間16,000ユーロ）。

注6．保管会社報酬

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、グローバル・コア株式ファンドおよびウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間3,000ユーロ）。

グローバル・コア債券ファンド

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間4,000ユーロ）。

注7．代行協会員報酬

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型およびウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.09%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

グローバル・コア株式ファンドおよびグローバル・コア債券ファンド

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.10%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注8．販売会社報酬および販売取扱会社報酬

販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各サブ・ファンドの純資産の年率0.02%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型およびグローバル・コア株式ファンド

販売会社報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応する各サブ・ファンドの純資産部分の年率1.15%の報酬を各サブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型

2024年8月30日までは、販売会社報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.15%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有していた。2024年9月3日現在の純資産価額から、年率0.50%の新報酬料率が適用されている。

グローバル・コア債券ファンド

販売会社報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注9．為替先渡取引

2024年11月30日現在、以下の為替先渡取引は未決済である。

ウェルス・コアポートフォリオ グロース型の円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の

通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価（損） 米ドル
米ドル	19,877,085.27	日本円	2,808,475,120.00	2024年12月18日	(1,126,991.34)
米ドル	664,616.85	日本円	95,200,000.00	2024年12月18日	(29,061.07)
日本円	199,100,120.00	米ドル	1,311,897.77	2024年12月18日	(17,094.61)
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現評価損合計					(1,173,147.02)

ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型の円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の

通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価（損） 米ドル
米ドル	25,298,883.43	日本円	3,574,532,367.00	2024年12月18日	(1,434,396.55)
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現評価損					(1,434,396.55)

グローバル・コア株式ファンドの円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の

通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価益 米ドル
米ドル	10,336,595.33	日本円	1,569,054,961.00	2024年12月16日	134,028.96
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現評価益					134,028.96

2024年11月30日現在、サブ・ファンドの未決済の為替先渡取引に係る未実現評価損合計は、2,473,514.61米ドルであった。

注10．グローバル・コア債券ファンドの投資先ファンド管理・顧問報酬

グローバル・コア債券ファンドは、投資先ファンドへの投資に関連して、参照期間中、投資先ファンドの平均日次純資産価額の0.40%の年次管理・顧問報酬を負担する。当該報酬は、投資先ファンドによりサブ・ファンドに対して四半期毎に請求される。

注11．為替レート

サブ・ファンドの米ドル以外の通貨建ての資産および負債の換算に使用された2024年11月30日現在の米ドルに対する為替レートは、以下の通りである。

通貨	為替レート
日本円	150.1950

注12．税金

12.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島では所得または利得には課税されず、ファンドはファンドの設定日から50年間はケイマン諸島の地方税、利益税または資本税をすべて免除する旨の保証をケイマン諸島総督から取り付けている。したがって、本財務書類には法人税等引当金という勘定科目が含まれていない。

12.2 その他の国々

サブ・ファンドは、その他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。受益証券を購入しようとする者は、各々の法域で適用される法律の下で、受益証券の購入、保有および買戻しに対して発生が見込まれる税金およびその他の影響を判断するため、各自が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に相談すべきである。

注13．受益証券の販売および買戻しの条件

受益証券は、英文目論見書および英文目論見書に関連する付属書類（以下「付属書類」という）に記載されている買付申込通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する発行日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という）で発行され、販売される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、英文目論見書および付属書類に記載されている買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、かかる受益証券の買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

注14．関連当事者取引

管理会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社、販売会社および代行協会員、投資運用会社ならびに販売取扱会社はサブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

各サブ・ファンドの投資運用会社は、投資先ファンドの管理会社と同じ企業グループに属しているため、関係する各サブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

注15．事象

投資運用会社の助言に基づき、管理会社は、グローバル・コア株式ファンドの投資先ファンドをブラックロック・ストラテジック・ファンズ - ブラックロック・システムティック・グローバル・エクイティ・ファンド（以下「旧投資先ファンド」という。）からブラックロック・ファンズ I ICAV - ブラックロッ

ク・サステナブル・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド（クラスD累積投資型米ドル建て）（以下「新投資先ファンド」という。）に変更することを、2024年7月12日付で決議した。これは、新投資先ファンドの総経費率がより低くかつリスク・リターンが旧投資先ファンドと似ているため、投資先ファンドを変更することが投資家にとって最善の利益であるという観点によるものである。2024年9月3日から2024年9月18日までの期間中、サブ・ファンドは、旧投資先ファンドの保有を段階的に換金し（したがって投資額を減少させ）、並行して新投資先ファンドへの投資額を段階的に増加させた。新投資先ファンドは、2024年9月18日にサブ・ファンドの単独の投資先ファンドとなった。

2024年7月30日付の管理会社の決定により、ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型の販売会社報酬および販売取扱会社報酬は、2024年9月3日現在の純資産価額に対して、それぞれ年率1.15%から0.50%に引き下げられた。

注16．決算日後の状況

投資運用会社は、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの投資先ファンドの名称を2025年4月17日以降、ブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンドに変更することを、2025年3月18日付で発表した。

受託会社および管理会社の意見では、当期の財務書類において開示が必要な決算日後監査報告書日までに生じたその他の重要な事象はなかった。

【投資有価証券明細表等】

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

投資有価証券明細表

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

数量	銘柄	通貨	取得原価	純資産評価額	比率 [*]
投資信託			米ドル	米ドル	%
505,307.44	Blackrock Funds I ICAV - Blackrock Sustainable Advantage World Equity Fund Class D Acc USD	米ドル	95,651,051.50	101,138,294.73	98.72
投資信託合計			95,651,051.50	101,138,294.73	98.72
投資有価証券合計			95,651,051.50	101,138,294.73	98.72

投資有価証券の分類

2024年11月30日現在

投資有価証券の国別および業種別分類

国名	業種	比率 [*]
ルクセンブルグ		%
	信託、ファンドおよび類似の金融事業体	98.72
		98.72
投資有価証券合計		98.72

添付の注記は、本財務書類の一部である。

（^{*}）百分率で表示された純資産に対する純資産評価額の比率

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

[次へ](#)

PREMIUM FUNDS

Statement of net assets as at November 30, 2024

Global Core Equity Fund

(Expressed in US Dollars)

	Notes	USD
Assets		
Investments at net asset value (cost USD 95,651,051.50)	1.2	101,138,294.73
Cash at bank		1,850,988.07
Subscriptions receivable		121,684.99
Unrealised appreciation on forward foreign currency exchange contracts	1.6, 9	134,028.96
Total assets		103,244,996.75
Liabilities		
Investment purchased payable		628,327.97
Repurchases payable		1,390.32
Distributor fees and Sales Handling Company fees payable	8	98,756.24
Legal expenses payable		14,993.37
Printing and publishing expenses payable		12,922.82
Professional expenses payable		9,407.43
Agent Company fees payable	7	8,438.54
Administrator fees payable	5	5,064.76
Custodian fees payable	6	3,373.15
Manager fees payable	3	2,532.52
Trustee fees payable	2	2,472.22
Investment Manager fees payable		4,214.28
Other fees payable		895.18
Total liabilities		792,788.80
Net assets		102,452,207.95
Net assets		
Class USD Unit	USD	91,969,797.84
Class JPY (Hedged) Unit	JPY	1,574,405,586
Number of units outstanding		
Class USD Unit		4,990,681.365
Class JPY (Hedged) Unit		1,069,579.371
Net asset value per unit		
Class USD Unit	USD	18.43
Class JPY (Hedged) Unit	JPY	1,472

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

PREMIUM FUNDS

Statement of operations and changes in net assets for the year ended November 30, 2024

Global Core Equity Fund

(Expressed in US Dollars)

	Notes	USD
Income		
Bank interests	1.4	77,421.39
Total income		77,421.39
Expenses		
Distributor fees and Sales Handling Company fees	8	1,159,797.06
Agent Company fees	7	99,102.30
Administrator fees	5	59,565.93
Custodian fees	6	39,671.31
Legal expenses		44,823.08
Manager fees	3	29,741.71
Investment Manager fees	4	49,492.43
Trustee fees	2	14,917.60
Printing and publishing expenses		15,100.85
Professional expenses		9,512.67
Registration fees		3,085.96
Transaction fees		97.35
Other fees		2,052.44
Total expenses		1,526,960.69
Net investment loss		(1,449,539.30)

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

PREMIUM FUNDS

Statement of operations and changes in net assets for the year ended November 30, 2024

Global Core Equity Fund

(Expressed in US Dollars)

	Notes	USD
Net investment loss		(1,449,539.30)
Net realised gain/(loss) on		
Investments	1.2	38,260,946.89
Foreign exchange	1.5	146,831.17
Forward Foreign Currency Exchange Contracts	1.6	(929,387.50)
Net investment loss and realised gain for the year		36,028,851.26
Net change in unrealised (depreciation) on		
Investments	1.2	(15,373,060.37)
Forward Foreign Currency Exchange Contracts	1.6	(125,395.76)
Net increase in net assets as a result of operations		20,530,395.13
Movement in capital		
Subscriptions of units		11,738,369.41
Repurchases of units		(22,857,526.48)
Net movement in capital		(11,119,157.07)
Net assets at the beginning of the year		93,040,969.89
Net assets at the end of the year		102,452,207.95

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

PREMIUM FUNDS

Statistical information (continued)

	Global Core Equity Fund Class USD Unit	Global Core Equity Fund Class JPY (Hedged) Unit	Wealth Core Portfolio Advanced Type Class USD Unit	Global Core Bond Fund Class USD Unit	Global Core Bond Fund Class JPY (Hedged) Unit
Number of units outstanding at the end of the year					
November 30, 2022	5,953,900.236	1,022,015.450	984,600.463	7,522,209.760	1,230,670.445
November 30, 2023	5,488,780.545	1,376,418.740	813,417.425	8,035,167.105	1,538,043.491
Units issued	523,282.222	332,673.309	10,003.332	1,084,130.850	430,939.033
Units repurchased	(1,021,381.402)	(639,512.678)	(121,852.217)	(1,275,734.581)	(400,911.626)
November 30, 2024	4,990,681.365	1,069,579.371	701,568.540	7,843,563.374	1,568,070.898
Net assets at the end of the year					
November 30, 2022	USD 77,616,911.62	JPY 1,193,960,137	USD 8,837,675.67	USD 77,734,238.67	JPY 1,191,073,628
November 30, 2023	USD 81,378,758.79	JPY 1,716,385,919	USD 7,443,375.62	USD 85,307,752.93	JPY 1,443,628,136
November 30, 2024	USD 91,969,797.84	JPY 1,574,405,586	USD 6,802,373.33	USD 88,624,740.72	JPY 1,478,912,103
Net asset value per unit at the end of the year					
November 30, 2022	USD 13.04	JPY 1,168	USD 8.98	USD 10.33	JPY 968
November 30, 2023	USD 14.83	JPY 1,247	USD 9.15	USD 10.62	JPY 939
November 30, 2024	USD 18.43	JPY 1,472	USD 9.70	USD 11.30	JPY 943

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

Premium Funds**Notes to the financial statements**

(As at November 30, 2024)

Note 1 - Significant accounting policies**1.1 - Presentation of financial statements**

The financial statements are prepared in accordance with Luxembourg generally accepted accounting principles applicable to investment funds. Considering that the fiscal year end of 5 Series Trusts is the same, the financial statements and annual report of Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type, Global Core Equity Fund, Wealth Core Portfolio Advanced Type and Global Core Bond Fund are combined from this issue.

1.2 - Valuation of the investments and other assets

- (a) collective investment schemes, investment funds and mutual funds are valued at the most recent net asset value available as of the relevant valuation day (or, if a net asset value as of such valuation day is not available, the net asset value as of the immediately preceding day shall be used);
- (b) securities which are traded on a securities exchange are valued at their latest available market price (as more fully described in the Master Trust Deed and/or relevant supplemental trust deed) on such securities exchange or whichever securities exchange shall be selected by the Manager in consultation with the Administrator;
- (c) securities not traded on a securities exchange but traded over-the-counter are valued as determined from any reliable source selected by the Manager in consultation with the Administrator;
- (d) "swaps" and other over-the-counter instruments held by the Series Trusts are valued in good faith by the Manager based on quotations received from dealers deemed appropriate by the Manager in consultation with the Administrator;
- (e) short-term money market instruments and bank deposits are valued at the cost plus accrued interest;
- (f) if, on the date of which any valuation is being made, the exchange or market herein designated for the valuation of any given assets is not open for business, the valuation of such assets shall be made as of the last preceding date on which such exchange or market was open for business;
- (g) all other assets and liabilities shall be valued in good faith by the Manager in consultation with the Administrator, including assets and liabilities for which there is no identifiable market value;
- (h) net change in unrealised appreciation or depreciation comprises changes in the net asset value of investments for the year and the reversal of prior year's unrealised appreciation or depreciation for investments which were realised in the reporting year;
- (i) net realised gains and losses on the disposal of investments are calculated using the average cost method.

Premium Funds**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2024)

Note 1 - Significant accounting policies (continued)**1.3 - Formation expenses**

Formation expenses have been fully amortised for Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type, Wealth Core Portfolio Advanced Type and for Global Core Equity Fund.

Formation expenses for Global Core Bond Fund are to be amortised within the first five financial years of the Series Trust, unless the Trustee or the Manager decides that some other method shall be applied.

1.4 - Interest income

Interest income is accrued on a daily basis and is recorded net of withholding tax.

1.5 - Foreign currency translation

Assets and liabilities expressed in currencies other than the US dollar ("USD") are translated into USD at exchange rates prevailing at year end. Transactions in currencies other than USD are translated into USD at exchange rates prevailing at the transaction dates.

Net change in unrealised appreciation and depreciation and net realised gains or losses on foreign exchange are recorded in the statement of operations and changes in net assets for the year.

1.6 - Forward foreign currency exchange contracts

Forward foreign currency exchange contracts are valued at the forward rate applicable at the date of the statement of net assets for the remaining period until maturity.

Net change in unrealised appreciation and depreciation and net realised gains or losses resulting from forward foreign currency exchange contracts are recorded in the statement of operations and changes in net assets.

Note 2 - Trustee fees

The Trustee is entitled to receive out of the assets of the each Series Trust a fee at a rate of 0.01% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable quarterly in arrears (with a minimum of USD 15,000 per annum and a maximum of USD 30,000 per annum).

The fee set out above is subject to review on an annual basis. Where the Trustee is required to consider or engage in further activities, litigation or other exceptional matters, additional fees will be subject to further negotiation at the relevant time with the Manager and, in the absence of contrary agreement, additional fees will be charged by the Trustee at its hourly rates in effect from time to time.

Premium Funds**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2024)

Note 3 - Manager fees

The Manager is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.03% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 4 - Investment Manager fees**For Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type and Wealth Core Portfolio Advanced Type**

The Investment Manager receives a fee out of the assets of the Underlying Fund and therefore does not receive any fee out of the assets of the Series Trusts.

For Global Core Equity Fund and Global Core Bond Fund

The Investment Manager is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.05% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 5 - Administrator fees**For Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type, Global Core Equity Fund and Wealth Core Portfolio Advanced Type**

The Administrator is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.06% per annum of the net assets of each Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 12,500 per year.

For Global Core Bond Fund

The Administrator is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at a rate of 0.06% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 16,000 per year.

Premium Funds

Notes to the financial statements (continued)

(As at November 30, 2024)

Note 6 - Custodian fees

For Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type, Global Core Equity Fund and Wealth Core Portfolio Advanced Type

The Custodian is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.04% per annum of the net assets of each Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 3,000 per year.

For Global Core Bond Fund

The Custodian is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at a rate of 0.04% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 4,000 per year.

Note 7 - Agent Company fees

For Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type and Wealth Core Portfolio Advanced Type

The Agent Company is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.09% per annum of the net assets of each Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

For Global Core Equity Fund and Global Core Bond Fund

The Agent Company is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.10% per annum of the net assets of each Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 8 - Distributor fees and Sales Handling Company fees

The Distributor is entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 0.02% per annum of the net assets of each Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

For Wealth Core Portfolio Growth Type, Wealth Core Portfolio Conservative Type, and Global Core Equity Fund

In addition to the Distributor fee, the Distributor and the Sales Handling Company are each entitled to receive out of the assets of each Series Trust a fee at a rate of 1.15% per annum of the portion of the net assets of each Series Trust corresponding to the units handled by each of them, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Premium Funds

Notes to the financial statements (continued)

(As at November 30, 2024)

Note 8 - Distributor fees and Sales Handling Company fees (continued)

For Wealth Core Portfolio Advanced Type

In addition to the Distributor fee, the Distributor and the Sales Handling Company were each entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at a rate of 1.15% per annum of the portion of the net assets of the Series Trust corresponding to the units handled by each of them, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears until August 30, 2024. The new fee rate of 0.50% per annum has been applied from the net asset value as of September 3, 2024.

For Global Core Bond Fund

In addition to the Distributor fee, the Distributor and the Sales Handling Company are each entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at a rate of 1.05% per annum of the portion of the net assets of the Series Trust corresponding to the units handled by each of them, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 9 - Forward foreign currency exchange contracts

As at November 30, 2024, the following forward foreign currency exchange contracts were open:

Forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Wealth Core Portfolio Growth Type Class JPY (Hedged) Unit

Currency	Sales	Currency	Purchases	Maturity date	Unrealised (depreciation)
					USD
USD	19,877,085.27	JPY	2,808,475,120.00	18/12/24	(1,126,991.34)
USD	664,616.85	JPY	95,200,000.00	18/12/24	(29,061.07)
JPY	199,100,120.00	USD	1,311,897.77	18/12/24	(17,094.61)
Total unrealised depreciation on forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Class JPY (Hedged) Unit					(1,173,147.02)

Forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Wealth Core Portfolio Conservative Type Class JPY (Hedged) Unit

Currency	Sales	Currency	Purchases	Maturity date	Unrealised (depreciation)
					USD
USD	25,298,883.43	JPY	3,574,532,367.00	18/12/24	(1,434,396.55)
Unrealised depreciation on forward foreign exchange contract to cover the currency exposure of Class JPY (Hedged) Unit					(1,434,396.55)

Premium Funds

Notes to the financial statements (continued)

(As at November 30, 2024)

Note 9 - Forward foreign currency exchange contracts (continued)

Forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Global Core Equity Fund Class JPY (Hedged) Unit

Currency	Sales	Currency	Purchases	Maturity date	Unrealised appreciation
					USD
USD	10,336,595.33	JPY	1,569,054,961.00	16/12/24	134,028.96
Unrealised appreciation on forward foreign currency exchange contract to cover the currency exposure of Class JPY (Hedged) Unit					134,028.96

The total unrealised depreciation on the outstanding forward foreign currency exchange contracts of the Series Trusts as at November 30, 2024 amounts to USD 2,473,514.61.

Note 10 - Management and advisory fees of the Underlying Fund for Global Core Bond Fund

Global Core Bond Fund, in connection with its investment in the Underlying Fund, bears annual management and advisory fees at the rate of 0.40% of the average daily net asset value of the Underlying Fund during a reference period. The fees are invoiced to the Series Trust by the Underlying Fund on a quarterly basis.

Note 11 - Exchange rate

The exchange rate against USD as at November 30, 2024 used for the translation of the Series Trust's assets and liabilities not denominated in USD is as follows:

Currency	Exchange rate
JPY	150.1950

Note 12 - Taxation

12.1 - Cayman Islands

There are no taxes on income or gains in the Cayman Islands and the Trust has received an undertaking from the Governor-in-Cabinet of the Cayman Islands exempting it from all local income, profits and capital taxes for a period of 50 years from the date of incorporation. Accordingly, no provision for income taxes is included in these financial statements.

12.2 - Other countries

The Series Trusts may be subject to withholding or other taxes on certain income sourced in other countries. Prospective investors should consult legal and tax advisers in the countries of their citizenship, residence and domicile to determine the possible tax or other consequences of purchasing, holding and repurchasing units under the laws of their respective jurisdiction.

Premium Funds**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2024)

Note 13 - Terms of subscriptions and repurchases of units

Units may be issued and subscribed as of each issue day at the net asset value per unit as of the relevant issue day for the relevant unit ("Issue Price"), subject to the subscription notice procedure described in the Offering Memorandum and the relevant appendix to the Offering Memorandum (the "Appendix"). The Issue Price shall, subject to any suspension, be calculated and published by the Administrator on the relevant calculation day.

Units may be repurchased as of any repurchase day at the net asset value per unit as of the repurchase day for the units ("Repurchase Price"), subject to the repurchase notice procedure described in the Offering Memorandum and the Appendix. The Repurchase Price shall, subject to any suspension, be calculated and published by the Administrator on the relevant calculation day.

Note 14 - Related party transactions

The Manager, the Trustee, the Administrator and Custodian, the Distributor and Agent Company, the Investment Manager, and the Sales Handling Company are considered as related parties to the Series Trust.

The Investment Manager of each Series Trust is considered as a related party to the relevant Series Trust because it belongs to the same corporate group as the management company of the Underlying Fund of each Series Trust.

Note 15 - Event

The Manager resolved on July 12, 2024 to change the underlying fund of Global Core Equity Fund from BlackRock Strategic Funds – BlackRock Systematic Global Equity Fund (the "Former UF") to Blackrock Funds I ICAV – BlackRock Sustainable Advantage World Equity Fund Class D Acc USD (the "New UF") on the basis of the advice of the Investment Manager which indicated that they had determined that this change would be in the best interest of investors due to the lower total expense ratio of the New UF and its similar risk and return profile to the risk and return profile of the Former UF. During the period between September 3, 2024 and September 18, 2024, the Series Trust progressively repurchased its holding (and thus decrease its investment) in the Former UF and progressively increased its investment into the New UF in parallel. The New UF became the sole underlying fund of the Series Trust on September 18, 2024.

The Distributor's and Sales Handling Company's fees of Wealth Core Portfolio Advanced Type was decreased from the net asset value as of September 3, 2024 from 1.15% per annum to 0.50% per annum of the net asset value of the Series Trust corresponding to the units handled by each of them by the decision of the Manager made on July 30, 2024.

Note 16 - Subsequent events

The Investment Manager of Premium Funds - Global Core Equity Fund announced on March 18, 2025 that the Underlying Fund's name will change as from April 17, 2025 to BlackRock Advantage World Equity Fund.

Premium Funds**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2024)

Note 16 - Subsequent events (continued)

There has been no other significant events after year-end up to the date of the auditor's opinion which, in the opinion of the Trustee and of the Manager, requires disclosure in the present financial statements.

PREMIUM FUNDS

Schedule of investments as at November 30, 2024

Global Core Equity Fund

(Expressed in US Dollars)

Quantity	Description	Currency	Cost	Net asset value	Ratio*
Investment fund			USD	USD	%
505,307.44	Blackrock Funds I ICAV – Blackrock Sustainable Advantage World Equity Fund Class D Acc USD	USD	95,651,051.50	101,138,294.73	98.72
Total investment fund			95,651,051.50	101,138,294.73	98.72
Total investments			95,651,051.50	101,138,294.73	98.72

Classification of investments as at November 30, 2024

Global Core Equity Fund

Classification of investments by country and by economic sector

Country	Economic sector	Ratio*
Luxembourg		%
	Trusts, Funds And Similar Financial Entities	98.72
		98.72
Total investments		98.72

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

(*) Weight of the net asset value against the net assets expressed in %.

(2) 【2023年11月30日終了年度】

【貸借対照表】

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

純資産計算書

2023年11月30日現在

(表示通貨：米ドル)

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
(取得原価70,943,007.64米ドル			
(10,618,040千円))	1.2	91,803,311.24	13,740,202
銀行預金		1,138,149.43	170,347
投資有価証券売却未収金		507,203.04	75,913
為替先渡取引に係る未実現評価益	1.6,10	259,424.72	38,828
受益証券販売未収金		90,908.87	13,606
資産合計		93,798,997.30	14,038,896
負債			
受益証券買戻未払金		592,544.86	88,686
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	89,594.36	13,410
未払印刷および公告費用		22,340.03	3,344
未払弁護士費用		15,415.57	2,307
未払専門家費用		13,208.21	1,977
未払代行協会員報酬	7	7,655.63	1,146
未払管理事務代行会社報酬	5	4,585.52	686
未払投資運用会社報酬	4	3,823.31	572
未払保管会社報酬	6	3,053.98	457
未払受託会社報酬	2	2,554.62	382
未払管理会社報酬	3	2,297.54	344
その他の未払費用		953.78	143
負債合計		758,027.41	113,454
純資産		93,040,969.89	13,925,442
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		81,378,758.79	12,179,959
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,716,385,919円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		5,488,780.545口	
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,376,418.740口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		14.83	2,220円
円建て(ヘッジあり)クラス受益証券		1,247円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

【損益計算書】

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド
 損益および純資産変動計算書
 2023年11月30日終了会計年度
 （表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	47,632.58	7,129
収益合計		47,632.58	7,129
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	1,060,443.81	158,717
代行協会員報酬	7	90,612.53	13,562
管理事務代行会社報酬	5	54,425.62	8,146
投資運用会社報酬	4	45,252.56	6,773
保管会社報酬	6	36,247.75	5,425
印刷および公告費用	9	32,327.85	4,839
弁護士費用		28,086.30	4,204
管理会社報酬	3	27,193.63	4,070
受託会社報酬	2	15,041.18	2,251
専門家費用		13,326.82	1,995
登録手数料		2,673.23	400
取引手数料		85.78	13
その他費用		2,133.36	319
費用合計		1,407,850.42	210,713
投資純損失		(1,360,217.84)	(203,584)
以下に係る実現純利益 / （損失）			
投資有価証券	1.2	2,667,018.55	399,173
外国為替	1.5	26,130.61	3,911
為替先渡取引	1.6	(1,236,603.07)	(185,082)
当期の投資純損失および実現純利益		96,328.25	14,417
以下に係る未実現評価益 / （損）の純変動額			
投資有価証券	1.2	10,435,695.70	1,561,911
為替先渡取引	1.6	(118,963.95)	(17,805)
運用による純資産の純増加額		10,413,060.00	1,558,523
資本の変動			
受益証券の販売		9,508,143.22	1,423,084
受益証券の買戻し		(13,110,034.83)	(1,962,179)
資本の純変動額		(3,601,891.61)	(539,095)
純資産、期首		86,229,801.50	12,906,014
純資産、期末		93,040,969.89	13,925,442

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

統計情報

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
発行済受益証券口数、期末		
2021年11月30日	6,653,097.466 □	869,147.055 □
2022年11月30日	5,953,900.236 □	1,022,015.450 □
発行受益証券	364,855.719 □	516,073.308 □
買戻受益証券	(829,975.410)□	(161,670.018)□
2023年11月30日	5,488,780.545 □	1,376,418.740 □

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
純資産、期末		
2021年11月30日	102,339,312.56米ドル （15,317,125千円）	1,232,389,194円
2022年11月30日	77,616,911.62米ドル （11,616,923千円）	1,193,960,137円
2023年11月30日	81,378,758.79米ドル （12,179,959千円）	1,716,385,919円

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
受益証券1口当たり純資産価格、期末		
2021年11月30日	15.38米ドル （2,302円）	1,418円
2022年11月30日	13.04米ドル （1,952円）	1,168円
2023年11月30日	14.83米ドル （2,220円）	1,247円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド

財務書類に対する注記

2023年11月30日現在

注 1 . 重要な会計方針

1.1 財務書類の表示

本財務書類は、投資信託に適用されるルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従い作成されている。

1.2 投資有価証券およびその他の資産の評価

- (a) 集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、関連する評価日現在の最新の入手可能な純資産額で評価される（ただし、当該評価日現在の純資産額を入手できない場合には、その直前日の純資産額を使用するものとする）。
- (b) 証券取引所で取引されている有価証券は、かかる証券取引所、または管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した証券取引所の最新の入手可能な市場価格（詳細は基本信託証書および／または関連する信託証書補遺に記載されている）で評価する。
- (c) 証券取引所では取引されていないが店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した信頼性の高い情報源に基づいて評価する。
- (d) サブ・ファンドが保有している「スワップ」およびその他の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適格とみなしたディーラーから入手した相場価格に基づいて、管理会社により誠実に評価する。
- (e) 短期金融商品および銀行預金は、取得原価に経過利息を加えた額で評価する。
- (f) 評価を行う日に特定の資産の評価に関して指定された証券取引所または市場が営業していない場合、かかる資産の評価は、かかる証券取引所または市場の直前の営業日に行われる。
- (g) その他のすべての資産および負債は、識別可能な市場価格のない資産および負債を含め、管理事務代行会社と協議した上で管理会社により誠実に評価する。
- (h) 未実現評価損益の純変動額は当会計年度に係る投資有価証券の純資産評価額の変動および投資有価証券に係る過年度の未実現評価損益が当会計年度に実現したことによる戻入れから構成される。
- (i) 投資有価証券の売却に係る実現純損益は平均原価法を用いて算定される。

1.3 設立費用

設立費用は全額償却された。

1.4 受取利息

受取利息は、日次ベースの発生主義で、かつ源泉徴収税を控除して計上される。

1.5 外貨換算

米ドル以外の通貨建ての資産および負債は期末時点の実勢為替レートで米ドルに換算される。米ドル以外の通貨建取引は当該取引日の実勢為替レートで米ドルに換算される。

為替に係る未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、当会計年度の損益および純資産変動計算書に計上される。

1.6 為替先渡取引

為替先渡取引は、満期までの残存期間について純資産計算書の日付時点で適用される先渡レートで評価される。

為替先渡取引によって生じた未実現評価損益の純変動額および実現純損益は損益および純資産変動計算書に計上される。

注2．受託会社報酬

受託会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎四半期後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.01%の受託会社報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間15,000米ドル、最高額は年間30,000米ドル）。

上記の報酬は、毎年見直される。受託会社が追加的な活動、訴訟、もしくはその他の非経常的な事項の対応または従事することを求められる場合には、その時点で管理会社との追加的な交渉がなされ、反対の合意がない限り、受託会社により、その時点で適用される時間料金の追加報酬が請求されることになる。

注3．管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.03%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注4．投資運用会社報酬

投資運用会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注5．管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間12,500ユーロ）。

注6．保管会社報酬

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間3,000ユーロ）。

注7．代行協会員報酬

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.10%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 8．販売会社報酬および販売取扱会社報酬

販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.02%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.15%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 9．印刷および公告費用

損益および純資産変動計算書の「印刷および公告費用」に計上されている費用は、主に英文年次報告書および英文半期報告書ならびに日本の法令に基づく書類等の作成にかかる費用で構成されている。

注10．為替先渡取引

2023年11月30日現在、以下の為替先渡取引は未決済である。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価益 米ドル
米ドル	359,719.42	日本円	52,884,000.00	2023年12月15日	492.97
米ドル	11,018,935.24	日本円	1,655,830,000.00	2023年12月15日	258,931.75
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現評価益					259,424.72

注11．為替レート

サブ・ファンドの米ドル以外の通貨建ての資産および負債の換算に使用された2023年11月30日現在の米ドルに対する為替レートは、以下の通りである。

通貨	為替レート
日本円	147.1750

注12．税金

12.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島では所得または利得には課税されず、ファンドはファンドの設定日から50年間はケイマン諸島の地方税、利益税または資本税をすべて免除する旨の保証をケイマン諸島総督から取り付けている。したがって、本財務書類には法人税等引当金という勘定科目が含まれていない。

12.2 その他の国々

サブ・ファンドは、その他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。受益証券を購入しようとする者は、各々の法域で適用される法律の下で、受益証券の購入、保有および買戻しに対して発生が見込まれる税金およびその他の影響を判断するため、各自が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に相談すべきである。

注13．受益証券の販売および買戻しの条件

受益証券は、英文目論見書および英文目論見書に関連する付属書類（以下「付属書類」という）に記載されている買付申込通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する発行日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という）で発行され、販売される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、英文目論見書および付属書類に記載されている買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、かかる受益証券の買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

注14．関連当事者取引

管理会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社、販売会社および代行協会員、投資運用会社ならびに販売取扱会社はサブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

投資運用会社は、投資先ファンドの管理会社と同じ企業グループに属しているため、サブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

注15．決算日後の状況

受託会社および管理会社の意見では、当期の財務書類において開示が必要な決算日後監査報告書日までに生じた重要な事象はなかった。

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

[次へ](#)

Premium Funds - Global Core Equity Fund

Statement of net assets as at November 30, 2023

(Expressed in US dollars)

	Notes	USD
Assets		
Investments at net asset value (cost USD 70,943,007.64)	1.2	91,803,311.24
Cash at bank		1,138,149.43
Investment sold receivable		507,203.04
Unrealised appreciation on forward foreign currency exchange contracts	1.6, 10	259,424.72
Subscriptions receivable		90,908.87
Total assets		93,798,997.30
Liabilities		
Repurchases payable		592,544.86
Distributor fees and Sales Handling Company fees payable	8	89,594.36
Printing and publishing expenses payable		22,340.03
Legal expenses payable		15,415.57
Professional expenses payable		13,208.21
Agent Company fees payable	7	7,655.63
Administrator fees payable	5	4,585.52
Investment Manager fees payable	4	3,823.31
Custodian fees payable	6	3,053.98
Trustee fees payable	2	2,554.62
Manager fees payable	3	2,297.54
Other fees payable		953.78
Total liabilities		758,027.41
Net assets		93,040,969.89
Net assets		
Class USD Unit	USD	81,378,758.79
Class JPY (Hedged) Unit	JPY	1,716,385,919
Number of units outstanding		
Class USD Unit		5,488,780.545
Class JPY (Hedged) Unit		1,376,418.740
Net asset value per unit		
Class USD Unit	USD	14.83
Class JPY (Hedged) Unit	JPY	1,247

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Statement of operations and changes in net assets for the year ended November 30, 2023**

(Expressed in US dollars)

	Notes	USD
Income		
Bank interests	1.4	47,632.58
Total income		47,632.58
Expenses		
Distributor fees and Sales Handling Company fees	8	1,060,443.81
Agent Company fees	7	90,612.53
Administrator fees	5	54,425.62
Investment Manager fees	4	45,252.56
Custodian fees	6	36,247.75
Printing and publishing expenses	9	32,327.85
Legal expenses		28,086.30
Manager fees	3	27,193.63
Trustee fees	2	15,041.18
Professional expenses		13,326.82
Registration expenses		2,673.23
Transaction fees		85.78
Other expenses		2,133.36
Total expenses		1,407,850.42
Net investment loss		(1,360,217.84)

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

Premium Funds - Global Core Equity Fund

Statement of operations and changes in net assets for the year ended November 30, 2023
(continued)

(Expressed in US dollars)

	Notes	USD
Net investment loss		(1,360,217.84)
Net realised gain/(loss) on		
Investments	1.2	2,667,018.55
Foreign exchange	1.5	26,130.61
Forward foreign currency exchange contracts	1.6	(1,236,603.07)
Net investment loss and net realised gain for the year		96,328.25
Net change in unrealised appreciation/(depreciation) on		
Investments	1.2	10,435,695.70
Forward foreign currency exchange contracts	1.6	(118,963.95)
Net increase in net assets as a result of operations		10,413,060.00
Movement in capital		
Subscription of units		9,508,143.22
Repurchase of units		(13,110,034.83)
Net movement in capital		(3,601,891.61)
Net assets at the beginning of the year		86,229,801.50
Net assets at the end of the year		93,040,969.89

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

Premium Funds - Global Core Equity Fund

Statistical information

Number of units outstanding at the end of the year	Class USD Unit	Class JPY (Hedged) Unit
November 30, 2021	6,653,097.466	869,147.055
November 30, 2022	5,953,900.236	1,022,015.450
Units issued	364,855.719	516,073.308
Units repurchased	(829,975.410)	(161,670.018)
November 30, 2023	5,488,780.545	1,376,418.740

Net assets at the end of the year	Class USD Unit	Class JPY (Hedged) Unit
November 30, 2021	USD 102,339,312.56	JPY 1,232,389,194
November 30, 2022	USD 77,616,911.62	JPY 1,193,960,137
November 30, 2023	USD 81,378,758.79	JPY 1,716,385,919

Net asset value per unit at the end of the year	Class USD Unit	Class JPY (Hedged) Unit
November 30, 2021	USD 15.38	JPY 1,418
November 30, 2022	USD 13.04	JPY 1,168
November 30, 2023	USD 14.83	JPY 1,247

The accompanying notes are an integral part of these financial statements.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Notes to the financial statements**

(As at November 30, 2023)

Note 1 - Significant accounting policies**1.1 - Presentation of financial statements**

The financial statements are prepared in accordance with Luxembourg generally accepted accounting principles applicable to investment funds.

1.2 - Valuation of the investments and other assets

- (a) collective investment schemes, investment funds and mutual funds are valued at the most recent net asset value available as of the relevant valuation day (or, if a net asset value as of such valuation day is not available, the net asset value as of the immediately preceding day shall be used);
- (b) securities which are traded on a securities exchange are valued at their latest available market price (as more fully described in the Master Trust Deed and/or relevant supplemental trust deed) on such securities exchange or whichever securities exchange shall be selected by the Manager in consultation with the Administrator;
- (c) securities not traded on a securities exchange but traded over-the-counter are valued as determined from any reliable source selected by the Manager in consultation with the Administrator;
- (d) "swaps" and other over-the-counter instruments held by the Series Trust are valued in good faith by the Manager based on quotations received from dealers deemed appropriate by the Manager in consultation with the Administrator;
- (e) short-term money market instruments and bank deposits are valued at the cost plus accrued interest;
- (f) if, on the date of which any valuation is being made, the exchange or market herein designated for the valuation of any given assets is not open for business, the valuation of such assets shall be made as of the last preceding date on which such exchange or market was open for business;
- (g) all other assets and liabilities shall be valued in good faith by the Manager in consultation with the Administrator, including assets and liabilities for which there is no identifiable market value;
- (h) net change in unrealised appreciation or depreciation comprises changes in the net asset value of investments for the year and the reversal of prior year's unrealised appreciation or depreciation for investments which were realised in the reporting year;
- (i) net realised gains and losses on the disposal of investments are calculated using the average cost method.

1.3 - Formation expenses

Formation expenses have been fully amortised.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2023)

Note 1 - Significant accounting policies (continued)**1.4 - Interest income**

Interest income is accrued on a daily basis and is recorded net of withholding tax.

1.5 - Foreign currency translation

Assets and liabilities expressed in currencies other than the US dollar ("USD") are translated into USD at exchange rates prevailing at year-end. Transactions in currencies other than USD are translated into USD at exchange rates prevailing at the transaction dates.

Net change in unrealised appreciation and depreciation and net realised gains or losses on foreign exchange are recorded in the statement of operations and changes in net assets for the year.

1.6 - Forward foreign currency exchange contracts

Forward foreign currency exchange contracts are valued at the forward rate applicable at the date of the statement of net assets for the remaining period until maturity.

Net change in unrealised appreciation and depreciation and net realised gains or losses resulting from forward foreign currency exchange contracts are recorded in the statement of operations and changes in net assets.

Note 2 - Trustee fees

The Trustee is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a trustee fee at a rate of 0.01% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable quarterly in arrears with a minimum of USD 15,000 per annum and a maximum of USD 30,000 per annum.

The fee set out above is subject to review on an annual basis. Where the Trustee is required to consider or engage in further activities, litigation or other exceptional matters, additional fees will be subject to further negotiation at the relevant time with the Manager and, in the absence of contrary agreement, additional fees will be charged by the Trustee at its hourly rates in effect from time to time.

Note 3 - Manager fees

The Manager is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.03% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2023)

Note 4 - Investment Manager fees

The Investment Manager is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.05% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 5 - Administrator fees

The Administrator is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.06% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 12,500 per year.

Note 6 - Custodian fees

The Custodian is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.04% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears with a minimum of EUR 3,000 per year.

Note 7 - Agent Company fees

The Agent Company is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.10% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 8 - Distributor fees and Sales Handling Company fees

The Distributor is entitled to receive out of the assets of the Series Trust a fee at the rate of 0.02% per annum of the net assets of the Series Trust, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

In addition to the above fee, the Distributor and the Sales Handling Company are each entitled to receive, out of the assets of the Series Trust, a fee at the rate of 1.15% per annum of the portion of the net assets of the Series Trust corresponding to the units handled by each of them, accrued on and calculated as at each valuation day and payable monthly in arrears.

Note 9 - Printing and publishing expenses

Expenses recorded under the caption "Printing and publishing expenses" in the statement of operations and changes in net assets are mainly composed of fees for production of annual and semi-annual reports and Japanese legal documents.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2023)

Note 10 - Forward foreign currency exchange contracts

As at November 30, 2023, the following forward foreign currency exchange contracts were open:

Forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Class JPY (Hedged) Unit

Currency	Sales	Currency	Purchases	Maturity date	Unrealised appreciation
					USD
USD	359,719.42	JPY	52,884,000.00	15/12/23	492.97
USD	11,018,935.24	JPY	1,655,830,000.00	15/12/23	258,931.75
Unrealised appreciation on forward foreign currency exchange contracts to cover the currency exposure of Class JPY (Hedged) Unit					259,424.72

Note 11 - Exchange rate

The exchange rate against USD as at November 30, 2023 used for the translation of the Series Trust's assets and liabilities not denominated in USD is as follows:

Currency	Exchange rate
JPY	147.1750

Note 12 - Taxation**12.1 - Cayman Islands**

There are no taxes on income or gains in the Cayman Islands and the Trust has received an undertaking from the Governor-in-Cabinet of the Cayman Islands exempting it from all local income, profits and capital taxes for a period of 50 years from the date of creation of the Trust. Accordingly, no provision for income taxes is included in these financial statements.

12.2 - Other countries

The Series Trust may be subject to withholding or other taxes on certain income sourced in other countries. Prospective investors should consult legal and tax advisers in the countries of their citizenship, residence and domicile to determine the possible tax or other consequences of purchasing, holding and repurchasing units under the laws of their respective jurisdiction.

Premium Funds - Global Core Equity Fund**Notes to the financial statements (continued)**

(As at November 30, 2023)

Note 13 - Terms of subscriptions and repurchases of units

Units may be issued and subscribed as of each issue day at the net asset value per unit as of the relevant issue day for the relevant unit ("Issue Price"), subject to the subscription notice procedure described in the Offering Memorandum and the relevant appendix to the Offering Memorandum (the "Appendix"). The Issue Price shall, subject to any suspension, be calculated and published by the Administrator on the relevant calculation day.

Units may be repurchased as of any repurchase day at the net asset value per unit as of the repurchase day for the units ("Repurchase Price"), subject to the repurchase notice procedure described in the Offering Memorandum and the Appendix. The Repurchase Price shall, subject to any suspension, be calculated and published by the Administrator on the relevant calculation day.

Note 14 - Related party transactions

The Manager, the Trustee, the Administrator and Custodian, the Distributor and Agent Company, the Investment Manager, and the Sales Handling Company are considered as related parties to the Series Trust.

The Investment Manager is considered as a related party to the Series Trust because it belongs to the same corporate group as the management company of the Underlying Fund.

Note 15 - Subsequent events

There has been no significant event after year-end up to the date of the auditor's opinion which, in the opinion of the Trustee and of the Manager, requires disclosure in the present financial statements.

スイッチング先サブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオおよびグローバル・コア債券ファンドの経理状況

グローバル・コア株式ファンドの米ドル建て受益証券および円建て（ヘッジあり）受益証券は、一時停止期間を除き、プレミアム・ファンズのサブ・ファンドであるウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型およびウェルス・コアポートフォリオ グロース型（以下、本段落において個別にまたは総称して「ウェルス・コアポートフォリオ」ということがある。）ならびにグローバル・コア債券ファンドのあらゆる受益証券間でのスイッチングを行うことができる。これらのスイッチング先サブ・ファンドについては、2025年5月30日に有価証券報告書が提出され、経理状況として直近2会計年度財務書類が開示されているため、本書においても当該財務書類の内容を記載する。なお、以下、ウェルス・コアポートフォリオの経理状況に関する記載において、ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型および/またはウェルス・コアポートフォリオ グロース型を個別にまたは総称して「サブ・ファンド」といい、受益証券の記載は、いずれもウェルス・コアポートフォリオの受益証券を指すものとする。また、グローバル・コア債券ファンドの経理状況に関する記載において、グローバル・コア債券ファンドを「サブ・ファンド」といい、受益証券の記載は、いずれもグローバル・コア債券ファンドの受益証券を指すものとする。

- a. サブ・ファンドの直近2会計年度の日本文の財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである。これは、「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第328条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. サブ・ファンドの原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるデロイト・アンド・トゥシュ・エルエルピーから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c. サブ・ファンドの原文の財務書類は、米ドルおよび日本円で表示されている。なお、各受益証券の情報に関しては、下記の通貨で表示されている。

- 1) 米ドル建て受益証券 = 米ドル
- 2) 円建て（ヘッジあり）受益証券 = 日本円
- 3) 米ドル建て承継機能付受益証券 = 米ドル

日本文の財務書類には、特段の記載のない限り、下記に挙げた通貨の2025年2月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値を使用して換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。日本円による金額は、四捨五入のため合計欄の数値が総数と一致しない場合がある。

1 米ドル = 149.67円

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型の財務書類

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

純資産計算書

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
（取得原価146,459,848.16米ドル			
（21,920,645千円））	1.2	184,158,161.96	27,562,952
銀行預金		3,209,585.16	480,379
受益証券販売未収金		22,844.21	3,419
投資有価証券売却未収金		40,146.00	6,009
資産合計		187,430,737.33	28,052,758
負債			
為替先渡取引に係る未実現評価損	1.6,9	1,434,396.55	214,686
受益証券買戻未払金		65,691.52	9,832
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	179,832.52	26,916
未払弁護士費用		8,509.75	1,274
未払印刷および公告費用		9,883.19	1,479
未払専門家費用		9,373.99	1,403
未払代行協会員報酬	7	13,835.19	2,071
未払管理事務代行会社報酬	5	9,298.30	1,392
未払保管会社報酬	6	6,192.77	927
未払管理会社報酬	3	4,611.60	690
未払受託会社報酬	2	3,086.62	462
その他の未払費用		742.39	111
負債合計		1,745,454.39	261,242
純資産		185,685,282.94	27,791,516
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		161,859,693.78	24,225,540
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		3,543,498,167円	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		232,938.49	34,864
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		12,840,981.354□	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		3,653,475.533□	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		21,830.801□	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		12.60	1,886円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		970円	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		10.67	1,597円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

損益および純資産変動計算書

2024年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	61,716.09	9,237
収益合計		61,716.09	9,237
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	2,190,641.96	327,873
代行協会員報酬	7	168,534.02	25,224
管理事務代行会社報酬	5	112,740.08	16,874
保管会社報酬	6	75,085.97	11,238
弁護士費用		27,755.66	4,154
管理会社報酬	3	56,176.52	8,408
受託会社報酬	2	18,686.23	2,797
印刷および公告費用		13,166.59	1,971
専門家費用		9,337.30	1,398
登録手数料		3,087.46	462
取引手数料		5.48	1
その他費用		1,802.10	270
費用合計		2,677,019.37	400,669
投資純損失		(2,615,303.28)	(391,432)
以下に係る実現純利益 / (損失)			
投資有価証券	1.2	6,179,566.49	924,896
外国為替	1.5	180,500.62	27,016
為替先渡取引	1.6	(1,064,247.50)	(159,286)
当期の投資純損失および実現純利益		2,680,516.33	401,193
以下に係る未実現評価益 / (損) の純変動額			
投資有価証券	1.2	16,843,704.32	2,520,997
為替先渡取引	1.6	(1,109,436.72)	(166,049)
運用による純資産の純増加額		18,414,783.93	2,756,141
資本の変動			
受益証券の販売		5,485,510.89	821,016
受益証券の買戻し		(25,267,325.78)	(3,781,761)
資本の純変動額		(19,781,814.89)	(2,960,744)
純資産、期首		187,052,313.90	27,996,120
純資産、期末		185,685,283.94	27,791,516

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

統計情報

発行済受益証券口数、 期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2022年11月30日	15,873,257.599 □	4,277,466.328 □	33,589.918 □
2023年11月30日	14,256,862.961 □	4,096,965.358 □	21,830.801 □
発行受益証券	366,834.487 □	164,932.494 □	-
買戻受益証券	(1,782,716.094)□	(608,422.319)□	-
2024年11月30日	12,840,981.354 □	3,653,475.533 □	21,830.801 □

純資産、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2022年11月30日	172,866,935.89米ドル （25,872,994千円）	4,029,122,724円	309,613.08米ドル （46,340千円）
2023年11月30日	161,183,025.68米ドル （24,124,263千円）	3,776,564,410円	208,921.92米ドル （31,269千円）
2024年11月30日	161,859,693.78米ドル （24,225,540千円）	3,543,498,167円	232,938.49米ドル （34,864千円）

受益証券1口当たり 純資産価格、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2022年11月30日	10.89米ドル （1,630円）	942円	9.22米ドル （1,380円）
2023年11月30日	11.31米ドル （1,693円）	922円	9.57米ドル （1,432円）
2024年11月30日	12.60米ドル （1,886円）	970円	10.67米ドル （1,597円）

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

投資有価証券明細表

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

数量	銘柄	通貨	取得原価	純資産評価額	比率 [*]
投資信託			米ドル	米ドル	%
1,279,498.10	Goldman Sachs Funds SICAV - Goldman Sachs Global Multi-Asset Conservative Portfolio Class I Share USD ACC	米ドル	146,459,848.16	184,158,161.96	99.18
投資信託合計			146,459,848.16	184,158,161.96	99.18
投資有価証券合計			146,459,848.16	184,158,161.96	99.18

投資有価証券の分類

2024年11月30日現在

投資有価証券の国別および業種別分類

国名	業種	比率 [*]
ルクセンブルグ		%
	信託、ファンドおよび類似の金融事業体	99.18
		99.18
投資有価証券合計		99.18

添付の注記は、本財務書類の一部である。

（^{*}）百分率で表示された純資産に対する純資産評価額の比率

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

純資産計算書

2023年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
（取得原価164,962,716.67米ドル			
（24,689,970千円））	1.2	185,817,326.15	27,811,279
銀行預金		1,810,944.77	271,044
投資有価証券売却未収金		141,625.00	21,197
受益証券販売未収金		167.95	25
資産合計		187,770,063.87	28,103,545
負債			
為替先渡取引に係る未実現純評価損	1.6,10	324,959.82	48,637
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	180,376.66	26,997
受益証券買戻未払金		141,334.37	21,154
未払印刷および公告費用		16,082.49	2,407
未払代行協会員報酬	7	13,876.99	2,077
未払専門家費用		13,350.14	1,998
未払管理事務代行会社報酬	5	9,268.32	1,387
未払保管会社報酬	6	6,172.79	924
未払管理会社報酬	3	4,625.58	692
未払弁護士費用		3,603.57	539
未払受託会社報酬	2	3,130.59	469
その他の未払費用		968.65	145
負債合計		717,749.97	107,426
純資産		187,052,313.90	27,996,120
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		161,183,025.68	24,124,263
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		3,776,564,410円	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		208,921.92	31,269
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		14,256,862.961口	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		4,096,965.358口	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		21,830.801口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		11.31	1,693円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		922円	
米ドル建て承継機能付クラス受益証券		9.57	1,432円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

損益および純資産変動計算書

2023年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	69,896.69	10,461
収益合計		69,896.69	10,461
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	2,297,323.11	343,840
代行協会員報酬	7	176,741.52	26,453
管理事務代行会社報酬	5	118,048.08	17,668
保管会社報酬	6	78,621.20	11,767
管理会社報酬	3	58,912.54	8,817
弁護士費用		24,645.15	3,689
印刷および公告費用	9	24,279.30	3,634
受託会社報酬	2	19,723.02	2,952
専門家費用		13,820.20	2,068
登録手数料		2,630.93	394
その他費用		1,897.88	284
費用合計		2,816,642.93	421,567
投資純損失		(2,746,746.24)	(411,106)
以下に係る実現純利益 / (損失)			
投資有価証券	1.2	3,396,582.67	508,367
外国為替	1.5	106,512.73	15,942
為替先渡取引	1.6	(2,541,847.97)	(380,438)
当期の投資純損失および実現純利益		(1,785,498.81)	(267,236)
以下に係る未実現評価益 / (損) の純変動額			
投資有価証券	1.2	6,633,873.87	992,892
為替先渡取引	1.6	(814,886.14)	(121,964)
運用による純資産の純増加額		4,033,488.92	603,692
資本の変動			
受益証券の販売		4,806,945.78	719,456
受益証券の買戻し		(24,029,618.64)	(3,596,513)
資本の純変動額		(19,222,672.86)	(2,877,057)
純資産、期首		202,241,497.84	30,269,485
純資産、期末		187,052,313.90	27,996,120

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

統計情報

発行済受益証券口数、 期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2021年11月30日	21,566,605.649 □	4,856,592.185 □	53,920.027 □
2022年11月30日	15,873,257.599 □	4,277,466.328 □	33,589.918 □
発行受益証券	263,708.871 □	280,192.744 □	-
買戻受益証券	(1,880,103.509)□	(460,693.714)□	(11,759.117)□
2023年11月30日	14,256,862.961 □	4,096,965.358 □	21,830.801 □

純資産、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2021年11月30日	273,985,309.49米ドル (41,007,381千円)	5,478,471,743円	584,408.21米ドル (87,468千円)
2022年11月30日	172,866,935.89米ドル (25,872,994千円)	4,029,122,724円	309,613.08米ドル (46,340千円)
2023年11月30日	161,183,025.68米ドル (24,124,263千円)	3,776,564,410円	208,921.92米ドル (31,269千円)

受益証券 1 口当たり 純資産価格、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券	米ドル建て承継機能付 クラス受益証券
2021年11月30日	12.70米ドル (1,901円)	1,128円	10.84米ドル (1,622円)
2022年11月30日	10.89米ドル (1,630円)	942円	9.22米ドル (1,380円)
2023年11月30日	11.31米ドル (1,693円)	922円	9.57米ドル (1,432円)

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型

財務書類に対する注記

2023年11月30日現在

注１．重要な会計方針

1.1 財務書類の表示

本財務書類は、投資信託に適用されるルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従い作成されている。

1.2 投資有価証券およびその他の資産の評価

- （a）集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、関連する評価日現在の最新の入手可能な純資産額で評価される（ただし、当該評価日現在の純資産額を入手できない場合には、その直前日の純資産額を使用するものとする）。
- （b）証券取引所で取引されている有価証券は、かかる証券取引所、または管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した証券取引所の最新の入手可能な市場価格（詳細は基本信託証書および／または関連する信託証書補遺に記載されている）で評価する。
- （c）証券取引所では取引されていないが店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した信頼性の高い情報源に基づいて評価する。
- （d）サブ・ファンドが保有している「スワップ」およびその他の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適格とみなしたディーラーから入手した相場価格に基づいて、管理会社により誠実に評価する。
- （e）短期金融商品および銀行預金は、取得原価に経過利息を加えた額で評価する。
- （f）評価を行う日に特定の資産の評価に関して指定された証券取引所または市場が営業していない場合、かかる資産の評価は、かかる証券取引所または市場の直前の営業日に行われる。
- （g）その他のすべての資産および負債は、識別可能な市場価格のない資産および負債を含め、管理事務代行会社と協議した上で管理会社により誠実に評価する。
- （h）未実現評価損益の純変動額は当会計年度に係る投資有価証券の純資産評価額の変動および投資有価証券に係る過年度の未実現評価損益が当会計年度に実現したことによる戻入れから構成される。
- （i）投資有価証券の売却に係る実現純損益は平均原価法を用いて算定される。

1.3 設立費用

設立費用は、全額償却された。

1.4 受取利息

受取利息は、日次ベースの発生主義で、かつ源泉徴収税を控除して計上される。

1.5 外貨換算

米ドル以外の通貨建ての資産および負債は期末時点の実勢為替レートで米ドルに換算される。米ドル以外の通貨建取引は当該取引日の実勢為替レートで米ドルに換算される。

為替に係る未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、当会計年度の損益および純資産変動計算書に計上される。

1.6 為替先渡取引

為替先渡取引は、満期までの残存期間について純資産計算書の日付時点で適用される先渡レートで評価される。

為替先渡取引によって生じた未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、損益および純資産変動計算書に計上される。

注2．受託会社報酬

受託会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎四半期後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.01%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間15,000米ドル、最高額は年間30,000米ドル）。

上記の報酬は、毎年見直される。受託会社が追加的な活動、訴訟、もしくはその他の非経常的な事項の対応または従事することを求められる場合には、その時点で管理会社との追加的な交渉がなされ、反対の合意がない限り、受託会社により、その時点で適用される時間料金の追加報酬が請求されることになる。

注3．管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.03%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注4．投資運用会社報酬

投資運用会社は、投資先ファンドの資産から報酬を受け取るため、サブ・ファンドの資産から報酬を受け取っていない。

注5．管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間12,500ユーロ）。

注6．保管会社報酬

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間3,000ユーロ）。

注7．代行協会員報酬

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.09%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 8 . 販売会社報酬および販売取扱会社報酬

販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.02%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.15%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 9 . 印刷および公告費用

損益および純資産変動計算書の「印刷および公告費用」に計上されている費用は、主に英文年次報告書および英文半期報告書ならびに日本の法令に基づく書類等の作成にかかる費用で構成されている。

注10 . 為替先渡取引

2023年11月30日現在、以下の為替先渡取引は未決済である。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価益 / (損) 米ドル
米ドル	846,717.03	日本円	126,500,000.00	2023年12月20日	15,581.63
米ドル	26,639,796.82	日本円	3,860,000,000.00	2023年12月20日	(325,123.64)
日本円	113,500,000.00	米ドル	769,591.13	2023年12月20日	(4,124.30)
日本円	112,300,000.00	米ドル	754,217.93	2023年12月20日	(11,293.51)
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現純評価損					(324,959.82)

注11 . 為替レート

サブ・ファンドの米ドル以外の通貨建ての資産および負債の換算に使用された2023年11月30日現在の米ドルに対する為替レートは、以下の通りである。

通貨	為替レート
日本円	147.1750

注12．税金

12.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島では所得または利得には課税されず、ファンドはファンドの設定日から50年間はケイマン諸島の地方税、利益税または資本税をすべて免除する旨の保証をケイマン諸島総督から取り付けている。したがって、本財務書類には法人税等引当金という勘定科目が含まれていない。

12.2 その他の国々

サブ・ファンドは、その他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。受益証券を購入しようとする者は、各々の法域で適用される法律の下で、受益証券の購入、保有および買戻しに対して発生が見込まれる税金およびその他の影響を判断するため、各自が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に相談すべきである。

注13．受益証券の販売および買戻しの条件

受益証券は、英文目論見書および英文目論見書に関連する付属書類（以下「付属書類」という）に記載されている買付申込通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する発行日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という）で発行され、販売される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、英文目論見書および付属書類に記載されている買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、かかる受益証券の買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

注14．関連当事者取引

管理会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社、販売会社および代行協会員、投資運用会社ならびに販売取扱会社はサブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

投資運用会社は、投資先ファンドの管理会社と同じ企業グループに属しているため、サブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

注15．決算日後の状況

受託会社および管理会社の意見では、当期の財務書類において開示が必要な決算日後監査報告書日までに生じた重要な事象はなかった。

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型の財務書類

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

純資産計算書

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額 （取得原価92,732,215.49米ドル （13,879,231千円））	1.2	136,434,782.29	20,420,194
銀行預金		2,715,490.24	406,427
受益証券販売未収金		94,858.63	14,197
投資有価証券売却未収金		87,759.00	13,135
資産合計		139,332,890.16	20,853,954
負債			
為替先渡取引に係る未実現評価損	1.6,9	1,173,147.02	175,585
投資有価証券購入未払金		18,952.00	2,837
受益証券買戻未払金		165,872.00	24,826
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	133,280.78	19,948
未払弁護士費用		8,651.82	1,295
未払印刷および公告費用		9,883.36	1,479
未払専門家費用		9,373.92	1,403
未払代行協会員報酬	7	10,253.83	1,535
未払管理事務代行会社報酬	5	6,896.50	1,032
未払保管会社報酬	6	4,593.13	687
未払管理会社報酬	3	3,417.87	512
未払受託会社報酬	2	2,472.21	370
その他の未払費用		860.52	129
負債合計		1,547,654.96	231,638
純資産		137,785,235.20	20,622,316
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		119,709,672.55	17,916,947
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		2,714,859,132円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		7,142,293.749口	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		2,046,233.143口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		16.76	2,508円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,327円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

損益および純資産変動計算書

2024年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	45,787.11	6,853
収益合計		45,787.11	6,853
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	1,578,514.29	236,256
代行協会員報酬	7	121,441.04	18,176
管理事務代行会社報酬	5	81,230.67	12,158
保管会社報酬	6	54,100.37	8,097
弁護士費用		25,619.09	3,834
管理会社報酬	3	40,479.66	6,059
受託会社報酬	2	14,917.59	2,233
印刷および公告費用		13,052.49	1,954
専門家費用		9,337.30	1,398
登録手数料		3,087.26	462
その他費用		1,892.85	283
費用合計		1,943,672.61	290,909
投資純損失		(1,897,885.50)	(284,057)
以下に係る実現純利益 / （損失）			
投資有価証券	1.2	7,773,470.36	1,163,455
外国為替	1.5	84,184.75	12,600
為替先渡取引	1.6	(614,376.02)	(91,954)
当期の投資純損失および実現純利益		5,345,393.59	800,045
以下に係る未実現評価益 / （損）の純変動額			
投資有価証券	1.2	17,981,181.95	2,691,244
為替先渡取引	1.6	(941,957.35)	(140,983)
運用による純資産の純増加額		22,384,618.19	3,350,306
資本の変動			
受益証券の販売		7,813,375.06	1,169,428
受益証券の買戻し		(21,707,614.84)	(3,248,979)
資本の純変動額		(13,894,239.78)	(2,079,551)
純資産、期首		129,294,856.79	19,351,561
純資産、期末		137,785,235.20	20,622,316

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

統計情報

発行済受益証券口数、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
2022年11月30日	8,654,138.967 □	2,410,418.935 □
2023年11月30日	7,872,849.864 □	2,367,733.141 □
発行受益証券	276,525.347 □	419,586.276 □
買戻受益証券	(1,007,081.462)□	(741,086.274)□
2024年11月30日	7,142,293.749 □	2,046,233.143 □

純資産、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
2022年11月30日	113,455,507.92米ドル (16,980,886千円)	2,803,648,273円
2023年11月30日	110,438,816.63米ドル (16,529,378千円)	2,775,137,711円
2024年11月30日	119,709,672.55米ドル (17,916,947千円)	2,714,859,132円

受益証券 1 口当たり純資産価格、期末	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
2022年11月30日	13.11米ドル (1,962円)	1,163円
2023年11月30日	14.03米ドル (2,100円)	1,172円
2024年11月30日	16.76米ドル (2,508円)	1,327円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

投資有価証券明細表

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

数量	銘柄	通貨	取得原価	純資産評価額	比率 [*]
投資信託			米ドル	米ドル	%
	Goldman Sachs Funds SICAV - Goldman Sachs				
723,139.78	Global Multi-Asset Growth Portfolio Class I Share USD ACC	米ドル	92,732,215.49	136,434,782.29	99.02
投資信託合計			92,732,215.49	136,434,782.29	99.02
投資有価証券合計			92,732,215.49	136,434,782.29	99.02

投資有価証券の分類

2024年11月30日現在

投資有価証券の国別および業種別分類

国名	業種	比率 [*]
ルクセンブルグ		%
	信託、ファンドおよび類似の金融事業体	99.02
		99.02
投資有価証券合計		99.02

添付の注記は、本財務書類の一部である。

（^{*}）百分率で表示された純資産に対する純資産評価額の比率

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

純資産計算書

2023年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
（取得原価102,645,745.17米ドル			
（15,362,989千円））			
	1.2	128,367,130.02	19,212,708
銀行預金		1,340,933.36	200,697
受益証券販売未収金		51,428.01	7,697
投資有価証券売却未収金		48,685.00	7,287
資産合計		129,808,176.39	19,428,390
負債			
為替先渡取引に係る未実現純評価損	1.6,10	231,189.67	34,602
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	124,189.03	18,587
受益証券買戻未払金		96,309.94	14,415
未払印刷および公告費用		16,114.25	2,412
未払専門家費用		13,350.07	1,998
未払代行協会員報酬	7	9,554.30	1,430
未払管理事務代行会社報酬	5	6,381.51	955
未払弁護士費用		5,381.92	806
未払保管会社報酬	6	4,250.14	636
未払管理会社報酬	3	3,184.72	477
未払受託会社報酬	2	2,554.62	382
その他の未払費用		859.43	129
負債合計		513,319.60	76,829
純資産		129,294,856.79	19,351,561
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		110,438,816.63	16,529,378
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		2,775,137,711円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		7,872,849.864口	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		2,367,733.141口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		14.03	2,100円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,172円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

損益および純資産変動計算書

2023年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	49,869.98	7,464
収益合計		49,869.98	7,464
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	1,550,393.33	232,047
代行協会員報酬	7	119,277.43	17,852
管理事務代行会社報酬	5	79,672.42	11,925
保管会社報酬	6	53,062.51	7,942
管理会社報酬	3	39,758.55	5,951
印刷および公告費用	9	24,122.27	3,610
弁護士費用		21,735.47	3,253
受託会社報酬	2	15,041.18	2,251
専門家費用		13,820.02	2,068
登録手数料		2,690.64	403
その他費用		1,747.95	262
費用合計		1,921,321.77	287,564
投資純損失		(1,871,451.79)	(280,100)
以下に係る実現純利益 / (損失)			
投資有価証券	1.2	3,780,140.89	565,774
外国為替	1.5	80,633.97	12,068
為替先渡取引	1.6	(1,929,427.51)	(288,777)
当期の投資純損失および実現純利益		59,895.56	8,965
以下に係る未実現評価益 / (損) の純変動額			
投資有価証券	1.2	7,056,048.18	1,056,079
為替先渡取引	1.6	(538,341.16)	(80,574)
運用による純資産の純増加額		6,577,602.58	984,470
資本の変動			
受益証券の販売		3,918,075.82	586,418
受益証券の買戻し		(14,881,053.19)	(2,227,247)
資本の純変動額		(10,962,977.37)	(1,640,829)
純資産、期首		133,680,231.58	20,007,920
純資産、期末		129,294,856.79	19,351,561

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

統計情報

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
発行済受益証券口数、期末		
2021年11月30日	10,369,121.252 □	2,180,068.395 □
2022年11月30日	8,654,138.967 □	2,410,418.935 □
発行受益証券	152,944.198 □	216,903.042 □
買戻受益証券	(934,233.301)□	(259,588.836)□
2023年11月30日	7,872,849.864 □	2,367,733.141 □

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
純資産、期末		
2021年11月30日	157,338,384.51米ドル (23,548,836千円)	3,007,216,114円
2022年11月30日	113,455,507.92米ドル (16,980,886千円)	2,803,648,273円
2023年11月30日	110,438,816.63米ドル (16,529,378千円)	2,775,137,711円

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
受益証券1口当たり純資産価格、期末		
2021年11月30日	15.17米ドル (2,270円)	1,379円
2022年11月30日	13.11米ドル (1,962円)	1,163円
2023年11月30日	14.03米ドル (2,100円)	1,172円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ ウェルス・コアポートフォリオ グロース型

財務書類に対する注記

2023年11月30日現在

注１．重要な会計方針

1.1 財務書類の表示

本財務書類は、投資信託に適用されるルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従い作成されている。

1.2 投資有価証券およびその他の資産の評価

- (a) 集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、関連する評価日現在の最新の入手可能な純資産額で評価される（ただし、当該評価日現在の純資産額を入手できない場合には、その直前日の純資産額を使用するものとする）。
- (b) 証券取引所で取引されている有価証券は、かかる証券取引所、または管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した証券取引所の最新の入手可能な市場価格（詳細は基本信託証書および／または関連する信託証書補遺に記載されている）で評価する。
- (c) 証券取引所では取引されていないが店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した信頼性の高い情報源に基づいて評価する。
- (d) サブ・ファンドが保有している「スワップ」およびその他の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適格とみなしたディーラーから入手した相場価格に基づいて、管理会社により誠実に評価する。
- (e) 短期金融商品および銀行預金は、取得原価に経過利息を加えた額で評価する。
- (f) 評価を行う日に特定の資産の評価に関して指定された証券取引所または市場が営業していない場合、かかる資産の評価は、かかる証券取引所または市場の直前の営業日に行われる。
- (g) その他のすべての資産および負債は、識別可能な市場価格のない資産および負債を含め、管理事務代行会社と協議した上で管理会社により誠実に評価する。
- (h) 未実現評価損益の純変動額は当会計年度に係る投資有価証券の純資産評価額の変動および投資有価証券に係る過年度の未実現評価損益が当会計年度に実現したことによる戻入れから構成される。
- (i) 投資有価証券の売却に係る実現純損益は平均原価法を用いて算定される。

1.3 設立費用

設立費用は全額償却された。

1.4 受取利息

受取利息は、日次ベースの発生主義で、かつ源泉徴収税を控除して計上される。

1.5 外貨換算

米ドル以外の通貨建ての資産および負債は期末時点の実勢為替レートで米ドルに換算される。米ドル以外の通貨建取引は当該取引日の実勢為替レートで米ドルに換算される。

為替に係る未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、当会計年度の損益および純資産変動計算書に計上される。

1.6 為替先渡取引

為替先渡取引は、満期までの残存期間について純資産計算書の日付時点で適用される先渡レートで評価される。

為替先渡取引によって生じた未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、損益および純資産変動計算書に計上される。

注2．受託会社報酬

受託会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎四半期後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.01%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間15,000米ドル、最高額は年間30,000米ドル）。

上記の報酬は、毎年見直される。受託会社が追加的な活動、訴訟、もしくはその他の非経常的な事項の対応または従事することを求められる場合には、その時点で管理会社との追加的な交渉がなされ、反対の合意がない限り、受託会社により、その時点で適用される時間料金の追加報酬が請求されることになる。

注3．管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.03%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注4．投資運用会社報酬

投資運用会社は、投資先ファンドの資産から報酬を受け取るため、サブ・ファンドの資産から報酬を受け取っていない。

注5．管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間12,500ユーロ）。

注6．保管会社報酬

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間3,000ユーロ）。

注7．代行協会員報酬

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.09%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 8 . 販売会社報酬および販売取扱会社報酬

販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.02%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.15%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 9 . 印刷および公告費用

損益および純資産変動計算書の「印刷および公告費用」に計上されている費用は、主に英文年次報告書および英文半期報告書ならびに日本の法令に基づく書類等の作成にかかる費用で構成されている。

注10 . 為替先渡取引

2023年11月30日現在、以下の為替先渡取引は未決済である。

円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーをカバーする為替先渡取引

通貨	売却	通貨	購入	満期日	未実現評価益 / (損) 米ドル
米ドル	796,516.41	日本円	119,000,000.00	2023年12月20日	14,657.82
米ドル	19,418,465.66	日本円	2,813,658,000.00	2023年12月20日	(236,991.38)
日本円	90,000,000.00	米ドル	605,766.97	2023年12月20日	(7,737.17)
日本円	83,158,000.00	米ドル	565,765.10	2023年12月20日	(1,118.94)
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の通貨エクスポージャーを カバーする為替先渡取引に係る未実現純評価損					(231,189.67)

注11 . 為替レート

サブ・ファンドの米ドル以外の通貨建ての資産および負債の換算に使用された2023年11月30日現在の米ドルに対する為替レートは、以下の通りである。

通貨	為替レート
日本円	147.1750

注12．税金

12.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島では所得または利得には課税されず、ファンドはファンドの設定日から50年間はケイマン諸島の地方税、利益税または資本税をすべて免除する旨の保証をケイマン諸島総督から取り付けている。したがって、本財務書類には法人税等引当金という勘定科目が含まれていない。

12.2 その他の国々

サブ・ファンドは、その他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。受益証券を購入しようとする者は、各々の法域で適用される法律の下で、受益証券の購入、保有および買戻しに対して発生が見込まれる税金およびその他の影響を判断するため、各自が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に相談すべきである。

注13．受益証券の販売および買戻しの条件

受益証券は、英文目論見書および英文目論見書に関連する付属書類（以下「付属書類」という）に記載されている購入申込通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する発行日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という）で発行され、販売される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、英文目論見書および付属書類に記載されている買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、かかる受益証券の買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

注14．関連当事者取引

管理会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社、販売会社および代行協会員、投資運用会社ならびに販売取扱会社はサブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

投資運用会社は、投資先ファンドの管理会社と同じ企業グループに属しているため、サブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

注15．決算日後の状況

受託会社および管理会社の意見では、当期の財務書類において開示が必要な決算日後監査報告書日までに生じた重要な事象はなかった。

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンドの財務書類

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

純資産計算書

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
（取得原価84,759,063.62米ドル			
（12,685,889千円））	1.2	98,127,885.80	14,686,801
銀行預金		555,424.21	83,130
受益証券販売未収金		50,066.58	7,493
資産合計		98,733,376.59	14,777,424
負債			
受益証券買戻未払金		45,421.56	6,798
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	87,791.15	13,140
未払投資先ファンド管理・顧問報酬	10	65,185.99	9,756
未払弁護士費用		15,156.06	2,268
未払印刷および公告費用		12,789.95	1,914
未払専門家費用		9,336.56	1,397
未払代行協会員報酬	7	8,202.48	1,228
未払管理事務代行会社報酬	5	4,926.43	737
未払保管会社報酬	6	3,280.98	491
未払管理会社報酬	3	2,461.69	368
未払受託会社報酬	2	2,474.63	370
未払投資運用会社報酬	4	4,096.39	613
その他の未払費用		898.58	134
負債合計		262,022.45	39,217
純資産		98,471,354.14	14,738,208
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		88,624,740.72	13,264,465
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,478,912,103円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		7,843,563.374口	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,568,070.898口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		11.30	1,691円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		943円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

損益および純資産変動計算書

2024年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	24,787.06	3,710
収益合計		24,787.06	3,710
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	1,042,863.67	156,085
代行協会員報酬	7	97,436.27	14,583
投資先ファンド管理・顧問報酬	10	386,596.99	57,862
管理事務代行会社報酬	5	58,520.87	8,759
保管会社報酬	6	38,974.33	5,833
弁護士費用		32,047.35	4,797
管理会社報酬	3	29,241.67	4,377
投資運用会社報酬	4	48,660.47	7,283
受託会社報酬	2	14,943.79	2,237
印刷および公告費用		13,795.39	2,065
専門家費用		9,344.77	1,399
登録手数料		3,083.00	461
設立費用の償却	1.3	2,060.17	308
銀行利息		17.16	3
その他費用		2,145.93	321
費用合計		1,779,731.83	266,372
投資純損失		(1,754,944.77)	(262,663)
以下に係る実現純利益 / （損失）			
投資有価証券	1.2	1,008,423.17	150,931
外国為替	1.5	(204,763.05)	(30,647)
当期の投資純損失および実現純利益		(951,284.65)	(142,379)
以下に係る未実現評価益の純変動額			
投資有価証券	1.2	6,223,349.24	931,449
運用による純資産の純増加額		5,272,064.59	789,070
資本の変動			
受益証券の販売		14,635,292.78	2,190,464
受益証券の買戻し		(16,552,678.44)	(2,477,439)
資本の純変動額		(1,917,385.66)	(286,975)
純資産、期首		95,116,675.21	14,236,113
純資産、期末		98,471,354.14	14,738,208

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

統計情報

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
発行済受益証券口数、期末		
2022年11月30日	7,522,209.760 □	1,230,670.445 □
2023年11月30日	8,035,167.105 □	1,538,043.491 □
発行受益証券	1,084,130.850 □	430,939.033 □
買戻受益証券	(1,275,734.581) □	(400,911.626) □
2024年11月30日	7,843,563.374 □	1,568,070.898 □

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
純資産、期末		
2022年11月30日	77,734,238.67米ドル (11,634,484千円)	1,191,073,628円
2023年11月30日	85,307,752.93米ドル (12,768,011千円)	1,443,628,136円
2024年11月30日	88,624,740.72米ドル (13,264,465千円)	1,478,912,103円

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
受益証券1口当たり純資産価格、期末		
2022年11月30日	10.33米ドル (1,546円)	968円
2023年11月30日	10.62米ドル (1,589円)	939円
2024年11月30日	11.30米ドル (1,691円)	943円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

投資有価証券明細表

2024年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

数量	銘柄	通貨	取得原価	純資産評価額	比率 [*]
投資信託			米ドル	米ドル	%
700,638.06	JPMorgan Funds - Global Bond Opportunities Fund - JPM Global Bond Opportunities X (acc) - USD**	米ドル	74,864,581.10	88,301,414.07	89.67
139,603.38	JPMorgan Funds - Global Bond Opportunities Fund - JPM Global Bond Opportunities X (acc) - JPY (hedged)***	日本円	9,894,482.52	9,826,471.73	9.98
投資信託合計			84,759,063.62	98,127,885.80	99.65
投資有価証券合計			84,759,063.62	98,127,885.80	99.65

投資有価証券の分類

2024年11月30日現在

投資有価証券の国別および業種別分類

国名	業種	比率 [*]
ルクセンブルグ		%
	信託、ファンドおよび類似の金融事業体	99.65
		99.65
投資有価証券合計		99.65

添付の注記は、本財務書類の一部である。

（^{*}） 百分率で表示された純資産に対する純資産評価額の比率（^{**}） 米ドル建てクラス受益証券の投資先ファンド（^{***}） 円建て（ヘッジあり）クラス受益証券の投資先ファンド

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

純資産計算書

2023年11月30日現在

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券 - 純資産評価額			
（取得原価87,813,555.36米ドル			
（13,143,055千円））	1.2	94,959,028.30	14,212,518
受益証券販売未収金		916,322.29	137,146
銀行預金		327,813.76	49,064
設立費用（純額）	1.3	2,069.58	310
資産合計		96,205,233.93	14,399,037
負債			
投資有価証券購入未払金		555,000.00	83,067
受益証券買戻未払金		310,810.83	46,519
未払販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	83,151.79	12,445
未払投資先ファンド管理・顧問報酬	9	62,842.34	9,406
未払印刷および公告費用		22,591.61	3,381
未払弁護士費用		15,567.53	2,330
未払専門家費用		13,364.31	2,000
未払代行協会員報酬	7	7,768.97	1,163
未払管理事務代行会社報酬	5	4,666.24	698
未払投資運用会社報酬	4	3,879.90	581
未払保管会社報酬	6	3,107.66	465
未払受託会社報酬	2	2,559.07	383
未払管理会社報酬	3	2,331.52	349
その他の未払費用		916.95	137
負債合計		1,088,558.72	162,925
純資産		95,116,675.21	14,236,113
純資産			
米ドル建てクラス受益証券		85,307,752.93	12,768,011
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,443,628,136円	
発行済受益証券口数			
米ドル建てクラス受益証券		8,035,167.105口	
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		1,538,043.491口	
受益証券1口当たり純資産価格			
米ドル建てクラス受益証券		10.62	1,589円
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券		939円	

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

損益および純資産変動計算書

2023年11月30日終了会計年度

（表示通貨：米ドル）

	注	米ドル	千円
収益			
銀行利息	1.4	21,791.32	3,262
収益合計		21,791.32	3,262
費用			
販売会社報酬および販売取扱会社報酬	8	984,637.58	147,371
投資先ファンド管理・顧問報酬	9	367,435.46	54,994
代行協会員報酬	7	91,995.84	13,769
管理事務代行会社報酬	5	55,254.19	8,270
投資運用会社報酬	4	45,943.33	6,876
保管会社報酬	6	36,798.73	5,508
印刷および公告費用	10	32,786.51	4,907
弁護士費用		29,200.29	4,370
管理会社報酬	3	27,608.68	4,132
設立費用の償却	1.3	20,381.70	3,051
受託会社報酬	2	15,026.67	2,249
専門家費用		13,587.75	2,034
登録手数料		2,674.77	400
銀行利息		56.36	8
その他費用		2,372.64	355
費用合計		1,725,760.50	258,295
投資純損失		(1,703,969.18)	(255,033)
以下に係る実現純利益 / (損失)			
投資有価証券	1.2	435,407.16	65,167
外国為替	1.5	(610,521.10)	(91,377)
当期の投資純損失および実現純損失		(1,879,083.12)	(281,242)
以下に係る未実現評価益 / (損) の純変動額			
投資有価証券	1.2	3,130,857.30	468,595
為替先渡取引	1.6	(0.80)	(0)
運用による純資産の純増加額		1,251,773.38	187,353
資本の変動			
受益証券の販売		20,713,019.84	3,100,118
受益証券の買戻し		(13,174,424.10)	(1,971,816)
資本の純変動額		7,538,595.74	1,128,302
純資産、期首		86,326,306.09	12,920,458
純資産、期末		95,116,675.21	14,236,113

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

統計情報

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
発行済受益証券口数、期末		
2021年11月30日	12,903,424.818 □	2,064,760.631 □
2022年11月30日	7,522,209.760 □	1,230,670.445 □
発行受益証券	1,594,993.479 □	575,720.239 □
買戻受益証券	(1,082,036.134)□	(268,347.193)□
2023年11月30日	8,035,167.105 □	1,538,043.491 □

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
純資産、期末		
2021年11月30日	143,501,567.13米ドル （21,477,880千円）	2,205,932,550円
2022年11月30日	77,734,238.67米ドル （11,634,484千円）	1,191,073,628円
2023年11月30日	85,307,752.93米ドル （12,768,011千円）	1,443,628,136円

	米ドル建て クラス受益証券	円建て（ヘッジあり） クラス受益証券
受益証券1口当たり純資産価格、期末		
2021年11月30日	11.12米ドル （1,664円）	1,068円
2022年11月30日	10.33米ドル （1,546円）	968円
2023年11月30日	10.62米ドル （1,589円）	939円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

プレミアム・ファンズ グローバル・コア債券ファンド

財務書類に対する注記

2023年11月30日現在

注 1 . 重要な会計方針

1.1 財務書類の表示

本財務書類は、投資信託に適用されるルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従い作成されている。

1.2 投資有価証券およびその他の資産の評価

- (a) 集団投資スキーム、投資信託およびミューチュアル・ファンドは、関連する評価日現在の最新の入手可能な純資産額で評価される（ただし、当該評価日現在の純資産額を入手できない場合には、その直前日の純資産額を使用するものとする）。
- (b) 証券取引所で取引されている有価証券は、かかる証券取引所、または管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した証券取引所の最新の入手可能な市場価格（詳細は基本信託証書および／または関連する信託証書補遺に記載されている）で評価する。
- (c) 証券取引所では取引されていないが店頭市場で取引されている有価証券は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が選択した信頼性の高い情報源に基づいて評価する。
- (d) サブ・ファンドが保有している「スワップ」およびその他の店頭商品は、管理事務代行会社と協議した上で管理会社が適格とみなしたディーラーから入手した相場価格に基づいて、管理会社により誠実に評価する。
- (e) 短期金融商品および銀行預金は、取得原価に経過利息を加えた額で評価する。
- (f) 評価を行う日に特定の資産の評価に関して指定された証券取引所または市場が営業していない場合、かかる資産の評価は、かかる証券取引所または市場の直前の営業日に行われる。
- (g) その他のすべての資産および負債は、識別可能な市場価格のない資産および負債を含め、管理事務代行会社と協議した上で管理会社により誠実に評価する。
- (h) 未実現評価損益の純変動額は当会計年度に係る投資有価証券の純資産評価額の変動および投資有価証券に係る過年度の未実現評価損益が当会計年度に実現したことによる戻入れから構成される。
- (i) 投資有価証券の売却に係る実現純損益は平均原価法を用いて算定される。

1.3 設立費用

設立費用は、受託会社または管理会社が別の方法によることを決定しない限り、サブ・ファンドの最初の5会計年度以内に償却される。

1.4 受取利息

受取利息は、日次ベースの発生主義で、かつ源泉徴収税を控除して計上される。

1.5 外貨換算

米ドル以外の通貨建ての資産および負債は期末時点の実勢為替レートで米ドルに換算される。米ドル以外の通貨建取引は当該取引日の実勢為替レートで米ドルに換算される。

為替に係る未実現評価損益の純変動額および実現純損益は、当会計年度の損益および純資産変動計算書に計上される。

1.6 為替先渡取引

為替先渡取引は、満期までの残存期間について純資産計算書の日付時点で適用される先渡レートで評価される。

為替先渡取引によって生じた未実現評価損益の純変動額および実現純損益は損益および純資産変動計算書に計上される。

注 2．受託会社報酬

受託会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎四半期後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.01%の受託会社報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間15,000米ドル、最高額は年間30,000米ドル）。

上記の報酬は、毎年見直される。受託会社が追加的な活動、訴訟、もしくはその他の非経常的な事項の対応または従事することを求められる場合には、その時点で管理会社との追加的な交渉がなされ、反対の合意がない限り、受託会社により、その時点で適用される時間料金の追加報酬が請求されることになる。

注 3．管理会社報酬

管理会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.03%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 4．投資運用会社報酬

投資運用会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 5．管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.06%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間16,000ユーロ）。

注 6．保管会社報酬

保管会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.04%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する（最低額は年間4,000ユーロ）。

注 7．代行協会員報酬

代行協会員は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.10%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 8．販売会社報酬および販売取扱会社報酬

販売会社は、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、サブ・ファンドの純資産の年率0.02%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

上記報酬の他に、販売会社および販売取扱会社はそれぞれ、各評価日に発生しかつ計算され毎月後払いされる、各社が取り扱う受益証券に対応するサブ・ファンドの純資産部分の年率1.05%の報酬をサブ・ファンドの資産から受け取る権利を有する。

注 9．投資先ファンド管理・顧問報酬

サブ・ファンドは、投資先ファンドへの投資に関連して、参照期間中、投資先ファンドの平均日次純資産評価額の0.40%の年次管理・顧問報酬を負担する。当該報酬は、投資先ファンドによりサブ・ファンドに対して四半期毎に請求されることになっている。

注10．印刷および公告費用

損益および純資産変動計算書の「印刷および公告費用」に計上されている費用は、主に英文年次報告書および英文半期報告書ならびに日本の法令に基づく書類等の作成にかかる費用で構成されている。

注11．為替レート

サブ・ファンドの米ドル以外の通貨建ての資産および負債の換算に使用された2023年11月30日現在の米ドルに対する為替レートは、以下の通りである。

通貨	為替レート
日本円	147.1750

注12．税金

12.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島では所得または利得には課税されず、ファンドはファンドの設定日から50年間はケイマン諸島の地方税、利益税または資本税をすべて免除する旨の保証をケイマン諸島総督から取り付けている。したがって、本財務書類には法人税等引当金という勘定科目が含まれていない。

12.2 その他の国々

サブ・ファンドは、その他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。受益証券を購入しようとする者は、各々の法域で適用される法律の下で、受益証券の購入、保有および買戻しに対して発生が見込まれる税金およびその他の影響を判断するため、各自が国籍、住所および本籍を有する国の法律および税務専門家に相談すべきである。

注13．受益証券の販売および買戻しの条件

受益証券は、英文目論見書および英文目論見書に関連する付属書類（以下「付属書類」という）に記載されている買付申込通知の手続に従って、各発行日に、関連する受益証券の関連する発行日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「発行価格」という）で発行され、販売される。発行価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

受益証券は、英文目論見書および付属書類に記載されている買戻請求の通知の手続に従って、各買戻日に、かかる受益証券の買戻日現在の受益証券1口当たり純資産価格（以下「買戻価格」という）で買い戻すことができる。買戻価格は、一時停止の手続に服しつつ、管理事務代行会社により、関連する計算日に計算され、公表される。

注14．関連当事者取引

管理会社、受託会社、管理事務代行会社および保管会社、販売会社および代行協会員、投資運用会社ならびに販売取扱会社はサブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

投資運用会社は、投資先ファンドの管理会社と同じ企業グループに属しているため、サブ・ファンドの関連当事者とみなされている。

注15．決算日後の状況

受託会社および管理会社の意見では、当期の財務書類において開示が必要な決算日後監査報告書日までに生じた重要な事象はなかった。

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本語の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2025年2月末日現在)

	米ドル (および を除く)		千円 (および を除く)
資産総額	101,707,362.61		15,222,541
負債総額	116,135.19		17,382
純資産価額 (-)	101,591,227.42		15,205,159
発行済受益証券口数	米ドル建て	5,025,766.064口	
	円建て (ヘッジあり)	1,088,329.169口	
1口当たり純資産価格	米ドル建て	18.16米ドル	2,718円
	円建て (ヘッジあり)	1,431円	-

第4【外国投資信託受益証券事務の概要】

受益証券の名義書換

サブ・ファンドの受益証券の名義書換機関は次の通りである。

取扱機関 S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社

取扱場所 ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ L-1282 ヒルデガルト・フォン・ビンゲン通り2番

日本の受益者については、受益証券の保管を日本における販売会社または販売取扱会社に委託している場合、その日本における販売会社または販売取扱会社の責任で必要な名義書換手続がとられ、それ以外のものについては本人の責任で行う。

名義書換の費用は受益者から徴収されない。

受益者集会

受託会社または管理会社は、いつでも受益者集会を招集することができる。受託会社または管理会社は、発行済受益証券の純資産価額の過半数以上を保有する受益者からの要求がある場合、受益者集会を招集しなければならない。受益者集会の少なくとも21日前には受益者に通知が行われる。

すべての受益者集会における出席者数、定足数および議決権数の要件ならびに受益者の議決権は信託証書に記載されている。

受益者に対する特典、譲渡制限

受益者に対する特典はない。

受益証券は、米国内で登録されておらず、かつ、米国内で募集されておらず、また、直接的または間接的に、米国、その領土もしくは属領もしくはその法域において、または、その居住者または当該地に通常居住している者（かかる自然人および当該地で設立または組織された法人またはパートナーシップの財団を含む。）に対し、もしくはその利益のために、募集または販売することはできない。

受益証券は、F A T C Aを遵守する参加外国金融機関である（受益証券の登録名義人となる）日本における販売会社および販売取扱会社によってのみ販売される。管理会社は、米国の法律および規則を遵守するために適切とみなされる場合には、米国人により保有される受益証券を買い戻すことができ、また米国人への譲渡の登録を拒絶することができる。

受益証券の譲渡制限については、前記「第2 管理及び運営 1 申込（販売）手続等 （1）海外における販売 譲渡制限」を参照のこと。

第二部【特別情報】

第1【管理会社の概況】

1【管理会社の概況】

（1）資本金の額

2025年2月末日現在、管理会社の資本金は5,446,220ユーロ(約8億4,743万円)で、同日現在全額払込済である。なお、1株額面20ユーロ(約3,112円)の記名式株式272,311株を発行済である。

最近5年間における資本金の額の増減はない。

（2）会社の機構

定款に基づき、3名以上の取締役により構成される取締役会が管理会社を運営する。取締役は管理会社の株主であることを要しない。

取締役は、その定員および任期を決定する年次株主総会において株主によって選任される。いかなる取締役も、株主により理由の有無を問わず解任される。

取締役会は、互選により、会長1名および副会長1名を選出することができる。取締役会はまた、取締役会および株主総会の議事録を管理する責任者である秘書役1名（取締役であることを要しない。）を選出することができる。取締役会は会長または2名の取締役により招集され、招集通知に記載された場所で開催される。会長は、すべての株主総会および取締役会において議長を務めるものとするが、欠席の場合、株主または取締役会は、当該会議の出席者の多数決により、臨時議長として他の取締役を任命することができる。

取締役会の通知は、書面により、緊急の場合を除き、少なくとも会議開催予定日の24時間以上前に取締役にあててなされなければならない。緊急の場合には、当該緊急事由および動機について招集通知に記載する。かかる通知は、書面、Eメールまたはファクシミリまたは他の類似の通信手段により各取締役の同意が得られた場合には省略することができる。取締役会の事前の決議により決定された時間および場所で開催されるものについては、特段の通知をする必要はない。

取締役は、書面または電信、電報、またはファクシミリにより、別の取締役を指名して取締役に代理出席させることができる。取締役は、2名以上の別の取締役を代理することができる。いずれの取締役も、テレビ会議または他の類似の通信手段により、本人確認を可能にすることにより、取締役会に参加することができる。これらの通信手段は、会議への効果的な参加を保障する技術的特性を満たすものでなければならない。審議は、継続的に中継されなければならない。これらの手段による会議への参加は、当該会議への本人の参加と同等である。当該通信手段により開催される会議は、管理会社の登録事務所において開催されたものと見なされる。取締役会は、取締役の半数以上が出席または代理出席している場合にのみ適法に審議し、または行為することができる。決議は取締役会に出席または代理出席している取締役の議決権の多数決によるものとする。取締役会は、書面、電信、ファクシミリまたは他の類似の通信手段により承認を表明する場合には、持回りによって書面による決議を全員一致で可決することができる。その全体をもって決議の証拠となる議事録を構成する。

取締役会は、管理会社の利益の管理および処分のすべての行為を行う最も広範な権限を付与されている。

とりわけ、取締役会は、管理会社の目的のために行われるすべての業務ならびに当該業務に関するあらゆる資金拠出、譲渡、購入、協力、提携、参画または金融面での介入について決定することのできる完全な権限を有する。

2【事業の内容及び営業の概況】

管理会社は、ルクセンブルグの法律の規定に基づき設立され、投資信託の管理運営を行うための免許を有する会社である。管理会社は、1915年法に基づき1992年2月27日に設立された。

管理会社の目的は、ルクセンブルグ国内または同国外を住所地とするか否かにかかわらずU C Iを管理することである。ただし、管理会社は、最低でも1つのルクセンブルグのU C Iを管理しなければならない。

管理会社は、A I F M Dおよび2013年法に基づき、ファンドに関し、A I F M Dにおいて定義されるオルタナティブ投資運用会社（A I F M）として業務を提供する。管理会社は、ファンドの投資資産の管理運営について責任を負っている。管理会社は、サブ・ファンドのポートフォリオ運用機能を投資運用会社に委託している。

管理会社は、S M B C日興証券株式会社の完全所有子会社である。

管理会社は、サブ・ファンドおよび受益者に代わり、組入証券の購入、売却、申込みおよび交換を含む管理・運営業務を行い、サブ・ファンドの資産に直接または間接的に関連するすべての権利を行使することができる。

管理会社は、関係するサブ・ファンドの費用で、信託証書に基づく一部または全部の職務を、一名以上の個人または一社以上の企業（投資運用会社またはその他のサービス提供会社を含む。）に委任する十分な権限を有するものとする。ただし、管理会社が、適用ある限り基本信託証書に定める規定を遵守することを確保することを条件とする。管理会社は、委託先または再委託先の業務遂行を監督する義務を負うものとし、管理会社によるその義務に係る故意の不履行または詐欺行為による場合を除き、委託先または再委託先の不正行為、重過失または不履行により生じたサブ・ファンドの損失について、責任を負わない。

基本信託証書に定める規定に従って、管理会社および管理会社の関係会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員または代理人は何らかの理由でいずれかの時点でファンドの信託財産もしくは信託財産の一部または信託財産の収益に発生した損失または損害に関して、かかる損失または損害が管理会社、管理会社の関係会社またはそれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行に起因しない限り、一切責任を負わない。また管理会社はいかなる場合も間接損害、特別損害または派生的損害に関して責任を負わない。

管理会社およびその関係会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員および代理人は、それぞれサブ・ファンドの管理会社もしくはその関係会社としてまたはそれらの取締役、役員、従業員または代理人として被り、かつサブ・ファンドの信託証書に基づきまたはサブ・ファンドに関連して適切に権限および義務を履行する過程で発生した法的措置、訴訟、債務、コスト、請求、損失、費用（すべての合理的な弁護士報酬、専門家報酬およびその他の同様の費用を含む。）または要求の全部または一部について、サブ・ファンドの信託財産から補償を受けるものとする。かかる補償は、管理会社またはその関係会社およびそれらの取締役、役員または従業員の現実の詐欺または故意の不履行による作為もしくは不作為により生じ、管理会社が被ったあらゆる法的措置、訴訟、債務、コスト、請求、損失または要求には適用されない。

ファンドに関する管理会社の任命期間は、受益者決議によって受益者から解任されない限り、ファンドの存続期間とする。管理会社は、受託会社に対して90日以上前に書面により通知することにより辞任することができる。

管理会社は管理会社報酬を受け取る権利を有する。

管理会社の権利および義務については、ミューチュアル・ファンド規則および信託証書に定められている。管理会社はミューチュアル・ファンド規則に定める規定に拘束され、かつミューチュアル・ファンド規則に定める事項を実施し、かかる事項に関して責任を負うことに同意している。

2025年2月末日現在、管理会社は、以下の通りに分類される6本の投資信託を運営および管理している。

（2025年2月末日現在）

分類		内訳
A分類	通貨建て別 運用金額	米ドル建て： 4,196,745,605米ドル
		ユーロ建て： 2,033,979ユーロ
		日本円建て： 2,376,485,065,173円
		豪ドル建て： 12,757,088豪ドル
B分類	投資信託の種類 （基本的性格）	1本がルクセンブルグ籍・契約型・オープン・エンド型であり、5本が ケイマン諸島籍・契約型・オープン・エンド型である。

3【管理会社の経理状況】

- a . 管理会社の直近2事業年度の日本文の財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に認められた会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第328条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b . 管理会社の原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるケーピーエムジー オーディット エス・アー・エール・エルから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c . 管理会社の原文の財務書類は、ユーロで表示されている。日本文の財務書類には、主要な金額について円貨換算が併記されている。日本円による金額は、2025年2月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1ユーロ＝155.60円）で換算されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。

（１）【貸借対照表】

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ
貸借対照表
2024年３月31日現在
（単位：ユーロ）

	注	2024年 3 月31日		2023年 3 月31日	
		ユーロ	千円	ユーロ	千円
資産					
固定資産					
- 有形資産					
a) その他の備品および付属品、工具および設備	3	8,231	1,281	2,136	332
流動資産					
- 債権					
売掛金					
- 1 年以内に支払期限の到来するもの	4	1,190,974	185,316	1,047,017	162,916
その他の債権					
- 1 年以内に支払期限の到来するもの		6,618	1,030	5,000	778
- 預金および手許現金	5	12,334,182	1,919,199	9,993,152	1,554,934
前払金		70,915	11,034	74,511	11,594
資産合計		13,610,920	2,117,859	11,121,816	1,730,555
負債					
資本金および準備金					
- 払込資本金	6	5,446,220	847,432	5,446,220	847,432
- 準備金					
・ 法定準備金	7	673,906	104,860	574,420	89,380
・ 公正価値準備金を含むその他の準備金					
a) その他の利用可能な準備金		2,920,510	454,431	999,124	155,464
b) その他の利用可能でない準備金	8	1,443,562	224,618	1,474,712	229,465
		5,037,978	783,909	3,048,256	474,309
- 当期損益		2,118,205	329,593	1,989,722	309,601
		12,602,403	1,960,934	10,484,198	1,631,341
引当金					
- 納税引当金	9	661,448	102,921	350,336	54,512
- その他の引当金	10	301,420	46,901	146,616	22,813
		962,868	149,822	496,952	77,326
債務					
- 買掛金					
1 年以内に支払期限の到来するもの	11	-	-	103,735	16,141
- その他の債務					
- 社会保障	11	45,649	7,103	36,931	5,746
		45,649	7,103	140,666	21,888
資本金、準備金および負債合計		13,610,920	2,117,859	11,121,816	1,730,555

添付の注記は、本財務書類と不可分なものである。

（２）【損益計算書】

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ

損益計算書

2024年３月31日に終了した年度

（単位：ユーロ）

	注	2024年３月31日		2023年３月31日	
		ユーロ	千円	ユーロ	千円
純売上高	12.1	4,688,515	729,533	4,317,292	671,771
その他の営業収益	13.2	5,531	861	8,254	1,284
原材料・消耗品およびその他外部費用					
b) その他の外部費用	12.2	(418,435)	(65,108)	(313,170)	(48,729)
人件費		(1,521,982)	(236,820)	(1,214,244)	(188,936)
- 賃金および給与		(1,241,024)	(193,103)	(993,030)	(154,515)
- 社会保障費		(128,951)	(20,065)	(107,286)	(16,694)
- 年金関連		(45,177)	(7,030)	(38,988)	(6,067)
- その他の社会保障費		(83,774)	(13,035)	(68,298)	(10,627)
- その他の人件費		(152,007)	(23,652)	(113,928)	(17,727)
その他の営業費用	13.1	(294,751)	(45,863)	(219,023)	(34,080)
その他の未収利息および類似収益		366,465	57,022	84,482	13,145
未払利息および類似費用		-	-	-	-
損益に係る税金		(707,138)	(110,031)	(673,869)	(104,854)
税引後損益		<u>2,118,205</u>	<u>329,593</u>	<u>1,989,722</u>	<u>309,601</u>
その他の税金		-	-	-	-
当期利益		<u>2,118,205</u>	<u>329,593</u>	<u>1,989,722</u>	<u>309,601</u>

添付の注記は、本財務書類と不可分なものである。

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ

財務書類に対する注記

2024年3月31日に終了した年度

注1．事業活動

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ（以下「当社」という。）は、1992年2月27日、ルクセンブルグ大公国の法律に基づき株式会社として設立された。

当社の目的は、ルクセンブルグ国内または同国外を住所地とするか否かにかかわらず、当社が、最低でも一本のルクセンブルグのU C I（以下「投資信託」という。）を管理することを条件に、（投資信託に関する2010年12月17日の法律（随時改正済）（以下「2010年法」という。）の第125 - 2条に規定された）投資信託の管理を行うことである。かかる観点において、当社は、ルクセンブルグの2013年の法律（随時改正済）（以下「2013年法」という。）に従い、オルタナティブ投資ファンド運用者として行為し、かつ、オルタナティブ投資ファンド運用者に関する2011年6月8日付欧州議会および理事会通達2011 / 61 / E U（以下「A I F M D」という。）の別紙（以下「別紙」という。）の第1項に規定された業務を行う。当社は、ポートフォリオ管理を委託し、投資運用の監視を行う一方で、当社自身でリスク管理を実施する。さらに、当社は、別紙の第2項に基づき別挙された一切の業務を行う。

2024年3月31日現在、当社はニッコウ・マネー・マーケット・ファンド、日興グローバル・ファンズ、クオンティティティブ・マルチ・ストラテジー・プログラム（適格機関投資家向け）（「Q M S」）、プレミアム・ファンズ、日興ワールド・トラストおよびクオンティック・トラストの6の投資信託を管理・運営している。

注2．重要な会計方針

当社は、その会計帳簿をユーロ（以下「ユーロ」という。）で維持し、本財務書類は、以下の重要な会計方針を含め、ルクセンブルグの法律および規制の要求に準拠して継続企業の前提で作成されている。

2.1 外貨換算

ユーロ以外の通貨建の取引は、取引時の実勢為替レートでユーロに換算される。

ユーロ以外の通貨建の固定資産は、取引時の実勢為替レートでユーロに換算される。貸借対照表日付現在、かかる資産は取得時の為替レートで換算されている。

預金は、貸借対照表日付現在の実勢為替レートで換算される。為替差損益は損益計算書に計上される。

短期債権および債務は、貸借対照表日付現在の実勢為替レートに基づき換算される。

その他の資産および負債は、取得時の為替レートで換算された額または為替に基づき決定された額のいずれか低い額または高い額で、それぞれ別々に換算される。

実現為替差益は、実現された時点で損益計算書に計上される。

ユーロ以外の通貨建の資産と負債の間に経済的な関連がある場合には、未実現純損失のみ、損益計算書に計上される。

2.2 流動債権

債権は、その額面価額で評価される。それらは、回収が困難な場合には、評価調整の対象となる。かかる評価調整は、評価調整が行われた事由が適用されなくなる場合には、継続されない。

2.3 負債引当金および費用引当金

負債引当金および費用引当金は、その性質が明白に規定され、貸借対照表日付現在で発生する可能性が高いかまたは確実に発生するが、発生する金額または日付は不確定である損失または債務を補填することを目的としている。

注3．固定資産の変動

	取得原価		評価額調整			
	期首現在 価値総額	期末現在 価値総額	期首現在 累積額調整	期末現在 累積額調整	期首現在 価値純額	期末現在 価値純額
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
固定資産						
- コンピューター機器	5,096	5,096	(2,960)	(4,234)	2,136	862
- 家具、備品 および付属品	7,264	15,697	(7,264)	(8,328)	0	7,369

固定資産は、減価償却累計額控除後の取得原価で評価される。減価償却費は、個々の資産の見積耐用年数にわたり、定額法で計算される。

かかる目的で使用される減価償却率は、以下のとおりである。

- コンピューター機器 25%
- 家具および備品 20%
- オフィスレイアウト 50%

注4．売掛金

2024年3月31日および2023年3月31日現在の売掛金は、未収管理報酬である。

注5．預金および手許現金

預金には、S M B Cグループ内に預託された12,280,070ユーロ（2023年：9,969,028ユーロ）の資金と、B I L銀行（バンク・インターナショナル・ア・ルクセンブルク）内に預託された54,112ユーロが含まれており、制限付き現金はない。

注6．払込資本金

額面金額20ユーロの発行済および全額払込済の株式272,311株で表章される払込資本金は、5,446,220ユーロである。

当社は、2024年3月31日または2023年3月31日に終了した年度中に自社株を取得しなかった。

当社の現在の単独株主はS M B C日興証券株式会社である。

注 7 . 法定準備金

ルクセンブルグ法により、当社は毎年その純利益の少なくとも 5 % を法定準備金として、当該準備金が発行済資本金の10%に達するまで、積立てなければならない。

この法定準備金を配当金に利用することはできない。

2023年 3 月31日に終了した年度の利益に関しては、99,486ユーロが積立てられた（2022年 3 月31日に終了した年度の利益に関しては83,706ユーロ）。

注 8 . 資本金および準備金

	資本金	法定 準備金	準備金 (1)	特別納税 準備金 (2)	その他の 準備金 (1) + (2)	当期 損益
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
2023年 3 月31日現在残高	5,446,220	574,420	999,124	1,474,712	2,473,836	1,989,722
損益の繰入額	-	99,486	1,921,386	(31,150)	1,890,236	(1,989,722)
分配済み配当金	-	-	-	-	-	-
当期損益	-	-	-	-	-	2,118,205
2024年 3 月31日現在残高	5,446,220	673,906	2,920,510	1,443,562	4,364,072	2,118,205

	資本金	法定 準備金	準備金 (1)	特別納税 準備金 (2)	その他の 準備金 (1) + (2)	当期 損益
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
2022年 3 月31日現在残高	5,446,220	490,714	940,615	1,242,812	2,183,427	1,674,115
損益の繰入額	-	83,706	1,358,509	231,900	1,590,409	(1,674,115)
分配済み配当金	-	-	(1,300,000)	-	(1,300,000)	-
当期損益	-	-	-	-	-	1,989,722
2023年 3 月31日現在残高	5,446,220	574,420	999,124	1,474,712	2,473,836	1,989,722

当社は、施行された税法に準拠して、純富裕税（NWT）負債を軽減した。当該法律に従い、当社は、純富裕税の控除額の 5 倍に相当する金額を利用可能でない準備金（「特別納税準備金」科目）のもとに繰入れることを決定した。当該準備金は、5 年間は配当に利用することはできない。

注 9 . 納税引当金

当社は、ルクセンブルグ法人所得税、都市事業税および純富裕税の課税対象となっている会社である。

税金負債は、貸借対照表上で「納税引当金」として計上されている。

注10 . その他の引当金

	2024年 3 月31日 ユーロ	2023年 3 月31日 ユーロ
一般経費に対する引当金	301,420	146,616
	301,420	146,616

監査報酬に対する引当金は、2023年 3 月31日現在は「1 年以内に支払期限が到来する買掛金」に計上されていたが、当年度より「その他の引当金」として計上されている。

注11 . その他の債務

2024年 3 月31日および2023年 3 月31日現在のその他の債務の内訳は、以下のとおりである。

	2024年 3 月31日	2023年 3 月31日
	ユーロ	ユーロ
優先債権者に対する引当金（社会保障）	45,649	36,931
	45,649	36,931

注12．純売上高およびその他の外部費用

12.1 純売上高

	2024年 3 月31日	2023年 3 月31日
	ユーロ	ユーロ
管理報酬	4,688,515	4,317,292
	4,688,515	4,317,292

2024年 3 月31日現在の適用ある管理報酬料率は、以下のとおりである。

当社は、プレミアム・ファンズ - グローバル・コーポレート・ボンド、プレミアム・ファンズ - シュローダー日本株式ファンド、プレミアム・ファンズ - ウェルス・コアポートフォリオ コンサバティブ型、プレミアム・ファンズ - ウェルス・コアポートフォリオ グロース型、プレミアム・ファンズ - グローバル・コア株式ファンド、プレミアム・ファンズ - グローバル・コア債券ファンド、プレミアム・ファンズ - ウェルス・コアポートフォリオ アドバンス型、日興ワールド・トラスト - ヨーロピアン・ラグジュアリー・エクイティ・ファンド、日興ワールド・トラスト - 日興グローバル・C B・ファンド、日興ワールド・トラスト - デンマーク、カバード債券ファンド 米ドル建て（米ドルヘッジあり）、日興ワールド・トラスト - グローバル・トレーディング・オポチュニティ・ファンド、日興ワールド・トラスト - ブリッジウォーター・マクロ戦略ファンド、日興ワールド・トラスト - C L O イシューアンス戦略ファンドおよび日興ワールド・トラスト - ブルックフィールド不動産インカム・トラスト・ファンドから、当該月中のこれらのサブ・ファンドの純資産価額に対して0.03%の年次管理報酬を受領する。報酬は、毎月支払われる。

当社は、日興ワールド・トラスト - 日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド（米ドル建て）から、当該月中のかかるサブ・ファンドの純資産価額に対して0.04%の年次管理報酬を受領する。報酬は、毎月支払われる。

当社は、日興ワールド・トラスト - ワールド・ハイブリッド・セキュリティーズ・ファンドから、当該月中のかかるサブ・ファンドの純資産価額に対して0.023%の年次管理報酬を受領する。報酬は、毎月支払われる。

当社は、日興ワールド・トラスト - K K R グローバル・インパクト・ストラテジーから、当該月中のかかるサブ・ファンドの純資産価額に対して0.05%の年次管理報酬を受領する。報酬は、四半期毎に支払われる。

当社は、Q M S から、当該月中のかかるファンドの純資産価額に対して0.03%の年次管理報酬を受領する。報酬は、四半期毎に支払われる。

当社は、クオンティック・トラスト - 早期償還目標水準設定型ファンド スマート・ブレイン2020-03から、毎月後払いされる、（ ）サブ・ファンドの当初発行価格に（ ）関連評価日時点の発行済受益証券口数を乗じた金額の年率0.03%の報酬を受領する。

当社は、日興グローバル・ファンズの各サブ・ファンドから、当該四半期中の当該サブ・ファンドの純資産価額に対して0.03%の年次管理報酬を受領する。報酬は、四半期毎に支払われる。

当社は、ニッコウ・マネー・マーケット・ファンドから、以下のとおり計算される年次管理報酬を、各四半期末に受領する。

「グロス・イールド（その他の費用控除後）」とは、ファンドの総利回り（グロス・イールド）より、ファンドの関係当事者に対する報酬以外の費用の日々の償却率を控除し、当社により日々計算される料率をいう。また、「グロス・インカム（その他の費用控除後）」とは、（a）ファンドの総利益（有価証券のキャピタル・ゲイン／ロスを含む。）より、（b）ファンドの関係当事者に対する報酬以外の費用の日々の償却額を控除し、当社により日々計算される金額をいう。

すなわち、日々計算されるグロス・イールド（その他の費用控除後）が年率1%未満の場合、当社に対する報酬は、当該グロス・インカム（その他の費用控除後）の1%である。日々計算されるグロス・イールド（その他の費用控除後）が年間1%以上および1.5%未満の場合、当社に対する報酬は、日々発生し、計算されるサブ・ファンドの純資産価額の年率0.02%である。日々計算されるグロス・イールド（その他の費用控除後）が年間1.5%以上の場合、当社に対する報酬は、日々発生し、計算されるサブ・ファンドの純資産価額の年率0.03%である。

12.2 その他の外部費用

	2024年3月31日	2023年3月31日
	ユーロ	ユーロ
その他の費用	418,435	313,170
	<u>418,435</u>	<u>313,170</u>

その他の費用は、法律上の助言、コンサルティング、協会のメンバーシップ等の外部のプロバイダーにより提供されるサービスに相当する。

注13．その他の営業費用およびその他の営業収益

13.1 その他の営業費用

	2024年3月31日	2023年3月31日
	ユーロ	ユーロ
その他の管理事務費用	294,751	219,023
	<u>294,751</u>	<u>219,023</u>

13.2 その他の営業収益

	2024年 3 月31日	2023年 3 月31日
	ユーロ	ユーロ
過年度からのその他の引当金に対する調整	3,591	5,930
償却済み投資信託からの現金	18	2,322
その他	1,922	2
	<u>5,531</u>	<u>8,254</u>

注14．従業員および取締役

14.1 取締役

取締役報酬は、その他の営業費用の一部である。

2023年 2 月 9 日付で、三田村氏は当社の取締役を辞任し、後任に服部氏が就任した。

2023年 7 月26日付で、松井氏は 5 人目の取締役となった。

当年度中、信任を与えられた取締役数は、以下のとおりであった。

	2024年 3 月31日	2023年 3 月31日
取締役	<u>5</u>	<u>4</u>

14.2 従業員

2024^(訳注)年 3 月31日および2023^(訳注)年 3 月31日現在の従業員数は、以下のとおりであった。

	2024年 3 月31日	2023年 3 月31日
上級管理職	3	2
中間管理職	2	2
従業員	<u>4</u>	<u>3</u>
	<u>9</u>	<u>7</u>

訳注：英文では「2023」および「2022」と記載されているが、正しくは「2024」および「2023」である旨の確認が取れているため、本文書においては、正しい英文に対する訳文を記載している。

注15．後発事象

2024年会計年度に新たに 3 つのサブ・ファンドが、いずれも会計年度下半期に設定される予定である。

服部博則氏は、2024年 5 月31日付で辞任した。

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.

Balance sheet as at March 31, 2024

(expressed in euro)

	Note(s)	March 31, 2024 EUR	March 31, 2023 EUR
ASSETS			
Fixed assets			
- Tangible assets			
a) Other fixtures and fittings, tools and equipment	3	8 231	2 136
Current assets			
- Debtors			
Trade debtors			
- becoming due and payable within one year	4	1 190 974	1 047 017
Other debtors			
- becoming due and payable within one year		6 618	5 000
- Cash at bank and in hand	5	12 334 182	9 993 152
Prepayments		<u>70 915</u>	<u>74 511</u>
Total assets		<u>13 610 920</u>	<u>11 121 816</u>
LIABILITIES			
Capital and reserves			
- Subscribed capital	6	5 446 220	5 446 220
- Reserves			
• legal reserve	7	673 906	574 420
• other reserves, including the fair value reserve			
a) other available reserves		2 920 510	999 124
b) other non available reserves	8	<u>1 443 562</u>	<u>1 474 712</u>
		5 037 978	3 048 256
- Profit or loss for the financial year		<u>2 118 205</u>	<u>1 989 722</u>
		12 602 403	10 484 198
Provisions			
- Provisions for taxation	9	661 448	350 336
- Other provisions	10	<u>301 420</u>	<u>146 616</u>
		962 868	496 952
Creditors			
- Trade creditors			
becoming due and payable within one year	11	-	103 735
- Other creditors			
- Social security authorities	11	<u>45 649</u>	<u>36 931</u>
		45 649	140 666
Total Capital, Reserves and Liabilities		<u>13 610 920</u>	<u>11 121 816</u>

The accompanying notes form an integral part of these annual accounts.

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.

Profit and loss account for the year ended March 31, 2024

(expressed in euro)

	Note(s)	March 31, 2024 EUR	March 31, 2023 EUR
Net turnover	12.1	4 688 515	4 317 292
Other operating income	13.2	5 531	8 254
Raw materials and consumables and other external expenses			
b) Other external expenses	12.2	(418 435)	(313 170)
Staff costs		(1 521 982)	(1 214 244)
- Wages and salaries		(1 241 024)	(993 030)
- Social security costs		(128 951)	(107 286)
- Relating to pension		(45 177)	(38 988)
- Other social security costs		(83 774)	(68 298)
- Other staff costs		(152 007)	(113 928)
Other operating expenses	13.1	(294 751)	(219 023)
Other interest receivable and similar income		366 465	84 482
Interest payable and similar expenses		-	-
Tax on profit or loss		(707 138)	(673 869)
Profit or loss after taxation		<u>2 118 205</u>	<u>1 989 722</u>
Other taxes		-	-
Profit for the financial year		<u>2 118 205</u>	<u>1 989 722</u>

The accompanying notes form an integral part of these annual accounts.

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024****Note 1 - Activity**

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A. (the “Company”) was incorporated under the laws of the Grand Duchy of Luxembourg as “Société Anonyme” on February 27, 1992.

The purpose of the Company is the management (within the meaning of article 125-2 of the law of 17 December 2010 relating to undertakings for collective investment as amended from time to time) (the “**2010 Law**”), of undertakings for collective investment, whether domiciled in Luxembourg or offshore, provided that the Company must manage at least one Luxembourg UCI (the “**Funds**”). In that context, the Company acts as Alternative Investment Fund Manager in accordance with the Luxembourg law of 2013 as amended from time to time (the “**2013 Law**”) and perform the activities listed in item 1 of the Annex I of Directive 2011/61/EU of the European Parliament (the “**Annex**”) and of the Council of 8 June 2011 on alternative investment fund managers (the “**AIFMD**”). The Company performs risk management by itself while delegating portfolio management and conducting oversight of investment managers. The Company may further carry out any of the activities listed under item 2. of the Annex.

As at March 31, 2024, the Company manages 6 investment funds: Nikko Money Market Fund, Nikko Global Funds, Quantitative Multi-Strategy Program II (For Qualified Institutional Investors) (“QMS II”), Premium Funds, Nikko World Trust and Quantic Trust.

Note 2 - Significant accounting policies

The Company maintains its books in Euro (“EUR”) and these annual accounts have been prepared on a going concern basis in accordance with Luxembourg legal and regulatory requirements including the following significant accounting policies.

2.1 - Foreign currency translation

Transactions expressed in currencies other than EUR are translated into EUR at the exchange rate effective at the time of the transaction.

Fixed assets expressed in currencies other than EUR are translated into EUR at the exchange rate effective at the time of the transaction. At the balance sheet date, these assets remain translated at historic exchange rate.

Cash at bank is translated at the exchange rate effective at the balance sheet date. Exchange losses and gains are recorded in the profit and loss account.

Short-term debtors and creditors are translated on the basis of the exchange rates effective at the balance sheet date.

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)****Note 2 - Significant accounting policies (continued)****2.1 - Foreign currency translation (continued)**

Other assets and liabilities are translated separately respectively at the lower or at the higher of the value converted at historical exchange rate or the value determined on the basis of the exchange.

Realised exchange gains are recorded in the profit and loss account at the moment of their realisation.

Where there is an economic link between an asset and a liability, expressed in currencies other than EUR, only the net unrealised loss is recorded in the profit and loss account.

2.2 - Current debtors

Debtors are valued at their nominal value. They are subject to value adjustments where their recovery is compromised. These value adjustments are not continued if the reasons for which the value adjustments were made have ceased to apply.

2.3 - Provisions for liabilities and charges

Provision for liabilities and charges are intended to cover losses or debts, the nature of which is clearly defined and which, at the date of the balance sheet, are either likely to be incurred or certain to be incurred but uncertain as to their amount or as to the date on which they will arise.

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.

Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)

Note 3 - Movements in fixed assets

	Cost		Value adjustments		Net value at the beginning of the financial year	Net value at the end of the financial year
	Gross value at the beginning of the financial year	Gross value at the end of the financial year	Cumulative value adjustments at the beginning of the financial year	Cumulative value adjustments at the end of the financial year		
Fixed assets	EUR	EUR	EUR	EUR	EUR	EUR
-computer equipment	5 096	5 096	(2 960)	(4 234)	2 136	862
Furniture, fixture and fittings	7 264	15 697	(7 264)	(8 328)	0	7 369

Fixed assets are valued at cost less accumulated depreciation/amortisation. Depreciation/amortisation is calculated on a straight-line basis over the estimated useful life of individual assets.

The depreciation/amortisation rates used for this purpose are:
Computer and equipment 25%
Furniture & fixtures 20%
Office arrangements 50%

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.

Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)

Note 4 – Trade Debtors

Trade Debtors as at March 31, 2024 and March 31, 2023 represent management fees receivable.

Note 5 – Cash at bank and in hand

Cash at bank included EUR 12,280,070 (2023: EUR 9,969,028) of funds deposited within SMBC Group and EUR 54.112 deposited within BIL, with no restricted cash.

Note 6 - Subscribed capital

The subscribed capital is EUR 5 446 220, represented by 272 311 issued and fully paid shares at a par value of EUR 20.

The Company did not acquire any of its own shares during the year ending 31 March 2024 nor during the year ending 31 March 2023.

The current sole shareholder of the Company, is SMBC Nikko Securities Inc.

Note 7 - Legal reserve

Under Luxembourg law, the Company is required to transfer to the legal reserve a minimum of 5% of its net profit each year until this reserve equals 10% of the issued share capital.

The legal reserve is not available for distribution.

A transfer of EUR 99 486 was made in respect of the profit from the year ending 31 March 2023 (EUR 83 706 in respect of the profit from the year ending 31 March 2022).

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.

Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)

Note 8 - Capital and reserves

	Capital	Legal reserve	Reserve	Special tax reserve	Other reserves	Result for the year
	EUR	EUR	(1) EUR	(2) EUR	(1) + (2) EUR	EUR
Balance at March 31, 2023	5 446 220	574 420	999 124	1 474 712	2 473 836	1 989 722
Allocation of the result	-	99 486	1 921 386	(31 150)	1 890 236	(1 989 722)
Dividend distributed	-	-	-	-	-	-
Result for the financial year	-	-	-	-	-	<u>2 118 205</u>
Balance at March 31, 2024	<u>5 446 220</u>	<u>673 906</u>	<u>2 920 510</u>	<u>1 443 562</u>	<u>4 364 072</u>	<u>2 118 205</u>

	Capital	Legal reserve	Reserve	Special tax reserve	Other reserves	Result for the year
	EUR	EUR	(1) EUR	(2) EUR	(1) + (2) EUR	EUR
Balance at March 31, 2022	5 446 220	490 714	940 615	1 242 812	2 183 427	1 674 115
Allocation of the result	-	83 706	1 358 509	231 900	1 590 409	(1 674 115)
Dividend distributed	-	-	(1 300 000)	-	(1 300 000)	-
Result for the financial year	-	-	-	-	-	1 989 722
Balance at March 31, 2023	5 446 220	574 420	999 124	1 474 712	2 473 836	1 989 722

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)****Note 8 - Capital and reserves (continued)**

The Company reduced the Net Wealth Tax (NWT) liability in accordance with the tax legislation. In order to comply with this legislation, the Company decided to allocate under non available reserves (item “special tax reserve”) an amount that corresponds to five times the amount of reduction of the Net Wealth Tax. This reserve is non-distributable for a period of five years.

Note 9 – Provision for taxation

The Company is a corporation subject to Luxembourg corporate income tax, to municipal business tax and net wealth tax.

Tax liabilities are recorded under “Provisions for taxation” in the balance sheet.

Note 10 – Other provisions

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Provision for general expenses	301 420	146 616
	<u>301 420</u>	<u>146 616</u>

The provision for audit fees is recorded under “Other provision” this year whilst this provision was recorded under “Trade creditor becoming due and payable within one year” as of March 31st 2023.

Note 11 - Other creditors

Other creditors as at March 31, 2024 and March 31, 2023 are analysed as follows:

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Provision for preferential creditors (social security)	45 649	36 931
	<u>45 649</u>	<u>36 931</u>

Note 12 - Net turnover and other external expenses**12.1 - Net turnover**

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Management fees	4 688 515	4 317 292
	<u>4 688 515</u>	<u>4 317 292</u>

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)**

The Management fee rates applicable as at March 31, 2024 are as follows:

The Company receives from Premium Funds – Global Corporate Bond, Premium Funds – Schroder Japanese Equity Fund, Premium Funds – Wealth Core Portfolio Conservative Type, Premium Funds – Wealth Core Portfolio Growth Type, Premium Funds – Global Core Equity Fund, Premium Funds – Global Core Bond Fund, Premium Funds – Wealth Core Portfolio Advanced Type, Nikko World Trust – European Luxury Equity Fund, Nikko World Trust – Global CB Fund, Nikko World Trust – Denmark Covered Bond Fund (USD Hedged), Nikko World Trust – Global Trading Opportunity Fund, Nikko World Trust – Bridgewater Macro Strategy Fund, Nikko World Trust – CLO Issuance Strategy Fund and Nikko World Trust – Brookfield Real Estate Income Trust Fund an annual management fee of 0.03% of the net asset value of these sub-funds during the relevant month. The fee is paid monthly.

The Company receives from Nikko World Trust – Nikko BlackRock High Quality Allocation Fund (USD) an annual management fee at the rate of 0.04% of the net asset value of this sub-fund during the relevant month. The fee is paid monthly.

The Company receives from Nikko World Trust – World Hybrid Securities Fund an annual management fee at the rate of 0.023% of the net asset value of this sub-fund during the relevant month. The fee is paid monthly.

The Company receives from Nikko World Trust – KKR Global Impact Strategy an annual management fee at the rate of 0.05% of the net asset value of this sub-fund during the relevant month. The fee is paid quarterly.

The Company receives from QMS II an annual management fee at the rate of 0.03% of the net asset value of this fund during the relevant month. The fee is paid quarterly.

The Company receives from Quantic Trust – Target Early Termination Smart Brain Fund 202003 a fee at the rate of 0.03% per annum of the product of (i) the initial issue price of the sub-fund and (ii) the number of outstanding units in issue as of the relevant valuation day payable monthly in arrears.

The Company receives from each sub-fund of Nikko Global Funds an annual management fee at the rate of 0.03% of the net asset value of these sub-funds during the relevant quarter. The fee is paid quarterly.

The Company receives from Nikko Money Market Fund at the end of each quarter an annual management fee calculated as follows:

- “GYLOE” (Gross Yield Less Other Expenses) means a rate calculated daily by the Company, which shall be equal to the gross yield of the fund less the rate of daily amortization amount of expenses other than fees payable to the funds’ related parties and -
- “GILOE” (Gross Income Less Other Expenses) means an amount, calculated daily by the Company, which shall be equal to the difference between:

- (a) the gross income of the fund, including the capital gain/loss on securities, and
- (b) the daily amortisation amount of expenses other than fees payable to the fund’s related parties.

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)**

In case daily GYLOE is below 1% per annum, the fee payable to the Company is 1% of the GILOE. In case daily GYLOE is 1% p.a. or above and below 1.5% p.a., the fee payable to the Company is 0.02% p.a. of the net asset value of a sub-fund accrued on and calculated daily. In case daily GYLOE is 1.5% p.a. or above, the fee payable to the Company is 0.03% p.a. of the net asset value of a sub-fund accrued on and calculated daily.

12.2 - Other external expenses

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Other expenses	418 435	313 170
	<u>418 435</u>	<u>313 170</u>

Other expenses correspond to services rendered by external providers such as legal advice, consultancy, membership to associations and so forth.

Note 13 - Other operating expenses and other operating income**13.1 - Other operating expenses**

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Other administrative expenses	294 751	219 023
	<u>294 751</u>	<u>219 023</u>

13.2 - Other operating income

	March 31, 2024	March 31, 2023
	EUR	EUR
Adjustment other provisions from previous years	3 591	5 930
Cash from liquidated Investment funds	18	2 322
Other	<u>1 922</u>	<u>2</u>
	<u>5 531</u>	<u>8 254</u>

Note 14 - Staff and directors**14.1 - Directors**

Director's fees are part of the other operating expenses.

On February 9, 2023 Mr. Mitamura resigned as director of the Company and is replaced by Mr. Hattori.

On July 26, 2023 Mr. Matsui became the fifth Director.

The number of directors having been mandated during the financial year was as follows:

	March 31, 2024	March 31, 2023
Directors	5	4

SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.**Notes to the annual accounts for the year ended March 31, 2024 (continued)****14.2 - Personnel**

The number of personnel employed as at March 31, 2023 and March 31, 2022 was as follows:

	March 31, 2024	March 31, 2023
Senior Management	3	2
Middle Management	2	2
Employees	<u>4</u>	<u>3</u>
	<u>9</u>	<u>7</u>

Note 15 – Subsequent events

Three new sub-funds are planned to be launched in FY 2024. All of them will be launched in the second half of the financial year.

Mr Hironori Hattori resigned on 31st May 2024.

中間財務書類

- a . 管理会社の日本文の中間財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に認められた会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第328条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b . 管理会社の原文の中間財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）の監査を受けていない。
- c . 管理会社の原文の中間財務書類は、ユーロで表示されている。日本文の中間財務書類には、2025年2月28日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1ユーロ＝155.60円）を使用して換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ

貸借対照表

2024年9月30日現在

（単位：ユーロ）

	2024年9月30日		2024年3月31日	
	ユーロ	千 円	ユーロ	千 円
資産				
固定資産				
- その他の備品および付属品、工具および設備	12,474	1,941	8,231	1,281
流動資産				
債権				
- 売掛金				
1年以内に支払期限の到来するもの	1,291,264	200,921	1,190,974	185,316
- 関係当事者への債権				
1年以内に支払期限の到来するもの	0	0	0	0
- その他の売掛金				
1年以内に支払期限の到来するもの	6,618	1,030	6,618	1,030
預金	13,402,774	2,085,472	12,334,182	1,919,199
手許現金	0	0	0	0
前払金	19,986	3,110	70,915	11,034
	14,720,643	2,290,532	13,602,689	2,116,578
資産合計	14,733,117	2,292,473	13,610,920	2,117,859
負債				
資本金および準備金				
- 払込資本金	5,446,220	847,432	5,446,220	847,432
- 繰越利益	2,118,205	329,593	0	0
- 準備金				
法定準備金	673,906	104,860	673,906	104,860
その他の積立金	4,364,072	679,050	4,364,072	679,050
	5,037,978	783,909	5,037,978	783,909
- 当期損益	1,017,285	158,290	2,118,205	329,593
	13,619,688	2,119,223	12,602,403	1,960,934
引当金				
- 納税引当金	718,538	111,805	661,448	102,921
- その他の引当金	346,984	53,991	301,420	46,901
	1,065,522	165,795	962,868	149,822
非劣後債務				
- 買掛金				
1年以内に支払期限の到来するもの	0	0	0	0
- その他の債務				
- 社会保障	47,907	7,454	45,649	7,103
	47,907	7,454	45,649	7,103
負債合計	14,733,117	2,292,473	13,610,920	2,117,859

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ

損益計算書

2024年4月1日から2024年9月30日までの期間

（単位：ユーロ）

	2024年9月30日		2024年3月31日	
	ユーロ	千 円	ユーロ	千 円
費用				
その他の外部費用	36,254	5,641	418,435	65,108
人件費	134,410	20,914	1,521,982	236,820
流動資産要素に係る評価調整	0	0	0	0
その他の営業費用	35,927	5,590	294,751	45,863
その他の利息および類似財務費用	(88)	(14)	0	0
	206,504	32,132	2,235,168	347,792
法人所得税	70,765	11,011	707,138	110,031
	277,268	43,143	2,942,306	457,823
当期利益	213,369	33,200	2,118,205	329,593
費用合計	490,637	76,343	5,060,511	787,416
収益				
純売上高	451,184	70,204	4,688,515	729,533
その他の営業収益	0	0	5,531	861
その他の利息および類似財務収益	39,453	6,139	366,465	57,022
	490,637	76,343	5,060,511	787,416
当期損失	0	0	0	0
収益合計	490,637	76,343	5,060,511	787,416

4【利害関係人との取引制限】

管理会社が、管理会社または受益者以外の第三者の利益のために行う取引等、受益者の保護に欠け、またはサブ・ファンド資産の運用の適正を害する取引は禁止される。

投資者は、以下の潜在的利益相反に注意する必要がある。

受託会社、管理会社および両社の持株会社、持株会社の株主、持株会社の子会社およびそれぞれの取締役、役員、従業員、代理人および関連会社（以下「利害関係者」という。）は、時にサブ・ファンドと利益が相反するその他の金融、投資またはその他の専門的活動に従事することがある。かかる活動には、他の投資信託の運用、有価証券の売買、投資顧問・運用顧問業務、仲介業務の提供およびその他の投資信託または会社の取締役、役員、顧問または代理人を務めることなどを含む。特に、受託会社または管理会社は、サブ・ファンドと同様のまたは重複する投資目的を有するその他の投資ファンドに助言を行うことがある。また、受託会社または管理会社は、サブ・ファンドに提供する業務と同様の業務を第三者に提供することができるが、かかる業務から得た利益について説明する責任を負わない。利益相反が発生する場合、受託会社または管理会社は、公正に解決するよう努力するものとする。サブ・ファンドを含めた様々な顧客に対する投資機会の配分に関連して、受託会社または管理会社は、上記の職務に関連して利益相反に直面することがあるが、受託会社または管理会社は、こうした状況下において投資機会が公正に配分されるように注意を払うものとする。

受託会社、管理会社や各社の関連会社は、関係法で認められる範囲内で、代理人として受託会社または管理会社とポートフォリオにかかる取引を行うことができ、その場合、通常の仲介手数料が通常の総合業務仲介手数料を超えないことを条件として、通常の仲介手数料や現金リベートを受け取り、保持するほか、通常の市場慣行に従って、本人として受託会社または管理会社と取引を行うことができる。

受託会社、管理会社やそれぞれの関連会社は、受託会社、管理会社やそれぞれの関連会社のために物品、業務またはその他の便益（調査業務、顧問業務、特殊なソフトウェアまたは調査業務に関連するコンピュータ・ハードウェアおよびパフォーマンス測定などを含む。）を提供する取決めを行った者またはかかる者の代理人を通じて取引を行う権利を留保する。ただし、かかる取引の性格が全体として受託会社または管理会社の利益になることが合理的に予想でき、サブ・ファンドのパフォーマンスの改善に貢献できること、また、かかる取引のために直接的な支払は行われず、その代わりに受託会社、管理会社やそれぞれの関連会社が仕事を発注することを請け負うことを条件とする。疑義を避けるため記載すると、上記の物品および業務には、旅行、宿泊、接待、一般管理用の物品およびサービス、一般的な事務機器または建物、会費、従業員の給与または直接的な金銭の支払は含まれない。

ミューチュアル・ファンド法およびミューチュアル・ファンド規則に従って、受託会社または受託会社の関連会社は、事前に書面で管理会社の承認を得た上で、利害関係者または利害関係者が運用もしくは助言を行う投資ファンドもしくはアカウントから有価証券を購入し、または売却することができる。また、受託会社または管理会社以外の利害関係者は、適当と判断する場合、受益証券を保有し、または取引することができる。利害関係者（受託会社を除く。）は、受託会社または受託会社の子会社が同様の投資対象を保有している場合でも、自己勘定でかかる投資対象を購入し、保有し、取引することができる。受託会社または管理会社は、信託財産を用いて自己の計算で取引を実行してはならない。

ミューチュアル・ファンド法およびミューチュアル・ファンド規則に従って、利害関係者は、受益者または受託会社によりまたは受託会社の勘定で有価証券を保有している法人と金融取引等の取引を行い、または契約を締結し、またはかかる取引もしくは契約に利害関係を持つことができる。更に、利害関係者は、サブ・ファンドの勘定で利害関係者が執行する投資対象の売買に関連して利害関係者が交渉した手数料または利益を受け取ることができ、かかる手数料または利益がサブ・ファンドの利益になることもあれば、利益にならないこともある。

5【その他】

（１）定款の変更

管理会社の定款の変更または解散に関しては、ルクセンブルグの法律が規定する定足数および議決に関する要件に従い、株主総会の決議が必要である。

（２）事業譲渡または事業譲受

ルクセンブルグ監督当局の事前承認を条件として、管理会社は、ルクセンブルグの一般原則に基づき、契約型投資信託を管理運用する権限を授与されている他のルクセンブルグの会社にその業務を譲渡することができる。かかる場合、事業を譲渡した会社は、なお、法人として存続する。

（３）出資の状況

該当事項なし。

（４）訴訟事件その他の重要事項

有価証券報告書提出前１年以内において、訴訟事件その他管理会社に重要な影響を与えた事実、または与えることが予想される事実はない。

管理会社の会計年度は、３月末日に終了する１年である。

管理会社の存続期間は無期限である。ただし、株主総会の決議によりいつでも解散することができる。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本の額及び事業の内容】

（1）プレミアム・ファンズ・リミテッド（「受託会社」）

資本金の額

2025年2月末日現在、受託会社の授權資本金は50,000米ドル（1株当たり1米ドルの株式50,000株）であり、払込資本金は100米ドル（約14,967円）である。

事業の内容

受託会社は、メイプルズ・エフエス・リミテッド（Maples FS Limited）の「管理子会社」（ケイマン諸島の銀行および信託会社法（改正済）（以下「銀行および信託会社法」という。）に規定されている。）であり、メイプルズ・エフエス・リミテッドは、銀行および信託会社法の規定に基づき、適式に設立され有効に存続する信託会社であり、信託業務を行うための免許を受けている、信託会社である。メイプルズ・エフエス・リミテッドは、ミューチュアル・ファンド法に基づく免許投資信託管理事務代行会社でもある。

（2）S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社（「保管会社」および「管理事務代行会社」）

資本金の額

2025年2月末日現在、90,154,448ユーロ（約140億円）

事業の内容

S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社は、ルクセンブルグで1974年2月14日に株式会社として設立された銀行であり、S M B CバンクE Uの100%子会社である。同社の目的は、自己勘定および第三者の勘定または第三者との共同勘定で、ルクセンブルグ大公国の国内または国外で、銀行業務または金融業務を営むことである。

（3）S M B C日興証券株式会社（「代行協会員」および「日本における販売会社」）

資本金の額

2025年3月末日現在、1,350億円

事業の内容

金融商品取引法に基づき登録を受け、日本において金融商品取引業を営んでいる。なお、S M B C日興証券株式会社は、投資信託受益証券を取り扱っており、複数の外国投資信託証券について、日本における代行協会員業務および販売等の業務を行っている。

（4）ブラックロック・ジャパン株式会社（「投資運用会社」）

資本金の額

2025年2月末日現在、31億2,000万円

事業の内容

投資運用会社は、日本の金融商品取引法のもとでの金融商品取引業者であり、投資運用業務を行っている。

2【関係業務の概要】

（1）プレミアム・ファンズ・リミテッド

信託証書の規定に従って、受託会社は、サブ・ファンドに関連して（関係する信託証書に基づく権限および職務の履行に際して）受託会社として負担し、または当事者となったすべての訴訟、司法手続、債務、コスト、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または催告について、受託会社の現実の詐欺または故意の不履行を原因とする作為または不作為に起因する訴訟、コスト、司法手続、債務、請求、損害、費用または催告を除き、関係する信託財産から補償を受け、かつ信託財産に対し求償権を有するものとする。また受託会社に過去または現在の受益者から補償金を受け取る権利はない。

信託証券の規定に従って、受託会社および受託会社の関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員または代理人は何らかの理由でいずれかの時点で関係するサブ・ファンドの信託財産もしくは信託財産の一部または信託財産の収益に発生した損失または損害に関して、かかる損失または損害が受託会社、受託会社の関連会社またはそれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行に起因しない限り、一切責任を負わない。また受託会社はいかなる場合も間接損害、特別損害または派生的損害に関して責任を負わないものとする。

受託会社は、受任者または副受任者の行為を監督する義務を負わないものとし、また受任者または副受任者の失当行為、過失または不履行を理由にサブ・ファンドに発生した損失に関して、かかる損失がサブ・ファンドに関する受託会社の職務に故意の不履行または現実の詐欺に起因しない限り、責任を負わないものとする。受託会社は管理会社または管理会社が権限、職務もしくは裁量権を委任した者またはかかる者の受任者を監督し、または委任された職務を履行する上記の者の資格を調査する義務を負わないものとする。また受託会社は投資対象の妥当性、適格性等に関する表明または保証を行わず、上記に関して一切責任を負わない。

受託会社の任命期間は、受益者決議によって受益者から解任され、書面により通知されない限り、ファンドの存続期間とする。受託会社は少なくとも45日前までに管理会社および受益者全員に書面の通知をして、後任の受託者が任命され次第、退任することができる。

受託会社は「管理報酬等」の項に定める報酬を受け取る権利を有する。

（２）S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社

受託会社、管理会社および管理事務代行会社との間で締結された総管理事務代行契約（以下「総管理事務代行契約」という。）に基づいて、S M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社は、ファンドの管理事務代行、登録代行兼名義書換代理人を務めるサブ・ファンドの管理事務代行会社として任命された。総管理事務代行契約に定める条件に基づいて、かつ受託会社および管理会社の全般的監督の元で、管理事務代行会社は受託会社および管理会社の包括的または個別的指示に従って、ファンドの事務を管理し、ファンドの会計記録を付け、サブ・ファンドの純資産価額および受益証券１口当たり純資産価格を計算し、受益証券に関する登録代行および買戻代理人を務めるものとする。

管理事務代行会社はルクセンブルグ大公国の法律に基づく公開有限会社として設立された銀行で、S M B CバンクE Uの子会社である。

総管理事務代行契約は、受託会社もしくは管理会社が管理事務代行会社に90暦日前までに書面の通知をするか、または管理事務代行会社が受託会社もしくは管理会社に90暦日前までに書面の通知をして終了させるまで、効力を継続するものとする。また総管理事務代行契約は総管理事務代行契約に定めるその他の状況下においても終了させることができる。

総管理事務代行契約に定める規定に従って、管理事務代行会社（本項においては管理事務代行会社のすべての取締役、役員および従業員ならびに、管理事務代行会社により選任された代理人、下請人または委託先を含む。）は、その合理的な支配の及ばない理由、原因または偶発事故（自然災害、国有化、通貨制限、郵便その他のストライキ、争議行為または関連する証券取引所、決済システムもしくは市場の障害、停止もしくは混乱を含むが、これに限られない。）の直接または間接的な結果として生じた損失または同契約に基づく職務もしくは義務の不履行もしくは遅延につき責任を負わない。

総管理事務代行契約の関連する規定に従い、管理会社は、あらゆる経費、負債、債務、請求、措置、催告、損害、違約金、訴え、法的手続、判決、決定、訴訟、費用または支出（種類または性質を問わない。）のうち、（ ）同契約に基づく機能または職務の履行に関連して管理事務代行会社に課され、これが負担し、またはこれに対して申立てがなされる可能性のあるものであって、（ ）管理事務代行会社が適切な指示を受けて同契約に基づいて行為した事実 directly または間接的に起因するものにつき、管理事務代行会社ならびにその役員および取締役を補償し、これらに損害を被らせないことを約束する。

管理事務代行会社は「管理報酬等」の項に定める報酬を受け取る権利を有する。

受託会社、管理会社および保管会社との間で締結された保管契約（以下「保管契約」という。）に基づいて、受託会社および管理会社はサブ・ファンドの信託財産に関する保管会社（以下「保管会社」という。）としてS M B C日興ルクセンブルク銀行株式会社を任命した。

保管契約に定める規定に従って、保管会社（本項においては保管会社のすべての取締役、役員および従業員ならびに保管会社が任命した代理人、下請業者または受任者を含む。）は本書に基づいて職務を履行する過程で保管会社が善意から犯した判断の誤り、見落としまたは法の錯誤を直接または間接的原因として、サブ・ファンドに関して管理会社または受託会社が被った損失または損害に関して責任を負わないものとする。また保管会社は、過失または故意の不履行がない限り、本書に基づく保管会社の職務の履行の結果または過程で管理会社または受託会社が被った損失または損害に関して責任を負わないものとする。

受託会社および管理会社は、サブ・ファンドに関する保管契約に基づく保管会社の職務の履行に起因し、または関連して保管会社または保管会社の株主、取締役、役員、従業員および代理人が負担し、または相手取って提起されたすべての訴訟、訴訟手続、請求、催告、債務、損失、損害、コストおよび費用（上記に起因し、または付随して発生した合理的な法的費用、専門家の費用および報酬を含む。）について、保管契約に基づくサブ・ファンドに関する職務の履行に際して保管会社が犯した過失、故意の不履行、害意、現実の詐欺または未必の故意に起因する場合を除き、関係するサブ・ファンドの資産から保管会社ならびに保管会社の各株主、取締役、役員、従業員および代理人を補償するものとする。

保管契約は、受託会社、管理会社または保管会社が90日前までに書面の通知をして終了させるまで、効力を継続するものとする。また保管契約は保管契約に定めるその他の状況下においても終了させることができる。

サブ・ファンドまたはサブ・ファンドの代理人が信用取引のために取引相手、先物・オプション取引所、決済ブローカー等に差し入れた契約、証拠金等の金銭またはその他の投資対象に関して保管会社は責任を負わないこと、更に証拠金等の金銭もしくはその他の投資対象に関する取引相手、先物・オプション取引所、決済ブローカー等の不履行または信用取引のために担保として差し入れた証拠金等の金銭もしくはその他の投資対象から控除される金額に関して保管会社は責任を負わないことに投資者は注意すべきである。

保管会社は「管理報酬等」の項に定める報酬を受け取る権利を有する。

（３）S M B C日興証券株式会社

日本における代行協会員業務および日本における受益証券の募集に関し、日本における販売・買戻業務を行う。

（４）ブラックロック・ジャパン株式会社

管理会社は、信託証書およびミューチュアル・ファンド規則の規定に基づいて、サブ・ファンドのポートフォリオ管理をブラックロック・ジャパン株式会社に委任している。投資運用会社は、管理会社の取締役会による全般的な監督および責任の下で、適用ある投資目的および投資制限に従って、サブ・ファンドの資産の投資および再投資に関する責任を負う。

投資運用契約に基づき、投資運用会社の義務および責任に関し、投資運用会社の害意、故意の不履行、現実の詐欺、重過失または適用法の不注意による見過ごしもしくは違反がない限り、サブ・ファンドに関する作為または不作為の責任から、投資運用会社は免責される。

３【資本関係】

管理会社は、代行協会員および日本における販売会社であるS M B C日興証券株式会社の100%子会社である。

第3【投資信託制度の概要】

1．ケイマン諸島における投資信託制度の概要

- 1.1 1993年までは、ケイマン諸島には投資信託を具体的に規制する法律は存在しなかったが、ケイマン諸島内においてまたはケイマン諸島から運営している投資信託の受託者はケイマン諸島の銀行および信託会社法（改正済）（以下「銀行および信託会社法」という。）の下で規制されており、ケイマン諸島内においてまたはケイマン諸島から運営している投資運用会社、投資顧問会社およびその他の業務提供者は、銀行および信託会社法、ケイマン諸島の会社管理法（改正済）またはケイマン諸島の地域会社（管理）法（改正済）の下で規制されていた。
- 1.2 ケイマン諸島は連合王国の海外領であり、当時は為替管理上は「ポンド圏」に属していたため、多くのユニット・トラストおよびオープン・エンド型の投資信託が1960年代の終わり頃に設立され、概して連合王国に籍を有する投資運用会社または投資顧問会社をスポンサー（以下「設立計画推進者」という。）として設立されていた。その後、米国、ヨーロッパ、極東およびラテンアメリカの投資顧問会社が設立計画推進者となって、かなりの数のユニット・トラスト、会社ファンド、およびリミテッド・パートナーシップを設定した。
- 1.3 現在、ケイマン諸島は、投資信託について以下の二つの別個の法体制を運用している。
- （a）1993年7月に施行された、「ミューチュアル・ファンド」に分類されるオープン・エンド型の投資信託および投資信託管理者を規制するケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法（改正済）（以下「ミューチュアル・ファンド法」という。）、ならびに2020年に施行された直近の改正ミューチュアル・ファンド法
- （b）2020年2月に施行された、「プライベート・ファンド」に分類されるクローズド・エンド型ファンドを規制するケイマン諸島のプライベート・ファンド法（改正済）（以下「プライベート・ファンド法」といい、ミューチュアル・ファンド法と併せて「ファンド法」という。）
- 1.4 プライベート・ファンドについて明示的に別段の記載がなされる場合（または投資信託一般に対する言及により黙示的に記載される場合）を除き、本投資信託制度の概要の残りの記載は、ミューチュアル・ファンド法の下で規制されるオープン・エンド型のミューチュアル・ファンドの運用に関するものであり、「ミューチュアル・ファンド」の用語は、これに応じて解釈されるものとする。
- 1.5 2022年12月現在、ミューチュアル・ファンド法に基づく規制を受けている、活動中のミューチュアル・ファンドの数は、12,995（3,224のマスター・ファンドを含む。）であった。またそれに加え、同日時点で、適用可能な免除規定に従った相当数の未登録投資信託（2020年2月よりプライベート・ファンド法の下で規制されるクローズド・エンド型ファンド、および2020年2月より一般的にミューチュアル・ファンド法の下で規制される限定投資家ファンド（以下に定義する。）の両方を含むが、これらに限られない。）が存在していた。
- 1.6 ケイマン諸島は、カリブ金融活動作業部会（マネー・ロンダリング）のメンバーである。

2．投資信託規制

- 2.1 銀行、信託会社、保険会社、投資運用会社、投資顧問会社および会社の管理者をも監督しておりケイマン諸島の金融庁法（改正済）（以下「金融庁法」という。）により設置された法定政府機関であるケイマン諸島金融庁（以下「CIMA」という。）が、ファンド法のもとでのミューチュアル・ファンドおよびプライベート・ファンド規制の責任を課せられている。CIMAは、証券監督者国際機構およびオフショア・バンキング監督者グループのメンバーである。
- 2.2 ミューチュアル・ファンド法において、ミューチュアル・ファンドとは、ケイマン諸島において設立された会社、ユニット・トラストもしくはパートナーシップ、またはケイマン諸島外で設立されたものでケ

イマン諸島から運用が行われており、投資者の選択により買戻しができる受益権を発行し、投資者の資金をプールして投資リスクを分散し、かつ、投資を通じて投資者が収益もしくは売買益を享受できるようにする目的もしくは効果を有するものと定義されている。

2.3 プライベート・ファンド法において、プライベート・ファンドとは、投資者の選択による買戻しができない投資持分を募集もしくは発行する、または発行した会社、ユニット・トラストまたはパートナーシップであり、投資者の資金をプールして、以下の場合にかかる事業体の投資対象の取得、保有、管理または処分を通じて投資者が収益もしくは売買益を享受できるようにする目的もしくは効果を有するものと定義されている。

（a）投資持分の保有者が、投資対象の取得、保有、管理または処分について日常的支配権を有しない場合

（b）投資対象が、全体としてプライベート・ファンドの運営者またはその代理人によって直接的または間接的に管理される場合

ただし、以下を除く。

（a）銀行および信託会社法またはケイマン諸島の保険法（改正済）に基づく免許を受けた者

（b）ケイマン諸島の住宅金融組合法（改正済）またはケイマン諸島の共済会法（改正済）に基づき登録された者、または

（c）非ファンド・アレンジメント（アレンジメントの一覧は、プライベート・ファンド法の別紙に定められる。）

2.4 ミューチュアル・ファンド法に基づき、CIMAは、フィーダー・ファンドであり、それ自体がCIMAの規制を受けるミューチュアル・ファンド（以下「規制フィーダー・ファンド」という。）のマスター・ファンドとして行為するケイマン諸島の事業体についても、規制上の責任を負う。概して、かかるマスター・ファンドが、規制フィーダー・ファンドの総合的な投資戦略を実施することを主な目的として、少なくとも1つの規制フィーダー・ファンドを含む、一または複数の投資者に対して（直接的または仲介会社を通じて間接的に）受益権を発行し、投資対象を保有し、取引活動を行う場合、かかるマスター・ファンドは、CIMAへの登録を要求される場合がある。

2.5 2020年2月7日、ミューチュアル・ファンド法を改正したケイマン諸島の（改正）ミューチュアル・ファンド法（改正済）（以下「改正法」という。）が施行された。改正法は、その受益権に関する投資者が15名以内であり、その過半数によってミューチュアル・ファンドの運営者を選任または解任することができるという条件で、従前登録を免除されていた一定のケイマン諸島のミューチュアル・ファンド（以下「限定投資家ファンド」という。）をCIMAに登録するよう定める。

2.6 ファンド法は、同法の規定に関する違反行為に対して厳しい刑事罰を課している。

3. 規制を受けるミューチュアル・ファンドの四つの型

ミューチュアル・ファンド法に基づくミューチュアル・ファンドの規制には、四つの類型がある。

3.1 免許を付与されたミューチュアル・ファンド

第一の方法は、CIMAの裁量により発行されるミューチュアル・ファンドに係る免許をCIMAに申請することである。所定の様式でCIMAにオンライン申請を行い、CIMAに対して募集書類を提出し、該当する申請手数料を支払う必要がある。各設立計画推進者が健全な評判を有し、投資信託を管理するのに十分な専門性を有し、取締役（または、場合により、それぞれの地位における管理者または役員）に適格かつ適切である者がミューチュアル・ファンドを管理しており、かつ、ファンドの業務が適切な方法で行われると考えられるものとCIMAが判断した場合には、免許が与えられる。この投資信託は、著名な評判を有する機関が設立計画推進者であって、投資信託管理者としてケイマン諸島のミューチュアル・ファンドの管理者が選任されない投資信託に適している。

3.2 管理されたミューチュアル・ファンド

第二の方法は、ミューチュアル・ファンドが、そのケイマン諸島における主たる事務所として免許投資信託管理者の事務所を指定する場合である。この場合、募集書類と所定の法定様式が、該当する申請手数料とともにCIMAに対してオンラインで提出されなければならない。また、管理者に関するオンライン申請も所定の様式で行われなければならない。ミューチュアル・ファンド自体については、免許を取得する必要はない。ただし、投資信託管理者は、各設立計画推進者が健全な評判の者であること、投資信託の管理が投資信託管理の十分な専門性を有する健全な評判の者により管理されること、投資信託業務および受益権を募る方法が適切に行われることを満たしていることが要求される。投資信託管理者は、主たる事務所を提供している投資信託がミューチュアル・ファンド法に違反しており、支払不能となっており、またはその他債権者もしくは投資者に対して害を与える方法で行動しているものと信じる理由があるときは、CIMAに対して報告しなければならない。

3.3 登録投資信託（第4（3）条ミューチュアル・ファンド）

規制の第三の類型は、ミューチュアル・ファンド法第4（3）条に基づき登録され、以下のいずれかに該当するミューチュアル・ファンドに適用される。

（a）一投資者当たりの最低初期投資額が（CIMAが100,000米ドルと同等とみなす）80,000ケイマン諸島ドルであるもの

（b）受益権が公認の証券取引所に上場されているもの

登録投資信託については、ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド管理者による免許の取得または主たる事務所の提供に関する要件はなく、登録投資信託は、単に一定の詳細内容を記載した募集書類をオンライン提出し、該当する申請手数料を支払うことによりCIMAに登録される。

3.4 限定投資家ファンド

限定投資家ファンドは、2020年2月以前は登録を免除されていたが、現在はCIMAに登録しなければならない。限定投資家ファンドの義務は、ミューチュアル・ファンド法第4（3）条に基づき登録されるミューチュアル・ファンドの義務（CIMAへの登録時の当初手数料および年間手数料を含む。）に類似するが、両者には重要な相違点が複数存在する。ミューチュアル・ファンド法第4（3）条に基づき登録されるミューチュアル・ファンドとは異なり、限定投資家ファンドは、その投資者が15名以内でなければならず、当該投資者がその過半数によってミューチュアル・ファンドの運営者（運営者とは、取締役、ジェネラル・パートナー、受託会社または管理者を意味する。）を選任または解任することができなければならない。他の重要な相違点は、ミューチュアル・ファンド法第4（3）条に基づき登録されるミューチュアル・ファンドの投資者が法定当初最低投資額（80,000ケイマン諸島ドル/100,000米ドルと同等の額）の規制に服する一方で、限定投資家ファンドの投資者には法定当初最低投資額が適用されない点である。

4 . 投資信託の継続的要件

4.1 限定投資家ファンドの場合を除き、いずれの規制投資信託も、CIMAに免除されない限り、受益権につい

てすべての重要な事項を記述し、投資希望者が（投資するか否かの）判断を十分情報を得た上でなし得るようにするために必要なその他の情報を記載した募集書類を発行しなければならない。限定投資家ファンドは、募集書類、条件要項または販促資料を届け出ることを選択できる。マスター・ファンドに募集書類がない場合、当該マスター・ファンドに係る詳細内容は、通常、規制フィードバック・ファンドの募集書類（当該書類はCIMAに提出しなければならない。）に含まれる。さらに、偽りの記述に対する既存の法的義務およびすべての重要事項の適切な開示に関する一般的なコモン・ロー上の義務が適用される。募集が継続している場合で、重大な変更があった場合には、変更後の募集書類（限定投資家ファンドの場合は、条件要項もしくは販促資料（届出がされている場合））を、当該変更から21日以内にCIMAに提出する義務がある。CIMAは、募集書類の内容または様式を指図する特定の権限を有しないものの、折に触れて募集書類の内容について規則または方針を発表する。

- 4.2 すべての規制投資信託は、CIMAが承認した監査人を選任しなければならず、ミューチュアル・ファンドの決算終了から6か月以内にミューチュアル・ファンドの監査済み年間会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程で投資信託が以下のいずれかに該当するという情報を入手したときまたは該当すると疑う理由があるときはCIMAに対し書面で通知する法的義務を負っている。
- (a) 投資信託がその義務を履行期が到来したときに履行できない、またはそのおそれがある場合
 - (b) 投資信託の投資者または債権者を害するような方法で、自ら事業を行いもしくは行っている事業を解散し、またはそうしようと意図している場合
 - (c) 会計が適切に監査できるような十分な会計記録を作成せずに事業を行いまたはそのように意図している場合
 - (d) 欺罔的または犯罪的な方法で事業を行いまたはそのように意図している場合
 - (e) ミューチュアル・ファンド法、ミューチュアル・ファンド法に基づく規則、金融庁法、ケイマン諸島のマネー・ロンダリング防止規則（改正済）（以下「マネー・ロンダリング防止規則」という。）または、免許を受けたミューチュアル・ファンドの場合に限り、ミューチュアル・ファンドの免許の条件を遵守せずに事業を行いまたはそのように意図している場合
- 4.3 すべての規制投資信託は、登記上の事務所もしくは主たる事務所または受託会社の変更があったときはこれをCIMAに通知しなければならない。かかる通知の期間は、該当する規則の様式（および該当する条件）によって異なる場合があり、かかる通知が変更の前提条件として要求される場合や、かかる通知が変更の実施から21日以内に行うものとされる場合がある。
- 4.4 当初2006年12月27日に効力を生じたケイマン諸島の投資信託（年次申告書）規則（改正済）に従って、すべての規制投資信託は、投資信託の各会計年度について、会計年度終了後6か月以内に、規則に記載された項目を含んだ正確で完全な申告書を作成し、CIMAに提出しなければならない。CIMAは当該期間の延長を許可することができる。申告書は、投資信託に関する一般的情報、営業情報および会計情報を含み、CIMAにより承認された監査人を通じてCIMAに提出されなければならない。規制投資信託の運営者は、投資信託にこの規則を遵守させることに責任を負う。監査人は、規制投資信託の運営者から受領した各申告書をCIMAに適切な時期に提出することにのみ責任を負い、提出された申告書の正確性または完全性については法的義務を負わない。

5．投資信託管理者

- 5.1 ミューチュアル・ファンド法における管理者のための免許には、「投資信託管理者」の免許および「制限的投資信託管理者」の免許の二つの類型がある。投資信託の管理を行うことを企図する場合は、そのいずれかの免許が要求される。管理とは、投資信託の資産のすべてまたは実質上資産のすべてを支配し投資信託の管理をし、または投資信託に対して主たる事務所を提供し、もしくは受託会社または投資信託の取締役を提供すること（免除会社またはユニット・トラストであるかによる。）を含むものとし、管理と定義される。ミューチュアル・ファンドの管理から除外されるのは、特に、パートナーシップ・ミューチュアル・ファンドのジェネラル・パートナーの活動、ならびに法定・法的記録が保管されるか、会社の事務業務が行われる登記上の事務所の提供である。
- 5.2 いずれのタイプの免許を受ける者も、規制投資信託を管理するのに十分な専門性を有し、健全な評判を有し、かつ、投資信託管理者としての業務は、それぞれの地位において取締役、管理者または役員として適格かつ適正な者により行われる、という法定のテスト基準を満たさなければならない。免許を受ける者は、上記の事柄を示しかつそのオーナーのすべてと財務構造およびその取締役と役員を明らかにして詳細な申請書をCIMAに対し提出しなければならない。かかる者は少なくとも2名の取締役を有しなければならない。投資信託管理者の純資産は、最低約48万米ドルなければならない。制限的投資信託管理者には、最低純資産額の要件は課されない。投資信託管理者は、ケイマン諸島に2名の個人を擁する本店をみずから

有しているか、ケイマン諸島の居住者であるかケイマン諸島で設立された法人を代行会社として有さねばならず、制限なく複数の投資信託のために行為することができる。

5.3 投資信託管理者の責任は、まず受諾できる投資信託（該当する場合）にのみ主たる事務所を提供し、第3.2項に定めた状況においてCIMAに対して知らせる法的義務を遵守することである。

5.4 制限的投資信託管理者は、CIMAが承認する規制投資信託（CIMAの現行の方針は、最大10のファンドに許可を付与するものである。）に関し管理者として行為することができるが、ケイマン諸島に登記上の事務所を有していることが必要である。この類型は、ケイマンに投資信託の運用会社を創設した投資信託設立推進者が投資信託に関連した一連の投資信託を管理することを認める。CIMAの承認を条件として関連性のないファンドを運用することができる。現在の方針では、制限的投資信託管理者は、投資信託に対して主たる事務所を提供することが許されていない。しかし、制限的投資信託管理者が投資信託管理業務を提供する各規制投資信託は、登録投資信託または限定投資家ファンドでない場合は、別個に免許を受けなければならない。

5.5 投資信託管理者は、CIMAの承認を受けた監査人を選任しなければならない、決算期末から6か月以内にCIMAに対し監査済みの会計書類を提出しなければならない。監査人は、監査の過程で免許投資信託管理者が以下のいずれかに該当するという情報を入手したときまたは該当すると疑う理由があるときは、CIMAに対し書面で通知する法的義務を負っている。

（a）投資信託管理者がその義務を履行期が到来したときに履行できない、またはそのおそれがある場合

（b）投資信託管理者が管理している投資信託の投資者または投資信託管理者の債権者または投資信託の債権者を害するような方法で、事業を行いもしくは行っている事業を自発的に解散し、またはそうしようと意図している場合

（c）会計が適切に監査できるような十分な会計記録を作成せずに事業を行いまたはそのように意図している場合

（d）欺罔的または犯罪的な方法で事業を行いまたはそのように意図している場合

（e）ミューチュアル・ファンド法または以下の（i）および（ ）に基づく規則を遵守せずに事業を行い、またはそのように意図している場合

（i）ミューチュアル・ファンド法、金融庁法、マネー・ロンダリング防止規則または免許の条件

（ ）免許を受ける者が、ケイマン諸島の実質的所有者透明性法（改正済）（以下「BOTA」という。）において「法人向けサービス提供者」として定義されている場合

5.6 CIMAは投資信託管理者に対して純資産を増加し、または保証や満足できる財務サポートを提供することを要求することもできる。

5.7 投資信託管理者の株主、取締役、上級役員、またはジェネラル・パートナーの変更についてはCIMAの承認が必要である。

5.8 非制限的免許を有する投資信託管理者がCIMAに対して支払う当初手数料は、24,390米ドルまたは30,488米ドルであり（管理する投資信託の数による。）、また、制限的投資信託管理者の支払う当初手数料は8,536米ドルである。一方、非制限的免許を有する投資信託管理者の支払う年間手数料は、36,585米ドルまたは42,682米ドルであり（管理する投資信託の数による。）、また、制限的投資信託管理者の支払う年間手数料は8,536米ドルである。

6．ケイマン諸島における投資信託の構造の概要

ケイマン諸島の投資信託について一般的に用いられている類型は以下のとおりである。

6.1 免除会社

（a）最も一般的な投資信託の手段は、ケイマン諸島の会社法（改正済）（以下「会社法」という。）に従って通常額面株式を発行する（無額面株式の発行も認められる）免除有限責任会社である。時に

は、保証による有限責任会社も用いられる。免除会社は、投資信託にしばしば用いられており、以下の特性を有する。

- (b) 設立手続には、会社の基本憲章の当初の制定（会社の目的、登記上の事務所、授權資本、株式買戻規定、および内部統制条項を記載した基本定款および定款）、基本定款の記名者による署名を行い、これをその記名者の簡略な法的宣誓文書とともに、授權資本に応じて異なる手数料とともに会社登記官に提出することを含む。設立書類（特に定款）は、通常、ファンドの条件案がより正確に反映されるよう、ミューチュアル・ファンドの設立からローンチまでの間に改定される。
- (c) 存続期限のある／存続期間限定会社 - 存続期間が限定される会社型のファンドで外国の税法上（例えば米国）非課税の扱いを受けるかパートナーシップとして扱われるものを設立することは可能である。
- (d) 免除会社がいったん設立された場合、会社法の下での主な必要要件は、以下のとおり要約される。
 - (i) 各免除会社は、ケイマン諸島に登記上の事務所を有さなければならない。
 - () 取締役、代理取締役および役員の名簿は、登記上の事務所に維持されなければならない、その写しを会社登記官に提出しなければならない。
 - () 免除会社の財産についての担保その他の負担の記録は、登記上の事務所に維持されなければならない。
 - () 株主名簿は、登記上の事務所においてまたは希望すればその他の管轄地において維持することができる。
 - (v) 会社の手続の議事録は、利便性のある場所において維持する。
 - () 免除会社は、会社の業務状況に関する真正かつ公正な所見を提供するもので、かつ会社の取引を説明するために必要な帳簿、記録を維持しなければならない。
- (e) 免除会社は、株主により管理されていない限り、一または複数の取締役を有しなければならない。取締役は、コモン・ロー上の忠実義務に服すものとし、注意を払って、かつ免除会社の最善の利益のために行為しなければならない。
- (f) 免除会社は、様々な通貨により株主資本を指定することができる。
- (g) 額面株式または無額面株式のいずれかの設定が認められる（ただし、会社は額面株式および無額面株式の両方を発行することはできない。）。
- (h) いずれのクラスについても償還株式の発行が認められる。
- (i) 株式の買戻しも認められる。
- (j) 収益または払込剰余金からの払込済株式の償還または買戻しの支払に加えて、免除会社は資本金から払込済株式の償還または買戻しをすることができる。ただし、免除会社は、資本金からの支払後においても、通常の事業の過程で支払時期が到来する債務を支払うことができる（すなわち、支払能力を維持する）ことを条件とする。
- (k) 会社の払込剰余金勘定からも利益からも分配金を支払うことができる。免除会社の払込剰余金勘定から分配金を支払う場合は、取締役はその支払後、ファンドが通常の事業の過程で支払時期の到来する債務を支払うことができる、すなわち免除会社が支払能力を有することを確認しなければならない。
- (l) 免除会社は、今後最長で30年間税金が賦課されない旨の約定をケイマン諸島の財務長官から取得することができる。
- (m) 免除会社は、名称、取締役および役員、株式資本および定款の変更ならびに自発的解散を行う場合は、所定の期間内に会社登記官に報告しなければならない。
- (n) 免除会社は、毎年会社登記官に対して年次の法定の宣誓書を提出し、年間登録手数料を支払わなければならない。

6.2 免除ユニット・トラスト

- (a) ユニット・トラストは、ユニット・トラストへの参加が会社の株式への参加よりもより受け入れられやすく魅力的な地域の投資者によってしばしば用いられてきた。
- (b) ユニット・トラストは、信託証書に基づき受益者の利益のために信託財産に対する信託を宣言する受託者またはこれを設立する管理者および受託者により形成される。
- (c) ユニット・トラストの受託者は、ケイマン諸島内に、銀行および信託会社法に基づき信託会社として免許を受け、かつミューチュアル・ファンド法に基づき投資信託管理者として免許を受けた法人受託者である場合がある。このように、受託者は、両法に基づいてCIMAによる規制・監督を受ける。
- (d) ケイマン諸島の信託法は、基本的には英国の信託法に従っており、この問題に関する英国の信託法の相当程度の部分を採用している。さらに、ケイマン諸島の信託法（改正済）は、英国の1925年受託者法を実質的に基礎としている。投資者は、受託者に対して資金を払い込み、（受益者である）投資者の利益のために投資運用会社が運用する間、受託者は、一般的に保管者としてこれを保持する。各受益者は、ユニット・トラストの資産の持分比率に応じて権利を有する。
- (e) 受託者は、通常の忠実義務に服し、かつ受益者に対して説明の義務がある。その機能、義務および責任の詳細は、ユニット・トラストの信託証書に記載される。
- (f) 大部分のユニット・トラストは、「免除信託」として登録申請される。その場合、信託証書は、ケイマン諸島の居住者またはケイマン諸島を本拠地とする者を（限られた一定の場合を除き）受益者とししない旨宣言した受託者の法定の宣誓書と併せて、登録料とともに信託登記官に提出される。
- (g) 免除信託の受託者は、受託者、受益者、および信託財産が最長で50年間課税に服さないとの約定を取得することができる。
- (h) ケイマン諸島の信託は、150年まで存続することができ、一定の場合は無期限に存続できる。
- (i) 免除信託は、信託登記官に対して、当初手数料および年次手数料を支払わなければならない。

6.3 免除リミテッド・パートナーシップ

- (a) 免除リミテッド・パートナーシップは、プライベート・エクイティ、不動産、バイアウト、ベンチャーキャピタルおよびグロース・キャピタルを含むすべての種類のプライベート・ファンドにおいて用いられる。ある法域のファンドのスポンサーは、ミューチュアル・ファンドの文脈において、ケイマン諸島の免除リミテッド・パートナーシップを採用している。免除リミテッド・パートナーシップのパートナーとして認められる投資者の数に制限はない。
- (b) ケイマン諸島の免除リミテッド・パートナーシップ法（改正済）（以下「免除リミテッド・パートナーシップ法」という。）は、ケイマン諸島の法律の下で別個の法人格を有しない免除リミテッド・パートナーシップの設立および運用を規制する主なケイマン諸島の法律である。免除リミテッド・パートナーシップ法は、英国の1907年リミテッド・パートナーシップ法に基づき、他の法域（特にデラウェア州）のリミテッド・パートナーシップ法の特徴を組み込んだ様々な修正がなされたものである。免除リミテッド・パートナーシップに適用されるケイマン諸島の法体制は、米国弁護士にとって非常に認識しやすいものである。
- (c) 免除リミテッド・パートナーシップは、リミテッド・パートナーシップ契約を締結するジェネラル・パートナー（企業またはパートナーシップである場合は、ケイマン諸島の居住者であるか、同島または他の所定の法域において登録されているかまたは設立されたものである。）およびリミテッド・パートナーにより形成され、免除リミテッド・パートナーシップ法により登録されることによって形成される。リミテッド・パートナーシップ契約は、非公開である。登録はジェネラル・パートナーが、免除リミテッド・パートナーシップ登記官に対し法定の宣誓書を提出し、手数料を支払うことによって有効となる。登記をもって、リミテッド・パートナーに有限責任の法的保護が付与される。
- (d) ジェネラル・パートナーは、リミテッド・パートナーを除外して、免除リミテッド・パートナーシップの業務の運営を外部と行い、リミテッド・パートナーは、例外的事態（例えば、リミテッ

ド・パートナーが、パートナーでない者とともに業務の運営に積極的に参加する場合）がない限り、有限責任たる地位を享受する。ジェネラル・パートナーの機能、権限、権能、義務および責任の詳細は、リミテッド・パートナーシップ契約に記載される。

- (e) ジェネラル・パートナーは、誠意をもって、かつパートナーシップ契約において別途明示的な規定により異なる定めをしない限り、常にパートナーシップの利益のために行為する法的義務を負っている。免除リミテッド・パートナーシップ法の明示的な規定に矛盾する場合を除いて、ケイマン諸島のケイマン諸島パートナーシップ法（改正済）により修正されるパートナーシップに適用されるエクイティおよびコモン・ローの法則は、一定の例外を除き、免除リミテッド・パートナーシップに適用される。
- (f) 免除リミテッド・パートナーシップは、以下の規定を順守しなければならない。
 - (i) ケイマン諸島に登録事務所を維持する。
 - () 商号および所在地、リミテッド・パートナーに就任した日ならびにリミテッド・パートナーを退任した日の詳細を含むリミテッド・パートナーの登録簿を（ジェネラル・パートナーが決定する国または領域に）維持する。
 - () リミテッド・パートナーの登録簿が維持される所在地に関する記録を登録事務所に維持する。
 - () リミテッド・パートナーの登録簿が登録事務所以外の場所で保管される場合は、ケイマン諸島の税務情報庁法（改正済）に従い税務情報庁による指示または通知に基づき、リミテッド・パートナーの登録簿を電子的形態またはその他の媒体により登録事務所において入手可能にする。
 - (v) リミテッド・パートナーの出資額および出資日ならびに当該出資額の引出額および引出日を（ジェネラル・パートナーが決定する国または領域に）維持する。
 - () 有効な通知が送達した場合、リミテッド・パートナーが許可したリミテッド・パートナーシップの権利に関する担保権の詳細を示す担保権記録簿を登録事務所に維持する。
- (g) リミテッド・パートナーシップ契約およびパートナーシップは常に少なくとも1名のリミテッド・パートナーを有していなければならないという要件に従い、リミテッド・パートナーシップの権利は、パートナーシップの解散を引き起こすことなく償還、脱退、または買戻すことができる。
- (h) リミテッド・パートナーシップ契約の明示的または黙示的な条項に従い、各リミテッド・パートナーは、パートナーシップの業務と財務状況について完全な情報を求める権利を有する。
- (i) 免除リミテッド・パートナーシップは、最長で50年間の期間について将来の税金の賦課をしないとの約定を得ることができる。
- (j) 免除リミテッド・パートナーシップは、登録内容の変更ならびにその正式な清算の開始および解散に際し、免除リミテッド・パートナーシップ登記官に対して通知しなければならない。
- (k) 免除リミテッド・パートナーシップは、免除リミテッド・パートナーシップ登記官に対して、年次法定申告書を提出し、かつ年間手数料を支払わなければならない。

6.4 有限責任会社

- (a) ケイマン諸島の有限責任会社は、2016年に初めて設立可能となった。これは、デラウェア州の有限責任会社に緊密に沿った構造の選択肢の追加を求める利害関係者からの要請に対して、ケイマン諸島政府が対応したものである。
- (b) 有限責任会社は、（免除会社と同様に）別個の法人格を有し、その株主は有限責任を負う一方で、有限責任会社契約は柔軟なガバナンス体制を規定しており、免除リミテッド・パートナーシップと同様の方法で資本勘定の構造を実施するために使用することができる。また、有限責任会社においては、免除会社の運営において要求されるよりも簡易かつ柔軟な管理が認められている。例えば、株主の投資の価値の追跡または計算をする際のより直接的な方法や、より柔軟なコーポレート・ガバナンスの概念が挙げられる。

- (c) 有限責任会社は、複数の種類の取引（ジェネラル・パートナー・ピークル、クラブ・ディールおよび従業員報酬／プラン・ピークルなどを含む。）において普及していることが証明されている。有限責任会社は、クローズド・エンド型ファンド（代替投資ピークルを含む。）がケイマン諸島以外の法、税制または規制上の観点から別個の法人格を必要とする場合に採用されることが増えている。
- (d) 特に、オンショア-オフショアのファンド構造において、オンショア・ピークルとの一層の調和をもたらす能力が、管理のさらなる緩和および費用効率をもたらし、かかる構造の異なるピークルの投資者の権利をより緊密に整合させることができる可能性がある。ケイマン諸島の契約（第三者の権利）法（改正済）により提供される柔軟性は、有限責任会社についても利用可能である。
- (e) 有限責任会社は、最長で50年間にわたる将来の非課税にかかる保証を得ることができる。

6.5 免除会社、免除リミテッド・パートナーシップおよび有限責任会社は、BOTAに基づく義務を遵守しなければならない。

7. ミューチュアル・ファンド法のもとにおける規制投資信託に対するケイマン諸島金融庁（CIMA）による規制と監督

- 7.1 CIMAは、いつでも、規制投資信託に対して会計が監査されるように指示し、かつCIMAが特定する時までにCIMAにそれを提出するように指示できる。
- 7.2 規制投資信託の運営者（すなわち、場合に応じて、取締役、運用者、受託会社またはジェネラル・パートナー）は、第1項に従い投資信託に対してなされた指示が、所定の期間内に遵守されていることを確保し、本規定に違反する者は、罪に問われ、かつ1万ケイマン諸島ドルの罰金および所定の時期以後も規制投資信託が指示に従わない場合はその日より一日につき500ケイマン諸島ドルの罰金刑に処せられる。
- 7.3 ある者がケイマン諸島においてまたはケイマン諸島からミューチュアル・ファンド法に違反して事業を行なっているか行なおうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合、CIMAは、その者に対して、CIMAが法律による義務を実行するようにするために合理的に要求できる情報または説明をCIMAに対して提供するように指示できる。
- 7.4 何人でも、第7.3項に従い与えられた指示を遵守しない者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 7.5 第7.3項に従って情報または説明を提供する者は、みずからそれが虚偽であるか誤解を招くものであることを知りながら、または知るべきであるにもかかわらず、これをCIMAに提供してはならない。この規程に違反した者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 7.6 投資信託がケイマン諸島においてまたはケイマン諸島からミューチュアル・ファンド法に違反して事業を営んでいるか行おうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合は、CIMAは、（高等裁判所の管轄下にある）グランドコート（以下「グランドコート」という。）に投資信託の投資者の資産を確保するために適切と考える命令を求めて申請することができ、グランドコートは係る命令を認める権限を有している。
- 7.7 CIMAは、規制投資信託が以下の事由のいずれか一つに該当する場合、第7.9項に定めたいずれかの行為またはすべての行為を行うことができる。
- (a) 規制投資信託がその義務を履行期が到来したときに履行できないか、そのおそれがある場合
 - (b) 規制投資信託がその投資者もしくは債権者に有害な方法で業務を行っているかもしくは行おうとしている場合、または自発的にその事業を解散する場合
 - (c) 規制投資信託がミューチュアル・ファンド法またはマネー・ロンダリング防止規則の規定に違反した場合
 - (d) 免許投資信託の場合、免許投資信託がその投資信託免許の条件を遵守せずに業務を行っているか、行おうとしている場合

- (e) 規制投資信託の指導および運営が適正かつ正当な方法で行われていない場合
 - (f) 規制投資信託の取締役、管理者または役員としての地位にある者が、各々の地位を占めるに適正かつ正当な者ではない場合
- 7.8 第7.7項に言及した事由が発生したか、または発生しそうか否かについてCIMAを警戒させるために、CIMAは、規制投資信託の以下の事項の不履行の理由について直ちに質問をなし、不履行の理由を確認するものとする。
- (a) CIMAが投資信託に対して発した指示に従ってその名称を変更すること
 - (b) 会計監査を受け、監査済会計書類をCIMAに提出すること
 - (c) 所定の年間許可料または年間登録料を支払うこと
 - (d) CIMAに指示されたときに、会計監査を受けるか、または監査済会計書類をCIMAに対して提出すること
- 7.9 第7.7項の目的のため、規制投資信託に関しCIMAがとる行為は、以下を含む。
- (a) ミューチュアル・ファンド法の第4(1)(b)条（管理投資信託）、第4(3)条（登録投資信託）または第4(4)(a)条（限定投資家ファンド）に基づき投資信託について有効な投資信託の許可または登録を取り消すこと
 - (b) 投資信託が保有するいずれかの投資信託ライセンスに対して条件を付し、または条件を追加し、それらの条件を改定し、撤廃すること
 - (c) 投資信託の推進者または運営者の入替えを求めること
 - (d) 事柄を適切に行うようにファンドに助言する者を選任すること
 - (e) 投資信託の事務を支配する者を選任すること
- 7.10 CIMAが第7.9項の行為を行った場合、CIMAは、投資信託の投資者および債権者の利益を保護するために必要と考える措置を行いおよびその後同項に定めたその他の行為をするように命じる命令を求めて、グラントコートに対して、申請することができる。
- 7.11 CIMAは、そうすることが必要または適切であると考え、そうすることが实际的である場合は、CIMAは投資信託に関しみずから行っている措置または行おうとしている措置を、投資信託の投資者に対して知らせるものとする。
- 7.12 第7.9(d)項または第7.9(e)項により選任された者は、当該投資信託の費用負担において選任されるものとする。その選任によりCIMAに発生した費用は、投資信託がCIMAに支払う。
- 7.13 第7.9(e)項により選任された者は、投資信託の投資者および債権者の最善の利益のために運営者を排除して投資信託の事務を行うに必要な一切の権限を有する。
- 7.14 第7.13項で与えられた権限は、投資信託の事務を終了する権限をも含む。
- 7.15 第7.9(d)項または第7.9(e)項により投資信託に関し選任された者は、以下の行為を行うものとする。
- (a) CIMAから求められたときは、CIMAの特定する投資信託に関する情報をCIMAに対して提供する。
 - (b) 選任後3か月以内またはCIMAが特定する期間内に、選任された者が投資信託に関し行っている事柄についての報告書を作成してCIMAに対して提出し、かつそれが適切な場合は投資信託に関する勧告をCIMAに対して行う。
 - (c) (b)項の報告書を提出後選任が終了しない場合、その後CIMAが特定する情報、報告書、勧告をCIMAに対して提供する。
- 7.16 第7.9(d)項または第7.9(e)項により投資信託に関し選任された者が第7.15項の義務を遵守しない場合、またはCIMAの意見によれば当該投資信託に関するその義務を満足に実行していない場合、CIMAは、選任を取り消して他の者をもってこれに替えることができる。
- 7.17 投資信託に関する第7.15項の情報または報告を受領したときは、CIMAは以下の措置を執ることができる。
- (a) CIMAが特定した方法で投資信託に関する事柄を再編するように要求すること

- (b) 投資信託が会社（有限責任会社を含む。）の場合、会社法の第94（4）条によりグランドコートに対して同会社が法律の規定に従い解散されるように申し立てること
 - (c) 投資信託がケイマン諸島の法律に準拠したユニット・トラストの場合、ファンドを解散させるため受託会社に対して指示する命令を求めてグランドコートに申し立てること
 - (d) 投資信託がケイマン諸島の法律に準拠したパートナーシップの場合、パートナーシップの解散命令を求めてグランドコートに申し立てること
 - (e) また、CIMAは、第7.9（d）項または第7.9（e）項により選任される者の選任または再任に関して適切と考える行為をとることができる。
- 7.18 CIMAが第7.17項の措置をとった場合、投資信託の投資者および債権者の利益を守るために必要と考えるその他の措置および同項または第7.9項に定めたその他の措置をとるように命じる命令を求めてグランドコートに申し立てることができる。
- 7.19 規制投資信託がケイマン諸島の法律の下で組織されたパートナーシップの場合でCIMAが第7.9（a）項に従い投資信託の免許を取り消した場合、パートナーシップは、解散されたものとみなす。
- 7.20 グランドコートが第7.17（c）項に従ってなされた申立てに対して命令を発する場合、裁判所は受託会社に対して投資信託資産から裁判所が適切と認める補償の支払を認めることができる。
- 7.21 CIMAのその他の権限に影響を与えることなく、CIMAは、ファンドが投資信託として事業を行うこともしくは行おうとすることを終了しまたは清算もしくは解散に付されるものと了解したときは、ミューチュアル・ファンド法の第4（1）（b）条（管理投資信託）、第4（3）条（登録投資信託）または第4（4）（a）（限定投資家ファンド）に基づき投資信託について有効な投資信託の許可または登録をいつでも取り消すことができる。

8. 投資信託管理に対するCIMAの規制および監督

- 8.1 CIMAは、いつでも免許投資信託管理者に対して会計監査を行い、CIMAが特定する合理的期間内にCIMAに対し提出するように指示することができる。
- 8.2 免許投資信託管理者は、第8.1項により受けた指示に従うものとし、この規定に違反する者は、罪に問われ、かつ1万ケイマン諸島ドルの罰金を課され、かつ所定の時期以後も免許投資信託管理者が指示に従わない場合はその日より一日につき500ケイマン諸島ドルの罰金刑に処せられる。
- 8.3 ある者がミューチュアル・ファンド法に違反して投資信託管理業を行なっているか行おうとしていると信じる合理的根拠がCIMAにある場合は、CIMAは、その者に対して、CIMAがミューチュアル・ファンド法による義務を実行するために合理的に要求できる情報または説明をCIMAに対して提供するように指示できる。
- 8.4 何人でも、第8.3項に従い与えられた指示を遵守しない者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 8.5 第8.3項の目的のために情報または説明を提供する者は、みずからそれが虚偽であるか誤解を招くものであることを知りながら、または知るべきであるのかかわらず、これをCIMAに提供してはならない。この規定に違反した者は、罪に問われ、かつ10万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。
- 8.6 CIMAが以下に該当すると判断する場合には、CIMAは、当該者によって管理されている投資信託の投資者の資産を維持するために適切と見られる命令を求めてグランドコートに申立てをすることができ、グランドコートはかかる命令を認める権限を有する。
- (a) ある者が投資信託管理者として行為し、またはその業務を行っており、かつ
 - (b) 同人がミューチュアル・ファンド法に違反してこれを行っている場合。
- 8.7 CIMAは、投資信託管理者が事業を行うこともしくは行おうとすることを終了しまたは清算もしくは解散に付されるものと了解したときは、いつでも投資信託管理者免許を取り消すことができる。
- 8.8 CIMAは、免許投資信託管理者が以下のいずれかの事由に該当する場合は、第8.10項所定の措置をとることができる。
- (a) 免許投資信託管理者がその義務を履行するべきときに履行できないか、そのおそれがある場合
 - (b) 免許投資信託管理者が、ミューチュアル・ファンド法またはマネー・ロンダリング防止規則の規定に違反した場合
 - (c) BOTIに定義される「法人向けサービス提供者」である免許投資信託管理者が、BOTIに違反した場合
 - (d) 免許投資信託管理者が管理している投資信託の投資者または投資信託管理者の債権者または投資信託の債権者を害するような方法で、みずから事業を行いもしくは行っている事業を解散し、またはそうしようと意図している場合
 - (e) 免許投資信託管理者が投資信託管理の業務をその投資信託管理免許の条件を遵守しないで行いまたはそのように意図している場合
 - (f) 免許投資信託管理業務の指示および管理が、適正かつ正当な方法で実行されていない場合
 - (g) 免許投資信託管理業務について取締役、管理者または役員の地位にある者が、各々の地位に就くには適正かつ正当な者ではない場合
 - (h) 上場されている免許投資信託管理業務を支配しまたは所有する者が、当該支配または所有を行うには適正かつ正当な者ではない場合
- 8.9 CIMAは、第8.8項に言及した事由が発生したか、または発生しそうか否かについて注意を払うために、規制投資信託の以下の事項についてその理由について直ちに質問をなし、かつ確認するものとする。
- (a) 免許投資信託管理者の以下の不履行
 - (i) CIMAに対して規制投資信託の主要事務所の提供を開始したことを通知すること、規制投資信託に関し所定の年間手数料を支払うこと

- () CIMAの命令に従い、保証または財政上の援助をし、純資産額を増加すること
 - () 投資信託、またはファンドの設立計画推進者または運営者に関し、条件が満たされていること
 - () 規制投資信託の事柄に関し書面による通知をCIMAに対して行うこと
 - (v) CIMAの命令に従い、名称を変更すること
 - () 会計監査を受け、CIMAに対して監査済会計書類を送ること
 - () 少なくとも2人の取締役をおくこと
 - () CIMAから指示されたときに会計監査を受け、かつ監査済会計書類をCIMAに対し提出すること
 - (b) CIMAの承認を得ることなく管理者が株式を発行すること
 - (c) CIMAの書面による承認なく管理者の取締役、主要な上級役員、ジェネラル・パートナーを選任すること
 - (d) CIMAの承認なく、管理者の株式が処分されまたは取り引きされること
- 8.10 第8.8項の目的のために免許投資信託管理者についてCIMAがとりうる行為は以下の通りである。
- (a) 投資信託管理者が保有する投資信託管理者免許を撤回すること
 - (b) その投資信託管理者免許に関し条件および追加条件を付し、またかかる条件を変更しまたは取り消すこと
 - (c) 管理者の取締役、類似の上級役員またはジェネラル・パートナーの交代を請求すること
 - (d) 管理者に対し、その投資信託管理の適正な遂行について助言を行う者を選任すること
 - (e) 投資信託管理に関し管理者の業務の監督を引き受ける者を選任すること
- 8.11 CIMAが第8.10項による措置を執った場合、CIMAは、グランドコートに対して、CIMAが当該管理者によって管理されているすべてのファンドの投資者とそのいずれのファンドの債権者の利益を保護するために必要とみなすその他の措置を執るよう命令を求めて申立てを行うことができる。
- 8.12 第8.10 (d) 項または第8.10 (e) 項により選任される者は、当該管理者の費用負担において選任されるものとする。その選任によりCIMAに発生した費用は、管理者がCIMAに支払うべき金額となる。
- 8.13 第8.10 (e) 項により選任された者は、管理者によって管理される投資信託の投資者および管理者の債権者およびかかるファンドの債権者の最善の利益のために（管財人、清算人を除く）他の者を排除して投資信託に関する管理者の事務を行うに必要な一切の権限を有する。
- 8.14 第8.13項で与えられた権限は、投資信託の管理に関連する限り管理者の事務を終了させる権限をも含む。
- 8.15 第8.10 (d) 項または第8.10 (e) 項により許可を受けた投資信託管理者に関し選任された者は、以下の行為を行うものとする。
- (a) CIMAから求められたときは、CIMAの特定する投資信託の管理者の管理に関する情報をCIMAに対して提供する。
 - (b) 選任後3か月以内またはCIMAが特定する期間内に、選任された者が投資信託の管理者の管理について実行する事柄についての報告書を作成してCIMAに対して提出し、かつそれが適切な場合は管理に関する推奨をCIMAに対して行う。
 - (c) (b) 項の報告書を提出後選任が終了しない場合、その後CIMAが特定する情報、報告書、推奨をCIMAに対して提供する。
- 8.16 第8.10 (d) 項または第8.10 (e) 項により選任された者が、
- (a) 第8.15項の義務に従わない場合、または
 - (b) 満足できる形で投資信託管理に関する義務を実行していないとCIMAが判断する場合、CIMAは、選任を取り消しこれに替えて他の者を選任することができる。
- 8.17 免許投資信託管理者に関する第8.15項の情報または報告を受領したときは、CIMAは以下の措置を執ることができる。
- (a) CIMAが特定した方法で投資信託管理者に関する事柄を再編するように要求すること

- (b) 投資信託管理者が会社（有限責任会社を含む。）の場合、会社法の第94（4）条によりグランドコートに対して同会社が法律の規定に従い解散されるように申し立てること
- (c) CIMAは、第8.10（d）項または第8.10（e）項により選任される者の選任に関して適切と考える行為をとることができる。
- 8.18 CIMAが第8.16項の措置をとった場合、CIMAは、管理者が管理する投資信託の投資者、管理者の債権者およびかかるファンドの債権者の利益を守るために必要と考えるその他の措置をとるように命じる命令を求めてグランドコートに申し立てることができる。
- 8.19 CIMAのその他の権限に影響を与えることなく、CIMAは、以下の場合、いつでも投資信託管理者の免許を取り消すことができる。
- (a) CIMAは、免許保有者が投資信託管理者としての事業を行うことまたは行おうとすることをやめてしまっているという要件を満たした場合
- (b) 免許の保有者が、解散、または清算に付された場合
- 8.20 免許投資信託管理者がケイマン諸島の法律によって組織されたパートナーシップの場合で、CIMAが第8.10項に従い、その投資信託管理者の免許を取り消した場合、パートナーシップは解散されたものとみなされる。
- 8.21 投資信託管理者が免許信託会社の場合、たとえば、投資信託の受託者である場合、銀行および信託会社法によりCIMAによっても規制され監督される。かかる規制と監督の程度はミューチュアル・ファンド法の下でのそれにおよそ近いものである。

9．ミューチュアル・ファンド法のもとでの一般的法の執行

- 9.1 下記の解散の申請がCIMA以外の者によりなされた場合、CIMAは、申請者より申請の写しの送達を受け、申請の聴聞会に出廷することができる。
- (a) 規制投資信託
- (b) 免許投資信託管理者
- (c) 規制投資信託であった人物、または
- (d) 免許投資信託管理者であった人物
- 9.2 解散のための申請に関する書類および第9.1（a）項から第9.1（d）項に規定された人物またはそれぞれの債権者に送付が要求される書類はCIMAにも送付される。
- 9.3 CIMAにより当該目的のために任命された人物は、以下を行うことができる。
- (a) 第9.1（a）項から第9.1（d）項に規定された人物の債権者会議に出席すること
- (b) 仲裁または取り決めに審議するために設置された委員会に出席すること
- (c) 当該会議におけるあらゆる決済事項に関して代理すること
- 9.4 執行官が、CIMAまたはインスペクターと同じレベル以上の警察官が、ミューチュアル・ファンド法またはBOTAの下での犯罪行為がある一定の場所で行われたか、行われつつあるかもしくは行われようとしていると疑う合理的な根拠があるとしてなした申請に納得できた場合、執行官はCIMAまたは警察官およびその者が支援を受けるため合理的に必要とするその他の者に以下のことを授權する令状を発行することができる。
- (a) 必要な場合は強権を用いてそれらの場所に立ち入ること
- (b) それらの場所またはその場所にいる者を搜索すること
- (c) 必要な場合は、記録が保存されているか、隠されている場所において、強制的に開扉して搜索すること
- (d) ミューチュアル・ファンド法またはBOTAのもとでの犯罪行為が行われたか、行われつつあるか、または行われようとしていることを示すと思われる記録の占有を確保し安全に保持すること

- (e) ミューチュアル・ファンド法またはBOTAのもとでの犯罪行為が行われたか、行われつつあるか、または行われようとしていることを示すと思われる場所において記録の点検をし写しをとること。もし、それが実際的でない場合は、かかる記録を持ち去ってCIMAに対して引き渡すこと

9.5 CIMAが記録を持ち去ったとき、またはCIMAに記録が引き渡されたときCIMAはこれを点検し、写しや抜粋を取得するために必要な期間これを保持することができるが、その後は、それが持ち去られた場所に返還すべきものとする。

9.6 何人もCIMAがミューチュアル・ファンド法の下での権限を行使することを妨げてはならない。この規定に違反する者は罪に問われ、かつ20万ケイマン諸島ドルの罰金に処せられる。

10. CIMAによるミューチュアル・ファンド法上またはその他の法律上の開示

10.1 ミューチュアル・ファンド法または金融庁法により、CIMAは、CIMAが法律に基づく職務を行い、その任務を遂行する過程で取得した下記のいずれかに関係する情報を開示してはならない。

- (a) ミューチュアル・ファンド法のもとでの免許を受けるためにCIMAに対してなされた申請
- (b) 投資信託に関する事柄

- (c) 投資信託管理者に関する事柄

ただし、以下の場合はこの限りでない。

- (a) 例えばケイマン諸島の秘密情報公開法（改正済）、ケイマン諸島の犯罪収益に関する法律（改正済）（以下「犯罪収益に関する法律」という。）またはケイマン諸島の薬物濫用法（改正済）等にもとづき、ケイマン諸島内の裁判所によりこれを行うことが合法的に要求されまたは許可された場合
- (b) CIMAが金融庁法により与えられた職務を行うことを援助する目的の場合
- (c) 免許を受ける者または免許を受ける者の顧客、構成員、クライアントもしくは保険証券保持者もしくは免許を受ける者が管理する会社もしくは投資信託に関する事項（場合に応じて、免許を受ける者、顧客、構成員、クライアント、保険証券保持者、会社または投資信託によって自発的に同意がなされた場合に限る。）に関係する場合
- (d) ケイマン諸島政府内閣が、金融庁法に基づき、またはCIMAが法律に基づく職務を行う際に内閣とCIMAの間で行われる取決めに関連して与えられた職務を行うことを可能にし、または援助する目的の場合
- (e) 開示された情報が、他の情報源によって公知となり、または公知となった場合
- (f) 開示される情報が免許を受ける者または投資者の身元を開示することなく（当該開示が許される場合を除く）、要約または統計的なものである場合
- (g) 刑事手続制度を視野に入れて、または刑事手続を目的として、公訴局長官またはケイマン諸島の法執行機関に開示する場合
- (h) マネー・ロンダリング防止規則に従いある者に開示する場合
- (i) ケイマン諸島外の金融監督当局に対し、CIMAにより免許に関し遂行される任務に対応する任務を当該当局が遂行するために必要な情報を開示する場合。ただし、CIMAは情報の受領が予定されている当局が更なる開示に関し十分な法的規制を受けていることについて満足していることを条件とする。
- (j) 投資信託、投資信託管理者または投資信託の受託者の解散、清算または免許所有者の管財人の任命もしくは職務に関連する法的手続を目的とする場合

11. ケイマン諸島投資信託の受益権の募集／販売に関する一般的な民法上の債務

11.1 過失による誤った事実表明

販売書類における不実表示に対しては民事上の債務が発生しうる。販売書類の条件では、販売書類の内容を信頼して受益権を申込み者のために、販売書類の内容について責任のある者、例えば（場合に応じ）ファンド、取締役、運用者、ジェネラル・パートナー等に注意義務を課している。この義務の違反は、販売文書の中のかかる者によって明示的または黙示的に責任を負うことが受け入れられている者に対する不実表示による損失の請求を可能にするであろう。

11.2 欺罔的な不実表明

事実の欺罔的な不実表明（約束、予想、または意見の表明でなくとも）に関しては、不法行為の民事責任も生じうる。ここにいう「欺罔的」とは、表明が虚偽であることを知りながらまたは表明が真実であるか虚偽であるかについて注意を払わずに行ったことを意味すると一般的に解される。

11.3 ケイマン諸島の契約法（改正済）

- （a）契約法の第14（1）条では、当該表明が欺罔的に行われていれば責任が生じたであろう場合には、契約前の不実の表明による損害の回復ができるであろう。ただし、かかる表明をした者が、事実が真実であるものと信じ、かつ契約の時まで信じていた合理的理由があったということを証明した場合はこの限りでない。一般的には、本条は、過失による不実の表明に関する損害に対しても法定の権利を与えるものである。同法の第14（2）条は、不実の表明が行われた場合に、取消に代えて損害賠償を容認することを裁判所に対して認めている。
- （b）一般的に、関連契約はファンド自身（または受託会社）とのものであるため、ファンド（または受託会社）は、次にその運用者、ジェネラル・パートナー、取締役、設立計画推進者または助言者に対し請求することが可能であるとしても、申込人の請求の対象となる者はファンドとなる。

11.4 欺罔に対する訴訟提起

- （a）損害を受けた投資者は、欺罔行為について訴えを提起し（契約上でなく不法行為上の民事請求権）、以下を証明することにより、欺罔による損害賠償を得ることができる。
 - （i）重要な不実の表明が欺罔的になされたこと。
 - （ ）そのような不実の表明の結果、受益証券を申し込むように誘引されたこと。
- （b）「欺罔的」とは、表明が虚偽であることを知りながらまたは表明が真実であるか虚偽であるかについて注意を払わずに行ったことを意味すると一般的に解される。だます意図があったことまたは欺罔的な不実表明が投資者を受益権購入に誘引した唯一の原因であったことを証明する必要はない。
- （c）情報の欠落は、事実についての何らかの積極的な不実の表明があったとき、または欠落情報を入れなかったために表明事項が虚偽となるか誤解を招くものとなるような部分的もしくは断片的な事実の表明があったときは、不実の表明となりうる。
- （d）表明がなされたときは真実であっても、受益証券の申込の受諾が無条件となる前に表明が真実でなくなったときは、当該変更を明確に指摘せずに受益権の申込を許したことは欺罔にあたるであろうから、欺罔による請求権を発生せしめうる。
- （e）事実の表明とは違い、意見または期待の表明は、本項の責任を生じることはないであろうが、表現によっては誤っていれば不実表示を構成する事実の表明となることもありうる。

11.5 契約上の債務

- （a）販売書類もファンド（または受託会社）と持分の成約申込者との間の契約の基礎を形成する。もしそれが不正確か誤解を招くものであれば、申込者は契約を解除しまたは損害賠償を求めて管理会社、設立計画推進者、ジェネラル・パートナーまたは取締役に対し訴えを提起することができる。
- （b）一般的事柄としては、当該契約はファンド（または受託会社）そのものと締結するので、ファンドは取締役、運用者、ジェネラル・パートナー、設立計画推進者、または助言者に求償することはあっても、申込者が請求する相手方当事者は、ファンド（または受託会社）である。

11.6 隠された利益および利益相反

ファンドの受託会社、ジェネラル・パートナー、取締役、役員、代行会社は、ファンドと第三者との間の取引から利益を得てはならない。ただし、ファンドによって特定の授権されているときはこの限りでない。そのように授権を受けずに得られた利益は、ファンドに帰属する。

12．ケイマン諸島投資信託の受益権の募集／販売に関する一般刑事法

12.1 ケイマン諸島の刑法（改正済）第257条

会社の役員（もしくはかかる者として行為しようとする者）が株主または債権者を会社の事項について欺罔する意図のもとに、「重要な事項」について誤解を招くか、虚偽であるか、欺罔的であるような声明、計算書を書面にて発行しまたは発行に同調する場合、彼は罪に問われるとともに7年間の拘禁刑に処せられる。

12.2 ケイマン諸島の刑法（改正済）第247条、第248条

- （a）欺罔により、不正にみずから金銭的利益を得、または他の者をして金銭的利益を得させる者は、罪に問われるとともに、5年間の拘禁刑に処せられる。
- （b）他の者に属する財産をその者から永久に奪う意図のもとに不正に取得する者は、罪に問われると共に10年の拘禁刑に処せられる。この目的上、彼が所有権、占有または支配を取得した場合は財産を取得したものとみなし、「取得」には、第三者のための取得または第三者をして取得もしくは確保を可能にすることを含む。
- （c）両条の目的上、「欺罔」とは、事実についてであれ法についてであれ、言葉であれ、行為であれ、欺罔を用いる者もしくはその他の者の現在の意図についての欺罔を含む。

13．清算

13.1 免除会社

免除会社の清算（解散）は、会社法、2008年会社清算規則および会社の定款に準拠する。清算は、自発的なもの（すなわち、株主の議決に従うもの）、または債権者、出資者（すなわち、株主）または会社自体の申立に従い裁判所による強制的なものがある。自発的な解散は、後に裁判所の監督の下になされることになることもある。CIMAも、投資信託または投資信託管理会社が解散されるべきことを裁判所に申立てる権限を有する（参照：第7.17（b）項および第8.17（b）項）。剰余資産は、もしあれば、定款の規定に従い、株主に分配される。

13.2 ユニット・トラスト

ユニット・トラストの清算は、信託証書の規定に準拠する。CIMAは、受託会社が投資信託を解散すべきであるという命令を裁判所に申請する権限をもっている。（参照：第7.17（c）項）剰余資産は、もしあれば、信託証書の規定に従って分配される。

13.3 免除リミテッド・パートナーシップ

免除リミテッド・パートナーシップの終了、整理および解散は、免除リミテッド・パートナーシップ法およびパートナーシップ契約に準拠する。CIMAは、パートナーシップを解散させるべしとの命令（参照：第7.17（d）項）を求めて裁判所に申立をする権限を有している。剰余資産は、もしあれば、パートナーシップ契約の規定に従って分配される。

ジェネラル・パートナーまたはパートナーシップ契約に基づき清算人に任命された他の者は、パートナーシップを解散する責任を負っている。パートナーシップが一度解散されれば、ジェネラル・パートナーまたはパートナーシップ契約に基づき清算人に任命された他の者は、免除リミテッド・パートナーシップの登記官に解散通知を提出しなければならない。

13.4 有限責任会社

有限責任会社は、登記を抹消または正式に清算することができる。清算手続は、免除会社に適用される制度と非常に類似している。

13.5 税金

ケイマン諸島においては直接税、源泉課税または為替管理はない。ケイマン諸島は、ケイマン諸島の投資信託に対してまたはよって行われるあらゆる支払に適用されるいかなる国との間でも二重課税防止条約を締結していない。免除会社、受託会社、免除リミテッド・パートナーシップおよび有限責任会社は、将来の課税に対して誓約書を取得することができる（第6.1（1）項、第6.2（g）項、第6.3（i）項および第6.4（e）項参照）。

14．ケイマン諸島の一般投資家向け投資信託（日本）規則（改正済）

14.1 ケイマン諸島の一般投資家向け投資信託（日本）規則（改正済）（以下「本規則」という。）は、日本で公衆に向けて販売される一般投資家向け投資信託に関する法的枠組みを定めたものである。本規則の解釈上、「一般投資家向け投資信託」とは、ミューチュアル・ファンド法第4（1）（a）条に基づく免許を受け、その証券が日本の公衆に対して既に販売され、または販売されることが予定されている信託、会社（有限責任会社を含む。）またはパートナーシップである投資信託をいう。日本国内で既に証券を販売し、2003年11月17日現在存在している投資信託、または同日現在存在し、同日後にサブ・トラストを設定した投資信託は、本規則に基づく「一般投資家向け投資信託」の定義に含まれない。上記のいずれかの適用除外に該当する一般投資家向け投資信託は、本規則の適用を受けることをCIMAに書面で届け出ることによって、かかる選択（当該選択は撤回不能である。）をすることができる。

14.2 CIMAが一般投資家向け投資信託に交付する投資信託免許にはCIMAが適当とみなす条件の適用がある。かかる条件のひとつとして一般投資家向け投資信託は本規則に従って事業を行わねばならない。

14.3 本規則は一般投資家向け投資信託の設立文書に特定の条項を入れることを義務づけている。具体的には証券に付随する権利および制限、資産と負債の評価に関する条件、各証券の純資産価額および証券の募集価格および償還価格または買戻価格の計算方法、証券の発行条件、証券の譲渡または転換の条件、証券の買戻しおよびかかる買戻しの中止の条件、監査人の任命などが含まれる。

14.4 一般投資家向け投資信託の証券の発行価格および償還価格または買戻価格は請求に応じて管理事務代行会社の事務所で無料で入手することができなければならない。

14.5 一般投資家向け投資信託は会計年度が終了してから6か月以内、または目論見書に定めるそれ以前の日に、年次報告書を作成し、投資家に配付するか、またはこれらを指示しなければならない。年次報告書には本規則に従って作成された当該投資信託の監査済財務諸表を盛り込まなければならない。

14.6 また一般投資家向け投資信託の運営者は各会計年度末の6か月後から20日以内に、一般投資家向け投資信託の事業の詳細を記載した報告書をCIMAに提出する義務を負う。さらに一般投資家向け投資信託の運営者は、運営者が知る限り、当該投資信託の投資方針、投資制限および設立文書を遵守していること、ならびに当該投資信託は投資家の利益を損なうような運営をしていないことを確認した宣誓書を、年に一度、CIMAに提出しなければならない。本規則の解釈上、「運営者」とは、ユニット・トラストの場合は信託の受託者、パートナーシップの場合はパートナーシップのジェネラル・パートナー、また会社の場合は会社の取締役をいう。

14.7 管理事務代行会社

（a）本規則第13.1条は一般投資家向け投資信託の管理事務代行会社が履行すべき様々な職務を定めている。かかる職務には下記の事項が含まれる。

（i）一般投資家向け投資信託の設立文書、目論見書、申込契約およびその他の関係法に従って証券の発行、譲渡、転換および償還または買戻しが確実に実行されるようにすること

- () 一般投資家向け投資信託の設立文書、目論見書、申込契約および投資家または潜在的投資家に公表されるものに従って確実に証券の純資産価額、発行価格、転換価格および償還価格または買戻価格が計算されるようにすること
 - () 管理事務代行会社が職務を履行するために必要なすべての事務所設備、機器および人員を確保すること
 - () 本規則、会社法およびミューチュアル・ファンド法に従って、一般投資家向け投資信託の運営者が同意した形式で投資家向けの定期報告書が確実に作成されるようにすること
 - (v) 一般投資家向け投資信託の会計帳簿が適切に記帳されるように確保すること
 - () 管理事務代行会社が投資家名簿を保管している場合を除き、名義書換代理人の手続および投資家名簿の管理に関して名義書換代理人に与えた指示が実効的に監視されるように確保すること
 - () 別途名義書換代理人が任命されている場合を除き、一般投資家向け投資信託の設立文書で義務づけられた投資家名簿が確実に管理されるようにすること
 - () 一般投資家向け投資信託の証券に関して適宜宣言されたすべての分配金またはその他の配分が当該投資信託から確実に投資家に支払われるようにすること
- (b) 本規則は、一般投資家向け投資信託の資産の一部または全部が目論見書に定める投資目的および投資制限に従って投資されていないことに管理事務代行会社が気付いた場合、または一般投資家向け投資信託の運営者または投資顧問会社が設立文書または目論見書に定める規定に従って当該投資信託の業務または投資活動を実施していない場合、できる限り速やかにCIMAに連絡し、当該投資信託の運営者に書面で報告することを管理事務代行会社に対して義務づけている。
- (c) 管理事務代行会社は、一般投資家向け投資信託の募集または償還もしくは買戻しを中止する場合、および一般投資家向け投資信託を清算する意向である場合、実務上できる限り速やかにその旨をCIMAに通知しなければならない。
- (d) 管理事務代行会社はケイマン諸島または犯罪収益に関する法律の第5(2)(a)条に従って指定された、ケイマン諸島のそれと同等のマナー・ロンダリングおよびテロリストの資金調達に係る対策を有する法域（以下「同等の法律が存在する法域」という。）で設立され、または適法に事業を営んでいる者にその職務または任務を委託することができる。ただし、管理事務代行会社は委託した職務または任務の履行に関し引き続き責任を負わなければならない。管理事務代行会社は職務を委託する前にCIMAに届け出るとともに、委託後直ちに運営者、サービス提供者および投資家に通知するものとする。

14.8 保管会社

- (a) 一般投資家向け投資信託はケイマン諸島、同等の法律が存在する法域またはCIMAが承認したその他の法域で規制を受けている保管会社を任命し、維持しなければならない。保管会社を変更する場合、一般投資家向け投資信託は変更の1か月前までにその旨を書面でCIMA、当該投資信託の投資家およびサービス提供者に通知しなければならない。
- (b) 本規則は任命された保管会社の職務として、保管会社は投資対象に関する証券および権原に関する書類を保管し、当該投資信託の設立文書、目論見書、申込契約または関係法令と矛盾しない限り、契約により規定される一般投資家向け投資信託の投資に関する管理事務代行会社、投資顧問会社および運営者の指示を実行することを定めている。
- (c) 保管会社は、管理事務代行会社または一般投資家向け投資信託に対して、証券の申込代金の受取りおよび充当、当該投資信託の証券の発行、転換および買戻し、投資対象の売却に際して受取った純収益の送金、当該投資信託の資本および収益の充当ならびに当該投資信託の純資産価額の計算に関する写しおよび情報を請求する権利を有する。
- (d) 保管会社は副保管会社を任命することができ、保管会社は適切な副保管会社の選任に際して合理的な技量、注意および努力を払うものとする。保管会社はその業務を副保管会社に委託することを、

1 か月前までに書面でその他のサービス提供者に通知しなければならない。保管会社は保管サービスを提供する副保管会社の適格性を継続的に確認する責任を負う。保管会社は各副保管会社を適切なレベルで監督し、各副保管会社が引き続きその任務を十分に履行していることを確認するために定期的に調査しなければならない。

14.9 投資顧問会社

- (a) 一般投資家向け投資信託はケイマン諸島、同等の法律が存在する法域またはCIMAが承認したその他の法域で設立され、または適法に事業を営んでいる投資顧問会社を任命し、維持しなければならない。本規則の解釈上、「投資顧問会社」とは、一般投資家向け投資信託の投資活動に関する投資運用業務を提供する目的で、一般投資家向け投資信託により、または一般投資家向け投資信託のために任命された事業体をいう。かかる事業体により任命された副投資顧問会社はこれに含まれない。本規則の解釈上、「投資運用業務」には、ケイマン諸島の証券投資業法（改正済）の別表2第3項に規定される活動が含まれる。
- (b) 投資顧問会社を変更する場合には、変更の1 か月前までにCIMA、投資家およびその他の業務提供者に当該変更について通知しなければならない。更に、投資顧問会社の取締役を変更する場合には、運用する各一般投資家向け投資信託の運営者（すなわち、場合に応じて、取締役、受託会社またはジェネラル・パートナー）の事前の承認を要する。運営者は、かかる変更について、変更の1 か月前までに書面でCIMAに通知することが要求される。
- (c) 本規則第21条は、ミューチュアル・ファンド法に基づいて投資信託免許を取得する条件のひとつとして投資顧問会社を任命する契約に一定の職務が記載されていることを要求している。かかる職務には下記の事項が含まれる。
 - (i) 一般投資家向け投資信託が受取った申込代金が当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に従って確実に充当されるようにすること
 - () 一般投資家向け投資信託の資産の売却に際してその純収益が合理的な期限内に確実に保管会社へ送金されるようにすること
 - () 一般投資家向け投資信託の収益が当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に従って確実に充当されるようにすること
 - () 一般投資家向け投資信託の資産が、当該投資信託の設立文書、目論見書および申込契約に記載される当該投資信託の投資目的および投資制限に従って確実に投資されるようにすること
 - (v) 保管会社または副保管会社が一般投資家向け投資信託に関する契約上の義務を履行するために必要な情報および指示を合理的な時に提供すること
- (d) 本規則は、現在、一般投資家向け投資信託の投資顧問会社がユニット・トラストに対して投資顧問業務を行っているか、または会社に対して行っているかを区別しており、それに応じて、異なる投資制限が適用されている。
- (e) 投資信託がユニット・トラストである場合、本規則第21条（4）項は投資顧問会社がかかるユニット・トラストのために引受けてはならない業務を以下の通り定めている。
 - (i) 結果的に当該一般投資家向け投資信託のために空売りされるすべての有価証券の総額がかかる空売りの直後に当該一般投資家向け投資信託の純資産を超過することになる場合、かかる有価証券の空売りを行ってはならない。
 - () 結果的に当該投資信託のために行われる借入れの残高の総額がかかる借入れ直後に当該投資信託の純資産の10%を超えることになる場合、かかる借入れを行ってはならない。ただし、
 - (A) 特殊事情（一般投資家向け投資信託と別の投資信託、投資ファンドまたはそれ以外の種類の集団投資スキームとの合併を含むがそれらに限られない。）において、12か月を超えない期間に限り、本（ ）項において言及される借入制限を超えてもよいものとし、

- (B) 1 当該一般投資家向け投資信託が、有価証券の発行手取金のすべてまたは実質的にすべてを不動産の権利を含む不動産に投資するとの方針を有し、
- 2 投資顧問会社が、当該一般投資家向け投資信託の資産の健全な運営または当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益保護のために、かかる制限を超える借入れが必要であると判断する場合、本 () 項において言及される借入制限を超えてもよいものとする。
- () 株式取得の結果、投資顧問会社が運用するすべての投資信託が保有する一会社（投資会社を除く。）の株式総数が、当該会社の発行済議決権付株式総数の50%を超えることになる場合、当該会社の議決権付株式を取得してはならない。
- () 取引所に上場されていないか、または容易に換金できない投資対象を取得する結果として、取得直後に一般投資家向け投資信託が保有するかかる投資対象の総価値が当該投資信託の純資産価額の15%を超えることになる場合、当該投資対象を取得してはならないが、投資顧問会社は、当該投資対象の評価方法が当該一般投資家向け投資信託の目論見書において明確に開示されている場合、当該投資対象の取得を制限されないものとする。
- (v) 当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益を損なうか、または当該一般投資家向け投資信託の資産の適切な運用に違反する取引（投資信託の受益者ではなく投資顧問会社もしくは第三者の利益を図る取引を含むが、これらに限られない。）を行ってはならない。
- () 本人として自社またはその取締役と取引を行ってはならない。
- (f) 一般投資家向け投資信託が会社である場合、本規則第21条（5）項は、投資顧問会社が当該会社のために引受けてはならない業務を以下の通り定めている。
- (i) 株式取得の結果、当該一般投資家向け投資信託が保有する一会社（投資会社を除く。）の株式総数が、当該会社の発行済議決権付株式総数の50%を超えることになる場合、当該会社の議決権付株式を取得してはならない。
- () 当該一般投資家向け投資信託が発行するいかなる証券も取得してはならない。
- () 当該一般投資家向け投資信託の受益者の利益を損なうか、または当該一般投資家向け投資信託の資産の適切な運用に違反する取引（当該一般投資家向け投資信託の受益者ではなく投資顧問会社もしくは第三者の利益を図る取引を含むが、これらに限られない。）を行ってはならない。
- (g) 上記にかかわらず、本規則第21条（6）項は、本規則第21条（4）項または第21条（5）項によって、投資顧問会社が、一般投資家向け投資信託のために、以下に該当する会社、ユニット・トラスト、パートナーシップまたはその他の者のすべてのまたはいずれかの株式、証券、持分またはその他の投資対象を取得することを妨げないことを明記している。
- (i) 投資信託、投資ファンド、ファンド・オブ・ファンズまたはその他の種類の集団投資スキームである場合
- () マスター・ファンド、フィーダー・ファンド、その他の類似の組織もしくは会社または事業体のグループの一部を構成している場合
- () 一般投資家向け投資信託の投資目的または投資戦略を、全般的にまたは部分的に、直接促進する特別目的事業体である場合
- (h) 投資顧問会社は副投資顧問会社を任命することができ、副投資顧問会社を任命する場合は事前にその他の業務提供者、運営者およびCIMAに通知しなければならない。投資顧問会社は副投資顧問会社が履行する業務に関して責任を負う。

14.10 財務報告

- (a) 本規則パート6は一般投資家向け投資信託の財務報告に充てられている。一般投資家向け投資信託は、各会計年度が終了してから6か月以内に、監査済財務諸表を織り込んだ財務報告書を作成し、ミューチュアル・ファンド法に従って投資家およびCIMAに配付しなければならない。また中間財務

諸表については当該投資信託の設立文書および目論見書の中で投資家に説明した要領で作成し、配付すれば足りる。

- （b）投資家に配付するすべての関連財務情報および純資産価額を算定するために使用する財務情報は、目論見書に定める一般に認められた会計原則に従って準備されなければならない。
- （c）本規則第26条では一般投資家向け投資信託の監査済財務諸表に入れるべき最低限の情報を定めている。

14.11 監査

- （a）一般投資家向け投資信託は監査人を任命し、維持しなければならない。監査人を変更する場合は1か月前までに書面でCIMA、投資家およびサービス提供者に通知しなければならない。また監査人を変更する場合は事前にCIMAの承認を得なければならない。
- （b）一般投資家向け投資信託は最初に監査人の書面による承認を得ることなく、当該投資信託の監査報告書を公表または配付してはならない。
- （c）監査人はケイマン諸島以外の法域で一般に認められた監査基準を使用することができ、その際、監査報告書の中でかかる事実および法域の名称を開示しなければならない。
- （d）監査人は一般投資家向け投資信託の運営者およびその他のサービス提供者から独立していなければならない。

14.12 目論見書

- (a) 本規則パート8は、ミューチュアル・ファンド法第4(1)条および第4(6)条に従ってCIMAに届け出られる一般投資家向け投資信託の目論見書に関する最低限の開示要件を定めている。目論見書に重大な変更があった場合もCIMAに届け出なければならない。一般投資家向け投資信託の目論見書は当該投資信託の登記上の事務所またはケイマン諸島に所在するいずれかのサービス提供者の事務所において無料で入手することができなければならない。
- (b) ミューチュアル・ファンド法に定める要件に追加して、本規則第37条は一般投資家向け投資信託の目論見書に関する最低限の開示要件を定めており、以下の詳細が含まれていなければならない。
- (i) 一般投資家向け投資信託の名称、また会社もしくはパートナーシップの場合はケイマン諸島の登記上の住所
- () 一般投資家向け投資信託の設立日または設定日（存続期間に関する制限の有無を表示する）
- () 設立文書および年次報告書または定期報告書の写しを閲覧し、入手できる場所の記述
- () 一般投資家向け投資信託の会計年度の終了日
- (v) 監査人の氏名および住所
- () 下記の()、() および() に定める者とは別に、一般投資家向け投資信託の業務に重大な関係を有す取締役、役員、名義書換代理人、法律顧問およびその他の者の氏名および営業用住所
- () 投資信託会社である一般投資家向け投資信託の授權株式および発行済株式資本の詳細（該当する場合は現存する当初株式、設立者株式または経営株式を含む）
- () 証券に付与されている主な権利および制限の詳細（通貨、議決権、清算または解散の状況、券面、名簿への記録等に関する詳細を含む）
- () 該当する場合、証券を上場し、または上場を予定する証券取引所または市場の記述
- () 証券の発行および売却に関する手続および条件
- () 証券の償還または買戻しに関する手続および条件ならびに償還または買戻しを中止する状況
- () 一般投資家向け投資信託の証券に関する配当または分配金の宣言に関する意向の説明
- () 一般投資家向け投資信託の投資目的、投資方針および投資方針に関する制限の説明、一般投資家向け投資信託の重大なリスクの説明、および使用する投資手法、投資商品または借入の権限に関する記述
- () 一般投資家向け投資信託の資産の評価に適用される規則の説明
- (v) 一般投資家向け投資信託の発行価格、償還価格または買戻価格の決定（取引の頻度を含む）に適用される規則および価格に関する情報を入手することのできる場所の説明
- () 一般投資家向け投資信託から運営者、管理事務代行会社、投資顧問会社、保管会社およびその他のサービス提供者が受取るまたは受取る可能性の高い報酬の支払方法、金額および報酬の計算に関する情報
- () 一般投資家向け投資信託とその運営者およびサービス提供者との間の潜在的利益相反に関する説明
- () 一般投資家向け投資信託がケイマン諸島以外の法域またはケイマン諸島以外の監督機関もしくは規制機関で登録し、もしくは免許を取得している場合（または登録し、もしくは免許を取得する予定である場合）、その旨の記述
- () 投資家に配付する財務報告書の性格および頻度に関する詳細
- () 一般投資家向け投資信託の財務報告書を作成する際に採用した一般に認められた会計原則
- () 以下の記述
- 「ケイマン諸島金融庁が交付した投資信託免許は、一般投資家向け投資信託のパフォーマンスまたは信用力に関する金融庁の投資家に対する義務を構成しない。またかかる免許の交付

にあたり、金融庁は一般投資家向け投資信託の損失もしくは不履行または目論見書に記載された意見もしくは記述の正確性に関して責任を負わないものとする。」

- () 管理事務代行会社(管理事務代行会社の名称、管理事務代行会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所を含む)
- () 保管会社および副保管会社(下記事項を含む)
 - (A) 保管会社および副保管会社(該当する場合)の名称、保管会社および副保管会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所
 - (B) 保管会社および副保管会社の主たる事業活動
- () 投資顧問会社(下記事項を含む)
 - (A) 投資顧問会社の取締役の氏名および経歴の詳細ならびに投資顧問会社の登記上の住所もしくは主たる営業所の住所または両方の住所
 - (B) 投資顧問会社のサービスに関する契約の重要な規定
 - (C) ファンドに対する投資家の持分に関するケイマン諸島の法令に定める重要な規定

第4【参考情報】

サブ・ファンドについては、当計算期間において以下の書類が関東財務局長に提出されている。

2024年5月31日 有価証券報告書および有価証券届出書

2024年8月30日 半期報告書および訂正有価証券届出書

第5【その他】

該当事項なし。

別紙 A

定義

文脈上別途の意味となるべき場合を除き、本書において、以下の用語は以下の意味を有する。

決算日	毎年11月30日またはファンドに関して管理会社が随時決定した毎年のその他の日をいう。
計算期間	ファンドの開始時点または前決算日の翌暦日（場合に応じて）から始まり、決算日（同日を含む。）に終了する期間をいう。
管理事務代行会社	ルクセンブルグの法律に基づいて設立された会社である S M B C 日興ルクセンブルク銀行株式会社、または信託証書補遺およびミューチュアル・ファンド規則に定める規定に従って管理会社および受託会社がサブ・ファンドの管理事務代行に任命したその他の個人もしくは法人をいう。
代行協会員	S M B C 日興証券株式会社、または管理会社が随時サブ・ファンドに関する代行協会員として任命したその他の個人もしくは法人をいう。
A E O I	（ ）1986年米国内国歳入法第1471条から第1474条および関連する法令、規則または指針、または同様の金融口座情報報告および／または源泉徴収税制度の実施を目指す他の法域で制定された類似の法律、規則または指針。 （ ）経済協力開発機構（O E C D）が発行する金融口座情報の自動的交換制度 - 共通報告基準（C R S）および関連指針。 （ ）（ ）および（ ）に記載される法令、規則、指針または基準を遵守し、円滑化し、補足し、または施行するために締結される、ケイマン諸島（またはケイマン諸島の政府組織）およびその他の法域（当該各法域の政府組織を含む。）との間の政府間協定、条約、規則、指針、基準またはその他の取決め。 （ ）上記に掲げる事項を発効させるためにケイマン諸島において実施される法令、規則または指針。
A I F M	A I F M D において定義されるオルタナティブ投資ファンド運用会社をいう。
A I F M D	オルタナティブ投資ファンド運用者に関する2011年6月8日付欧州議会および理事会通達2011/61/EU（随時改正される。）をいう。

営業日	ニューヨーク、ロンドン、ダブリンおよびルクセンブルグで銀行が営業している日、 ニューヨーク、ロンドン、ダブリンおよびルクセンブルグで証券取引所が営業を行っている日で、かつ 日本において金融商品取引業者および銀行が営業している日（土曜日、日曜日または12月24日を除く。）、またはサブ・ファンドに関して管理会社が随時決定するその他の日をいう。
計算日	関係する評価日直後の営業日、またはサブ・ファンドに関して管理会社が随時決定するその他の日をいう。
ケイマン諸島	英国の海外領土であるケイマン諸島をいう。
総管理事務代行契約	管理会社および受託会社がファンドに関する管理事務代行業務を提供する管理事務代行会社を任命した契約をいう。
券面	関係するサブ・ファンドの受益証券の口数に対する、その登録受益者の権原を証明する券面をいう。
米ドル建てクラス受益証券	米ドル建ての受益証券をいい、米ドル建てクラス受益証券として指定されている。
円建て（ヘッジあり）クラス受益証券	日本円に対する米ドルのエクスポージャーが（可能な限りにおいて）ヘッジされる円建ての受益証券をいい、円建て（ヘッジあり）クラス受益証券として指定されている。
保管会社	ルクセンブルグの法律に基づいて設立された会社である S M B C 日興ルクセンブルク銀行株式会社、または信託証書補遺およびミューチュアル・ファンド規則に定める規定に従って随時管理会社および受託会社からファンドの保管人に任命されたその他の個人もしくは法人をいう。
保管契約	受託会社および管理会社がファンドに関して管理会社および受託会社に保管業務を提供する保管会社を任命した契約をいう。
日本における販売会社	日本の法律に基づいて設立された会社である S M B C 日興証券株式会社、または信託証書補遺に定める条件に従って管理会社がサブ・ファンドの販売者に任命したその他の個人もしくは法人をいう。
適格投資家	（ a ）（ ）米国人、（ ）ケイマン諸島の居住者またはケイマン諸島に住所地を有する個人もしくは法人（ケイマン諸島で設立された免税会社もしくは非居住法人を除く。）、または（ ）（ ）もしくは（ ）記載の個人もしくは法人の保管者、名義人もしくは受託者のいずれにも該当しない個人、法人もしくは法主体、または（ b ）受益証券を保有する資格を有しているものとして、管理会社により随時決定され、受託会社に通知された者をいう。

ユーロ	欧州経済通貨同盟の参加諸国の法定通貨をいう。
当初発行価格	サブ・ファンドの受益証券（場合によってはサブ・ファンドの各クラスまたはシリーズの受益証券）に関して、サブ・ファンドの受益証券（場合によってはサブ・ファンドの各クラスまたはシリーズの受益証券）の当初発行について信託証書補遺および／または本書に規定される受益証券1口当たりの価格をいう。
投資運用契約	管理会社がサブ・ファンドに関して管理会社に投資運用業務を提供する投資運用会社を任命した契約をいう。
投資運用会社	ブラックロック・ジャパン株式会社、またはサブ・ファンドに関して管理会社が随時任命するその他の個人、団体もしくは法人をいう。
発行日	毎評価日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。
発行価格（買付価格）	サブ・ファンドに関して、本書に記載された方法により計算されるサブ・ファンドの各発行日現在の受益証券の価格をいう。
日本	日本、日本の領土および領地をいう。
日本円	日本の法定通貨をいう。
管理会社	ルクセンブルグの法律に基づいて設立された会社であるS M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ、または信託証書補遺およびミューチュアル・ファンド規則に定める規定に従ってサブ・ファンドに関する管理者に任命されたその他の個人もしくは法人をいう。
ミューチュアル・ファンド法	ケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法（改正済）（随時改正される。）をいう。
純資産価額	サブ・ファンドの受益証券（または、場合によってはサブ・ファンドの各クラスもしくはシリーズの受益証券）に関して、当該サブ・ファンドの信託財産（または、場合によっては当該クラスもしくはシリーズに帰属する信託財産の一部）を構成するすべての資産の額から当該サブ・ファンドの信託財産から適正に支払われるべきすべての負債（または、場合によっては当該クラスもしくはシリーズに帰属する負債）の額を差し引いた各評価日現在の価値をいい、信託証書補遺および本書に従って、管理事務代行会社または管理事務代行会社の代理人により関連する基準通貨で計算する。

受益証券1口当たり 純資産価格	サブ・ファンド（または、場合によってはサブ・ファンドの各クラスもしくはシリーズ）の関連する基準通貨による受益証券1口当たりの価格をいい、関連するサブ・ファンドの信託財産（または、場合によってはサブ・ファンドの関連するクラスもしくはシリーズに帰属する信託財産の一部）の純資産価額を発行済みの当該サブ・ファンド（または、場合によっては当該クラスもしくはシリーズ）の受益証券口数で除して計算され、本書に異なる定めがない限り、四捨五入して小数第2位まで算出される。
英文目論見書	ファンドに関する英文目論見書（随時改訂または補完され、添付される別紙を含む。）をいう。
基準通貨	サブ・ファンド（または、場合によってはサブ・ファンドの各クラスもしくはシリーズ）に関して、受益証券の表示通貨をいう。
受益者名簿	信託証書補遺に定める条件に従って記帳する義務を負う受益者の名簿をいう。
ミューチュアル・ ファンド規則	ケイマン諸島の一般投資家向け投資信託（日本）規則（改正済）をいう。
買戻日	毎評価日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。
買戻請求通知	サブ・ファンドの受益証券に関して、買戻請求の通知をいう。
買戻価格	「買戻し手続等」の項に記載される価格をいう。
販売取扱会社	株式会社S M B C 信託銀行、または、管理会社および日本における販売会社がサブ・ファンドに関して随時任命することができるその他の個人、団体もしくは法人をいう。

サブ・ファンド	受託会社と管理会社の間で2008年9月11日に作成され、2017年2月14日に修正および再録され、2018年2月15日付信託証書補遺で補完された基本信託証書（随時修正および／または補完される。）および2017年5月10日に作成された信託証書補遺（随時修正および／または補完される。）に基づいて設定されたファンドのサブ・ファンドであるプレミアム・ファンズ - グローバル・コア株式ファンドをいう。
サブ・ファンド決議	（a）関連するサブ・ファンドの発行済受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者が書面で承認した決議、または（b）当該サブ・ファンドの受益者集会において、本人または代理人が出席しており、議決権を有しかつ当該集会で議決権を行使する受益者で、当該サブ・ファンドの受益証券の純資産価額の単純過半数（当該集会の基準日（ただし、当該基準日が評価日でない場合には、基準日の直前評価日）の受益証券1口当たり純資産価格を参照して計算される。）を保有する者により可決された決議をいう。
買付申込通知	サブ・ファンドの受益証券（または、場合によってはサブ・ファンドの各クラスもしくはシリーズの受益証券）に関して、管理会社、日本における販売会社または管理事務代行会社が随時決定した書式で作成された受益証券の購入を申し込む通知をいう。
信託証書補遺	サブ・ファンドに関して、サブ・ファンドを設定する信託証書補遺（随時改正または補完されることがある。）をいう。
一時停止	一つまたは複数のサブ・ファンド（またはサブ・ファンドのクラスもしくはシリーズ）の受益証券の純資産価額の計算、受益証券の発行、買戻しおよび／またはスイッチング（スイッチングの停止については、受益証券の純資産価額の計算、買戻しまたは申込みに適用される制限がある場合）を停止する管理会社または受託会社の決定をいう。
スイッチング通知	管理会社または管理事務代行会社から入手可能なスイッチング通知をいう。
信託証書	サブ・ファンドに関して、サブ・ファンドを設定する信託証書補遺によって補完された基本信託証書をいう。
信託財産	サブ・ファンドの信託によって受託会社が保有する資産をいい、関連する受益証券の買付金額および関連する信託証書補遺に基づいてサブ・ファンドの信託によって受託会社が保有し、または保有しているとみなされるすべての投資対象、現金およびその他の資産を含む。

受託会社	プレミアム・ファンズ・リミテッド、または信託証書補遺に定める規定に従ってサブ・ファンドの受託者に任命されたその他の個人もしくは法人をいう。
受益証券	サブ・ファンドの受益証券およびそのあらゆるクラスをいう。文脈上別途の意味となるべき場合を除き「受益証券」は全クラスの受益証券を含む。
米国	アメリカ合衆国、アメリカ合衆国の領土および領地をいい、各州およびコロンビア特別区を含む。
受益者	その時点における受益証券の登録保有者をいい、受益証券に関して共同で登録されている者を含む。
受益者決議	（ a ）すべてのサブ・ファンドの発行済受益証券の純資産価額の単純過半数を保有する者が書面で承認した決議、または（ b ）すべてのサブ・ファンドの受益者集会において、本人または代理人が出席しており、議決権を有しかつ当該集会で議決権を行使する受益者で、すべてのサブ・ファンドの受益証券の純資産価額の単純過半数（当該集会の基準日（ただし、当該基準日が評価日でない場合には、基準日の直前評価日）の受益証券1口当たり純資産価格を参照して計算される。）を保有する者により可決された決議をいう。
アメリカ合衆国ドル または米ドル	米国の法定通貨をいう。
米国人	受託会社が異なる決定を下さない限り下記の者をいう。（ ）米国に居住する自然人、（ ）米国の法律に基づいて設立されたパートナーシップまたは法人、（ ）執行者または財産管理人が米国人である財団、（ ）受託者が米国人である信託、（ ）米国に所在する外国の法主体の代理人または支店、（ ）米国人の利益のためにまたは米国人の勘定でディーラーまたはその他の受託者が保有する非一任勘定または類似の勘定（財団または信託を除く。）、（ ）米国で設立され、また（個人の場合は）米国に居住するディーラーまたはその他の受託者が保有する一任勘定または類似の勘定（財団または信託を除く。）、および（ ）パートナーシップまたは法人のうち（ A ）外国の法域の法律に基づいて設立され、また（ B ）米国証券法に基づき登録されていない証券に投資することを主たる目的として米国人が設立したもの（ただし、自然人、財団または信託以外の認定投資家（米国証券法に基づくルール501（ a ）の定義に従う。）が設立し、または所有している場合を除く。）。
評価日	毎営業日、または管理会社が随時決定するその他の日をいう。

別紙 B

投資先ファンドの概要

ブラックロック・ファンズ ICAV（投資先投資法人）のサブ・ファンドである
ブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド（投資先ファンド）
クラスD 累積投資型米ドル建て投資証券

本別紙 B は、投資先ファンドの目論見書に記載される投資先ファンドの詳細情報の概要である。本別紙 B 中に含まれる情報は、一般的利用のためのみに提供されたものであること、および、サブ・ファンドの受託会社もしくは管理会社またはそれらの関連会社のいずれも、本別紙 B の内容の正確性または完全性について明示的または黙示的な保証を与えていないことに留意されたい。

本書において他に定義されていない用語は、投資先ファンド英文目論見書において当該用語に付与されている意味を有するものとする。

投資先ファンドは、ブラックロック・ファンズ I ICAV のサブ・ファンドであるブラックロック・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド（2025年4月16日までの旧名称：ブラックロック・サステナブル・アドバンテージ・ワールド・エクイティ・ファンド）である。投資対象となる投資証券クラスは、クラスD 累積投資型米ドル建てである。投資先ファンドは、2018年6月4日に設立された。

ブラックロック・ファンズ I ICAV は、2015年アイルランド集団資産運用ピークル法および U C I T S 規則に基づき、アイルランド中央銀行により承認されたアイルランド集団資産運用ピークルである。ブラックロック・ファンズ I ICAV は、は2018年3月8日に登録された。

投資先ファンドの関連会社管理会社

ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド
（BlackRock Asset Management Ireland Limited）
アイルランド、ダブリン4、ボールズブリッジ、ボールズブリッジ・パーク2、1階

保管受託銀行

J . P . モルガン・エスイー、ダブリン支店
（J.P. Morgan SE - Dublin Branch）
アイルランド、ダブリン2、D02 RK57、79 サー・ジョン・ロジャーソンズ・キー
200 キャピタル・ドック

投資顧問会社兼販売会社

ブラックロック・インベストメント・マネジメント（UK）リミテッド
（BlackRock Investment Management（UK）Limited）
英国、ロンドン市EC2N 2DL、スログモートン・アベニュー12

管理事務代行、登録・名義書換事務代行会社

J . P . モルガン・アドミニストレーション・サービス（アイルランド）リミテッド
（J.P. Morgan Administration Services（Ireland）Limited）
アイルランド、ダブリン2、D02 RK57、79 サー・ジョン・ロジャーソンズ・キー

200 キャピタル・ドック

監査人

アーンスト・アンド・ヤング

(Ernst & Young)

アイルランド、ダブリン2、ハーコート・ストリート、ハーコート・センター

投資目的および投資方針

投資先ファンドは、長期的な元本の成長を達成することを目指す。

投資先ファンドは、投資資産の少なくとも70%を、グローバルな先進国市場に所在もしくは上場しているか、またはそのような地域においてその主要な事業を行っている企業のエクイティ証券（例えば株式）に割り当てることにより、その投資目的の達成を目指す。投資先ファンドは、エクイティ証券、その他エクイティ関連証券、および適切とみなされた場合、確定利付証券（債券等）、短期金融商品（MMI）（すなわち、短期債務証券）、預金ならびに現金に投資する。確定利付証券およびMMIは、政府、政府機関、企業および国際機関（例えば、国際復興開発銀行）により発行され、購入時点で投資適格であるものとする（すなわち、特定の信用力を満たしている。）。

投資先ファンドは、金融サービスセクターにおけるサステナビリティ関連開示に関する欧州議会および2019年11月27日付欧州理事会の規則（EU）2019 / 2088の第8条を遵守するファンドに該当する。

投資先ファンドの総資産は、以下に定める「ESG方針」に従って投資される予定である。

投資先ファンドは、投資目的および投資方針を達成するために、様々な投資戦略および投資商品に投資する。とりわけ、投資先ファンドは、株式の銘柄選定に関してシステムティックな（すなわち、ルールに基づいた）アプローチを採用するため、定量的（数学的または統計的）モデルを用いる。

ESG（環境、社会およびガバナンス）方針

投資先ファンドの投資顧問会社は、投資先ファンドの投資対象を選定する際に、排他的なESGスクリーニング、上述の定量的モデルにおけるESGデータの利用、および持続可能性およびESG特性を用いたポートフォリオの最適化を組み合わせ、サステナブルな投資の原則を考慮する。投資先ファンドは、可能、かつその投資目的および投資戦略に一致している場合、サステナブルな投資対象（すなわち、投資先ファンドの投資顧問会社が適用法および規制を考慮して、サステナブルな投資対象であるとみなす投資対象）に投資することを目指す。

投資先ファンドの投資顧問会社は、その定量的モデルを採用する投資可能なエクイティのユニバースを設定するために、インデックスにブラックロックEMEAベースライン・スクリーンを適用する。上記に詳述されるように、定量的モデルは、企業を評価するために用いる様々な特性にわたり、ESGデータを取り入れる。また、ポートフォリオ構成ツールは、(a)投資先ファンドの加重平均ESG格付けは、インデックスのESG格付けよりも高く、かつ(b)インデックスと比較して、ポートフォリオが全体で30%低い炭素排出原単位スコアを達成するよう、ポートフォリオを最適化する投資規制に従う。

かかるESG格付けおよび炭素排出原スコアは、MSCIにより定義される。

投資先ファンドの投資顧問会社は、通常、インデックスよりも優れたESG成績を出すことを目指すポートフォリオを設定する。投資先ファンドが投資する証券（マネー・マーケット・ファンドを除く。）の発行体の90%超は、ESG格付けされているか、ESG目的で分析されている。

また、ブラックロックは、関連情報が入手可能かつ投資先の投資対象の種類に対して適切である場合には、SFDRに記載される優良ガバナンス基準に基づき、投資先の投資対象企業を評価する。かかる基準

は、良好な経営構造、従業員関係、スタッフ報酬および税務コンプライアンスに関連する。ブラックロックは、投資先ファンドに適用される特定のE S G戦略に基づき、投資先発行体のサステナビリティ関連特性の調査における優良ガバナンスに関連する追加要因も考慮することがある。

投資先ファンドは、例えば、投資対象ファンドが1または複数のかかる発行体から成るインデックスに対するエクスポージャーをF D Iを通じて取得する場合等、上記発行体に対する間接的なエクスポージャーを有することがある。

かかる分析を実施するために、投資先ファンドの投資顧問会社は、1または複数の外部のE S G調査提供会社および/または独自のモデルにより提供されたデータを用いることがある。

投資先ファンドの基準通貨は、米ドルである。

投資先ファンドのベンチマーク利用

投資先ファンドはアクティブ運用される。投資先ファンドの投資運用会社は、投資先ファンドの投資対象を選択する裁量を有し、かかる選択に際し、投資先ファンドのポートフォリオ構築時、またリスク管理上、投資先ファンドが取るアクティブ・リスク（すなわち、インデックスからの乖離の度合い）が、投資先ファンドの投資目的および投資方針に照らし適切であることを確実にするためのリスク・マネジメント目的において、M S C Iワールド・インデックス（以下「インデックス」という。）を参照する。投資先ファンドの投資顧問会社は、投資対象の選択にあたり、インデックスの構成銘柄または構成比からの制約を受けず、インデックスも投資先ファンドのE S G方針を反映していない。また、投資先ファンドの投資顧問会社は、その裁量により、特定の投資機会を利用するため、インデックスに含まれない有価証券に投資する場合がある。投資先ファンドは、通常、長期（すなわち5年以上）の期間に対して適用される管理報酬を上回る相応のアクティブ・リターンを目指すため、インデックスに関連するアクティブ・リスクを保守的な水準とすることで、投資家にとって投資目的が達成されるよう設定されている。インデックスは、投資者において、投資先ファンドのパフォーマンスを比較するために利用されるべきである。

投資先ファンドの評価および取引

投資先ファンドの投資証券の取引は原則として日々行うことができる。投資証券の申込み、買戻しおよび転換の注文は、名義書換事務代行会社または現地の投資者サービス・チームにより、各取引日の正午11時（アイルランド時間）（以下「カット・オフ・ポイント」という。）までに受領されるものとし、適用される価格は同日の午後に計算される。カット・オフ・ポイントを過ぎて名義書換事務代行会社または現地の投資者サービス・チームにより受領された取引注文は、翌取引日に処理される。

クラスD投資証券

クラスD投資証券は、投資先ファンドの管理会社の裁量に基づき、かつ現地の規制に従い、すべての投資者が入手可能であるが、クラスD投資証券は、独立顧問業務または一任投資運用業務を提供する者、または(i) M i F I D I Iで定義される投資業務および投資活動を提供し、（ ）提供される当該業務および活動に関連してその顧客との間で個別の報酬契約を締結し、かつ（ ）かかる業務および活動に関しては、当該投資先ファンドから別途報酬、払戻しまたは支払いを受領しない他の販売会社向けとする予定である。

投資先ファンドの営業日

アイルランド、英国および米国の関連する市場により、通常、営業日とみなされる日、ならびに投資先ファンドの管理会社が決定するその他の日をいう。

投資先ファンドの取引日

投資先ファンドの投資証券に関して、取引日とは、各営業日（別途投資先ファンドの管理会社が決定し、投資先ファンドの投資主（以下「投資主」という。）に事前に通知する場合を除く。）をいう。

投資先ファンドに伴う主な投資リスク

本項は、投資先ファンドに当てはまる主要なリスクの概要である。その他のリスクも、随時、投資先ファンドに関連する場合がある。投資先ファンドに該当するリスクのより詳細な情報は、投資先ファンドの目論見書において開示される。

一般的なリスク

各投資先ファンドの運用成績は、組入資産のパフォーマンスに依拠する。投資先ファンドまたはあらゆる投資がそれぞれの投資目的を達成するという保証または表明はない。過去の実績は、将来の実績を示すものではない。投資先ファンドの投資証券の価値は下記リスク要因のいずれかにより下落する場合もあれば上昇する場合もあり、投資者は投資元本を回収できないおそれがある。投資先ファンドの投資証券から得られる収入は、金銭的な面で変動する可能性がある。とりわけ、為替相場の変動は、投資先ファンドの投資証券の価値を増減させる場合がある。税率、課税標準、租税負担の軽減は、変更になる可能性がある。投資先ファンドの組入資産が収益を産む保証はない。また、元本の払戻しも保証されていない。設立時には、投資対象ファンドは、通常、投資主が実績の評価の基準とできる過去の実績を有さない。

株式への投資リスク

株式の評価額は、日々変動するものであり、株式に投資する投資対象ファンドは重大な損失を被る可能性がある。株式の価格は、個々の企業レベルで多くの要因の影響を受ける可能性があり、投資センチメント、経済成長、インフレおよび金利の傾向、発行体の固有の要因、企業の収益報告、人口統計学的傾向および天変地異的な事象等、広範な経済的および政治的展開によっても影響を受けるおそれがある。

金融市場、取引相手方および業務提供者

投資先ファンドは、業務提供者または金融契約の取引相手方を務める金融セクターに属する企業のリスクにさらされることがある。市場の変動が極端に大きい場合に、かかる企業が悪影響を受けるおそれがあり、それに伴い投資先ファンドのリターンに悪影響が及ぶことがある。規制機関ならびに自主規制機関および取引所は、市場の緊急事態の場合には臨時の措置をとる権限を付与されている。ブラックロック・ファンズ I ICAVへの将来の規制措置の影響が、重大かつ不利益なものとなる可能性がある。

課税上の留意事項

投資先投資法人は、自己の投資ポートフォリオから発生する収益および／または利益に源泉税またはその他の税を課されることがある。これには、投資先ファンドに適用される法域におけるキャピタル・ゲイン税を含むことがある。通常、かかる源泉税およびその他の税金（法域におけるキャピタル・ゲイン税を含む。）は、関連する投資先ファンドの純資産価額において引当てを行う予定である。ただし、特に法域におけるキャピタル・ゲイン税が、重要でないといみなされ（投資先ファンドの投資顧問会社の見解による）、買戻しに関連したポートフォリオ取引に関連して生じる場合、当該取引が投資先ファンド英文目論見書における「純資産価額の決定および取引の一時的停止」の項に記載のスイング・プライシングの仕組みに従い取り扱われることがあり、当該買戻しに適用される純資産価額の減少を生じることによって、当該買戻しにつき受領する純手取金が減額される可能性がある。疑義を避けるため付言するならば、買戻しに関連しないポートフォリオ取引（例えば、リバランス）の結果生じたキャピタル・ゲイン税は、関連する投資先ファンドが負担する。投資先投資法人が取得時に源泉税またはその他の税の対象ではない有価証券に投資する場合でも、適用ある法律、条約、規則もしくは規制の改正またはこれらの解釈の変更により、将来的に課税されないという保証はない。投資先投資法人は、かかる税の還付を受けられないことがあるため、かかる変更が、投資証券の純資産価額に悪影響を及ぼすおそれがある。

投資先投資法人（またはその代理人）は、投資先ファンドに代わり、源泉税の還付申請が可能な特定の国の発行体から受領した配当および金利収入（もしあれば）に対する源泉税の払戻請求を申請することがある。投資先ファンドが将来源泉税の払い戻しを受領するかどうか、またはその時期は、当該国の税務当局の管理下にある。投資先投資法人が払い戻しの可能性につき継続的な評価に基づく投資先ファンドの源泉税の払い戻しを予想している場合、通常、当該投資先ファンドの純資産価額には、かかる還付税額の引当金が含まれる。投資先投資法人は、当該投資先ファンドに関する払い戻しの可能性に対する潜在的な影響についての税務上の展開を継続して評価している。払戻金の受領の可能性が著しく低下した場合（例えば、税務規制またはアプローチの変更等により）、関連する投資先ファンドの当該払戻金に対する引当金は、一部または全額が償却されなければならない可能性があり、当該投資先ファンドの純資産価額に悪影響を及ぼす。引当金が償却された時点におけるかかる投資先ファンドの投資者は、自身がかかる引当期間中に投資者であったかどうかに関わらず、純資産価額の低下という結果の影響を受けることになる。逆に、投資先ファンドが従前引当てを行っていなかった税金還付を受けた場合は、請求が認められた時点における投資先ファンドの投資者は、投資先ファンドの純資産価額の増加という結果から利益を得る。当該時点より前に、保有する投資証券を売却した投資者は、かかる純資産価額の増加から利益を享受できない。

投資先ファンド英文目論見書における「課税」の項目に記載の税務情報は、取締役会の知る限りにおいて、投資先ファンドの英文目論見書の日付現在における税法および慣習に基づいている。税法、投資先投資法人の課税上の地位、投資主の課税および減税ならびにかかる課税上の地位および減税の効果は、随時変動

することがある。投資先ファンドが登録、販売または投資されている法域の税法の変更により、投資先ファンドの課税上の地位が影響を受け、影響を受ける法域における投資先ファンドの投資対象の価値が影響を受け、投資先ファンドの投資目的を達成する能力が影響を受け、および／または投資主に対する税引き後リターンが変わることがある。投資先ファンドがデリバティブに投資する場合、前文の解釈が、当該デリバティブ契約および／もしくは当該デリバティブの取引相手方の準拠法の法域ならびに／または当該デリバティブの裏付けとなるエクスポージャーを含む市場にまで及ぶこともある。

投資主が活用可能な減税の利用可能性および価値は、投資主の個別の状況に依拠する。投資先ファンド英文目論見書における「課税」の項目の情報は、網羅的ではなく、法務または税務的な助言でもない。投資者は自身の特定の課税状況および投資先投資法人への投資に関する税効果に関して、自身の税務顧問に相談することが推奨される。

税制度が完全に整備されていないかまたは十分に確立されていない法域（例えば、中東の法域）に投資先ファンドが投資する場合、かかる投資先ファンド、投資先ファンドの管理会社、投資先ファンドの投資顧問会社および投資先ファンドの保管受託銀行は、投資先投資法人もしくはかかる投資先ファンドの税金もしくはその他の手数料に関して投資先投資法人が財政当局に対し誠実に行った、もしくは負担した支払について、当該支払を行うもしくは負担する必要がなかったか、または行うもしくは負担すべきでなかったことが後に判明した場合でも、投資主に説明する責任を負わない。一方で、租税債務に関する根本的な不確実性、最善もしくは一般的な市場慣行の遵守が（確立された最善の実務がない範囲で）最終的に難しくなること、または税金の現実かつ適時の支払に関する整備された仕組みがないことにより、かかる投資先ファンドが過年度分の税を支払う場合には、関連する金利もしくは申告遅延による追徴金が、同様に投資先ファンドに請求される。かかる支払を遅延した税金は、通常、投資先ファンドの勘定に債務を発生させる決定が行われる時点で投資先ファンドの借方勘定に計上される。

また、投資主は投資先ファンド英文目論見書における「FATCAおよびその他のクロス・ボーダー報告システム」の項に規定の情報（特に投資先投資法人がかかる報告システムの条項を遵守できないことの結果に関連するもの）を読むべきである。

為替変動リスク

投資先ファンドは、投資先ファンドの基準通貨以外の通貨建ての資産に投資することがある。基準通貨建ての資産の価値は、基準通貨と資産の表示通貨の間の為替レートの変動、および為替管理の変更により、上昇することも下落することもある。投資先ファンドは、為替リスクをコントロールするために、ヘッジ目的でデリバティブを含む手法および金融商品を利用することができる。ただし、投資先ファンドのポートフォリオまたはポートフォリオ内の特定の資産に関する為替リスクを完全に抑えることが可能でないまたは現実的でないことがある。更に、関連する投資先ファンドの投資方針に別途定める場合を除き、投資運用会社は、投資先ファンド内の為替リスクの軽減を図る義務を負っていない。通貨ヘッジが活用されていない場合、パフォーマンスは、保有している有価証券のポジションと通貨ポジションが一致していないため、為替レートの変動により大幅な影響を受ける可能性がある。

最近の市場事由

市場の混乱期は、米国内外の様々な政治的、社会的および経済的事由に伴い生じる可能性がある。かかる状況が、価格の変動を拡大し、流動性を低下させ、信用スプレッドを拡大し、価格透明性の欠如を生み、また多くの場合これが継続し、多くの証券が非流動的かつ価値が不確定な状態が続く。かかる市況は、投資先ファンドに悪影響を及ぼす可能性があり、これには、投資先ファンドの有価証券の一部の評価が不確定となる場合を含み、および／または投資先ファンドの保有証券に急激かつ大幅な評価の上昇または下落を生じる可能性がある。投資先ファンドのポートフォリオの価値が大幅に下落した場合、投資先ファンドが保有する未決済のレバレッジの資産カバー率に影響を与える可能性がある。

また、将来の負債またはその他の経済危機により生じるリスクが、世界的な景気回復、金融機関の財務状況、ならびに投資先ファンドの事業、財務状況および運用成績に悪影響を及ぼす可能性もある。市場および経済の混乱が、とりわけ消費者信頼感指数および消費者支出、自己破産率、消費者債務の負担率およびデフォルト率ならびに住宅価格に影響を及ぼしており、将来影響を与える可能性がある。米国および世界中の経済に関する不確実性が、消費者信頼感および消費者の信用度に悪影響を及ぼす場合、投資先ファンドの事業、財務状況および運用成績は、大幅に悪影響を受ける可能性がある。主要銀行の信用格付けの格下げは、当該銀行の借入れ費用を増加させ、広範な経済に不利益をもたらす可能性がある。さらに、連邦準備制度理事会の方針（特定の金利に関するものを含む。）が、分配有りおよび利付証券の価値、変動性および流動性にも悪影響を及ぼす可能性がある。市場の変動、金利の上昇、および／または不利な経済状況が、投資先ファンドの投資目的達成を阻害する可能性がある。

デリバティブ

投資先ファンド英文目論見書に規定の投資上限および投資制限に従い、各投資先ファンドは、投資先ファンド英文目論見書に詳述されるように、効率的にポートフォリオを運用する目的および投資目的のために、市場リスクおよび通貨リスクをヘッジするデリバティブを利用することができる。

デリバティブの利用は、投資先ファンドに高い水準のリスクをもたらす。これらのリスクには、投資先ファンドが取引する取引相手方の信用リスク、決済不履行のリスク、変動リスク、OTC取引リスク、デリバティブの流動性の欠如、市場リスク、デリバティブの価値の変化と投資先ファンドが追従しようとしている原資産の価値の変化の間の不完全な追従、原資産への直接投資よりも高いコストが含まれることがある。

標準的な実務慣行に従い、投資先ファンドは、デリバティブを購入する場合、取引相手方に対する担保の提供を求められることがある。全額資金拠出されていないデリバティブの場合には、当初証拠金および／または変動証拠金となる資産を取引相手方に預託することを伴うことがある。投資先ファンドが取引相手方に対して当初証拠金となる資産を預託することを求めるデリバティブの場合には、当該資産が取引相手方自身の資産から分別管理されないことがあり、また、自由に取引可能で、かつ代替可能であることから、投資先ファンドが、取引相手方に預託した当初の証拠金となる資産ではなく、同等の資産の返還を受ける権利を有することができる。取引相手方が超過の証拠金または担保を要求する場合に、これらの預託金または資産が、取引相手方に対する該当する投資先ファンドの債務の価値を上回ることがある。加えて、デリバティブの取引条件において、最低引渡額が発動される場合に限り、ある取引相手方が他の取引相手方に対してデリバティブから生じる変動証拠金のエクスポージャーをカバーするための担保を提供するよう定めることがあるため、投資先ファンドは、かかる最低引渡額を上限として、デリバティブに基づき取引相手方に対し無担保のリスク・エクスポージャーを負担する可能性がある。

デリバティブ取引は変動性が高くなる可能性があり、市場エクスポージャーに関して取引にレバレッジをかけられるように、当初証拠金の額が、取引の規模に比べて一般的に低い。相対的に小さい市場の動きが、一般的な債券または株式に対するよりも大きな影響をデリバティブに及ぼすことがある。したがって、レバレッジをかけたデリバティブのポジションが、投資先ファンドのボラティリティを高めることがある。投資先ファンドはレバレッジを行うために金銭を借り入れないが、常に投資先ファンド英文目論見書に定める制限内において、エクスポージャーを調整するため、デリバティブを通じて、例えばシンセティック・ショート・ポジションを取ることがある。

一定の投資先ファンドが、通貨先渡を含む先物ポジション等のデリバティブ（シンセティック・ロング・ポジション）を利用して実行されるロング・ポジションを取ることがある。デリバティブへの投資に関連する追加的なリスクには、取引相手方による担保提供義務の違反が含まれ、事務上の問題（取引相手方の追加的な担保の提供または担保の代替に対するリスク・エクスポージャーの算出と、取引相手方の債務不履行の場合の担保の売却との間の時間的な隔たり等）を理由に、デリバティブ取引に基づく投資先ファンドの取引相手方に対する信用エクスポージャーが、完全に担保されない場合であっても、各投資先ファンドは、投資先ファンドの目論見書に記載された上限を遵守し続ける。デリバティブの利用は、投資先ファンドを法的リ

スク（法律の改正もしくは法令規則の予想外の適用の結果として、または契約が法的に執行可能でないという裁判所の宣言を理由に、損失が生じるリスク）にさらすこともある。

投資先ファンド英文目論見書に規定の各投資先ファンドの投資目的および投資方針におけるかかる規定に従い、投資先ファンドは、複雑な投資運用手法を実行するためにデリバティブを利用することができる。特に、網羅的ではないが以下が含まれることがある。

- ・ 金利リスクを調整するためのスワップ契約の利用
- ・ 投資目的上、1または複数の指標に対するエクスポージャーを得るためのスワップ契約の利用
- ・ 通貨リスクを売買する通貨デリバティブの利用（投資目的上のオプションの売買）
- ・ 市場エクスポージャーを得るためのトータル・リターン・スワップまたは先物契約の利用
- ・ マイナスな投資見通しを活用したシンセティック・ショート・ポジションの利用
- ・ 市場エクスポージャーを得るためのシンセティック・ロング・ポジションの利用

投資者は、下記「デリバティブおよびその他の複雑な商品手法」の項に記載される様々な種類のデリバティブ商品および戦略に関連するリスクに留意すべきである。

デリバティブ商品をこのような方法で利用する場合、投資先ファンドの全体的なリスク水準が上昇することがある。したがって、投資先ファンドの管理会社は、投資先ファンドの管理会社が正確にポジションのリスクおよびそれによる投資先ファンドの全体的なリスク水準への影響を測定し、監視し、管理することを可能にするためのリスク管理プロセスを用いる。投資先ファンドの管理会社は、各投資先ファンドの世界的なエクスポージャー（投資先ファンド英文目論見書に開示される）の算出にコミットメント・アプローチまたはVaRのいずれかを用いて、各投資先ファンドが投資先ファンドの目論見書に規定の投資制限を確実に遵守できるようにする。コミットメント・アプローチおよびVaRについての詳細は、投資先ファンド英文目論見書に含まれる。

個々の投資先ファンドが適用するデリバティブ戦略に関する詳細は、投資先ファンド英文目論見書の個々の投資先ファンドの投資目的、および請求することで現地の投資家サービス・チームより入手可能な最新のリスク管理プログラムを参照されたい。

証券貸付

投資先ファンドは、証券貸付を行うことができる。証券貸付を行う投資先ファンドは、証券貸付契約の取引相手方に対する信用リスクのエクスポージャーにさらされる。投資先ファンドの投資対象を、一定期間、取引相手方に貸し出すことができる。取引相手方が債務不履行に陥り、かつ担保の価値が貸付証券の価値を下回った場合、投資先ファンドの価値が減少することがある。投資先投資法人は、すべての証券貸付に完全な担保が付されることを確保する予定であるが、証券貸付が（例えば、支払の遅れから生じたタイミングの問題により）完全に担保されていない場合、投資先ファンドは、証券貸付契約の取引相手方にかかる信用リスクのエクスポージャーにさらされる。こうしたリスクにより生じる可能性のある潜在的な損失を相殺するため、借り手の債務不履行補償が、ブラックロック・インクにより提供され、借り手の債務不履行時に貸し付けられていた証券の価値が受領した担保でカバーできない場合に、影響を受ける投資先ファンドに補償するものである。

取引相手方リスク

投資先ファンドは、取引を行う当事者の信用リスクにさらされ、決済不履行のリスクを負うこともある。信用リスクは、金融商品の取引相手方が関連する投資先ファンドと締結した義務または約束を履行しないリスクである。これには、投資先ファンドが締結するデリバティブ、レポまたはリバース・レポ契約または証券貸付契約の取引相手方が含まれる。担保されていないデリバティブの取引には、直接の取引相手方エクスポージャーが生じる。関連する投資先ファンドは、各取引相手方に対するエクスポージャーと同等以上の価値を有する担保を受領することにより、そのデリバティブの取引相手方に対する信用リスクの多くを軽減するが、デリバティブが完全には担保されていない場合、取引相手方の債務不履行により、投資先ファンドの

価値が減少することがある。新規の各取引相手方については正式な調査が完了し、承認されたすべての取引相手方は継続的に監視および精査されている。投資先ファンドは、取引相手方エクスポージャーの積極的な監視および担保運用プロセスを維持する。

保管受託銀行にかかる取引相手方リスク

投資先投資法人の資産は、投資先ファンド英文目論見書の「保管義務」の項に詳述される通り、安全な保管のため保管受託銀行に委託される。指令欧州に従い、投資先投資法人の資産の安全保管の際に、保管受託銀行は、(a)保管受託銀行の帳簿上に開設した金融商品勘定に登録可能なすべての金融商品、および保管受託銀行に実際に引き渡されるすべての金融商品を保護預かりし、(b)その他の資産については、当該資産の所有権を確認し、それに応じて記録を維持する。投資先投資法人の資産は、保管受託銀行の帳簿上で、投資先投資法人に帰属するものとして識別されなければならない。保管受託銀行が保有する証券は、適用ある法令に従い、保管受託銀行のその他の資産から分別管理されなければならない。これにより保管受託銀行が破産した場合に補償を受けられないリスクを低減するが、かかるリスクを排除するわけではない。したがって、投資者は、保管受託銀行が破産した場合に保管受託銀行が投資先投資法人のすべての資産を補償する義務を完全に履行できないリスクを負う。さらに、保管受託銀行が保有する投資先ファンドの現金が、保管受託銀行自身の現金／保管受託銀行のその他の顧客のために保管する現金から、分別管理されているとは限らないため、保管受託銀行が破綻した場合に、投資先ファンドがこの点において無担保債権者としての地位しか得られないことがある。

保管受託銀行は、投資先投資法人のすべての資産を自身で保管するとは限らないが、複数の副保管受託銀行のネットワークを利用することができ、これらが必ずしも保管受託銀行と同一企業グループに属しているとは限らない。投資者は、保管受託銀行の支配が及ばない外部要因の結果、これに反するすべての合理的な努力にもかかわらず、その帰結を回避できず損失が生じた場合に、保管受託銀行が一切責任を負わない状況では、副保管受託銀行の破産のリスクを負うことがある。投資先ファンドは、保管システムおよび／または決済システムが十分に整備されていない市場に投資することがある。かかる市場で取引され、かかる副保管受託銀行に預託されている投資先ファンドの資産は、保管受託銀行の支配が及ばない外部要因の結果、これに反するすべての合理的な努力にもかかわらず、その帰結を回避できず損失が生じた場合に、保管受託銀行が一切責任を負わない状況では、リスクにさらされることがある。

投資先ファンドの債務のリスク

投資先投資法人は、その投資先ファンド間で債務を分別しているアンブレラ型投資信託として構成されている。アイルランドの法律上、ある投資先ファンドの資産を別の投資先ファンドの債務の弁済に利用することはできない。ただし、投資先投資法人は、自らのために保有する資産を運用もしくは所有するか、または必ずしもかかる債務の分別を認めないその他の法域内での賠償請求に従う可能性がある、単一の法主体である。

市場レバレッジ

投資先ファンドは、追加投資対象の購入のための借入れを行わないが、デリバティブ・ポジションを通じて、市場レバレッジ（純資産価額を超過する、ロング・ポジションおよびシンセティック・ショートポジションの双方を合計した、グロスの市場エクスポージャー）を獲得することが予想される。投資運用会社は、市場間の相対価値の決定（「当市場は他の市場より良好である」）や、市場の絶対リターンについての方向性のある見方（「当市場は上昇または下落傾向である」）から、絶対リターンを得ることを追求する。市場レバレッジの程度は、ポジション間の相関関係の程度に左右される傾向がある。相関関係の水準が高ければ高いほど、市場レバレッジの可能性および見込まれる程度がより大きくなる。

レポ取引およびリバース・レポ契約

投資先ファンドは、レポ取引に基づき、証券を取引相手方に売却すると同時に、合意した日付および価格でその証券を取引相手方から買い戻すことに合意する。売却価格と買戻価格との差額が、取引のコストとなる。再売却価格は、一般的に、契約期間について合意された市場金利を反映する金額の分、購入価格を上回る。投資先ファンドは、リバース・レポ取引において、合意した将来の日付に合意した再販売価格で証券を買い戻そうとする取引相手方から、投資商品を購入する。したがって、投資先ファンドは、売主が債務不履行に陥る場合、投資先証券の手取り金と、該当する契約に関連して投資先ファンドが保有するその他の担保の合計額が、市場動向を理由に買戻価格を下回る範囲で、損失を被りかねないリスクを負う。投資先ファンドは、契約条件が失効するか、または取引相手方が証券を買い戻す権利を行使するまでの間、リバース・レポ取引の対象である証券を売却することができない。

担保の譲渡

投資先ファンドは、デリバティブを利用するために、投資先ファンドに対する取引相手方のエクスポージャーに対するカバーとして投資先ファンドの資産から担保または証拠金を支払うことを要求する取決めを、取引相手方と締結する。かかる担保または証拠金の所有権が取引相手方に譲渡される場合、当該所有権は、かかる取引相手方の資産となり、取引相手方が事業の一部として使用することがある。このように譲渡された担保は、保管受託銀行によって安全保管のために保有されないことになるが、担保の持分は、保管受託銀行により監視および調整される。投資先ファンドが取引相手方のために担保を提供する場合、当該取引相手方は、投資先ファンドの同意なしに、担保として提供された資産に再度担保を設定することができない。

E S G方針に伴うリスク

投資先ファンドは、投資先ファンドの目論見書に記載のとおり、E S G方針を有しており、投資先ファンドは、その投資方針に規定されるその他の投資基準に加えて、かかる方針に従い、投資先ファンドの投資対象の選定に際して、環境、社会およびガバナンス（「E S G」）特性を考慮する。更なる情報について、投資者は、投資先ファンドの目論見書に規定される関連する投資先ファンドそれぞれのE S G方針（該当する場合）を参照されたい。

投資先ファンドのE S G方針は、E S G基準の排他的基準の適用を含む予定であり、これにより、購入または証券の保有を維持することが有利な可能性がある場合に、特定の証券の購入の停止、または別途特定の証券のエクスポージャーの引下げ、もしくはアンダーウェイト、および/またはE S G特性により証券の売却を生じる可能性があり、かかる行為が別途不利益となる可能性がある。このように、当該基準の利用は、投資先ファンドの投資パフォーマンスに影響を与える可能性があり、投資先ファンドは、当該基準が適用されない類似のファンドと比較した場合、異なるパフォーマンスとなる可能性がある。投資先ファンドの投資顧問会社による証券のE S G特性の評価が変更された場合、投資先ファンドの投資顧問会社に対し、既に保有している証券の売却または保有していない証券の購入の指示につき、投資先ファンド、投資先投資法人、投資先ファンドの管理会社、投資先ファンドの投資顧問会社またはその関係会社のいずれも、かかる評価に関し責任を負わない。さらに、投資者は、関連する排除が、投資者自身の主観的な倫理観と直接的に一致しない可能性があることに留意すべきである。

E S G特性に基づく証券、発行体または指標の評価に際し、投資先ファンドの投資顧問会社は、第三者であるE S G調査提供会社からの情報およびデータに依存している可能性があり、このため、不完全、不正確または入手不可能なことがある。また、同様に不完全、不正確または入手不可能な情報に依拠する可能性のある自身の独自のモデルに依拠するよう努める可能性がある。その結果、投資先ファンドの投資顧問会社が、証券、発行体または指標を不正確に評価するリスクがある。また、投資先ファンドの投資顧問会社、または投資先ファンドの投資顧問会社が依存する第三者のE S G調査提供会社は、関連するE S G特性を正確に解釈または適用できないリスクもある。関連する投資先ファンド、投資先投資法人、投資先ファンドの管

理会社、投資先ファンドの投資顧問会社、またはその関係会社のいずれも、かかるE S G評価の公平性、正確性、確実性、合理性または完全性につき、明示的であれ黙示的であれ、表明または保証していない。

自然または人為的な災害および感染症のエピデミックによる影響

特定の地域は、自然災害または壊滅的な自然現象による影響を被る危険性を有している。インフラ、災害管理計画機関、災害対応および救援リソース、自然災害に対する組織的な公的支援金ならびに自然災害の早期警報技術の開発が、特定の国においては未成熟および不均衡でありうることを考慮すると、個々の投資先企業または地域経済市場全体に対する自然災害による損害は甚大なものとなるおそれがある。必要不可欠である通信、電力およびその他の動力源が復旧し、投資先企業の業務が再開可能となるまでに長期間を要する可能性がある。かかる災害が発生した場合には、投資先ファンドの投資についても危険が及ぶ可能性がある。また、自然災害による将来的な経済的影響の大きさは、不透明であり、投資先ファンドによる特定の企業への投資を遅延させる可能性があり、かつ、最終的にはかかる投資を完全に妨げる場合がある。

また、人為的な災害も投資に悪影響を及ぼす可能性がある。人為的災害の公表によって消費者全体の信頼感に甚大な悪影響を与える可能性があり、その結果、投資対象がかかる人為的災害に関与しているかどうかにかかわらず、投資先ファンドの投資パフォーマンスに重大な悪影響を与える可能性がある。

さらに、感染症のアウトブレイクも投資先ファンドのパフォーマンスにマイナスの影響を及ぼす可能性がある。例えば、新型コロナウイルスによる呼吸器疾患のアウトブレイクが2019年12月に初めて検出され、その後、世界的に拡大した。新型コロナウイルスは、国境閉鎖、人々の移動制限、検疫、輸送およびその他のサービスの中止、サプライ・チェーン、事業活動および消費者活動の断絶、さらには、社会的懸念や不確実性をもたらした。今後、他の感染症についても同様のアウトブレイクが発生する可能性がある。今後発生しうる新型コロナウイルスおよび他のエピデミックならびにパンデミックの影響は、多くの国々の経済、個々の企業および市場全般に、現時点では必ずしも予測できない結果を及ぼす可能性がある。加えて、新興国または新興市場国においては、医療制度がまだ十分に確立していないことから、感染症の影響が大きくなるおそれがある。近年の新型コロナウイルスのアウトブレイクによる医療危機は、特定の国において、他の既存の政治的、社会的および経済的リスクを悪化させる。アウトブレイクの影響は、短期的な場合もあれば、長期的に継続する場合もある。かかる事象は、ボラティリティおよび投資価値の損失リスクを高めうる。

一般的なサステナビリティ・リスク

サステナビリティ・リスクとは、環境、社会またはガバナンスに関連する投資リスク（投資の期待リターンに対し重大な損失が発生する確率または不確実性）を示す包括的な用語である。

環境問題に関するサステナビリティ・リスクには、物理的リスクおよび移行リスクの両方の気候変動リスクが含まれるが、これらに限定されるものではない。物理的リスクは、気候変動による物理的な影響から生じる急性または慢性のリスクである。例えば、頻繁かつ厳しい気候関連の事象は、製品およびサービスならびにサプライ・チェーンに影響を与えうる。移行リスクは、気候変動緩和のための低炭素経済への調整から生じる政策リスク、テクノロジー・リスク、市場リスクまたはレピュテーション・リスクである。社会的問題に関するリスクには、労働者の権利および地域社会との関わりが含まれるが、これらに限定されない。ガバナンス関連のリスクには、取締役会の独立性、所有および支配または監査および税務管理に関するリスクが含まれるが、これらに限定されない。

かかるリスクは、発行体の運営上の有効性および回復力、社会的認知、レピュテーションに影響を及ぼし、収益性さらには資本成長に影響を与え、最終的には投資先ファンドの保有資産の価値に影響を与える可能性がある。

これらは、サステナビリティ・リスク要因の一例に過ぎず、サステナビリティ・リスク要因のみが投資のリスク・プロファイルを決定するものではない。サステナビリティ・リスク要因およびその他のリスクの関連性、重大性、重要性および時間軸は、投資先ファンドによって大きく異なる場合がある。

サステナビリティ・リスクは、異なった既存のリスク・タイプ（市場、流動性、集中、信用、資産および負債のミスマッチなどを含むが、これらに限られない。）を通じて顕在化することがある。例えば、投資先ファンドは、物理的気候リスク（サプライ・チェーンの混乱による生産能力の低下、需要ショックによる売上減少もしくは営業コストまたは資本コストの上昇など）または移行リスク（炭素集約的な製品およびサービスに対する需要の減少または投入価格の変化による生産コストの上昇など）による収益の減少または支出の増加に直面する可能性のある発行体の株式または債券に投資することがある。その結果、サステナビリティ・リスク要因は、投資に重大な影響を与える可能性があり、ボラティリティを高め、流動性に影響を与え、投資先ファンドの投資証券の価値に損失を及ぼすおそれがある。

これらのリスクの影響は、特定のセクターまたは地理的な集中がみられる投資先ファンドではより高くなる。例えば、悪天候の影響を受けやすい地域に地理的に集中している投資先ファンドでは、かかる投資先ファンドへの投資価値が物理的な悪天候の影響をより受けやすくなる場合があり、また、炭素集約度が高い、または低炭素代替物への移行に伴うスイッチング・コストが高い産業もしくは発行体への投資など、特定のセクターに集中している投資先ファンドでは、気候変動移行リスクの影響をより受けやすくなる場合がある。

これらの要因のすべてまたは組み合わせが、関連する投資先ファンドの投資に予想外の影響を及ぼす可能性がある。通常の市況下では、かかる事象は、投資先ファンドの投資証券の4価格に重大な影響を及ぼすおそれがある。

投資先ファンドのベンチマーク指数の指数提供者が、各ベンチマーク指数の達成意図に関する記述を示している場合、指数提供者は、通常、ベンチマーク指数に関するデータの品質、正確性もしくは完全性に関するか、またはその指数算出法に関する書面における保証の提供、または責任を引き受けることはなく、発表した指数が指数提供者の記載したベンチマーク指数算出法に一致していることを保証するものでもない。データの品質、正確性もしくは完全性に関する間違いは、随時発生する可能性があり、特に当該指数があまり使用されていない場合に一定期間認識されず、修正されない可能性がある。

サステナビリティ・リスクによる影響は、時間とともに発達する可能性が高く、サステナビリティ要因および影響に関するさらなるデータおよび情報が利用可能となるにつれて、新たなサステナビリティ・リスクが確認される可能性がある。

投資先ファンドの配当方針

投資先ファンドから、配当は行われない。

投資先ファンドの報酬、手数料および費用

以下は、投資先ファンドが負担する報酬、手数料および費用の概要である。より詳細な情報は、投資先ファンドの目論見書において開示される。

継続手数料

投資先ファンドの継続手数料は、純資産価額の年率0.40%で計算され、現在の純資産価額に対して日々発生し、毎月後払いで支払われる。

有価証券貸付取引報酬

投資先ファンドの投資顧問会社は、有価証券貸付管理契約の条項に基づき、投資先ファンドの有価証券貸付取引代行会社として、投資先ファンドの管理会社により任命される。当該契約の条項に基づき、有価証券貸付取引代行会社は、関連する投資先ファンドの有価証券貸付取引の管理のために任命され、投資先ファンドの投資顧問会社としての報酬に加えて、有価証券貸付取引で得た収益から報酬を受領する権利を有する。投資先ファンドが有価証券貸付取引を行い、かつ有価証券貸付取引代行会社として、投資先ファンドの投資顧問会社を任命する場合、投資先ファンドが有価証券貸付取引から生じる関連収入の62.5%を受領し、残りの37.5%は有価証券貸付取引代行会社が受領し、有価証券貸付取引代行会社は、その収入の一部から有価証券貸付取引費用を支払う。

過度の取引に関する方針

過度の取引行為は、すべての投資主の利益に悪影響を与えることがあるため、投資先ファンドの管理会社は、過度の取引行為に繋がる購入または買戻しを積極的に認めることはない。投資先ファンドにおける過度の取引行為には、一定のタイミングに沿っているようみなされる、または取引の頻度または規模が過度である個人または個々人のグループによる証券取引を含む。しかしながら、投資主は、投資先ファンドが、資産配分を目的とする特定の投資者、または仕組み商品のプロバイダーによって活用されることがあり、これにより、当該投資主に対して投資先ファンド間でその投資証券を定期的に交換しなければならない可能性があることに注意しなければならない。かかる行為が投資先ファンドの管理会社の判断で頻度が高すぎるまたは一定のタイミングに沿っているとみなされる場合を除き、当該行為は通常、過度の取引として扱われることはない。

過度の取引が疑われる場合、投資先ファンドは、投資先ファンドの管理会社の合理的判断により、過度の取引が疑われる投資主に対して、特に買戻し手取金の2%の買戻し手数料を徴収することがある。当該手数料は、投資先ファンドの利益になり、影響を受ける投資主は当該手数料が請求された場合、契約報告書において通知される。

買戻し制限

名義書換代行会社が、いずれかの取引日において、総額で発行済の投資先ファンドの投資証券価額の10%を超える買戻し請求を受領した場合、投資先ファンドの管理会社は、その単独の裁量で、かかるすべての請

求が発行済の投資先ファンドの投資証券価額の10%を上回らないように当該投資証券の各買戻請求を比例按分して引下げることができる。詳細は、投資先ファンドの目論見書に規定される。

一時的停止

投資先ファンドの管理会社は、一時的に純資産価額の決定、およびその期間のすべてまたは一部において、発行および買戻しを停止することがある。これが実施される状況の詳細は、投資先ファンド目論見書に記載される。

停止された場合、投資先ファンドの管理会社は、直ちにwww.blackrock.comにおいて当該事実を公表し、中央銀行、およびEU加盟国または本投資証券が取引対象とされているその他の国のあらゆる管轄当局に直ちに（いかなる場合も、かかる停止が生じた営業日のうちに）通知する。

投資先ファンドの管理会社または管理事務代行会社は、上記の買戻制限の一時的停止の結果、投資者に生じた費用につき責任を負わない。

強制買戻し

投資先ファンドの管理会社は、投資証券1口当たりの純資産価格で、あらゆる投資証券を強制的に買い戻す権限、および(a)当該投資証券が、直接または実質的に適格保有者ではない者により保有されている場合、または(b)当該投資証券が、直接または実質的に、投資先ファンドがそうでなければ負担もしくは被ることがなかったであろう税金債務の負担もしくは罰金による不利益を被ること、または1940年法（もしくは継承する類似の法律）に基づき投資先ファンドが登録を強制されるか、または1933年法（もしくは継承する類似の法律）に基づきそのクラス証券が登録を強制される結果を生じると投資先ファンドの管理会社が判断する状況（直接または間接的に当該者に影響を与えるかどうか、および単独で行うか、またはその他の関連する者と共に行うかどうかを問わず、または管理会社が関連するとみなすその他の状況）である場合、または(c)投資先ファンドの管理会社が、単独の裁量で、顧客契約がいかなる理由であれ終了されている投資主が当該投資証券を保有しているとみなす場合に、投資証券を適格保有者に譲渡させる権限を有する。

投資先投資法人または投資先ファンドもしくはクラスの全額買戻しおよび終了

投資先投資法人および各投資先ファンドは、無期限で設立されており、資産の上限を設定しないこともできる。ただし、投資先投資法人は、その投資証券のすべてを買い戻すことができ、また、以下の場合には、発行済みの投資先ファンドまたはクラスの投資証券をすべて買い戻すことができる。

- (a) 関連する投資先ファンドまたはクラスの投資主が、かかる投資先ファンドまたはクラスの投資証券の保有者総会において、または書面により、かかる買戻しに関する特別決議を可決するか、
- (b) いかなる方法であれ、投資先投資法人または関連する投資先ファンドに影響を与える政治的、経済的、財務上または規制上の不利な変更を理由に、取締役会が適切とみなす場合、
- (c) 関連する投資先ファンドまたは投資先ファンドのクラス投資証券の純資産価額が、随時、取締役会が判断する最低金額を上回らないまたは下回るようになった場合、
- (d) 保管受託銀行が退任の意向の通知を送達し、その通知の日より90日以内に代替の保管受託銀行が任命されなかった場合投資先ファンドの目論見書の「保管受託銀行」の項を参照のこと。または
- (e) 取締役会が、その他のあらゆる理由により適切とみなし、投資主に事前の通知を行う場合。

終了または合併の場合投資先投資法人ICAVまたは投資先ファンドもしくはクラスの投資証券は、法律で要求される当該投資証券のすべての保有者への事前の書面による通知を行った後に買い戻される。投資証券は関連する取引日の当該クラスの投資証券1口当たり純資産価格で買い戻される。

投資先投資法人が解散または清算する場合（清算が任意であるか、監督に基づくものか、または裁判所によるものかを問わない。）、清算人は、通常決議による権限で、投資先投資法人の資産のすべてまたは一部を現物で投資主間に投資先投資法人に対する投資証券保有額（定款に従い決定される。）に応じて比例按分して分配し、資産が単独の種類の財産から構成されているかどうかに関わらず、当該目的のために、定款の評価規定に従いあらゆるクラスの財産を評価することができる。清算人は、通常決議による権限で、資産のいずれの部分についても、投資主の利益のために清算人が適切とみなす信託に基づき、受託者に託すことができ、投資先投資法人の精算を終了し、投資先投資法人を解散させることができるが、投資主は、負債が存在するいかなる資産についてもこれを受け入れることを強制されるものではない。投資主が要求する場合、投資先ファンドの投資顧問会社は、当該投資主に対して分配される資産を売却し、当該投資主にその手取現金を分配する。投資主は、分配された有価証券に関するあらゆるリスクを負担し、当該有価証券を処分するにあたり、仲介手数料またはその他の費用を支払わなければならないことがある。

（訳文）

独立監査人の監査報告書

プレミアム・ファンズの受託会社御中

監査意見

私たちは、プレミアム・ファンズ（以下「ファンド」という。）および各サブ・ファンドの財務書類、すなわち、2024年11月30日現在の結合純資産計算書、各サブ・ファンドの純資産計算書、統計情報および投資有価証券明細表ならびに同日をもって終了した会計年度における結合損益および純資産変動計算書、各サブ・ファンドの損益および純資産変動計算書（表示通貨はすべて米ドル）（以下「財務書類」と総称する。）、ならびに重要な会計方針の要約を含む財務書類に対する注記の監査を行った。

私たちは、添付の財務書類が、ルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して、ファンドおよび各サブ・ファンドの2024年11月30日現在の財政状態ならびに同日をもって終了した会計年度の運用成績および純資産の変動を真実かつ適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私たちは、金融監督委員会（Commission de Surveillance du Secteur Financier）（以下「CSSF」という。）が採用した国際監査基準（以下「ISA」という。）に準拠して監査を行った。私たちの責任は、本報告書の「財務書類の監査に対する監査人の責任」の区分に詳述されている。私たちは、私たちの財務書類の監査に関連する倫理上の要求事項とともに、国際会計士倫理基準審議会の定める職業会計士のための国際倫理規程（国際独立性基準を含む。）（以下「IESBA Code」という。）に基づきファンドに対して独立性を保持しており、また、これらの要求事項およびIESBA Codeに基づきその他の倫理上の責任を果たした。私たちは、私たちの意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

受託会社および管理会社は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容は、年次報告書のうち、財務書類および監査報告書以外の情報である。

私たちの監査意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、したがって、私たちは当該その他の記載内容に対していかなる保証の結論も表明しない。

財務書類の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務書類または私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか考慮すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な虚偽記載の兆候があるかどうか留意することにある。私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽記載があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私たちは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

財務書類に対する受託会社および管理会社の責任

受託会社および管理会社は、ルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して財務書類を作成し適正に表示すること、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するために受託会社および管理会社が必要と判断した内部統制を整備および運用する責任を有している。

財務書類を作成するに当たり、受託会社および管理会社は、ファンドが継続企業として存続する能力があるかどうかを評価し、必要がある場合には当該継続企業の前提に関する事項を開示する責任を有し、また、受託会社および管理会社がファンドの清算もしくは事業停止の意図があるか、またはそうする以外に現実的な代替案がない場合を除き、継続企業の前提に基づいて財務書類を作成する責任を有している。

統治責任者の責任は、ファンドの財務報告プロセスの監視を行うことにある。

財務書類の監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての財務書類に、不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を表明することにある。合理的な保証は、高い水準の保証であるが、C S S Fが採用したI S Aに準拠して行った監査が、すべての重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該財務書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私たちは、C S S Fが採用したI S Aに準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持し、また、以下を行う。

- ・不正または誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、取引等の記録からの除外、虚偽の陳述、および内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、ファンドの内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・受託会社および管理会社が採用した会計方針およびその適用方法の適切性、ならびに受託会社および管理会社によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。

- ・受託会社および管理会社が継続企業を前提として財務書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、ファンドの継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務書類の開示に注意を喚起すること、または重要な不確実性に関する財務書類の開示が適切でない場合は、財務書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務書類の表示方法が適切であるかどうかを評価すること、関連する注記を含めた全体としての財務書類の表示、構成および内容を検討し、財務書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

私たちは、統治責任者に対して、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、および監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項を報告している。

デロイト・アンド・トゥシュ・エルエルピー

2025年4月29日

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

Independent Auditor's Report

To the Trustee of Premium Funds

Opinion

We have audited the financial statements of Premium Funds (the “Trust”) and each of its Series Trusts, which comprise the combined statement of net assets, the statements of net assets, the statistical information and the schedules of investments of each of its Series Trusts as at November 30, 2024, and the combined statement of operations and changes in net assets and the statement of operations and changes in net assets of each of its Series Trusts for the year then ended (all expressed in US dollars) (together “the financial statements”), and the notes to the financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the accompanying financial statements give a true and fair view of the financial position of the Trust and of each of its Series Trusts as at November 30, 2024, and of the results of their operations and changes in their net assets for the year then ended in accordance with generally accepted accounting principles in Luxembourg.

Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing (ISAs) as adopted by the Commission de Surveillance du Secteur Financier (CSSF). Our responsibilities are further described in the “Auditor’s Responsibilities for the Audit of the Financial Statements” section of our report. We are independent of the Trust in accordance with the International Ethics Standards Board for Accountants’ International Code of Ethics for Professional Accountants (including International Independence Standards) (IESBA Code), together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the financial statements, and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with these requirements and the IESBA Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Other Information

The Trustee and the Manager are responsible for the other information. The other information comprises the information stated in the annual report but does not include the financial statements and our auditor’s report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the Trustee and the Manager for the Financial Statements

The Trustee and the Manager are responsible for the preparation and fair presentation of the financial statements in accordance with generally accepted accounting principles in Luxembourg, and for such internal control as the Trustee and the Manager determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the Trustee and the Manager are responsible for assessing the Trust's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Trustee and the Manager either intend to liquidate the Trust or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Trust's financial reporting process.

Auditor's Responsibilities for the Audit of the Financial Statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with ISAs as adopted by the CSSF will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements.

As part of an audit in accordance with ISAs as adopted by the CSSF, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Trust internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Trustee and the Manager.

- Conclude on the appropriateness of the Trustee and the Manager's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Trust's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Trust to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

Deloitte & Touche LLP April 29, 2025

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出代理人が別途保管している。

[次へ](#)

S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ

株主各位

ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ L - 1282 ヒルデガルト・フォン・ピンゲン通り2番

公認の監査人報告書

財務書類の監査に関する報告

意見

我々は、S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・カンパニー・エス・エイ（以下「当社」という。）の2024年3月31日現在の貸借対照表および同日に終了した年度の損益計算書、ならびに重要な会計方針の概要を含む財務書類に対する注記から構成される財務書類について監査を行った。

我々の意見では、添付の財務書類は、財務書類の作成および表示に関するルクセンブルグの法令上の要件に準拠して、当社の2024年3月31日現在の財務状態、ならびに同日に終了した年度の運用実績について真実かつ公正に表示しているものと認める。

意見の根拠

我々は、監査人に関する2016年7月23日の法律（以下「2016年7月23日法」という。）およびルクセンブルクの金融監督委員会（以下「C S S F」という。）が採用した国際監査基準（以下「I S A s」という。）に準拠して監査を行った。2016年7月23日法およびルクセンブルグのC S S Fが採用したI S A sの下での我々の責任については、「財務書類の監査に関する公認の監査人の責任」の項において詳述されている。また、我々は、財務書類に対する我々の監査に関する倫理上の要件に従いつつ、ルクセンブルグのC S S Fによって採用された国際会計士倫理基準審議会が公表した国際独立性基準を含む職業会計士のための国際倫理規程（以下「I E S B A規程」という。）に従って当社から独立した立場にある。我々は、これらの倫理上の要件の下で他の倫理的な義務も果たしている。我々は、我々が入手した監査証拠が監査意見表明のための基礎を得るのに十分かつ適切であると判断している。

その他の記載内容

取締役会は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容は、経営報告書を含む年次報告書のうち、財務書類および公認の監査人報告書以外の情報である。

我々の監査意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、したがって、我々は当該その他の記載内容に対していかなる保証の結論も表明しない。

財務書類の監査における我々の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務書類または我々が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか考慮すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な虚偽記載の兆候があるかどうか留意することにある。我々は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽記載があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。我々は、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

財務書類に関する取締役会の責任

取締役会は、財務書類の作成および表示に関するルクセンブルグの法令上の要件に準拠して、当財務書類の作成および公正表示、ならびに不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、重要な虚偽表示がない財務書類を作成するために必要であると取締役会が決定する内部統制に関して責任を負う。

財務書類の作成において、取締役会は、当社が継続企業として存続する能力を評価し、それが適用される場合には、取締役会が当社の清算または運用の中止を意図している、もしくは現実的にそれ以外の選択肢がない場合を除き、継続企業の前提に関する事象を適宜開示し、継続企業の会計基準を使用する責任を負う。

財務書類の監査に関する公認の監査人の責任

我々の監査の目的は、不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、財務書類に全体として重要な虚偽表示がないかどうかにつき合理的な保証を得ること、および監査意見を含む公認の監査人報告書を発行することである。合理的な保証は高度な水準の保証ではあるが、2016年7月23日法およびルクセンブルクのC S S Fが採用したI S A sに準拠して行われる監査が、重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は不正または誤謬により生じることがあり、重要とみなされるのは、単独でまたは全体として、当該財務書類に基づく利用者の経済的意思決定に影響を及ぼすことが合理的に予想される場合である。

2016年7月23日法およびルクセンブルクのC S S Fが採用したI S A sに準拠した監査の一環として、監査全体を通じて、我々は専門的判断を下し、職業的懐疑心を保っている。

また、以下も実行する。

- ・不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、財務書類の重要な虚偽表示のリスクを認識および評価し、それらのリスクに対応する監査手続を策定および実行し、我々の監査意見表明のための基礎として十分かつ適切な監査証拠を得る。不正による重要な虚偽表示は共謀、偽造、意図的な削除、不正表示または内部統制の無効化によることがあるため、誤謬による重要な虚偽表示に比べて、見逃すリスクはより高い。
- ・当社の内部統制の有効性についての意見を表明するためではなく、状況に適した監査手続を策定するために、監査に関する内部統制についての知識を得る。
- ・使用される会計方針の適切性ならびに取締役会が行った会計上の見積りおよび関連する開示の合理性を評価する。
- ・取締役会が継続企業の前提の会計基準を採用した適切性および、入手した監査証拠に基づき、当社が継続企業として存続する能力に重大な疑義を生じさせる可能性のある事象または状況に関連する重要な不確実性の有無について結論を下す。重要な不確実性が存在するという結論に達した場合、我々は、当報告書において、財務書類における関連する開示に対して注意喚起し、当該開示が不十分であった場合は、監査意見を修正する義務がある。我々の結論は、当報告書の日付までに入手した監査証拠に基づく。しかし、将来の事象または状況が、当社が継続企業として存続しなくなる原因となることがある。
- ・開示を含む財務書類の全体的な表示、構成および内容について、また、財務書類が、適正表示を実現する方法で対象となる取引および事象を表しているかについて評価する。

我々は統治責任者に、特に、計画した監査の範囲および実施時期、ならびに我々が監査中に特定した内部統制における重大な不備を含む重大な監査所見に関して報告する。

その他の法令上の要件に関する報告

経営報告書は、財務書類と一致しており、適用される法令上の要件に準拠して作成されている。

ルクセンブルグ、2024年6月21日

ケーピーエムジー オーディット エス・
アー・エール・エル
公認の監査法人

ミルコ・レーマン
パートナー

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

To the Shareholders of
SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.
2, rue Hildegard von Bingen
L-1282 Luxembourg
Luxembourg

REPORT OF THE REVISEUR D'ENTREPRISES AGREE

Report on the audit of the annual accounts

Opinion

We have audited the annual accounts of SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A. (the "Company"), which comprise the balance sheet as at 31 March 2024, and the profit and loss account for the year then ended, and notes to the annual accounts, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the accompanying annual accounts give a true and fair view of the financial position of the Company as at 31 March 2024 and of the results of its operations for the year then ended in accordance with Luxembourg legal and regulatory requirements relating to the preparation and presentation of the annual accounts.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with the Law of 23 July 2016 on the audit profession (the "Law of 23 July 2016") and with International Standards on Auditing ("ISAs") as adopted for Luxembourg by the Commission de Surveillance du Secteur Financier ("CSSF"). Our responsibilities under the Law of 23 July 2016 and ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF are further described in the «Responsibilities of "réviseur d'entreprises agréé" for the audit of the annual accounts» section of our report. We are also independent of the Company in accordance with the International Code of Ethics for Professional Accountants, including International Independence Standards, issued by the International Ethics Standards Board for Accountants ("IESBA Code") as adopted for Luxembourg by the CSSF together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the annual accounts, and have fulfilled our other ethical responsibilities under those ethical requirements. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Other information

The Board of Directors is responsible for the other information. The other information comprises the information stated in the annual report including the management report but does not include the annual accounts and our report of the "réviseur d'entreprises agréé" thereon.

Our opinion on the annual accounts does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the annual accounts, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the annual accounts or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report this fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the Board of Directors for the annual accounts

The Board of Directors is responsible for the preparation and fair presentation of the annual accounts in accordance with Luxembourg legal and regulatory requirements relating to the preparation and presentation of the annual accounts, and for such internal control as the Board of Directors determines is necessary to enable the preparation of annual accounts that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the annual accounts, the Board of Directors is responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Board of Directors either intends to liquidate the Company or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

Responsibilities of the réviseur d'entreprises agréé for the audit of the annual accounts

The objectives of our audit are to obtain reasonable assurance about whether the annual accounts as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue a report of the “réviseur d'entreprises agréé” that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with the Law of 23 July 2016 and with ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these annual accounts.

As part of an audit in accordance with the Law of 23 July 2016 and with ISAs as adopted for Luxembourg by the CSSF, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the annual accounts, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Board of Directors.
- Conclude on the appropriateness of the Board of Directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our report of the “réviseur d'entreprises agréé” to the related disclosures in the annual accounts or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our report of the “réviseur d'entreprises agréé”. However, future events or conditions may cause the Company to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the annual accounts, including the disclosures, and whether the annual accounts represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

Report on other legal and regulatory requirements

The management report is consistent with the annual accounts and has been prepared in accordance with applicable legal requirements.

Luxembourg, 21 June 2024

KPMG Audit S.à r.l.
Cabinet de révision agréé

Mirco Lehmann
Partner

（ ）上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出代理人が別途保管しています。

（訳文）

独立監査人の監査報告書

プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンド
（プレミアム・ファンズのサブ・ファンド）の受託会社御中

監査意見

私たちは、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの財務書類、すなわち、2023年11月30日現在の純資産計算書、統計情報および投資有価証券明細表ならびに同日をもって終了した会計年度における損益および純資産変動計算書（表示通貨はすべて米ドル）（以下「財務書類」と総称する。）、ならびに重要な会計方針の要約を含む財務書類に対する注記の監査を行った。

私たちは、添付の財務書類が、ルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの2023年11月30日現在の財政状態ならびに同日をもって終了した会計年度の運用成績および純資産の変動を真実かつ適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私たちは、金融監督委員会（Commission de Surveillance du Secteur Financier）（以下「CSSF」という。）が採用した国際監査基準（以下「ISA」という。）に準拠して監査を行った。私たちの責任は、本報告書の「財務書類の監査に対する監査人の責任」の区分に詳述されている。私たちはまた、私たちの財務書類の監査に関連する倫理上の要求事項とともに、国際会計士倫理基準審議会の定める職業会計士のための国際倫理規程（国際独立性基準を含む。）（以下「IESBA Code」という。）に基づきプレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドに対して独立性を保持しており、また、これらの要求事項およびIESBA Codeに基づきその他の倫理上の責任を果たした。私たちは、私たちの意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

受託会社および管理会社は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容は、年次報告書のうち、財務書類、財務書類に対する注記および監査報告書以外の情報である。

私たちの監査意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、したがって、私たちは当該その他の記載内容に対していかなる保証の結論も表明しない。

財務書類の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務書類または私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか考慮すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な虚偽記載の兆候があるかどうか留意することにある。私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽記載があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私たちは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

財務書類に対する受託会社および管理会社の責任

受託会社および管理会社は、ルクセンブルグにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して財務書類を作成し適正に表示すること、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するために受託会社および管理会社が必要と判断した内部統制を整備および運用する責任を有している。

財務書類を作成するに当たり、受託会社および管理会社は、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドが継続企業として存続する能力があるかどうかを評価し、必要がある場合には当該継続企業の前提に関する事項を開示する責任を有し、また、受託会社および管理会社がプレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの清算もしくは事業停止の意図があるか、またはそうする以外に現実的な代替案がない場合を除き、継続企業の前提に基づいて財務書類を作成する責任を有している。

統治責任者の責任は、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの財務報告プロセスの監視を行うことにある。

財務書類の監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての財務書類に、不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を表明することにある。合理的な保証は、高い水準の保証であるが、C S S Fが採用したI S Aに準拠して行った監査が、すべての重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該財務書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私たちは、C S S Fが採用したI S Aに準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持し、また、以下を行う。

- ・不正または誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、取引等の記録からの除外、虚偽の陳述、および内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・受託会社および管理会社が採用した会計方針およびその適用方法の適切性、ならびに受託会社および管理会社によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。

- ・受託会社および管理会社が継続企業を前提として財務書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドの継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務書類の開示に注意を喚起すること、または重要な不確実性に関する財務書類の開示が適切でない場合は、財務書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、プレミアム・ファンズ グローバル・コア株式ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務書類の表示方法が適切であるかどうかを評価すること、関連する注記を含めた全体としての財務書類の表示、構成および内容を検討し、財務書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

私たちは、統治責任者に対して、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、および監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項を報告している。

デロイト・アンド・トゥッシュ・エルエルピー

2024年4月26日

（財務書類については、原文（英語版）のみが独立監査人によって監査されている。関係する監査報告書が言及しているのは、原文（英語版）のみである。財務書類の原文（英語版）の翻訳は、管理会社の責任において作成されたものであり、独立監査人により検討または検証されていない。監査報告書および／または財務書類の原文（英語版）と日本文の間に相違があった場合には、原文（英語版）が優先される。）

Independent Auditors' Report

To the Trustee of Premium Funds - Global Core Equity Fund
A series trust of Premium Funds

Opinion

We have audited the financial statements of Premium Funds - Global Core Equity Fund (the “Series Trust”), which comprise the statement of net assets, the statistical information and the schedule of investments as at November 30, 2023, and the statement of operations and changes in net assets for the year then ended (all expressed in United States dollars) (together “the financial statements”), and the notes to the financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the accompanying financial statements give a true and fair view of the financial position of the Series Trust as at November 30, 2023, and of the results of its operations and changes in its net assets for the year then ended in accordance with generally accepted accounting principles in Luxembourg.

Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing (ISAs) as adopted by the “Commission de Surveillance du Secteur Financier” (CSSF). Our responsibilities are further described in the “Auditor’s Responsibilities for the Audit of the Financial Statements” section of our report. We are also independent of the Series Trust in accordance with the International Ethics Standards Board for Accountants’ International Code of Ethics for Professional Accountants (including International Independence Standards) (IESBA Code), together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the financial statements, and we have fulfilled our other ethical responsibilities with these requirements and the IESBA Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Other information

The Trustee and the Manager are responsible for the other information. The other information comprises the information included in the annual report but does not include the financial statements, the notes to the financial statements and our auditor’s report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report this fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the Trustee and the Manager for the Financial Statements

The Trustee and the Manager are responsible for the preparation and fair presentation of the financial statements in accordance with generally accepted accounting principles in Luxembourg, and for such internal control as the Trustee and the Manager determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the Trustee and the Manager are responsible for assessing the Series Trust’s ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the Trustee and the Manager either intend to liquidate the Series Trust or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Series Trust’s financial reporting process.

Auditor's Responsibilities for the Audit of the Financial Statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with ISAs as adopted by the CSSF will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements.

As part of an audit in accordance with ISAs as adopted by the CSSF, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Series Trust's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the Trustee and the Manager.
- Conclude on the appropriateness of the Trustee and the Manager's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Series Trust's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Series Trust to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

Deloitte & Touche LLP April 26, 2024

() 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書提出代理人が別途保管している。